YAMAHA

Marine

Marine Jet

WAVE RAIDER

MJ-700RA

サービスマニュアル

055068●

WWW.JET-STAR.JP

はじめに

本書は、ヤマハマリンジェットMJ-700RAの「整備の手引き」として編集しました。編集に当たり、イラストを多く取り入れ、主要部品の構造および点検・整備・分解・組立を分かりやすく説明してあります。

サービスに当たられる方は本書を熟読され、MJ-700RAの知識を少しでも多く理解した上で、より良いサービス活動をしていただくようにお願いします。

なお、本書は、マリンジェットの改良の為、予告なく内容を変更することがありますのでご了承ください。

ヤマハ発動機株式会社
マリン事業本部　舟艇事業部
国内営業部　サービス課

JET STAR

目　次

総　説	総説	1
仕　様	仕様	2
一般整備	一般整備	3
燃料系統	燃料系統	4
パワーユニット	パワーユニット	5
ジェットポンプユニット	ジェットポンプ	6
電　装	電装	7
艤装品	艤装品	8
トラブルシューティング	トラブルシューティング	9

WWW.JET-STAR.JP

このマニュアルの使い方

●本書では正しい取扱いおよび点検整備に関する必要な事項を、下記のシンボルマークで表示しています。

要点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示します。

注意

備品や商品に損傷を与えないための必要な事項を示します。

⚠注意

身体や生命に危害を与えないための必要な事項を示します。

JET STAR

シンボルマーク

①から⑨のシンボルマークは、各章の内容を示す見出しになっています。

①総説
②仕様
③一般整備
④燃料系統
⑤パワーユニット
⑥ジェットポンプユニット
⑦電装
⑧艤装品
⑨トラブルシューティング

⑩から⑮のシンボルマークは、指定データを示します。

⑩特殊工具
⑪潤滑剤
⑫エンジン回転数
⑬締付けトルク
⑭摩耗限度、隙間
⑮抵抗（Ω）、電圧（V）、電流（A）

分解図中の⑯から⑱の記号は、潤滑剤の等級と潤滑場所を示します。

⑯ヤマハ船外機オイルを塗布
⑰ヤマハマリングリースA（耐水グリース）を塗布
⑱ヤマハマリングリースD（耐水グリース）を塗布

分解図中の⑲から㉔の記号は、シール剤またはロック剤の等級と、それを塗布する場所を示します。

⑲ガスケットメーカを塗布
⑳ロックタイト No.271（赤色）を塗布
㉑ロックタイト No.242（青色）を塗布
㉒ロックタイト No.572を塗布
㉓シリコンシーラントを塗布
㉔ヤマハボンド No.4を塗布

要点

このマニュアル中で、どのような場合でも上記の記号が使われているわけではありません。

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

第1章　総　　説

1. 艇体・エンジン番号 ……1-1
(1) 艇体製造番号 ……1-1
(2) エンジン製造番号 ……1-1

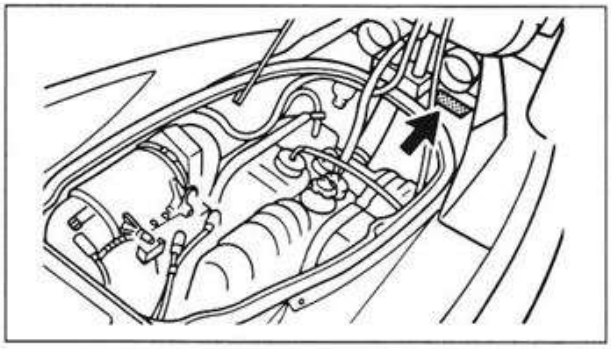
2. 整備上の注意事項 ……1-2
(1) ベアリングの組付け方 ……1-3
(2) オイルシールの組付け方 ……1-3

3. 特殊工具 ……1-4
(1) 点検・調整用 ……1-4
(2) エンジン整備用 ……1-4
(3) ジェットポンプ整備用 ……1-4

4. シール剤・潤滑油 ……1-4

JET STAR

艇体・エンジン番号

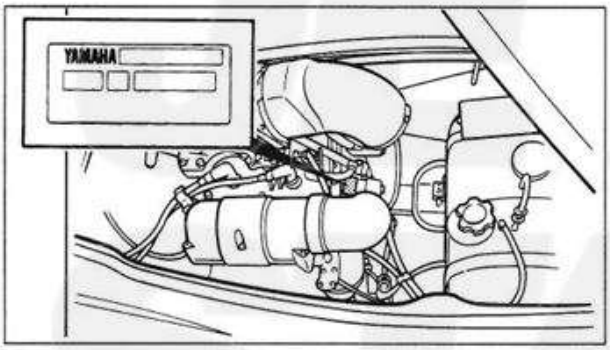


1. 艇体・エンジン番号

(1) 艇体製造番号

艇体製造番号は、エンジンルームの内側に取付けられたプレートに刻印してあります。

開始通し番号
0300101～



(2) エンジン製造番号

エンジン製造番号は、インテークマニホールドに取付けられたプレートに刻印してあります。

開始通し番号
004464～

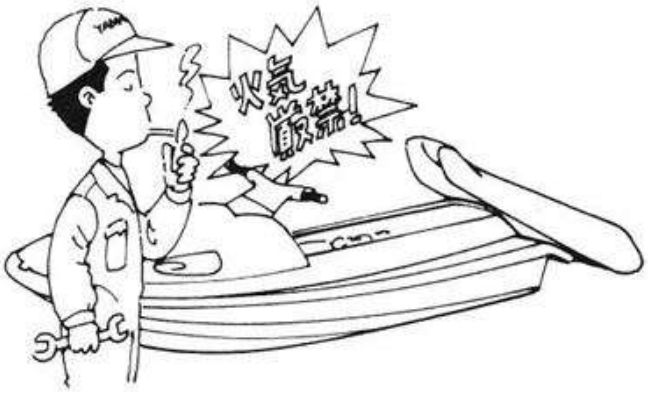
WWW.JET-STAR.JP

整備上の注意事項

2. 整備上の注意事項

1. 火気厳禁

整備工場では火気を絶対に近づけないこと。



2. 正しい工具

部品に損傷を与えないように、特殊工具の必要な箇所の作業は必ず特殊工具を使用する。また、適切な工具や計器を使用し、適切な作業を行うこと。（スパナなどの使用はできるだけ避け、メガネやボックスレンチなどを使用すること。）

3. 消耗品

ガスケット（パッキン）、Oリング、コッターピン、サークリップ、ロックワッシャなどは新品と交換すること。

4. 純正部品

使用する部品や油脂類は必ずヤマハ純正部品、および推奨品を使用し、それ以外のものは使用しないこと。

5. 分解、組立て上の注意

①分解を行なう場合、必要な部品は分解中に点検、測定をしてその記録を残し、組付け時の参考とする。

②各部品を混同、紛失しないように、各セクションごとに整理しておく。

③エンジン部品は、分解後、洗油で洗浄し、エアで吹いておく。

④組立ては、各部品の修正結果および分解前のデータを確認しながら作業を進める。

⑤組付け中の各部品にほこりや異物が付着しないようにする。

⑥各セクションごとに作業を確認し、組付けて行く。

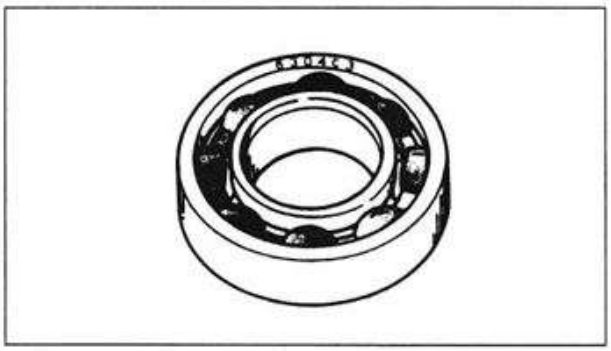
⑦摺動部品には、指定オイルを塗布する。

⑧オイルシールを組付ける時には、外周部に指定の耐水グリースを塗布する。

⑨規定の締付けトルクを守ること。

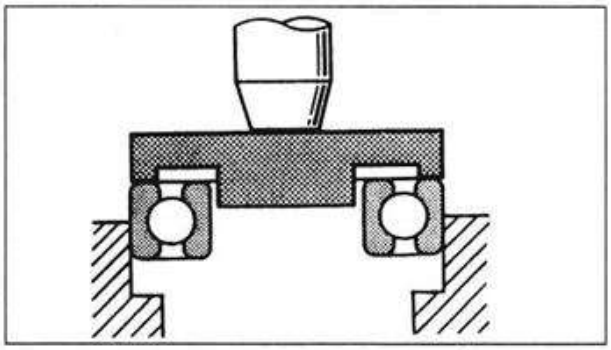
WWW.JET-STAR.JP

整備上の注意事項

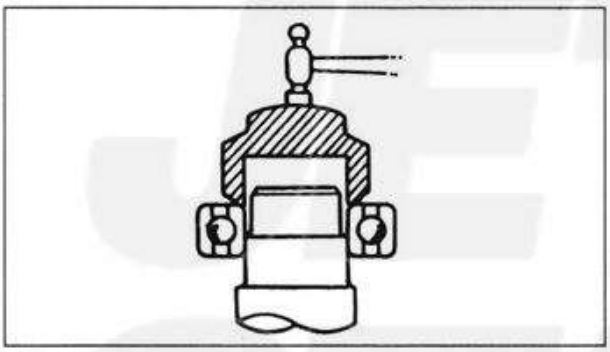


(1) ベアリングの組付け方

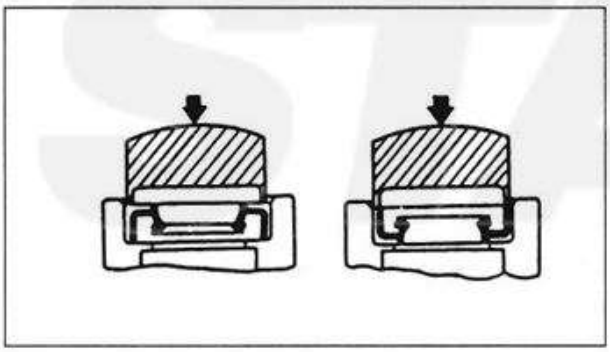
・ベアリングの組付け方法は、メーカー印、サイズ記号が刻印されている面を外側（組付け側）に向けます。



・ベアリングをケースなどに打込む時は、アウターレースに力を加え均等に打込みます。

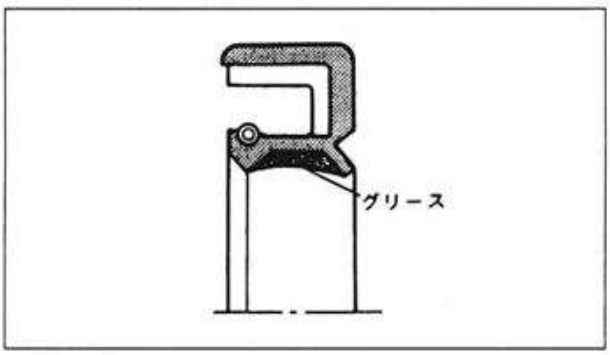


・ベアリングをシャフトなどに打込む時は、インナーレースに力を加え均等に打込みます。



(2) オイルシールの組付け方

・オイルシールの組付け方向は、マニュアルの指示に従います。



・オイルシールを組付ける時は、必ずリップ部にグリースを薄く均一に塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

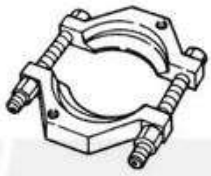
特殊工具／シール剤・潤滑油

3. 特殊工具

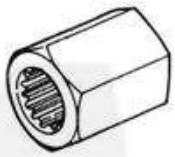
（1）点検・調整用

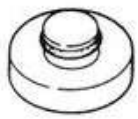
90890-01252	90890-03112	90890-06751	90890-06759	90890-06760

（2）エンジン整備用

90890-06521	90890-06522	90890-06534
		

（3）ジェットポンプ整備用

90890-06069	90890-06425	90890-06518	90890-06531	90890-06523
				

90890-06606	90890-06626	90890-06634	90890-06662
			

4. シール剤・潤滑油

90790-74028（25㎖）	ガスケットメーカ	90890-6382E（1ℓ）	ヤマハ船外機スーパースペシャルオイル
90790-74004	ロックタイトセット	90890-6382H（0.4ℓ）	
90890-69911（250g）	ヤマハグリースA		

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

第2章　仕　　様

1. 仕様諸元 ……2-1

2. サービスデータ ……2-2
(1) エンジン ……2-2
(2) 電装 ……2-4
(3) 締付けトルク規定値 ……2-5

3. パイプ通し図 ……2-6

4. ケーブル通し図 ……2-7

5. 電気配線図 ……2-8

6. 冷却系統図 ……2-9

JET STAR

仕様諸元

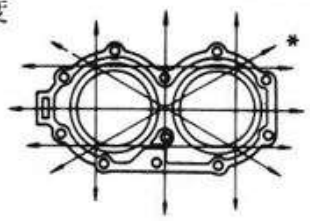
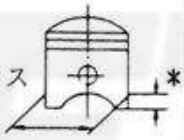
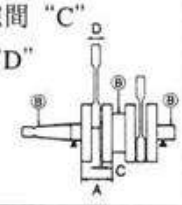
1. 仕様諸元

項目		サービスデータ
		MJ-700RA
艇型式		GH1
エンジン型式		62T
主要寸法	全長（L_{OA}）	2.84m
	全幅（B_{OA}）	1.12m
	全高（D_{OA}）	0.97m
	船の長さ（L_R）	2.46mm
	船の幅（B_R）	1.01mm
	船の深さ（D_R）	0.37mm
乾燥重量（バッテリ、燃料を除く）		176kg
性能	定員	2名
	最大速力	83.0km/h
	静止スラスト	200kg
	最小回転半径	0m
	呼称最大出力	76ps/6,250rpm
	燃料消費量	34ℓ/h
	航行範囲（スロットル全開）	1.2h
エンジン	エンジン種類	2サイクル
	シリンダ数	2
	総排気量	701cc
	ボア×ストローク	81mm×68mm
	圧縮比	7.2：1
	吸気方式	リードバルブ
	キャブレタ種類	フロートレス
	キャブレタ数	2
	キャブレタスタート方式	チョーク式
	掃気方式	シュニーレ
	潤滑方式	オイルインジェクション
	冷却方式	水冷式
	始動方式	電動スタータ
	点火方式	CDI
	点火時期	BTDC15°～21°
	スパークプラグ	BR8HS
	バッテリ容量	12V-19AH
	ライティングコイル	2～4A/5,500rpm
ジェットポンプ	推進方式	ジェットポンプ
	ジェットポンプ種類	軸流一段
	インペラ回転方向	反時計回り
	伝達方式	エンジン直結
	操舵角（ノズル）	23.0°±1°
燃料とオイル	燃料	レギュラーガソリン
	オイル	ヤマハ船外機 スーパースペシャルオイル
	フュエルタンク容量	18ℓ
	リザーブ容量	5.5ℓ
	オイルタンク容量	4.0ℓ

WWW.JET-STAR.JP

2. サービスデータ

（1）エンジン

項目		サービスデータ
		MJ-700RA
圧縮圧力		9.4kg/cm^2
シリンダヘッド	歪み限度  ＊ラインは直定規による測定位置を示します。	0.1mm
シリンダ	ボア径 円筒度 真円度	81.00～81.02mm 0.08mm 0.05mm
ピストン	ピストン径 ＊測定位置 ピストンクリアランス 摩耗限度 オフセット量（排気側） 	80.925～80.950mm 10mm 0.080～0.085mm 0.1mm 0.5mm
ピストンリング	形状 合口隙間（組付け状態） サイドクリアランス	キーストン B＝1.2mm T＝2.9mm 0.2～0.4mm 0.02～0.06mm
ピストンピン	ピストンピン外径 摩耗限度 クランク幅“A”	19.995～20.000mm 19.975mm 61.95～62.00mm
クランクシャフト	振れ限度“B” コンロッド大端部隙間“C” 小端部の振れ限度“D” 	0.05mm 0.25～0.75mm 2.0mm

WWW.JET-STAR.JP

サービスデータ

項目		サービスデータ	
		MJ-700RA	
キャブレタ	刻印	62T00F	62T00R
	メインノズル	φ2.5mm	
	メインジェット2	#120	#130
	パイロットジェット	#67.5	
	低速スクリュ戻し	5/8±1/4	
	スロットルバルブ	#190	
	バルブシート	φ1.5mm	
	高速スクリュ戻し	5/8±1/4	1-1/8±1/4
	トローリングスピード	1,250±50rpm	
リードバルブ	厚さ*	0.2mm	
	バルブリフト量	0.6～1.2mm	
	ソリ限度	0.2mm	0.2mm
ジェットポンプ	インペラ隙間	0.3～0.4mm	0.25～0.35mm
	インペラ隙間限度	0.6mm	0.6mm
	インペラシャフト振れ限度	0.3mm	0.3mm

WWW.JET-STAR.JP

(2) 電　装

項　　目	サービスデータ
	MJ-700RA
イグニッションシステム：	
点火方式	CDIマグネト
点火時期（1,200rpmの時）	BTDC15°
（5,500rpmの時）	BTDC21°
CDIマグネト：	
型式／メーカ	F3T30572／三菱
パルサーコイル抵抗値（線色）	12.6～15.4Ω（白／赤－黒）
チャージコイル抵抗値（線色）	497.7～608.3Ω（茶／白－黒）
CDIユニット：	
刻　印	
型式／メーカ	F-6192X／三菱
オーバーレボ限度	7,200±200rpm
オーバーヒートレボコントロール	3,400±400rpm
イグニッションコイル：	
型式／メーカ	F6T53293／三菱
一次コイル抵抗値	0.078～0.106Ω
二次コイル抵抗値	13.8～29.0kΩ（ハイテンションコード）
チャージングシステム：	
方式	フライホイールマグネト
ライティングコイル抵抗値（線色）	1.14～1.40Ω（緑－緑）
レクチファイヤレギュレータ：	
型式／メーカ	SH589-12／新電元
レギュレータ電圧（25℃の時）	14.3～15.3V
サーモセンサ：	
ON	70±4℃
OFF	50±7℃
スタータモータ：	
型式／メーカ	SM13237／ミツバ
ブラシ摩耗限度	5.0mm
コンミュテータアンダーカット深さ	0.2～0.7mm
コンミュテータ外径	27～28mm
ヒューズ：	10A

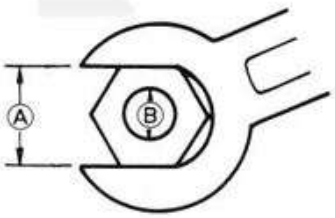
WWW.JET-STAR.JP

(3) 締付けトルク規定値

	項目	サイズ	個数		締付けトルク kgf·m (Nm)	
エンジン	シリンダヘッド	M8	10		1回目	1.5 (15)
					2回目	3.6 (36)
	シリンダボディ	M10	6		1回目	2.3 (23)
					2回目	4.0 (40)
	マフラステー	M10	4		1回目	0.3 (4)
					2回目	4.0 (40)
	マフラ1	M10	8		1回目	2.2 (15)
					2回目	4.0 (40)
	マフラ2	M10	4		1回目	0.3 (8)
					2回目	4.7 (47)
	マウントブラケット	M10	7		1回目	2.3 (23)
					2回目	5.3 (53)
	クランクケース	M8	8		1回目	1.5 (15)
					2回目	2.8 (28)
	キャブレタカバー	M6	6			0.2 (2)
	マウントボルト	M8	4			1.6 (16)
	スパークプラグ	M14	2			2.0 (20)
	電装ボックス	M8	3			1.6 (16)
	スタータモータ端子ナット	M6	1			0.5 (5)
	フライホイールボルト	M10	1			7.0 (70)
ジェットユニット	マウントボルト	M10	4			3.4 (34)
	インペラ (逆ネジ)	M20	1			1.8 (18)
	カップリング	M27	1			3.7 (37)
	ハウジング	M8	3			1.6 (16)

一般トルク規定値

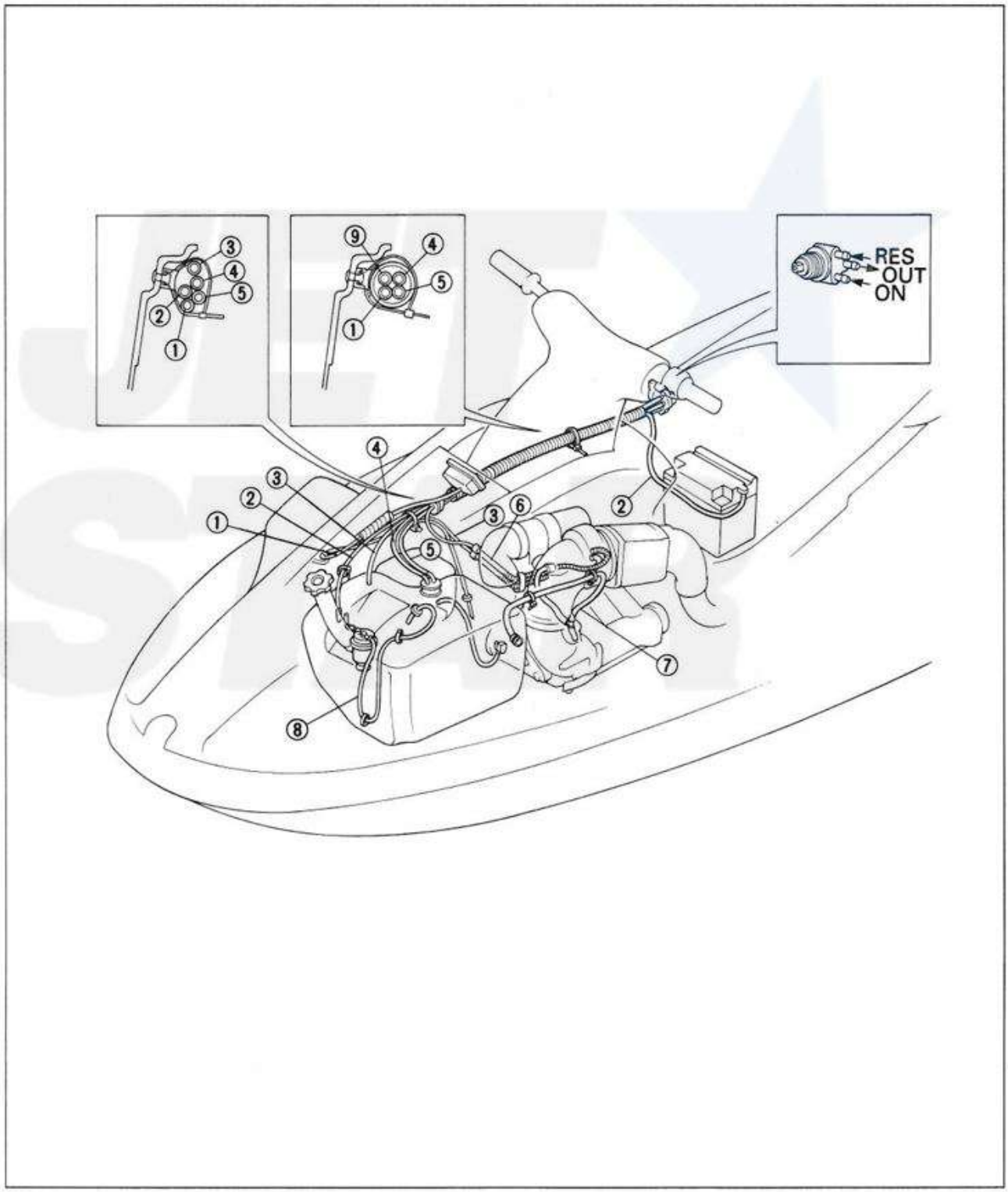
A (ナット)	B (ボルト)	一般トルク規定値 kgf·m (Nm)
8mm	M5	0.5 (5)
10mm	M6	0.8 (8)
12mm	M8	1.8 (18)
14mm	M10	3.6 (36)
17mm	M12	4.3 (43)



WWW.JET-STAR.JP

3. パイプ通し図

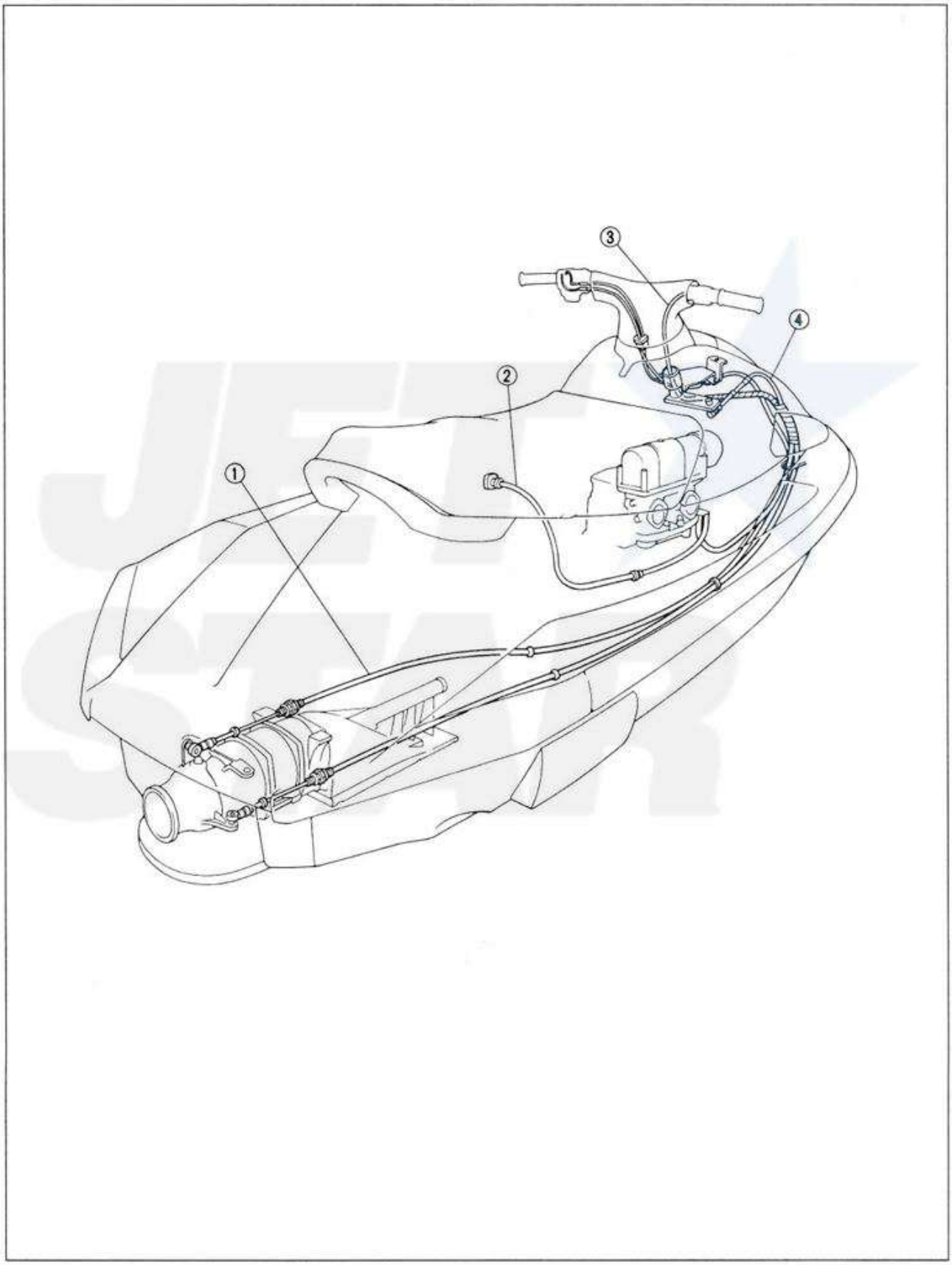
①メーターブリーザーホース
②バッテリブリーザホース
③フュエルホース1（リターン）
④フュエルホース2（RES：フュエルタンク～フュエルコック）
⑤フュエルホース3（ON：フュエルタンク～フュエルコック）
⑥フュエルホース4（フィルタ～キャブレタ）
⑦パイロットウォータホース
⑧エアベントホース2（フュエルタンク用）
⑨フュエルホース5（OUT：フュエルコック～フィルター）



WWW.JET-STAR.JP

4. ケーブル通し図

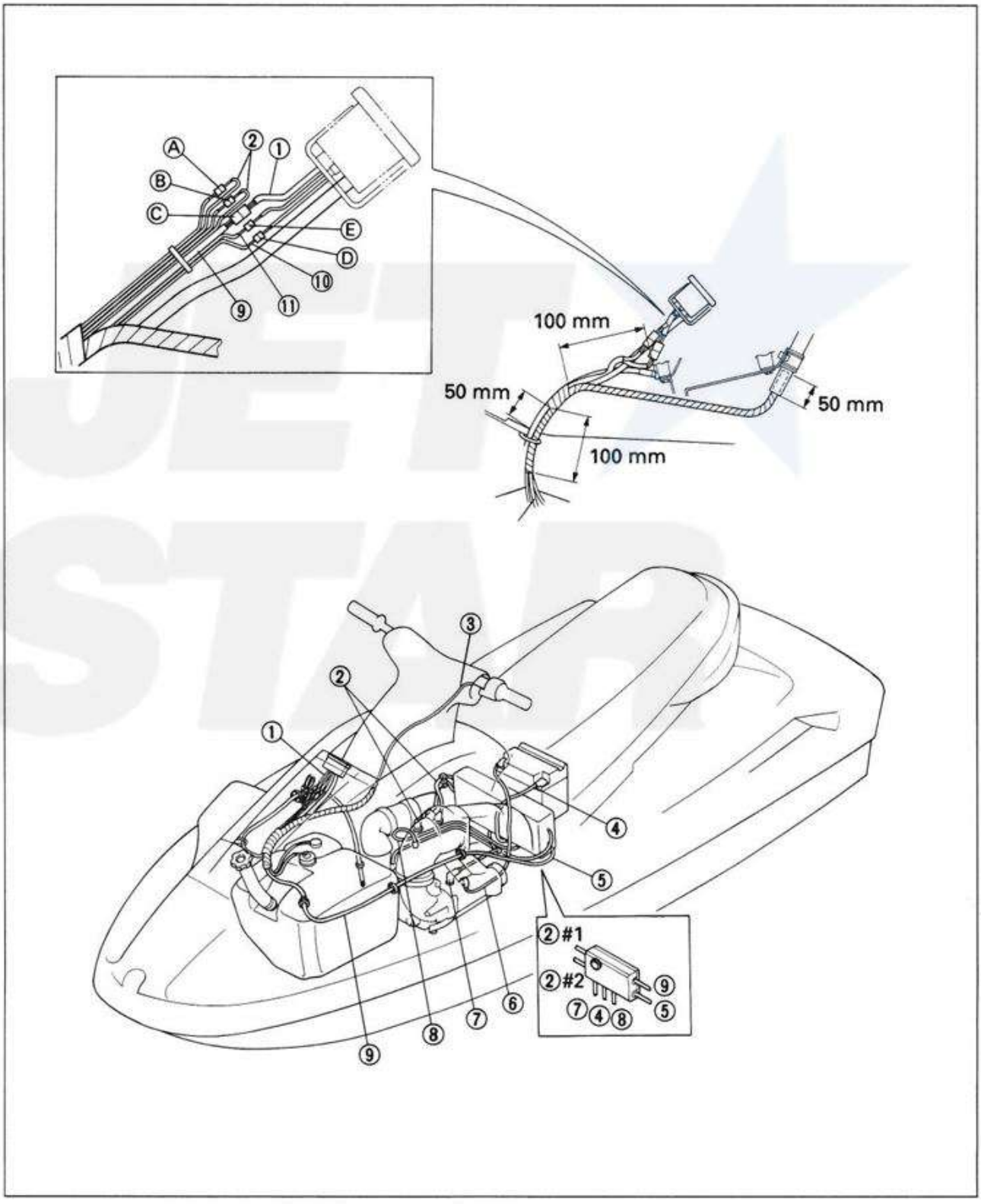
①シフトトリムケーブル
②チョークケーブル
③スロットルケーブル
⑩ステアリングケーブル



WWW.JET-STAR.JP

5. 電気配線図

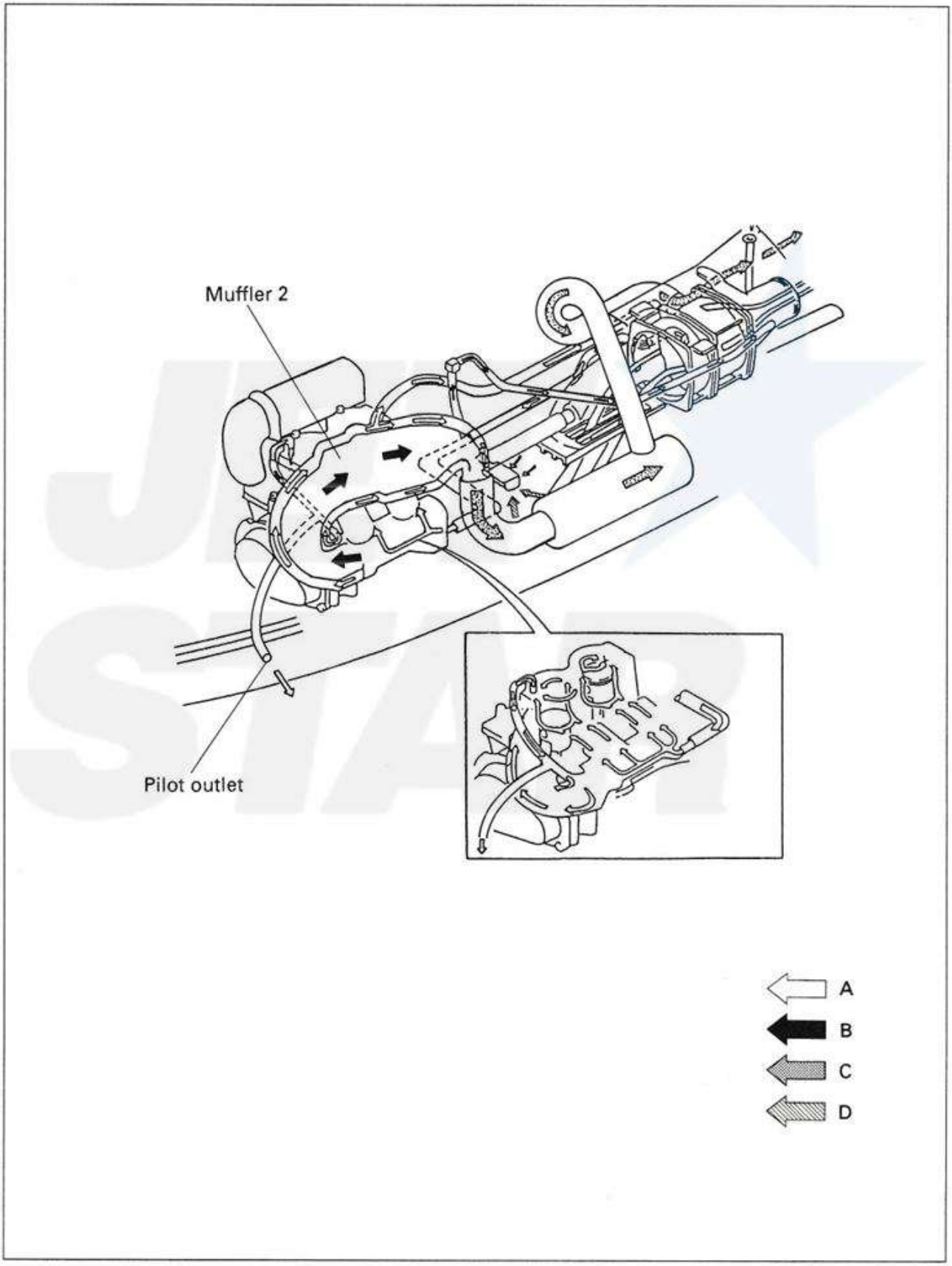
①マルチファンクションメータリード線
②ハイテンションコード
③ハンドルスイッチリード線
④バッテリ＋リード線
⑤フライホイールマグネトベースリード線
⑥バッテリーリード線
⑦スタータモータ＋リード線
⑧サーモセンサリード線
⑨電装ボックスリード線
⑩フュエルセンダリード線
⑪オイルレベルゲージリード線
Ⓐ2Pコネクタ（黒）
Ⓑ4Pコネクタ（白）
Ⓒ6Pコネクタ（白）
Ⓓ2Pコネクタ（緑）
Ⓔ2Pコネクタ（白）



WWW.JET-STAR.JP

6. 冷却系統図

A：冷却水
B：排気ガス
C：排気ガス＋冷却水
D：ビルジ



WWW.JET-STAR.JP

第3章　一般整備

1. 定期点検 ……3-1
整備間隔表 ……3-1

2. 整備前の準備 ……3-3

3. トローリングスピードの調整 ……3-4

4. 燃料系統の点検 ……3-6
フュエルフィルタ ……3-6
ウォータセパレータ ……3-7
チェックバルブ ……3-7
フュエルフィラ ……3-7

5. オイルインジェクションシステムの点検 ……3-8
オイルフィルタ ……3-8
チェックバルブ ……3-8

6. オイルインジェクションシステムのエア抜き ……3-9

7. スロットルレバーの調整 ……3-9

8. チョークケーブルの調整 ……3-10

9. ステアリングシステムの点検と調整 ……3-11
ピボットシャフトベアリング ……3-11
ハンドルとノズルのニュートラル位置 ……3-11
ステアリングケーブル ……3-12

10. トリムコントロールシステムの点検と調整 ……3-13
トリムコントロールケーブル ……3-13

11. インペラの点検 ……3-14
カップリングラバー ……3-15

12. 電装系統の点検 ……3-16
電気配線 ……3-16
スタータスイッチ/エンジンストップスイッチ ……3-16
バッテリ ……3-17
スパークプラグ ……3-19

13. 艤装品の点検と調整 ……3-21
シールラバー ……3-21
マウントブラケット ……3-21
ビルジストレーナ ……3-21
ドレンプラグ ……3-21

14. 給脂箇所 ……3-22

定期点検

1. 定期点検

〈整備間隔表〉

次の表は、一般的な整備を受ける時期の間隔の目安となるものです。
使用状況によって整備の間隔は変わります。

点検箇所	初回（時間目）			毎回（時間毎）	
	10	50	100	100	200
ボルトとナットの締付け	○		○	○	
歪み、亀裂、摩耗	○				○
スパークプラグの状態、ギャップの清掃	○	○	○	○	
アライメント					○
トローリングスピードの調整	○		○	○	
混合比の調整	○		○	○	
フュエルタンクの清掃と点検					○
フュエルフィルタの清掃と点検	○				○
フュエルフィルタの交換					○
フュエルフィラキャップの点検			○	○	
燃料経路の点検			○	○	
チェックバルブの点検			○	○	
オイルタンクの清掃と点検					○
オイルフィルタの清掃の点検		○	○	○	
オイルフィルタの交換					○
オイル経路の点検			○	○	
チェックバルブの点検			○	○	
スロットルレバーの調整			○	○	
チョークケーブルの調整			○	○	
ステアリングケーブルの調整			○	○	
クイックシフトトリムシステムの調整			○	○	
インペラ点検		○	○	○	
インペラとインペラハウジングの隙間の点検			○	○	
カップリングラバーの点検					○
配線の点検	○	○	○	○	
スタータスイッチの点検	○	○	○	○	
エンジンストップスイッチの点検	○	○	○	○	
スタータモータの動き			○	○	
バッテリの整備	○	○	○	○	

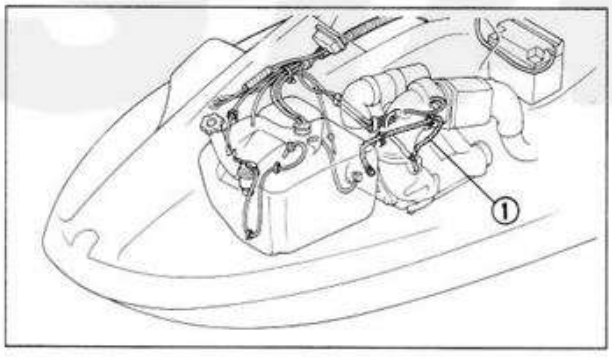
WWW.JET-STAR.JP

定期点検

点検箇所	初回（時間目）			毎回（時間毎）	
	10	50	100	100	200
ボルトとナットの締付け	○		○	○	
損傷の点検	○	○	○	○	
防水用ラバーの点検	○		○	○	
ドレンプラグ					○
キャブレタスロットルシャフト			○	○	
スロットルケーブル			○	○	
チョークノブシャフト			○	○	
チョークケーブル			○	○	
ステアリングピボットシャフトベアリング			○	○	
ステアリングケーブル			○	○	
ボールジョイント			○	○	
クイックシフトトリムケーブル			○	○	
ベアリングハウジング	○*1		○*2	○*2	

*1：グリース注入量 33～35cc

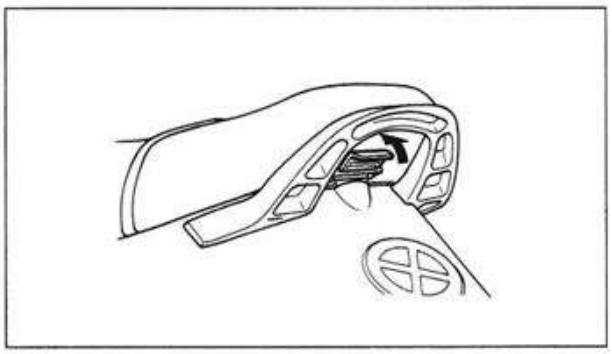
*2：グリース注入量 6～8cc



注意

係留時、またはテストタンク内で15秒以上全開運転をする場合は、パイロットホース①をふさいで行います。

WWW.JET-STAR.JP



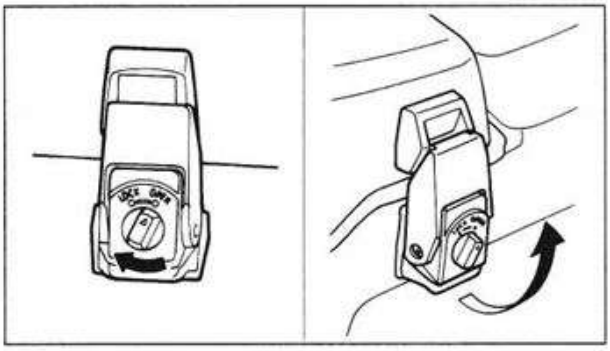
2. 整備前の準備

1. 取外し

・シート

要点

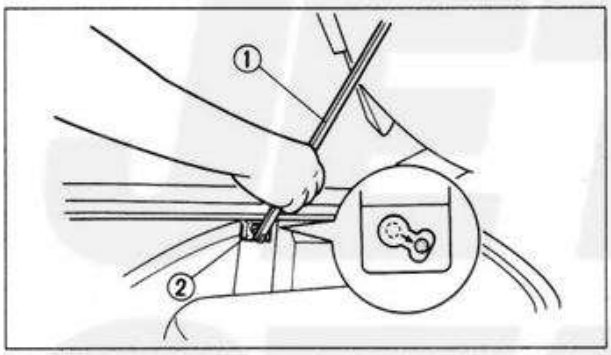
ノブを引き上げ、シートの後部を持ち上げながら後方へ引きます。



2. 開く

・エンジンハッチ

ラッチノブを“OPEN”位置に回します。次にラッチフックを引き上げ、エンジンハッチを取り外します。



3. 支える

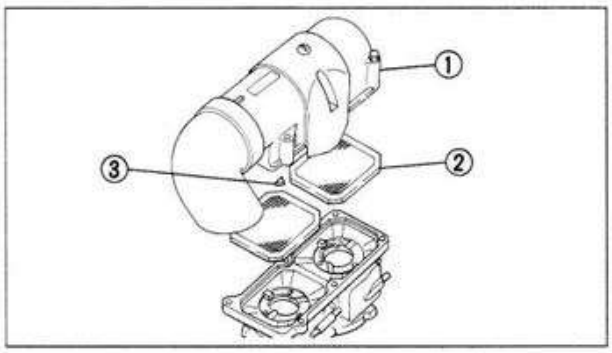
・エンジンハッチ

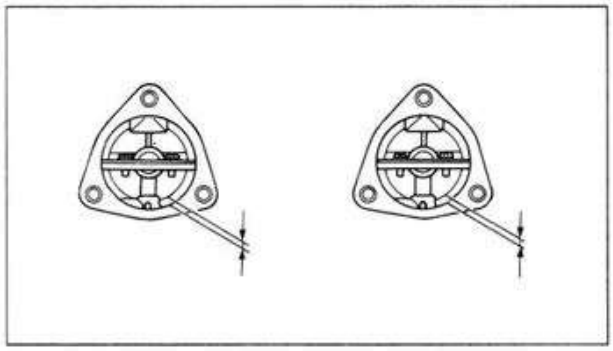
要点

ハッチサポート①をエンジンハッチから外し、デッキにあるサポートブラケット②の孔にハッチサポートのエンドピンを差し込み、エンジンハッチを支えます。

WWW.JET-STAR.JP

トローリングスピードの調整





3. トローリングスピードの調整

1. 点検

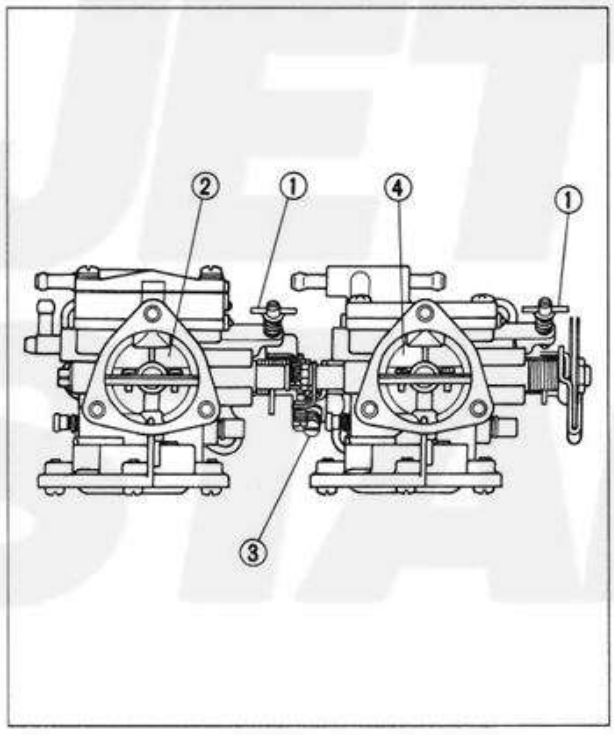
・キャブレタの同調

規定値でない場合→調整

点検手順

・キャブレタカバー①とフレームアレスター②を取外す。

・スロットルレバーを開閉させ、前後のスロットルバルブの隙間を点検する。



2. 調整

・キャブレタの同調

調整手順

・アイドルアジャストスクリュ①を戻す。

要点

アイドルアジャストスクリュの規定値を記録しておきます。

・後側のスロットルバルブ②が全閉になっていることを確認する。

・前側のスロットルバルブ④が全閉になるまで、同調スクリュ③を締込む、または戻す。

・アイドルアジャストスクリュ①を、規定回転締込む。

WWW.JET-STAR.JP

トローリングスピードの調整

3. 点検

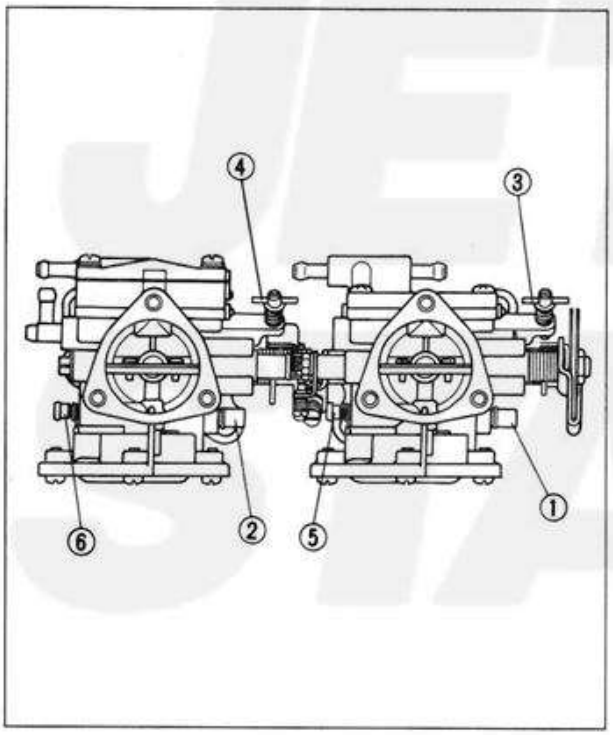
・トローリングスピード

規定値でない場合→調整。

点検手順（水上） ・エンジンを始動させ数分間暖機運転をする。 ・エンジンタコメータのセンサを、ハイテンションコードに取付ける。	
	エンジンタコメータ 90890-06760
・トローリングスピードを測定する。	
	トローリングスピード 1,250±50rpm

4. 調整

・トローリングスピード



調整手順 ・低速スクリュ①,②を、座面に軽く当たるまで締込む。 ・低速スクリュ①,②を、規定回転戻す。	
	低速スクリュ 5/8±1/4回転戻し
・エンジンを始動させ数分間暖機運転をする。 ・スロットルストップスクリュ③,④を締め込むか、戻すかしてトローリングスピードが規定値になるように調整する。	
締込む	トローリングスピードが上がる。
戻　す	トローリングスピードが下がる。

5. 調整

・高速スクリュ

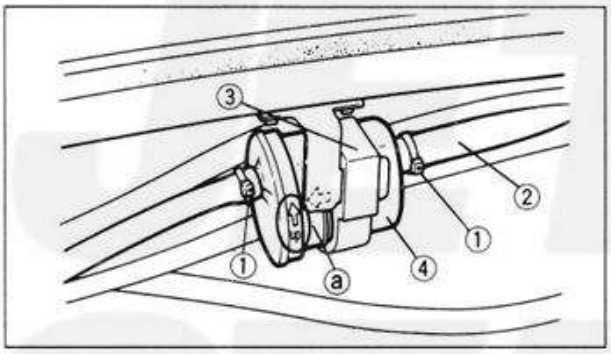
調整手順 ・高速スクリュ⑤,⑥を、座面に軽く当たるまで締込む。 ・高速スクリュ⑤,⑥を、規定回転戻す。
高速スクリュ ⑤：5/8±1/4回転戻し ⑥：1-1/8±1/4回転戻し

WWW.JET-STAR.JP

4. 燃料系統の点検

⚠注意

- 燃料系統の修理をするときは、エンジンを止めフュエルコックを“OFF”にし、フュエルフィラキャップを緩めます。
- ガソリンによる火災の危険を防ぐため、タバコは絶対に吸わないこと。また、裸火、火花にも気を付けます。
- 燃料系統の部品を取外すときは布を当て、エンジンルーム内に燃料がこぼれないように注意します。



フュエルフィルタ

1. 取外し
- ホースタイ①
- ホース②
- ホルダ③
- フュエルフィルタAss'y④

2. 点検
- フィルタエレメント
  詰まり→交換。
- フィルタボディ
  亀裂／損傷→交換。
- フィルタAss'y
  水アカ詰まり→交換し、フュエルタンクを点検。

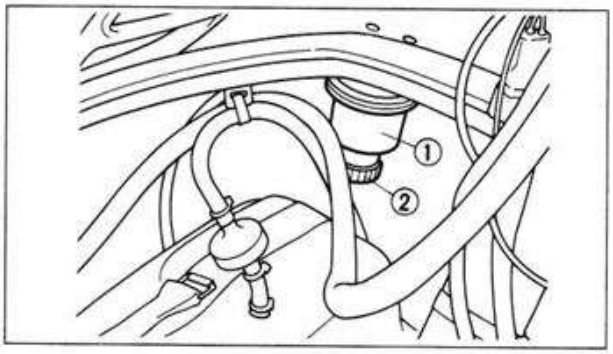
3. 組付け
- ホルダ
- ホース
- ホースタイ

注意

- 矢印 ⓐ を上側に向けてフィルタAss'yを組付けます。
- ホースタイは新しいものを使います。

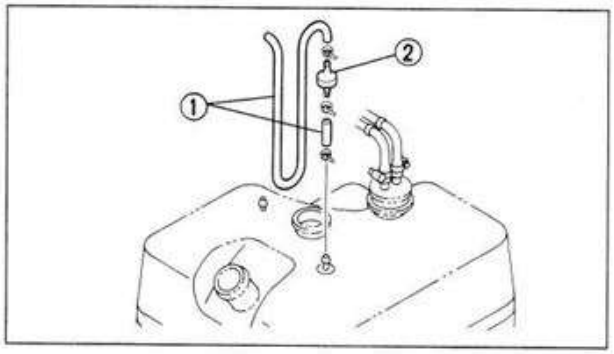
WWW.JET-STAR.JP

燃料系統の点検



ウォータセパレータ

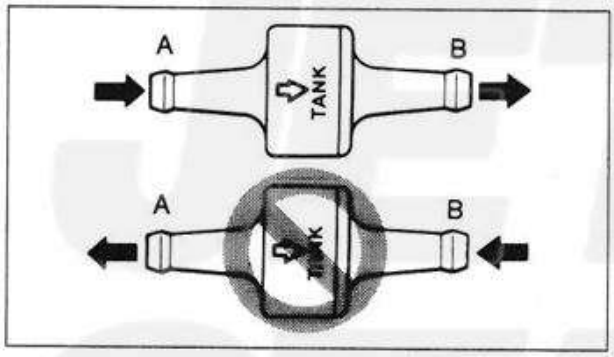
1. 点検
・セパレータボディ①
亀裂／損傷→セパレータAss'yで交換。
水アカ詰まり→ドレンスクリュ②を外して、水アカを抜く。



チェックバルブ

1. 取外し
・ブリーザホース①

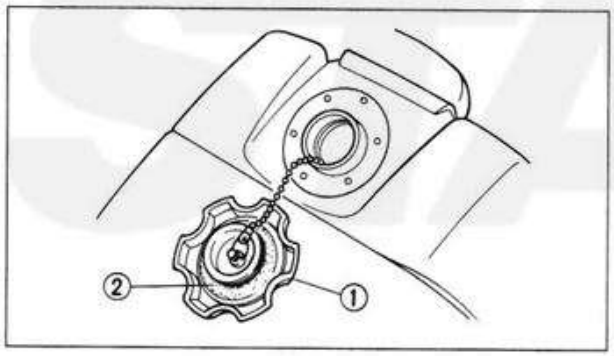
2. 点検
・チェックバルブ②
AからBへ流入→OK。
BからAへ流入→交換。



3. 組付け
・ブリーザホース①

注意

・チェックバルブの矢印の向きをフュエルタンク側にします。
・ホースタイは新しいものを使います。



フュエルフィラ

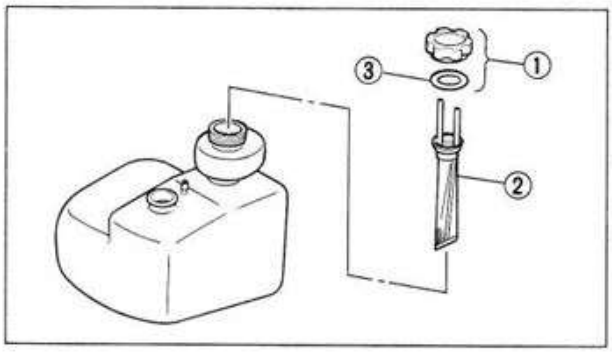
1. 取外し
・フィラキャップ①

2. 点検
・フィラキャップ
亀裂／損傷→交換。
・シールラバー②
磨耗／亀裂→交換。
・ホースバンド（フュエルフィラ後部）
緩み→締付け。

3. 組付け
・フィラキャップ

WWW.JET-STAR.JP

オイルインジェクションシステムの点検

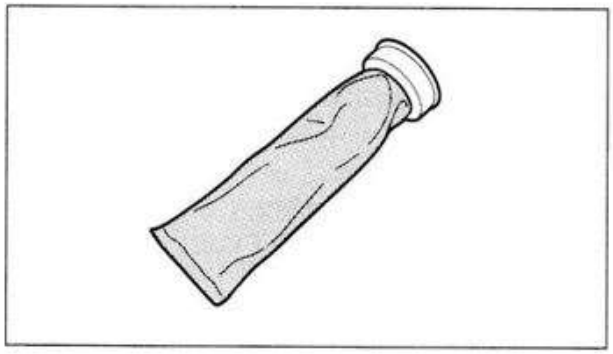


5. オイルインジェクションシステムの点検

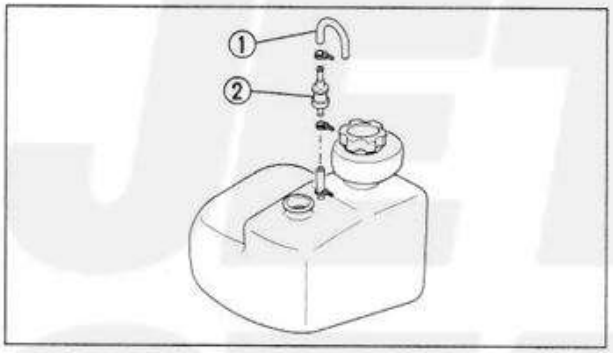
オイルフィルタ

1. 取外し
・オイルタンクキャップ①

2. 点検
・オイルフィルタ②
こすれ／破れ→交換。
ゴミ詰まり／汚れ→清掃。
・シールラバー③
磨耗／亀裂→交換。

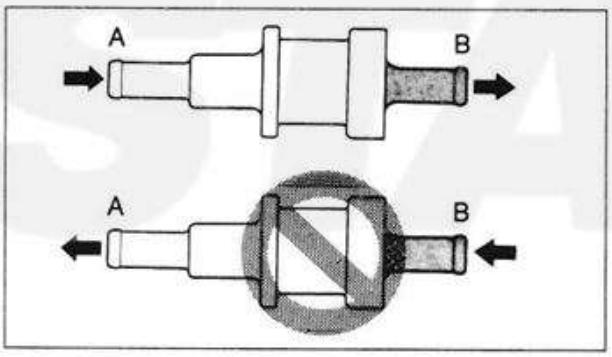


3. 組付
・オイルタンクキャップ①



チェックバルブ

1. 取外し
・ブリーザホース①
・チェックバルブ②



2. 点検
・チェックバルブ
AからBへ流入→OK。
BからAへ流入→交換。

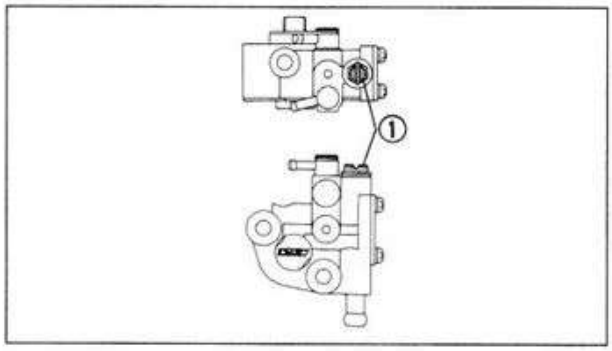
3. 組付
・ブリーザホース①

注意

・チェックバルブの緑色の口をオイルタンク側にして組付けます。
・ホースタイは新しいものを使います。

WWW.JET-STAR.JP

オイルインジェクションシステムのエア抜き／スロットルレバーの調整



6. オイルインジェクションシステムのエア抜き

注意

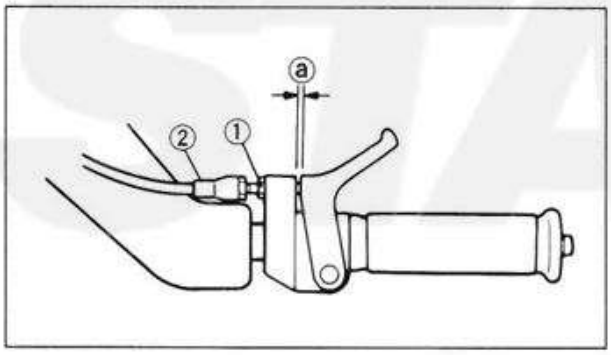
次のような時にオイルインジェクションシステムのエア抜きをします。
・オイルポンプを取外し、または分解したとき。
・運転中に、オイルが無くなってしまったとき。

1. 抜く

ヤマハ船外機オイル

エア抜きの手順
・オイルホースを接続する。
・オイルタンクにオイルを補充する。
・ぼろきれをオイルポンプの下に敷いて、こぼれ出るオイルを受ける。
・オイルポンプのエア抜きスクリュ①を緩め、エアを抜く。
・オイルポンプ内の気泡が無くなるまでオイルを出す。もし、オイルが出ない場合は、オイルポンプ入り口側のホースを数回絞り、オイルを圧送させる。
・スクリュを締付け、こぼれ出たオイルをふき取る。

7. スロットルレバーの調整



要点

スロットルレバーの遊びを調整する前に、トローリングスピードを調整しておきます。

1. 測定

・スロットルレバーの遊びⓐ
規定値でない場合→調整。

スロットルレバーの遊び
7～10mm

2. 調整

スロットルレバーの遊び

調整手順
・ロックナット①を緩める。
・アジャスタ②を規定値になるまで締込む、または緩める。

締込む	遊びが増える
緩める	遊びが減る

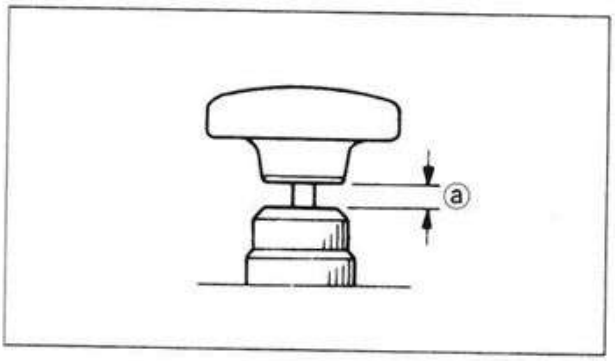
・ロックナットを締める。

WWW.JET-STAR.JP

スロットルレバーの調整／チョークケーブルの調整

⚠注意

スロットルレバーの遊びを調整後、ハンドルバーを左右に動かし、トローリングスピードが規定より高くなっていないことを確認します。

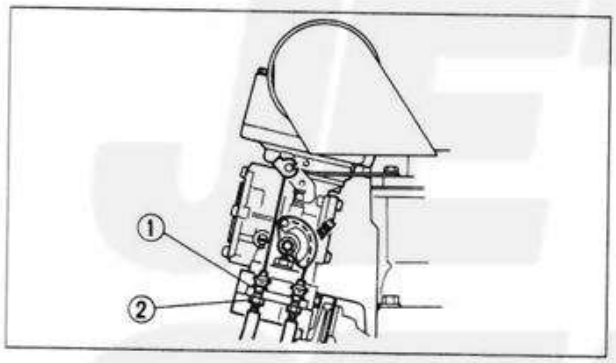


8. チョークケーブルの調整

1. 測定

・スロットルレバーの遊びⓐ
規定値でない場合→調整。

	スロットルレバーの遊び 1～6mm



2. 調整

チョークケーブルの遊び

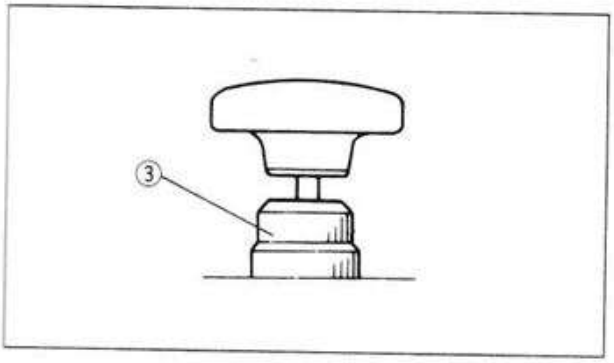
調整手順

・ロックナット①を緩める。
・アジャスタ②を規定値になるまで締込む、または緩める。

締込む	遊びが増える
緩める	遊びが減る

・ロックナットを締める。

	ロックナット 0.9kgf·m（9Nm）



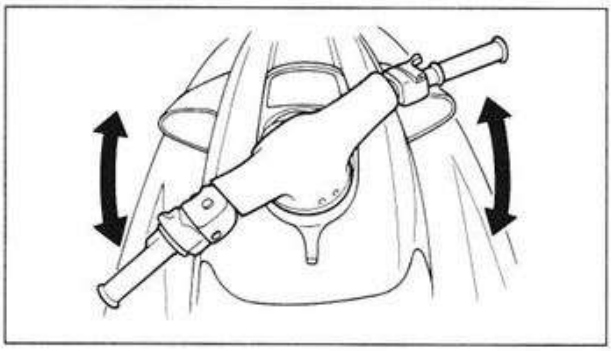
3. 点検

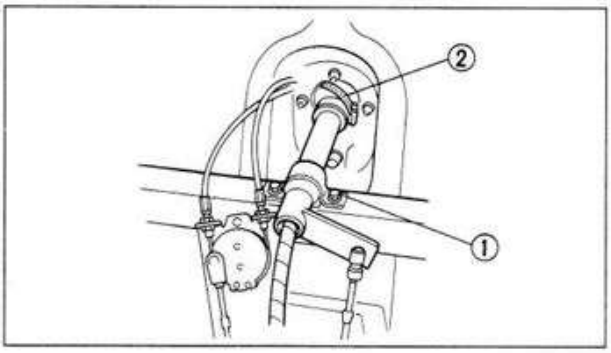
・チョークノブを手前に引く
チョークノブが自動的に戻る→調整。

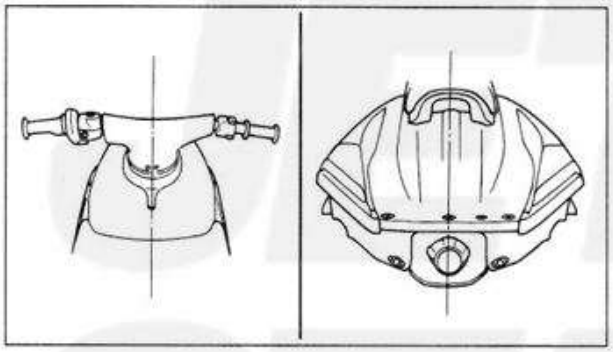
4. 調整

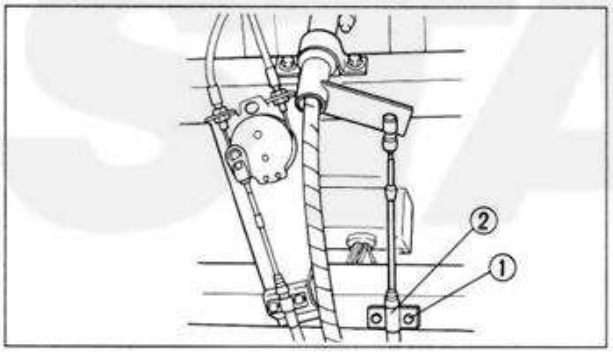
・アジャストナット③
自動的に戻らないように締込む。

WWW.JET-STAR.JP









9. ステアリングシステムの点検と調整

ピボットシャフトベアリング

1. 点検

・ピボットシャフトベアリング
過度の遊び→ベアリングの交換。
「第8章　艤装品／ステアリングシステム」を参照。

点検手順
・ハンドルレバーを上下に動かす。
・ハンドルレバーを前後に動かす。

要点

最初に、ピボットシャフトの支持ボルト①がしっかり締まっている事を確認します。

・もし、ピボットシャフトが緩んでくる場合は、適度な操作感が得られるまでナット②を締める。

ハンドルとノズルのニュートラル位置

1. 点検

・ハンドルとノズルのニュートラル位置
ずれている場合→調整。

調整手順
・ボルト①を緩める。
・ストッパーケーブルブラケット②を。
・ボルト①を締込む。

	ボルト 0.7kgf·m（7Nm）

▲注意

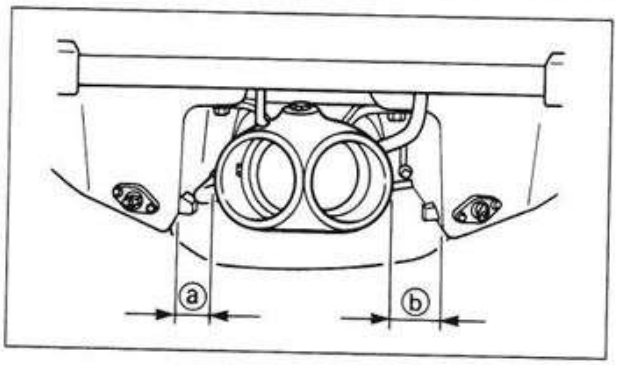
ケーブルストッパの突起部をアウターケーブルのくぼみに合わせます。

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングシステムの点検と調整

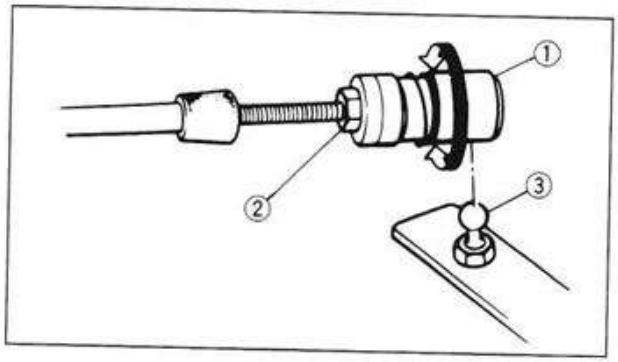


ステアリングケーブル

1. 点検

・ジェットノズルの隙間ⓐ、ⓑ

点検手順
- ハンドルバーを左右それぞれいっぱいに切る。
- 隙間ⓐ、ⓑを測定する。
- もし、ⓐ、ⓑの隙間が異なっていたら、同じになるように調整する。



2. 調整

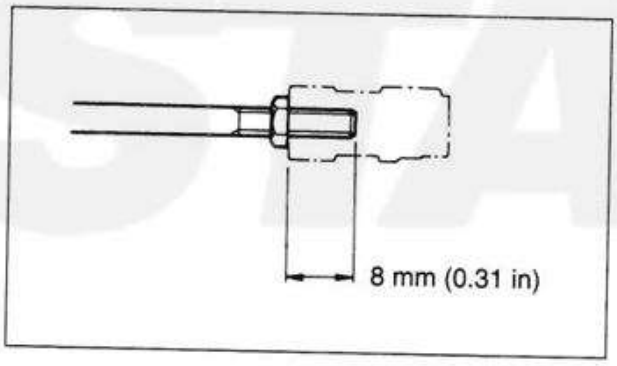
・ケーブルジョイント①（ハンドル側）

調整手順
- ボールジョイント③からケーブルジョイント①を外す。
- ロックナット②を緩める。
- ケーブルジョイント①を回して隙間を調整する。

締込む	ⓐの隙間が増える。
緩める	ⓑの隙間が増える。

- ロックナットを締め、ケーブルジョイントを接続する。

	ロックナット 0.3kgf·m（3Nm）



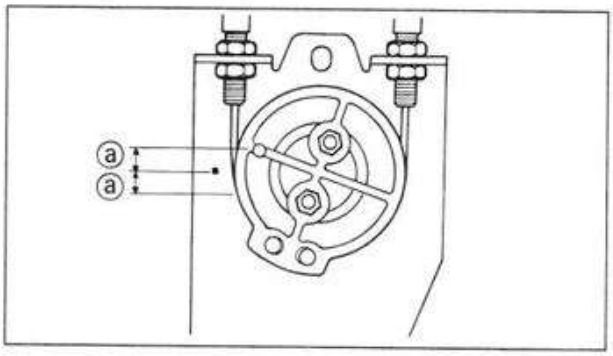
⚠注意

ケーブルジョイントは8mm以上締込みます。

注意

もし、ハンドルレバー側のケーブルジョイントだけで正しく調整できない場合は、ジェットノズル側で調整します。

WWW.JET-STAR.JP



10. トリムコントロールケーブルの点検と調整

トリムコントロールケーブル

1. 測定

・ホイールの遊びⓐ

規定値でない場合→調整。

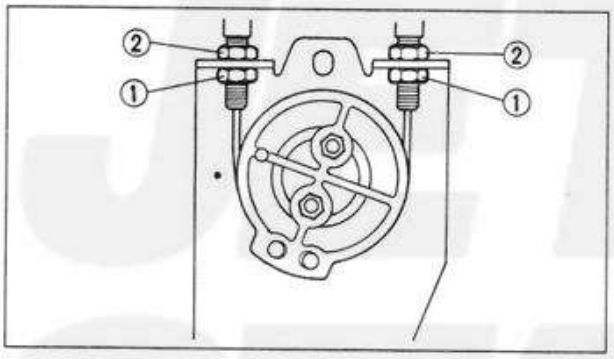
	ホイールの遊びⓐ 0～3.5mm（0～0.14in）

要点

グリップハンドルをニュートラルの位置にします。

2. 調整

プルケーブル

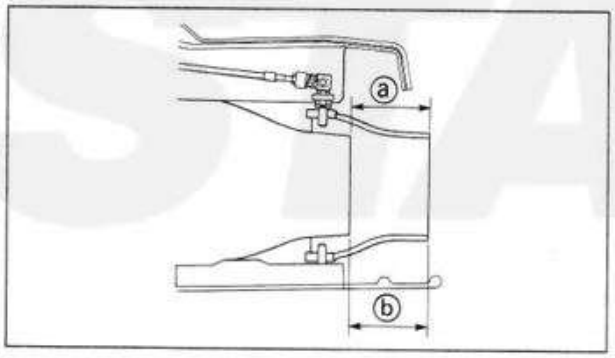


調整手順
・ロックナット①を緩める。
・アジャスタ②を規定値になるまで締込む、または緩める。

締込む	ⓐの隙間が増える。
緩める	ⓑの隙間が増える。

・ロックナットを締める。

	ロックナット 1.6kgf·m（16Nm）



3. 測定

ノズルデフレクタのセット長さⓐ、ⓑ

規定値でない場合→調整。

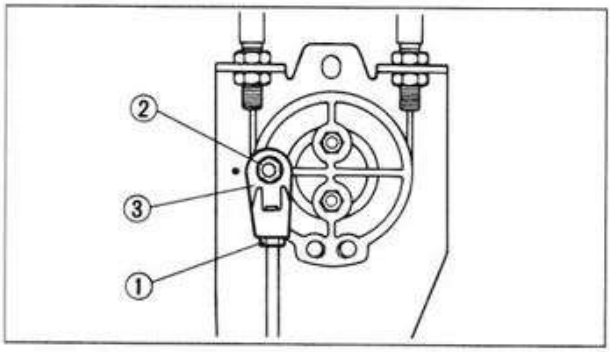
	ノズルデフレクタのセット長さⓐ、ⓑ ⓐ＝ⓑ（69～71mm）

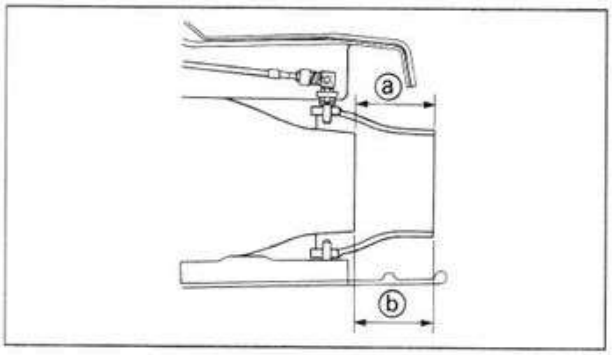
要点

グリップハンドルをニュートラルの位置にします。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングシステムの点検と調整／インペラの点検





4. 調整

トリムコントロールケーブル

調整手順
- ロックナット①を緩める。
- ロックナット②とケーブルジョイント③を取外す。
- ケーブルジョイント③を回してセット長さを調整する。

締込む	ⓑの長さが増える。
緩める	ⓐの長さが増える。

- ケーブルジョイント③を差込んで、ロックナット②を締付ける。
- ロックナット②を締付ける。

ロックナット②
0.3kgf·m（3Nm）

⚠注意

ケーブルジョイントは8mm以上締込みます。

要点

もし、ホイール側のケーブルジョイントだけで正しく調整出来ない場合は、トリムジョイント側で調整します。

11. インペラの点検

インペラ

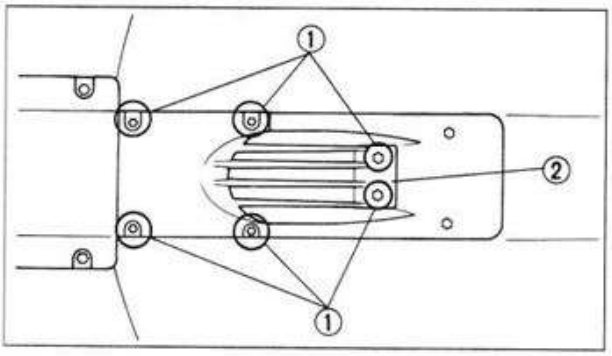
1. 取外し

・バッテリ

3-17ページを参照。

⚠注意

- **バッテリを取外す時は、最初に⊖リード線より外します。**
- **インペラの整備中に艇を傾けると、バッテリ液がこぼれる場合があるのでバッテリを外しておきます。**



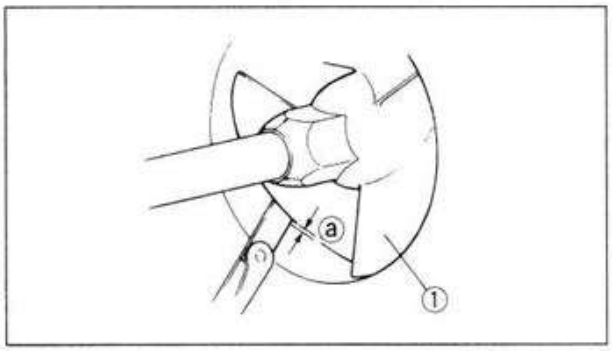
2. 取外し

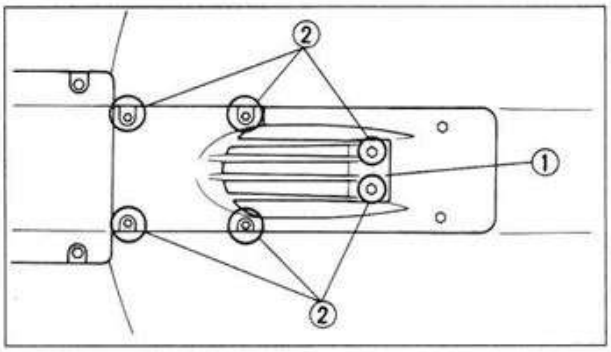
・ボルト①

・インテークスクリーン②

WWW.JET-STAR.JP

インペラの点検





3. 点検
・インペラ①
磨耗／損傷→交換。
かき傷／切傷→やすりを掛ける／磨く。

4. 測定
・インペラの隙間ⓐ
規定値以上の場合→交換。
全部で4カ所を測定する。

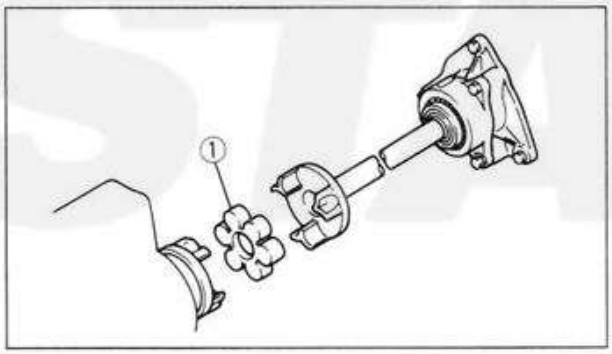
インペラの隙間限度
0.6mm

5. 組付
・インテークスクリーン①
・ボルト②

注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ボルト
1.1kgf·m（11Nm）

6. 組付
・バッテリ
3-18ページを参照。

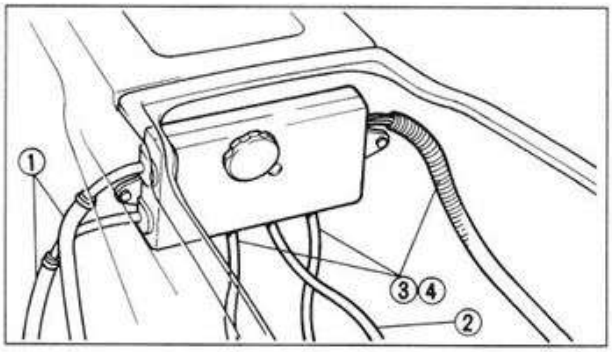


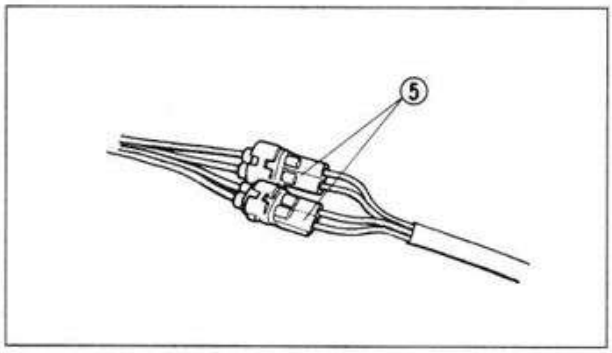
カップリングラバー
1. 取外し
・エンジンユニット
「第5章　パワーユニット」を参照。

2. 取外し
・カップリングラバー①
磨耗／亀裂→交換。

3. 組付と調整
「第5章　パワーユニット」を参照。
3-16電装系統の点検

WWW.JET-STAR.JP





12. 電送系統の点検

1. 点検

・ハイテンションコード①

・バッテリーリード線②

・エクステンションリード線③、④

亀裂／破損→交換。

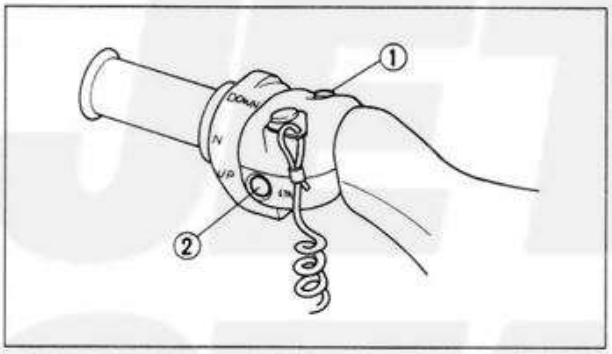
・カプラ⑤

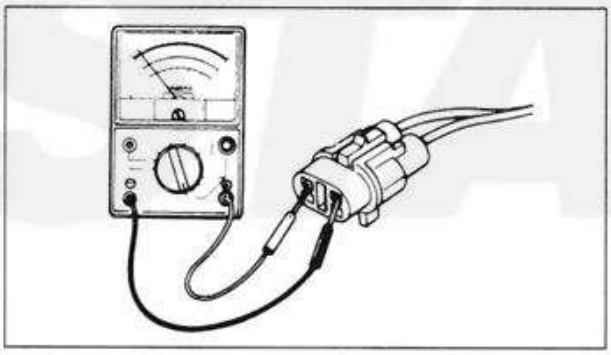
緩み／損傷→交換。

・アース接続（端子は電装ボックスの中）

腐食→清掃。

緩み→締付け。





スタータスイッチ／エンジンストップスイッチ

1. 点検

・スタータスイッチ①

・エンジンストップスイッチ②

規定値でない場合→交換。

スタータスイッチリード線の導通（白いカプラ）		
スイッチ①の位置	ロックプレート	赤線—茶線
はなす	取外す	導通なし
	取付ける	
押す	取外す	
	取付ける	導通あり

エンジンストップスイッチリード線の導通（黒いカプラ）		
スイッチ②の位置	ロックプレート	赤線—茶線
はなす	取付ける	導通なし
	取外す	導通あり
押す	取付ける	
	取外す	

WWW.JET-STAR.JP

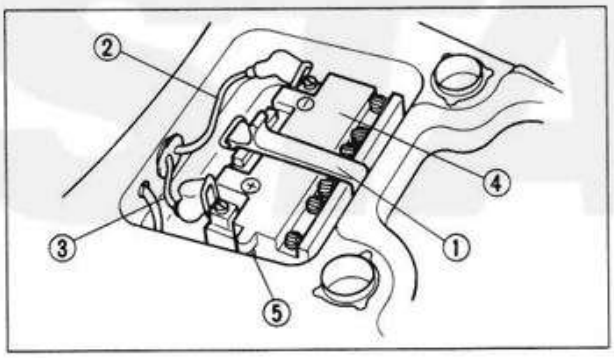
バッテリ

注意

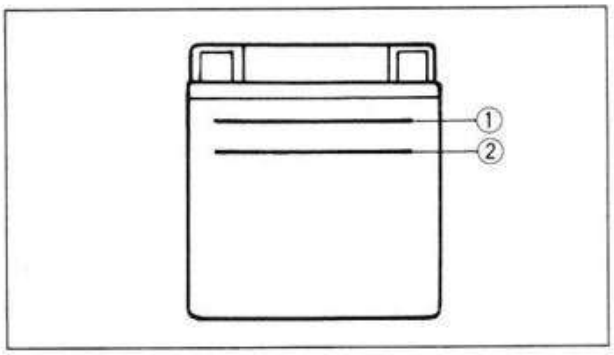
- バッテリを横向きに置かないで下さい。
- 充電時やバッテリ液補充時は、必ずバッテリを取外します。
- バッテリを点検するときは、ブリーザホースがバッテリに接続しているか、ブリーザホースが折れ曲がったり挟まったりしていないか確認します。

⚠注意

- バッテリの電解液には有毒で危険性のある希硫酸が含まれています。皮膚や衣服などにつかないようにします。
  解毒法：皮膚　水で洗い流す。
  体内　大量の水か牛乳を飲み、次にマグネシア乳か攪拌した卵または植物性油を飲み、すぐに医療手当を受ける。
  目　15分間、水で洗い流した後、すぐに医療手当を受ける。
- バッテリは爆発性の高い水素ガスを発生する為、火花、裸火、タバコ等を近づけないようにします。
- 充電するときや室内で作業する時は、換気をしてください。
- バッテリの近くで作業をするときは、常に目を保護してください。
- バッテリは、子供の手が届かない所に保管します。



1. 取外し
- バッテリバンド①
- ㊀リード線②
- ㊉リード線③
- ブリーザホース④
- バッテリ⑤



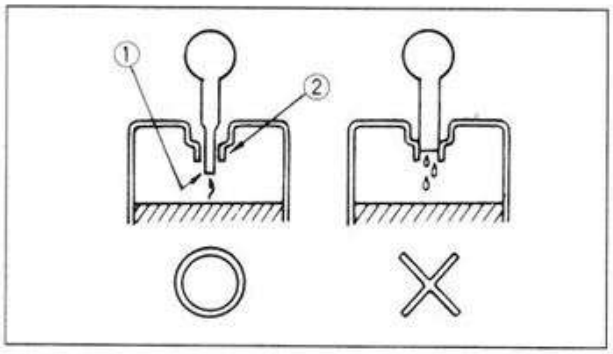
2. 点検
- バッテリ液量

バッテリ液量が少ない→蒸留水を補充する。
液量が上限①と下限②のレベルマークの間になるように注入する。

注意

- 通常の水道水にはバッテリに有害なミネラルなどが含まれている為、必ず蒸留水を使用します。

WWW.JET-STAR.JP



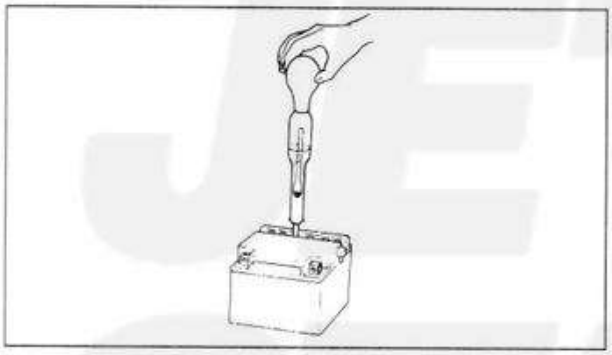
補充手順
・プライヤーを使って、各キャップを外す。
・ジョグを使って、蒸留水を補充する。

要点

・直径が5mm以下の口がついた酸用のジョグかビンを使用します。
ジョグの口が大きすぎるときは、先が細くなったじょうご等を使用します。

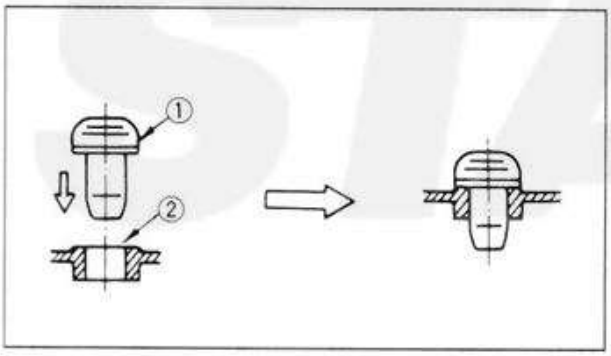
・補充時は、フィラの開口部を完全に閉じないで、空気やガスが抜けるようにしておきます。
・蒸留水が上限レベルまで補充したら、バッテリを20分間そのままにしておき、液面が下がっていたら、同じ蒸留水を再び上限レベルまで補充する。

・酸用のジョグ①
・フィラ開口部②

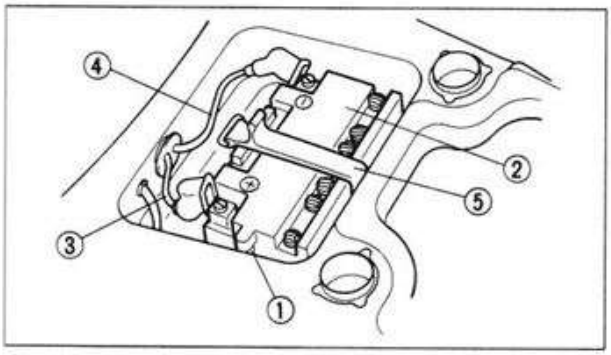


3. 点検
・バッテリ液の比重
規定値でない場合→充電。

比重（20℃）
1.28
充電電流
1.9A×10時間



4. 充電後、フィラキャップをフィラ開口部にしっかりと押込む。
・フィラキャップ①
・フィラ開口部②
バッテリケースに酸が付いたら、洗い流し、よく拭き、乾いてから取付けること。

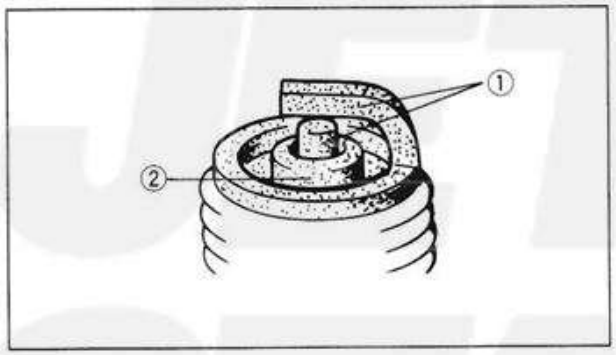


5.組付
・バッテリ①
・ブリーザホース②
・⊕リード線③
・⊖リード線④
・バッテリバンド⑤

WWW.JET-STAR.JP

注意

- 最初にプラスの赤いリード線をバッテリの⊕の端子に接続します。
- バッテリのリード線が正しく接続されていることを確認します。
  もし、リード線が逆に接続されていると電気系統に大きな損傷が生じることがあります。
- ブリーザホースが正しく接続され、詰まっていないか確認します。
- 端子の腐食を最小限にするため、端子に耐水グリースを塗布します。



スパークプラグ

1. 取外し
・スパークプラグ

2. 点検
・電極①
磨耗／損傷→交換。
・絶縁ガイシの色②
正常の状態はキツネ色。
明らかに違う色→エンジンの調子を確認。

白色：燃料比が薄い
- フィルタ、ジェットの詰まり
- エアの漏れ
- セッティング不良

黒色：燃料が濃い
- 電気系統の故障
- オイル量の過多
- スパークプラグの欠陥

3. 清掃
・スパークプラグ
プラグクリーナまたは、ワイヤブラシを使ってスパークプラグを清掃する。

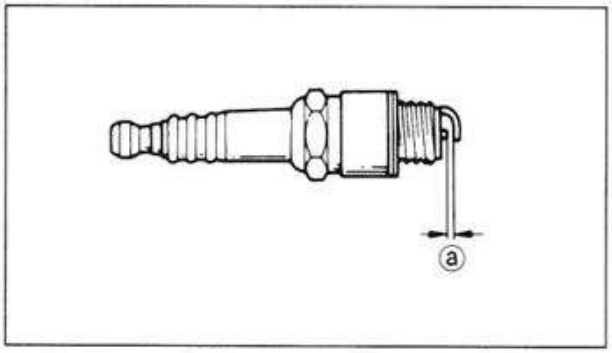
WWW.JET-STAR.JP

4. 点検

・スパークプラグのタイプ

適当でない→交換。

標準スパークプラグ
NGK-BR8HS



5.測定

・スパークプラグギャップⓐ

規定値でない場合→調整／交換。

シクネスゲージを使用。

スパークプラグギャップ 0.6～0.7mm

6. 締付

・スパークプラグ

要点

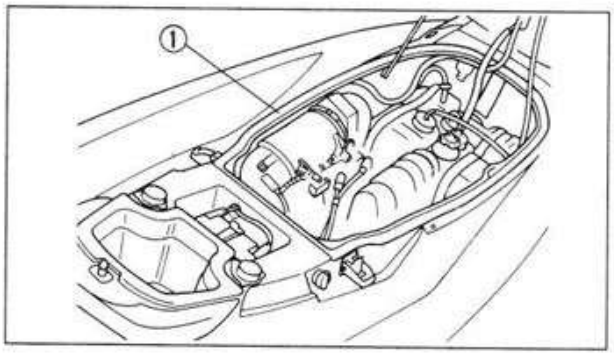
スパークプラグを組付ける前に、ガスケットとプラグの表面をきれいにします。
また、ネジ部の焼付きを防ぐためにスパークプラグのネジ部に耐焼付剤を薄く塗ると効果的です。

スパークプラグ 2.0kgf·m（20Nm）

要点

スパークプラグを締付けるときにトルクレンチがない場合のトルク値の目安は、手で締付けた後、さらに1/4回転から1/2回転締込むぐらいですが、できるだけすぐにトルクレンチを使い、正しいトルク値でスパークプラグを締付けます。

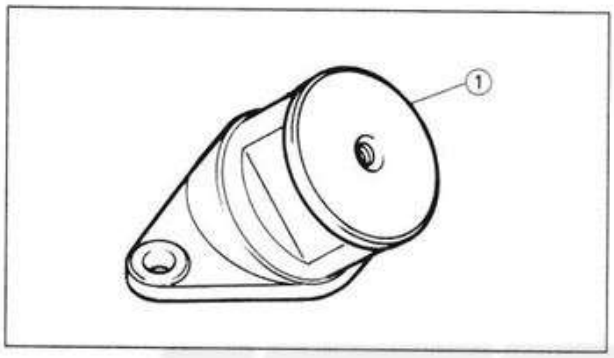
WWW.JET-STAR.JP



13. 艤装品の点検と調整

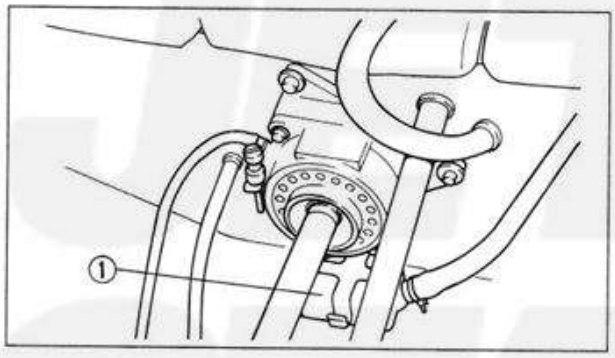
シールラバー

1. 点検
・シールラバー①
磨耗／亀裂→交換。



マウントブラケット

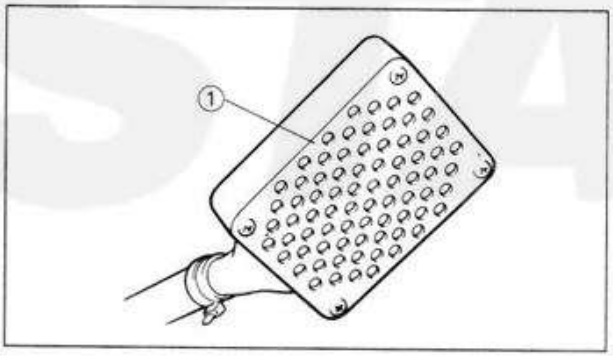
1. 点検
・マウントブラケット①
亀裂／剥離→交換。



ビルジストレーナ

1. 取外し
・ビルジストレーナ①
（カップリングの下）

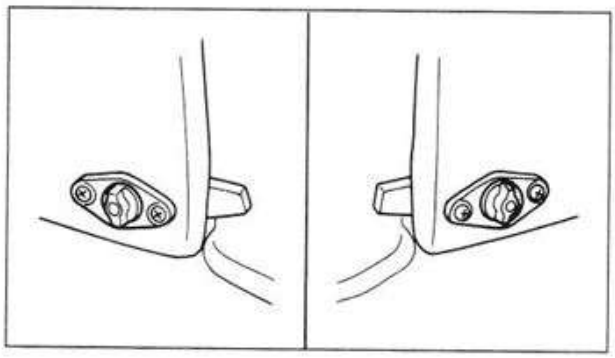
取外し手順
・カップリングカバーを取外す。
・ストレーナホルダからビルジストレーナを取外す。



2. 点検
・ストレーナ
詰まり→清掃。
亀裂／損傷→交換。

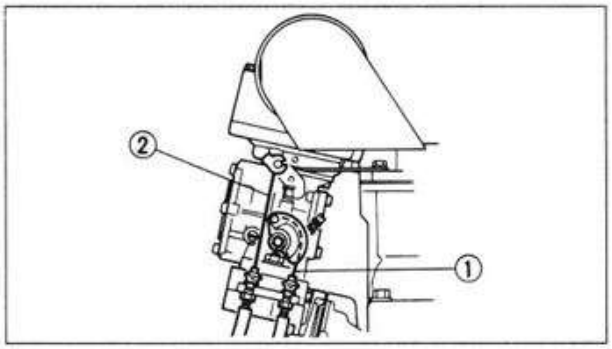
ドレンプラグ

1. 取外し
・ドレンプラグ



2. 点検
・ドレンプラグ
亀裂／損傷→交換。
・Oリング
亀裂／磨耗→交換。
・ネジ部
ゴミ／砂→清掃。

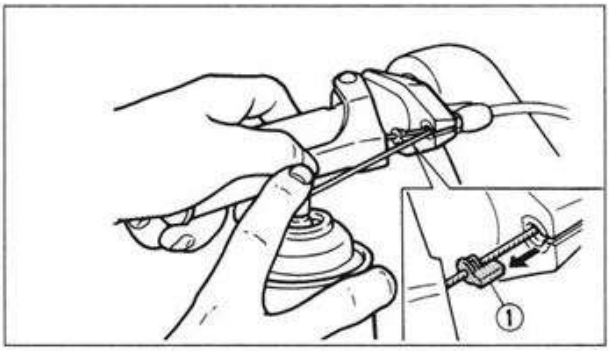
WWW.JET-STAR.JP



14. 給脂箇所

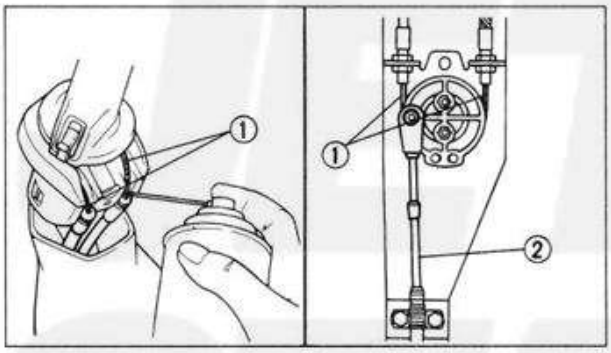
推薦グリース
耐水グリース

1. 塗布
・スロットルケーブル内のワイヤー①
・チョークケーブル内のワイヤー①

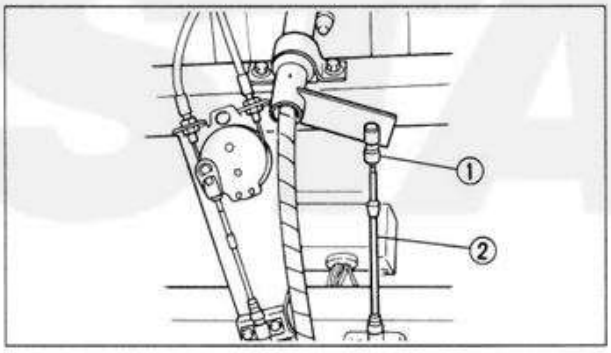


2. 塗布
・スロットルケーブル内のワイヤー

要点
・スロットルレバーを引いて、シール①を外します。
・アウターケーブル内に防錆スプレーを吹付けます。

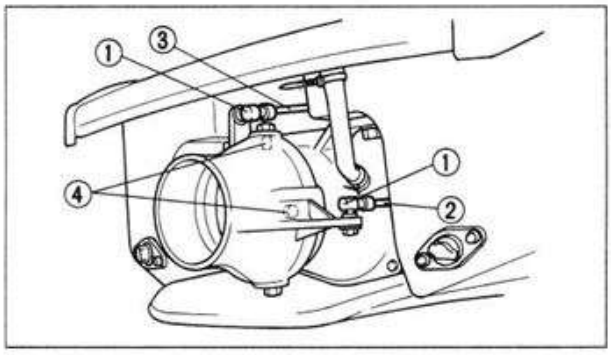


3. 塗布
・プルケーブル内のワイヤー①
・トリムコントロールケーブル②



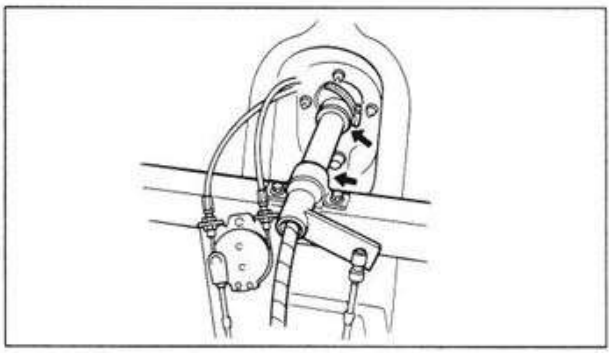
4. 塗布
・ケーブルジョイント①
・ステアリングケーブル②

要点
ケーブルジョイントを外し、グリースを小量塗布します。

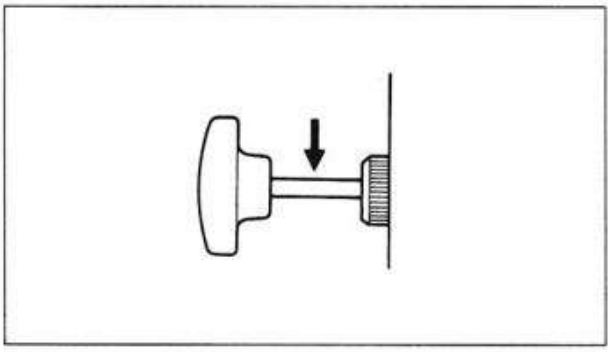


5. 塗布
・ケーブルジョイント①
・ステアリングケーブル②
・トリムコントロールケーブル③
・ノズルピボットシャフトカラー④

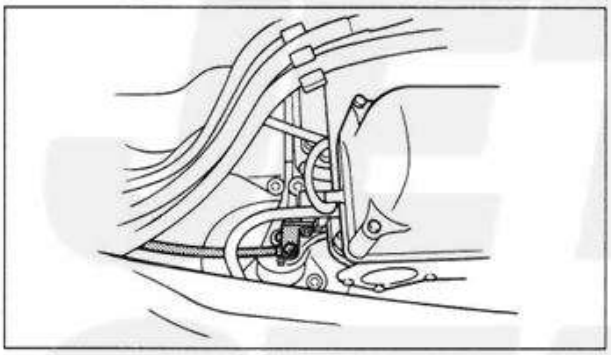
WWW.JET-STAR.JP



6. 塗布
・ステアリングピボットシャフトベアリング



7. 塗布
・チョークノブシャフト



8. 塗布
ベアリングハウジング

要点

- ニップルから耐水グリースをベアリングハウジングに注入します。
- ホースやジョイントに損傷を与えるので、グリースの注入はゆっくり、ていねいに行います。

注入量は3-2ページを参照。

WWW.JET-STAR.JP

第4章　燃料系統

1. 燃料系統図 ……4-1

2. 燃料系統 ……4-2
(1) 取外し前の準備 ……4-2
(2) 点検 ……4-3
フュエルフィラ、フュエルフィルタ、チェックバルブ ……4-3
フュエルコック ……4-3
フュエルタンク ……4-3
フュエルホース ……4-3
(3) 組付 ……4-4

3. キャブレタ ……4-7
(1) 取外し前の準備 ……4-7
(2) 点検 ……4-8
(3) 組付 ……4-10

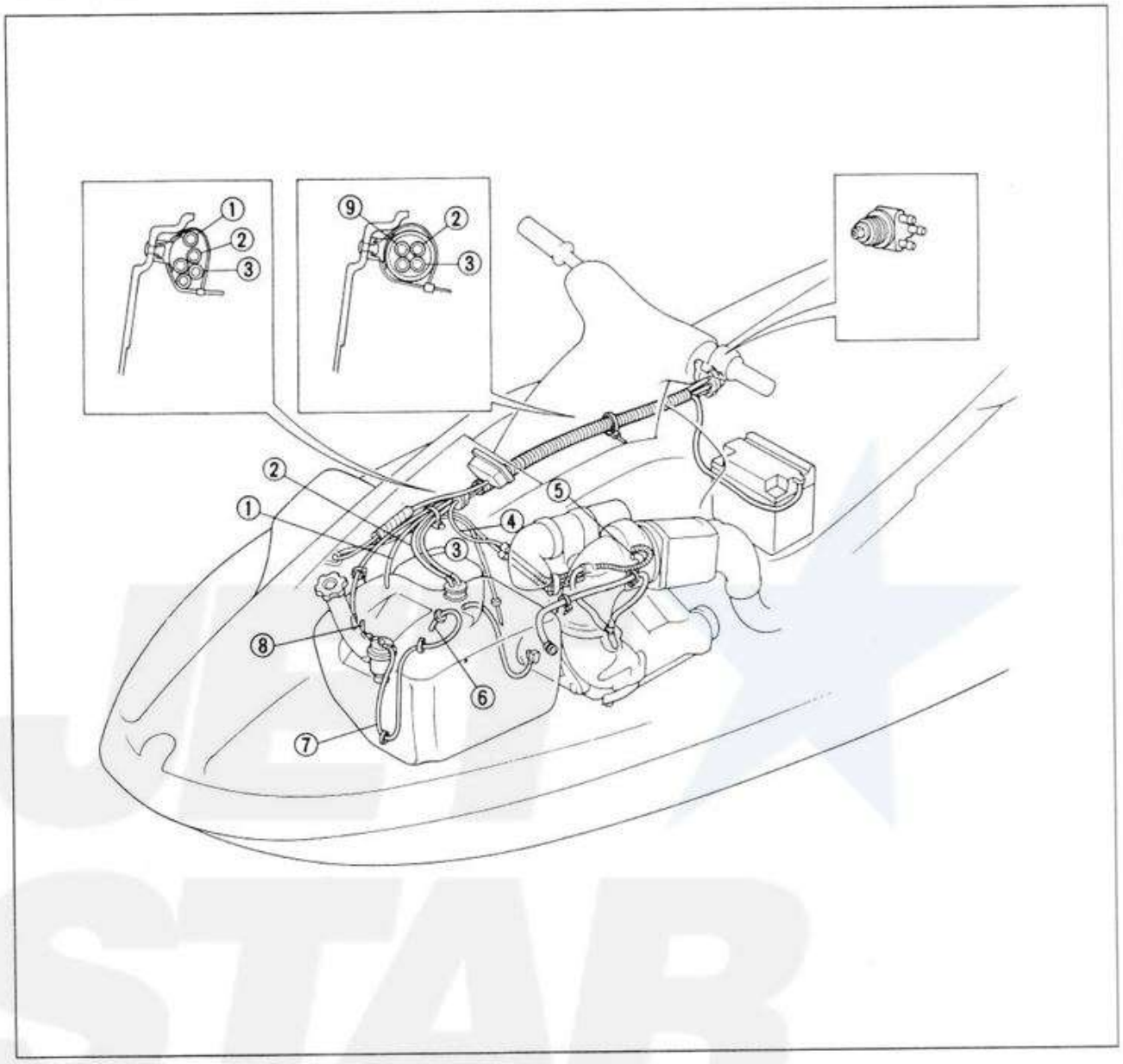
4. オイルインジェクションシステム系統図 ……4-14

5. オイルインジェクションシステム ……4-15
(1) 取外し前の準備 ……4-15
(2) 点検 ……4-16
オイルフィルタ、チェックバルブ ……4-16
オイルポンプ ……4-16
オイルタンク ……4-16
オイルホース ……4-16
(3) 組付 ……4-16

JET STAR

燃料系統図

1. 燃料系統図



フュエルホースの案内

No.	部　品　名	長　さ	マーク
1	キャブレタリターン→フュエルタンク	865mm	白いマーク
2	フュエルタンクON→フュエルコックON	1,220mm	ONの文字
3	フュエルタンクRES→フュエルコックRES	1,220mm	RESの文字
4	フュエルフィルタOUT→キャブレタ	865mm	白いマーク
5	キャブレタ→インテークマニホールド	130mm	
6	フュエルタンク→チェックバルブ	40mm	青のホース
7	チェックバルブ→ウォータセパレータ	1,200mm	
8	ウォータセパレータ→ベンチレーションパイプ	140mm	
9	フュエルコックOUT→フュエルフィルタIN	740mm	OUTの文字

WWW.JET-STAR.JP

燃料系統

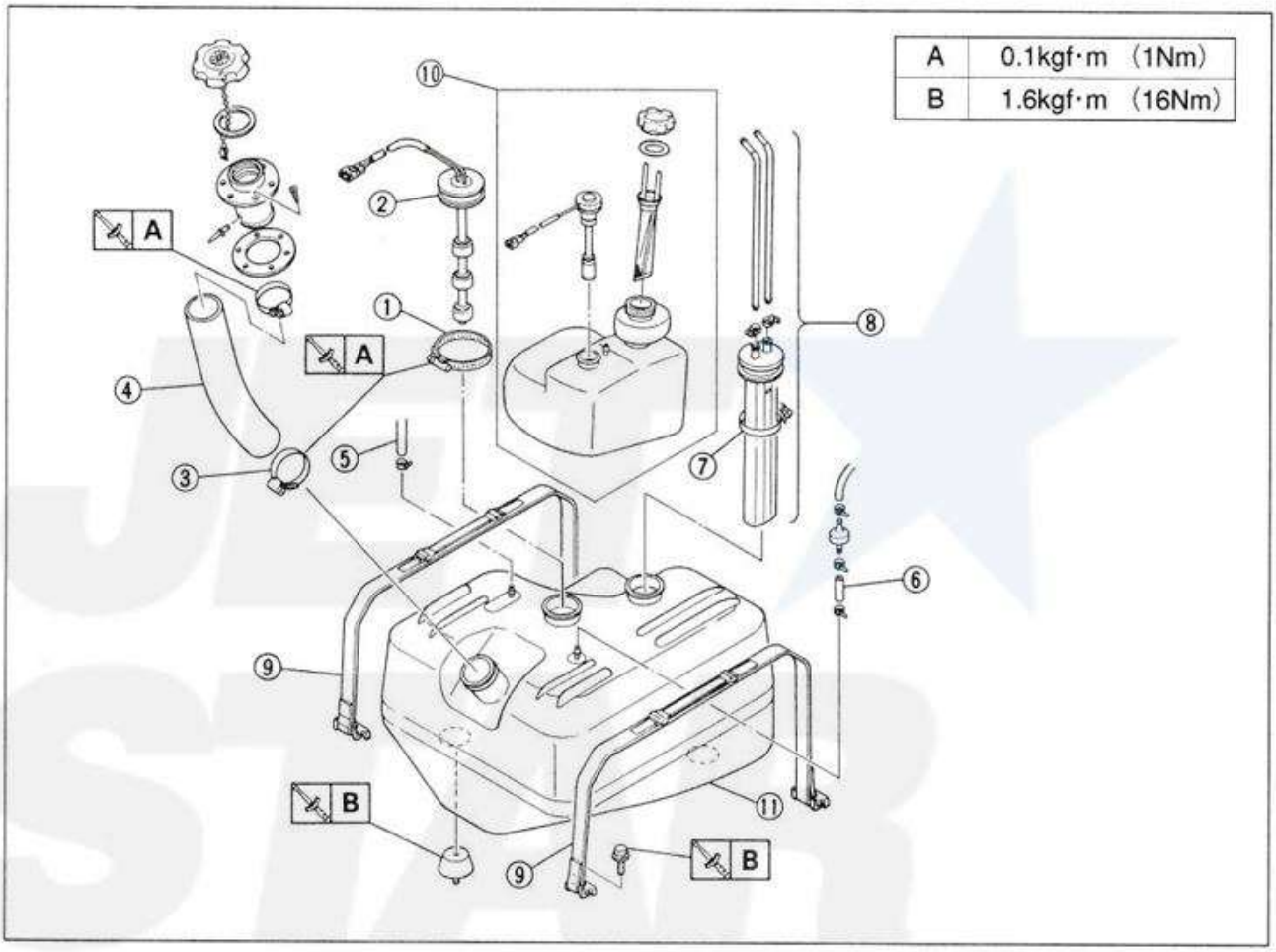
2. 燃料系統

(1) 取外し前の準備

⚠注意

ガソリンは可燃性、爆発性が高いので、特に注意をして取扱います。

・フュエルコックを“OFF”にする。
・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。
・フュエルフィラーキャップを緩める。
・バッテリを取外す。



〈取外しの範囲〉①フュエルタンクの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	クランプ	1	スクリュを緩める。
	2	フュエルセンダ	1	ガソリンを抜く。
	3	クランプ	1	スクリュを緩める。
	4	フュエルフィルタ	1	
	5	フュエルホース	3	
	6	ブリーザホース	1	
	7	クランプ	1	
	8	パイプジョイントAss'y	1	ガソリンを抜く。
	9	タンクバンド	2	スクリュを緩める。
	10	オイルタンクAss'y	1	
	11	フュエルタンク	1	

WWW.JET-STAR.JP

(2) 点検

フュエルフィラ、フュエルフィルタ、チェックバルブ

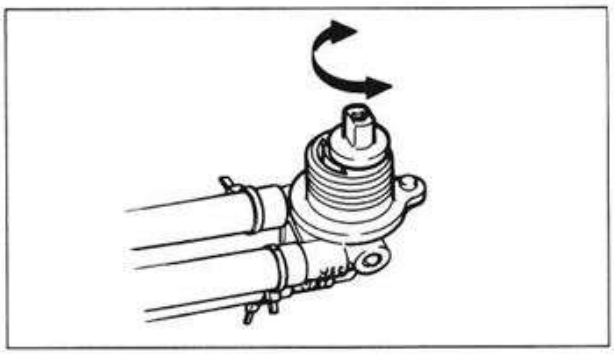
1. 点検

・フュエルフィラ

・フュエルフィルタ

・チェックバルブ

3-6～3-7ページを参照。



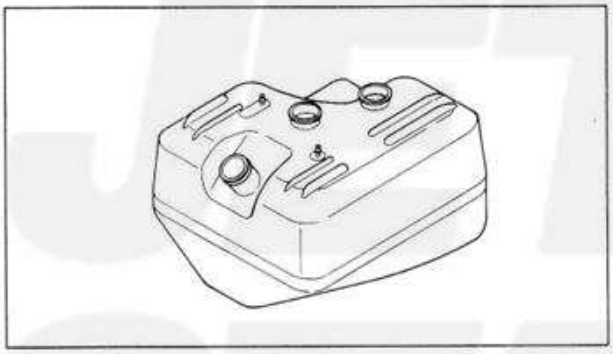
フュエルコック

1. 点検

・フュエルコック

スムースに動かない→交換。

詰まり→清掃。

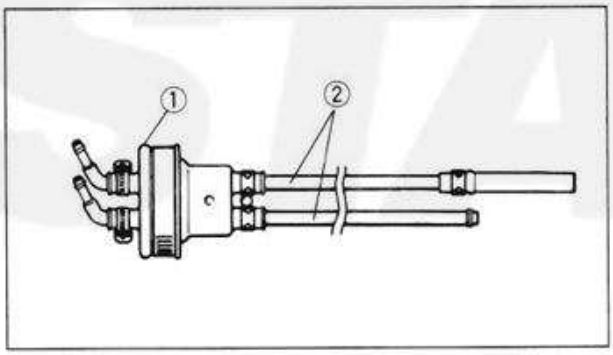


フュエルタンク

1. 点検

・フュエルタンク

亀裂/損傷→交換。



2. 点検

・パイプジョイント①

摩耗/亀裂→交換。

・パイプ②

曲がり/損傷→交換。

汚れ→清掃。

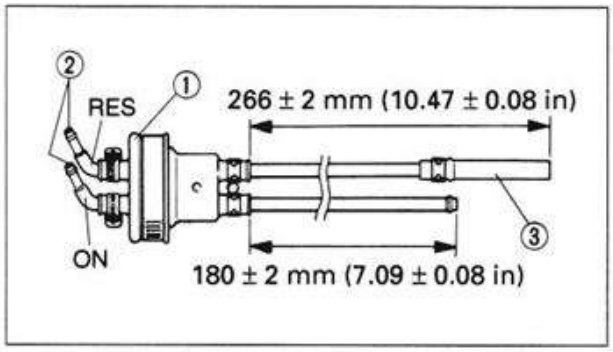
フュエルホース

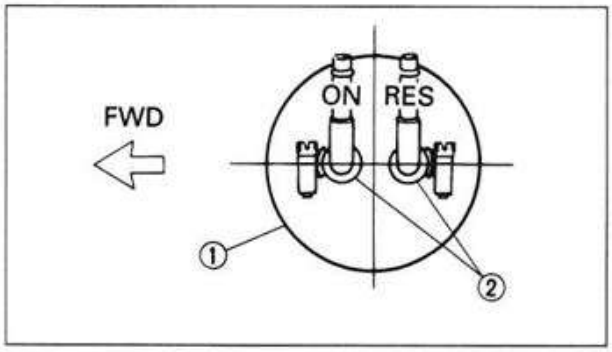
1. 点検

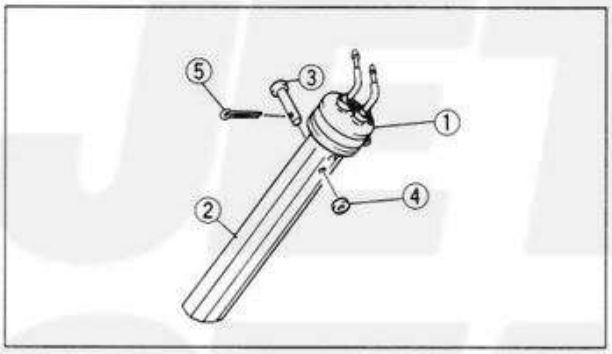
・フュエルホース

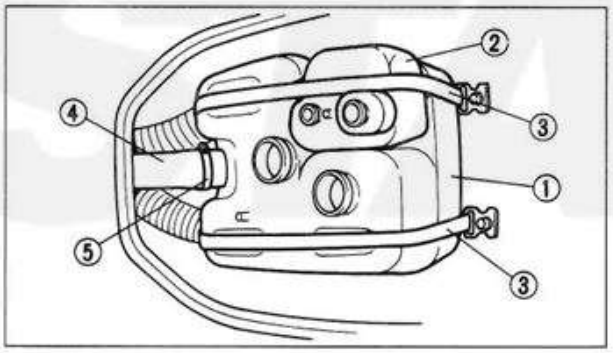
摩耗/亀裂→交換。

WWW.JET-STAR.JP









(3) 組付

▲注意

フュエルホースの取回しとクランプを確実に行なうこと。

1. 組付
- パイプジョイント①
- パイプ②
- ホース③
- クランプ

要点

- ホース③は“RES”パイプ側に接続します。
- イラストのようにして、パイプ②をパイプジョイント①に組付けます。

2. 組付
- パイプジョイントAss'y①
- スリーブ②
- ピン③
- ワッシャ④
- コッタピン⑤

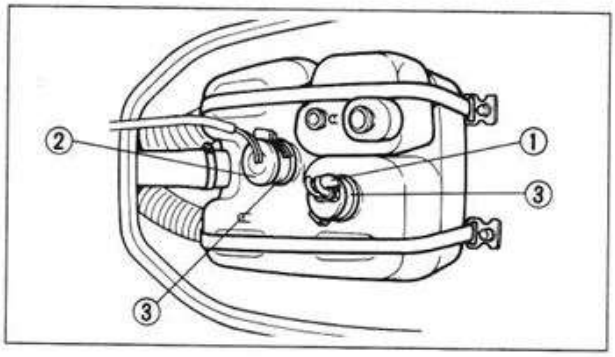
要点

コッタピンは、新しいものを使います。

3. 組付
- フュエルタンク①
- オイルタンクAss'y②
- タンクバンド③
- フュエルフィラ④
- クランプ⑤

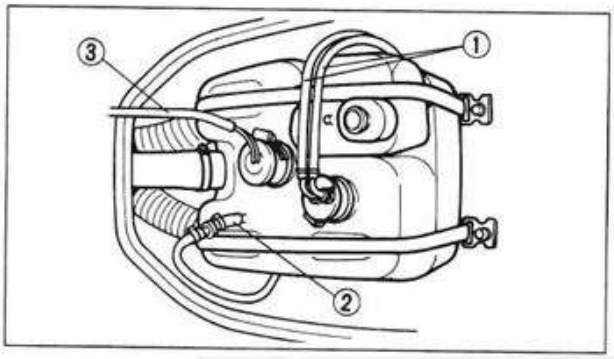
クランプ
0.1kgf·m（1Nm）

WWW.JET-STAR.JP



4. 組付
・パイプジョイントAss'y①
・フュエルセンダ②
・クランプ③

	クランプ 0.1kgf·m （1Nm）



5. 接続
・フュエルホース①
・ブリーザホース②
・フュエルセンダリード線③
4-2ページを参照。

注意
ホースタイは、新しいものを使います。

WWW.JET-STAR.JP

WWW.JET-STAR.JP

3. キャブレタ

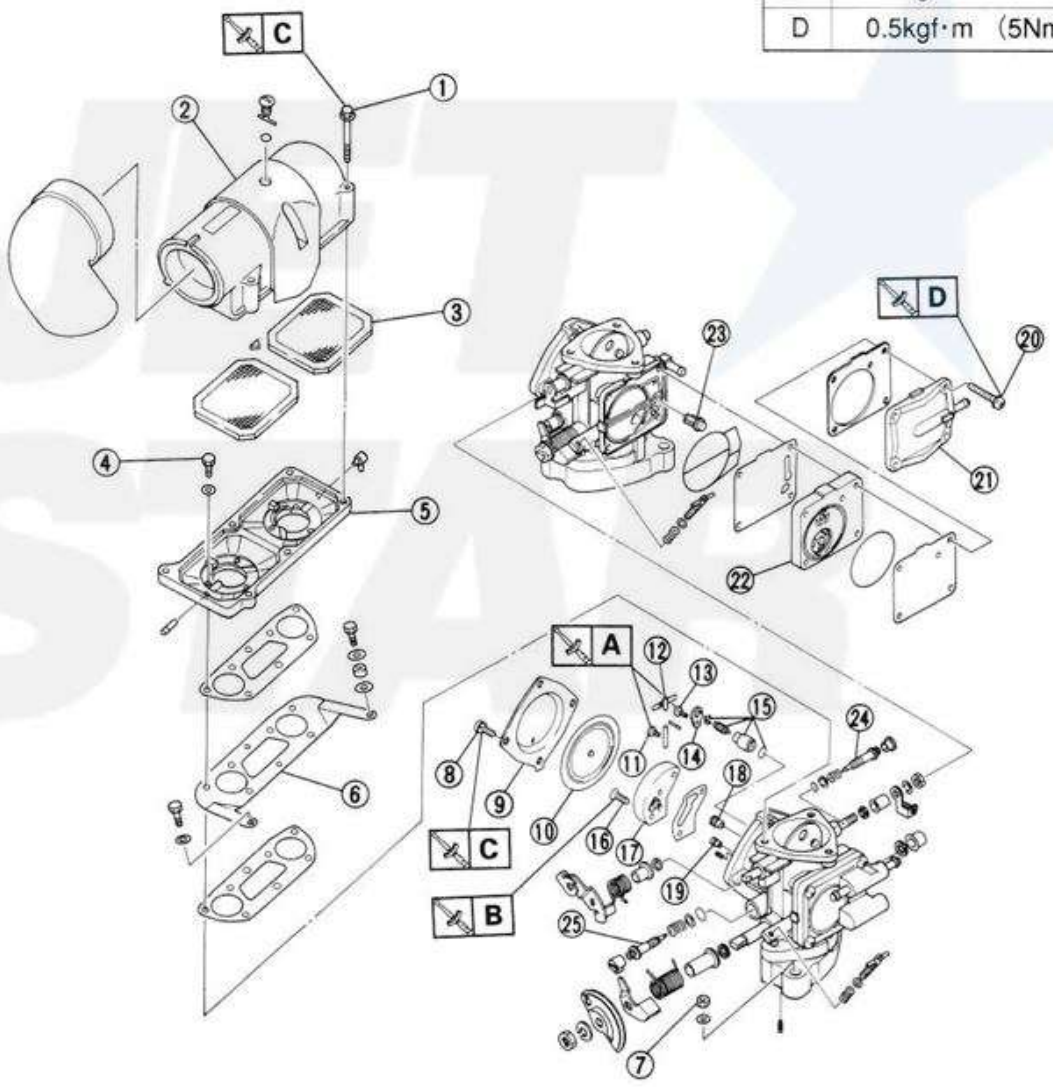
(1) 取外し前の準備

・フュエルコックを“OFF”にする。
・フュエルホースを取外す。
・スロットルケーブルをキャブレタ側で取外す。
・チョークケーブルをキャブレタ側で取外す。
・オイルホースを取外す。

注意

インテークマニホールドの中にスクリュやワッシャを落とさないように注意します。

A	0.1kgf·m (1Nm)
B	0.2kgf·m (2Nm)
C	0.4kgf·m (4Nm)
D	0.5kgf·m (5Nm)

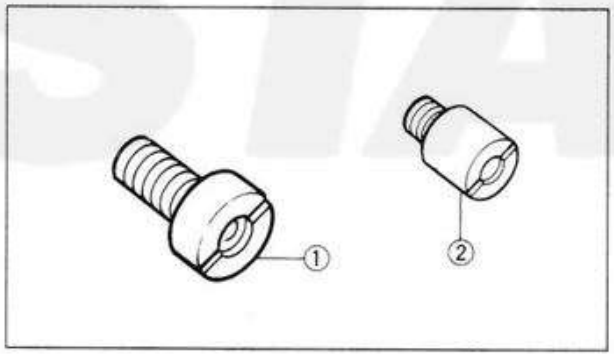


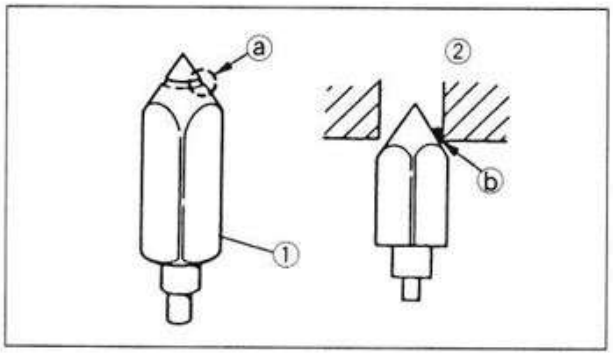
WWW.JET-STAR.JP

キャブレタ

〈取外しの範囲〉①キャブレタの取外し　②キャブレタの分解

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	ボルト	6	
	2	カバー1	1	
	3	フレームアレスタ	2	
	4	ボルト	6	
	5	カバー2	1	
②	6	プレート	1	
	7	ナット	4	
	8	スクリュ	8	
	9	カバー3	2	
	10	ダイヤフラムAss'y	2	
	11	スクリュ	2	
	12	フロートアーム	2	
	13	スクリュ	2	
	14	プレート	2	
	15	ニードルバルブAss'y	2	
	16	スクリュ	4	
	17	ボディAss'y	2	
	18	メインジェット	2	
	19	パイロットジェット	2	
	20	スクリュ	8	
	21	ポンプカバー	2	
	22	ダイヤフラムボディAss'y	2	
	23	フィルタ	2	
	24	高速スクリュ	2	
	25	低速スクリュ	2	





(2) 点検

1. 点検
・キャブレタボディ
・メインジェット①
・パイロットジェット②
詰まり→清掃。

要点

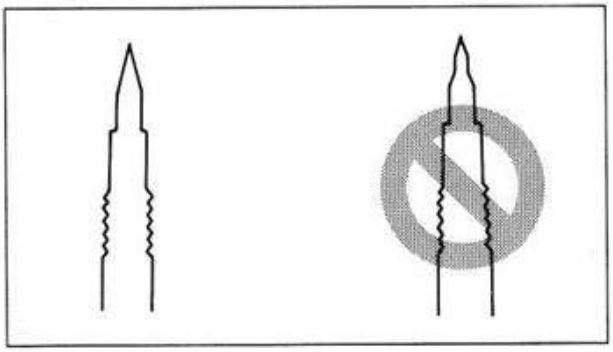
・清掃は洗油と圧縮空気を使います。
・針金などを使い清掃しないでください。

2. 点検
・ニードルバルブ①
・バルブシート②
段付き摩耗ⓐ→交換。
ゴミⓑ→清掃。

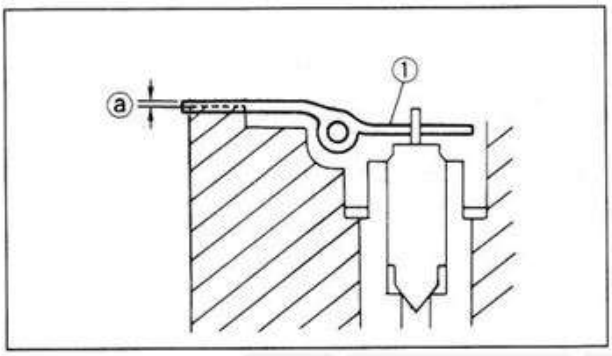
要点

ニードルバルブとバルブシートは、セットで交換します。

WWW.JET-STAR.JP

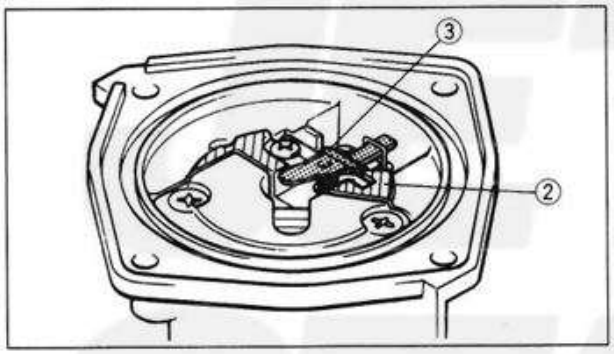


3. 点検
・高速スクリュ
・低速スクリュ
曲がり/摩耗→交換。

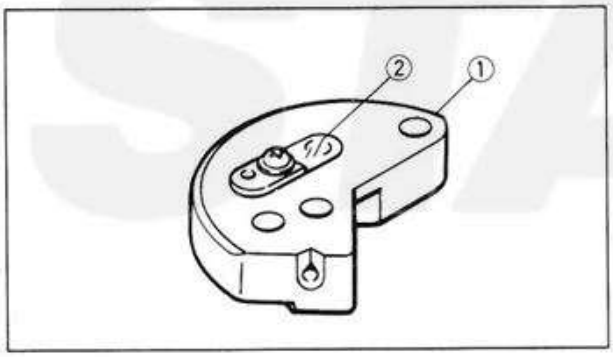


4. 点検
・フロートアーム①
曲がり/損傷→修理または交換。
・フロートアーム高さⓐ
キャブレタボディ②の面から、フロートアーム③の上面までの高さを測定する。

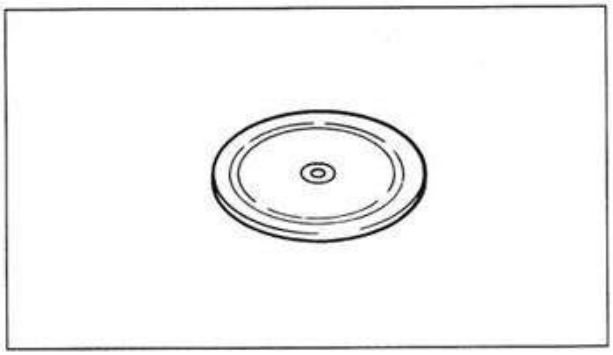
フロートアーム高さ
0～0.2mm



要点
フロートアームにニードルバルブが軽く乗っている状態にし、ニードルバルブを圧迫しないようします。

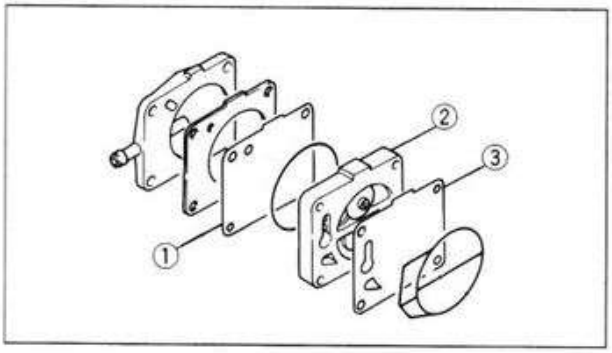


5. 点検
・ボディAss'y①
詰まり→清掃。
・バルブ②
損傷→交換。

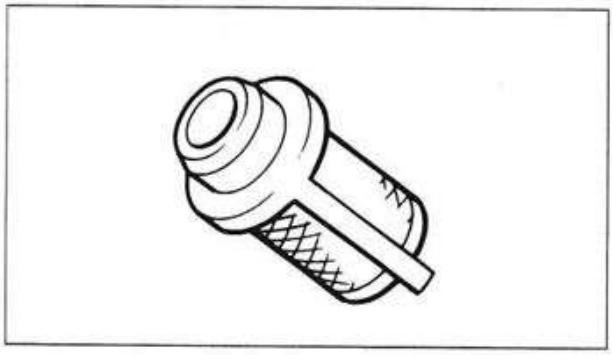


6. 点検
・ダイヤフラムAss'y
損傷→交換。

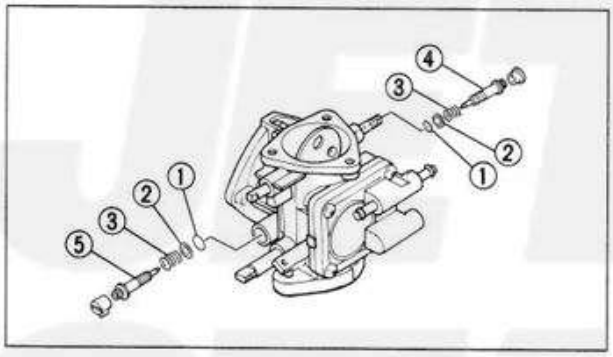
WWW.JET-STAR.JP



7. 点検
・ダイヤフラム1①
・ダイヤフラムボディAss'y②
・ダイヤフラム2③
損傷→交換。



8. 点検
・フィルタ
詰まり→清掃。
損傷→交換。



(3) 組付

1. 組付
・Oリング①
・ガスケット②
・スプリング③
・高速スクリュ④
・低速スクリュ⑤

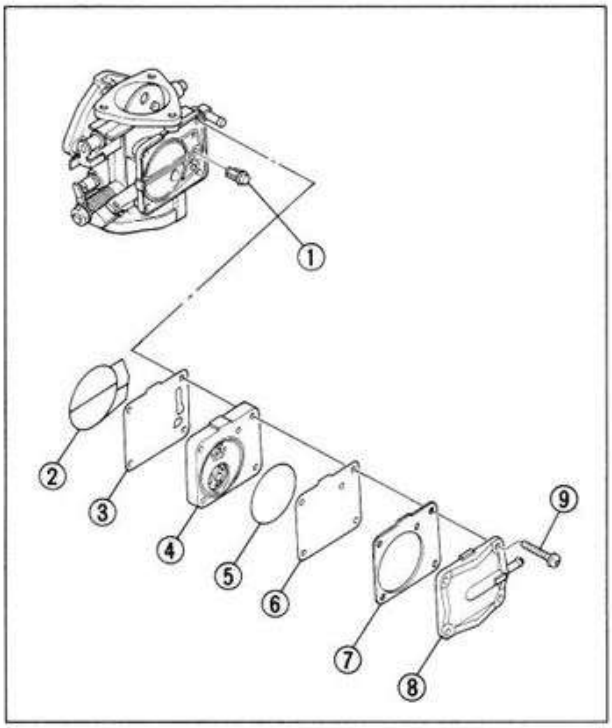
要点
Oリングとガスケットは、新しいものを使います。

組付け手順
・スクリュ④と⑤を座面に軽く当たるまで締込む。
・スクリュを規定回転戻す。

高速スクリュ
フロント 5/8±1/4 回転戻し
リヤ 1-1/8±1/4 回転戻し
低速スクリュ
5/8±1/4 回転戻し

WWW.JET-STAR.JP

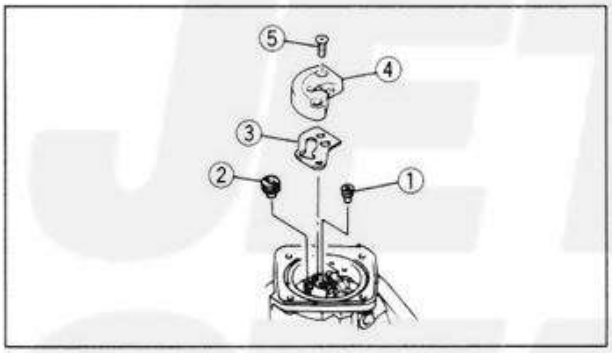
キャブレタ



2. 組付
- フィルタ①
- Oリング②
- ダイヤフラム2③
- ダイヤフラムボディAss'y④
- Oリング⑤
- ダイヤフラム1⑥
- フュエルポンプガスケット⑦
- ポンプカバー⑧
- スクリュ⑨

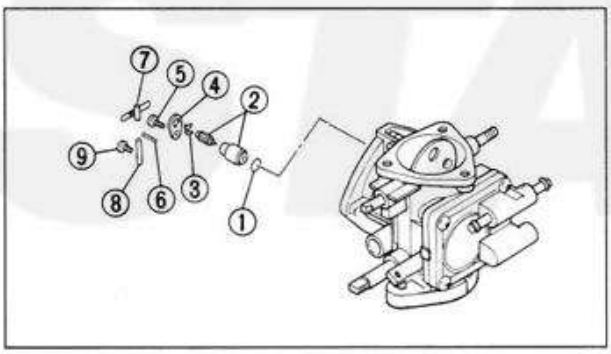
要点
- Oリングとガスケットは、新しいものを使います。
- スクリュは対角線に締付けます。

スクリュ
0.5kgf·m （5Nm）



3. 組付
- パイロットジェット①
- メインジェット②
- ガスケット③
- ボディAss'y④
- スクリュ⑤

スクリュ
0.2kgf·m （2Nm）

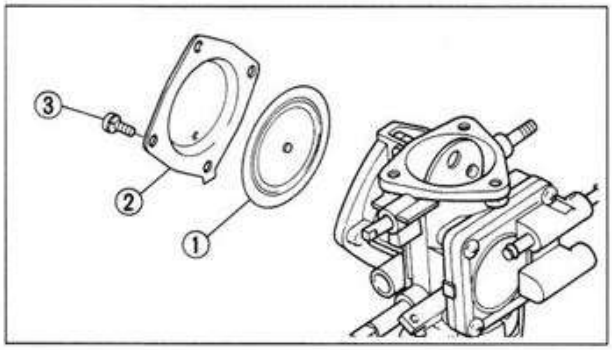


4. 組付
- Oリング①
- ニードルバルブAss'y②
- クリップ③
- プレート④
- スクリュ⑤
- スプリング⑥
- フロートアーム⑦
- ピン⑧
- スクリュ⑨

要点
- Oリングは、新しいものを使います。
- フロートアームがスムースに動くことを確認します。

スクリュ（プレート）
0.1kgf·m （1Nm）
スクリュ（ピン）
0.1kgf·m （1Nm）

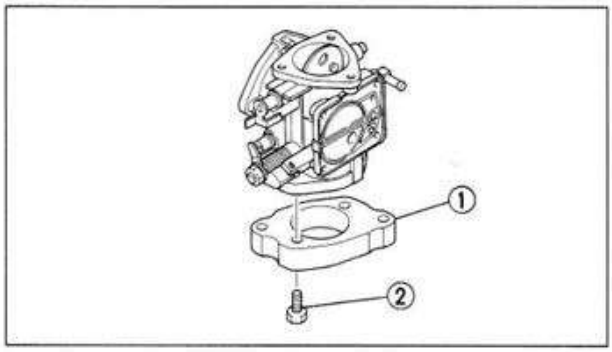
WWW.JET-STAR.JP



5. 組付
・ダイヤフラムAss'y①
・カバー3②
・スクリュ③

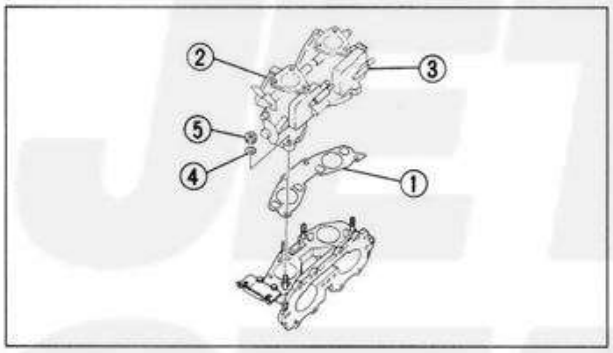
要点
スクリュは対角線に締付けます。

スクリュ
0.4kgf·m （4Nm）



6. 組付
・カラー①
・ボルト②

ボルト
0.5kgf·m （5Nm）



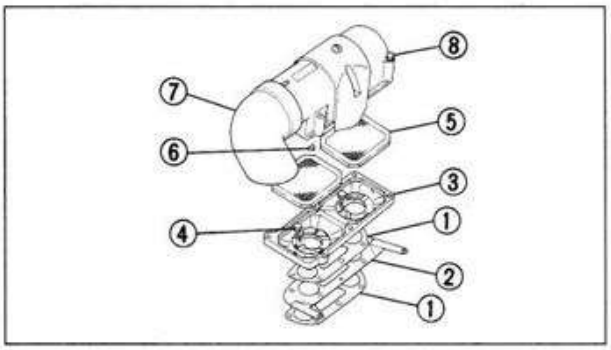
7. 組付
・ガスケット①
・キャブレタF②
・キャブレタR③
・ワッシャ④
・ナット⑤

8. 調整
・キャブレタの同調
3-4ページを参照。

9. 接続
・フュエルホース
・オイルホース（オイルインジェクション）
・ホースタイ
4-1ページを参照。

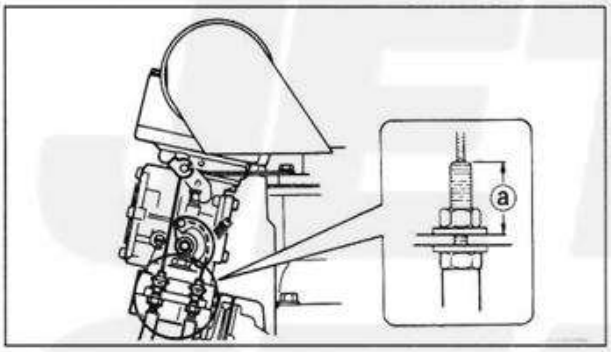
注意
ホースタイは、新しいものを使います。

WWW.JET-STAR.JP



10. 組付
・ガスケット①
・プレート②
・カバー2③
・ボルト④
・フレームアレスタ⑤
・シール⑥
・カバー1⑦
・ボルト⑧

ボルト（プレート—シリンダヘッド）
0.8kgf·m（8Nm）
ボルト（カバー1）
0.2kgf·m（2Nm）



11. 組付
・スロットルケーブル
・チョークケーブル

ケーブルガイドの取付け位置ⓐ
（スロットルとチョークケーブル）
17mm
ケーブルガイドの上端とプレート上面の寸法

12. 締付
・ケーブルガイドナット
（スロットルとチョークケーブル）

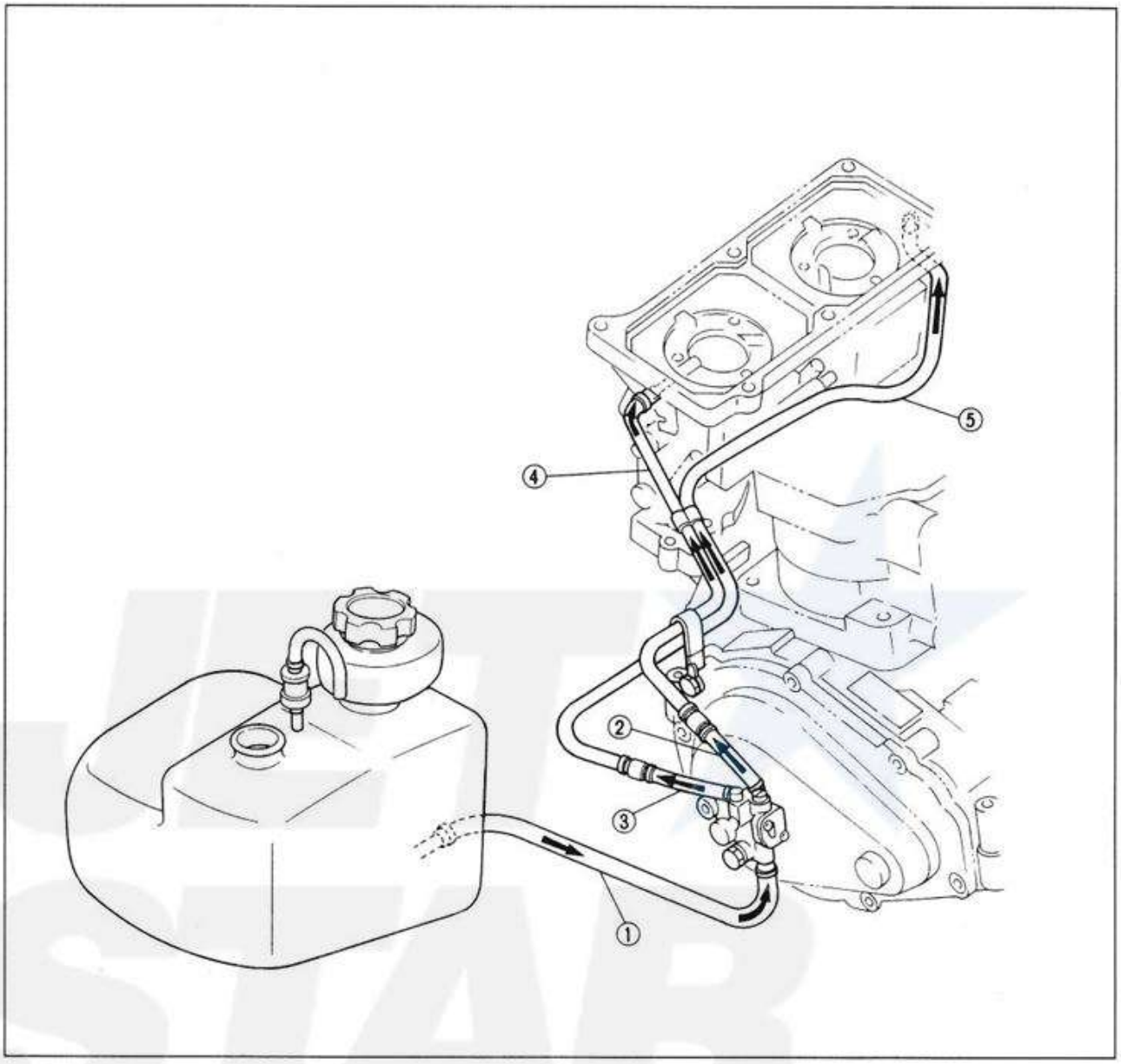
ケーブルガイドナット
0.9kgf·m（9Nm）

13. 調整
・スロットルレバーの遊び
・チョークケーブルの遊び
3-10ページを参照。

WWW.JET-STAR.JP

オイルインジェクションシステム系統図

4. オイルインジェクションシステム系統図



フュエルホースの案内

No.	部　品　名	長　さ	マーク
1	オイルタンク→オイルポンプ	240mm	
2	オイルポンプ→チェックバルブ1	85mm	
3	オイルポンプ→チェックバルブ2	70mm	
4	チェックバルブ1→インテークマニホールド1	210mm	
5	チェックバルブ2→インテークマニホールド2	450mm	

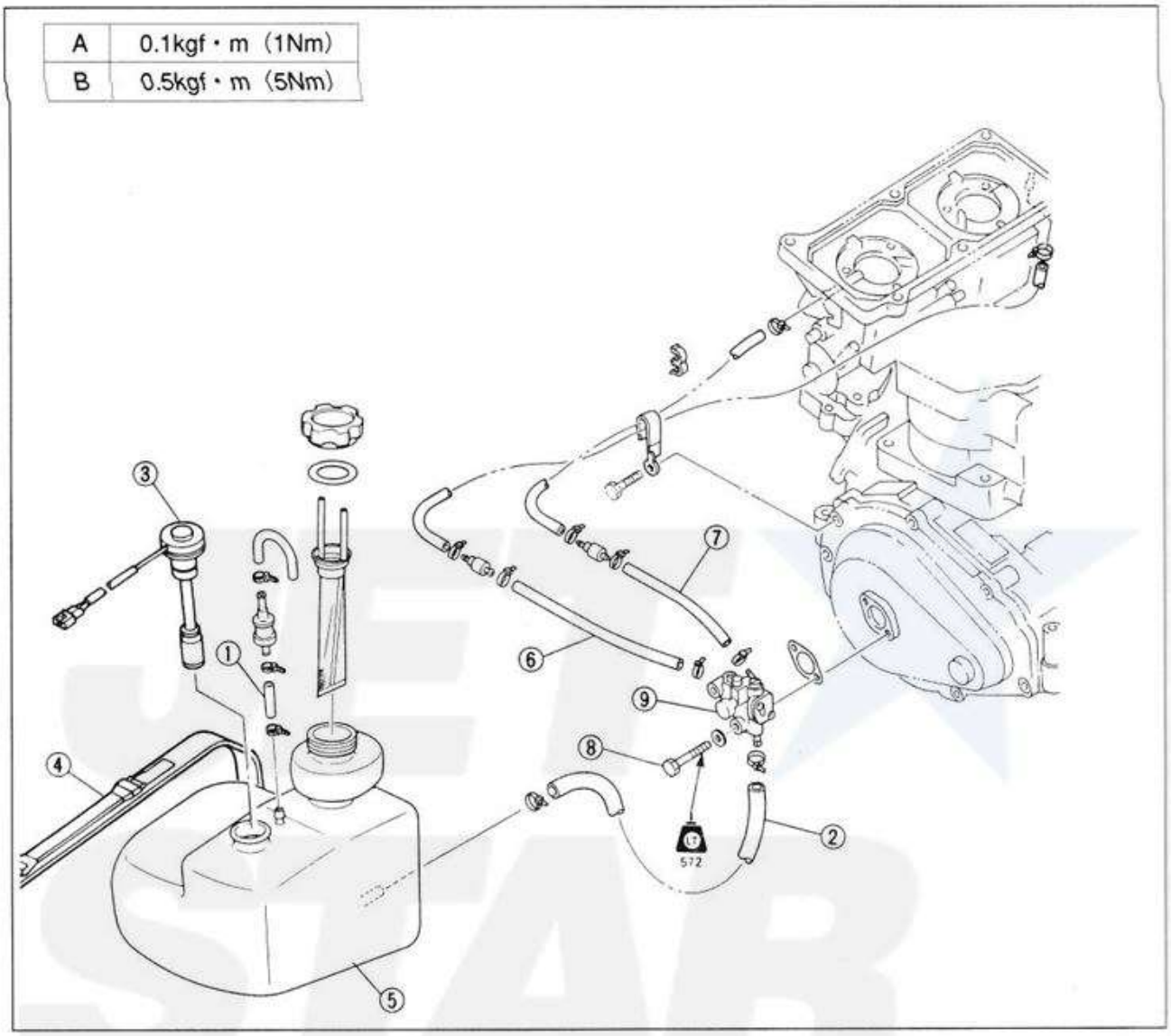
WWW.JET-STAR.JP

5. オイルインジェクションシステム

(1) 取外し前の準備

エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。

A	0.1kgf・m (1Nm)
B	0.5kgf・m (5Nm)



〈取外しの範囲〉①オイルタンクの取外し　②オイルポンプの取外し

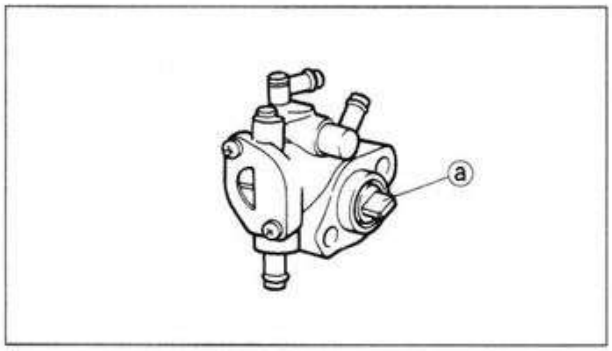
区　分	No.	部 品 名	個数	備　考
① ②	1	ブリーザホース	1	
	2	オイルホース	1	オイルポンプ側から取外す。
	3	オイルセンダ	1	
	4	フュエルタンクバンド	1	バンドを引っ張りタンクを外す。
	5	オイルタンク	1	
②	6	ホース	1	オイルポンプ側から取外す。
	7	ホース	1	オイルポンプ側から取外す。
	8	ボルト	2	
	9	オイルポンプ	1	

WWW.JET-STAR.JP

(2) 点検

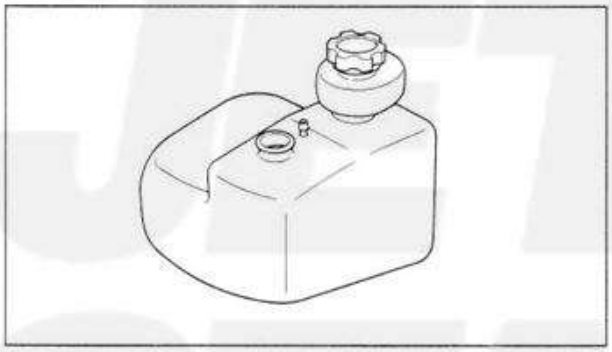
オイルフィルタ、チェックバルブ

1. 点検
・オイルフィルタ
・チェックバルブ
3-8ページを参照。



オイルポンプ

1. 点検
・オイルポンプ
詰まり→清掃。
・ドライビングウォームa
摩耗/損傷→交換。



オイルタンク

1. 点検
・オイルタンク
亀裂/損傷→交換。

オイルホース

1. 点検
・オイルホース
摩耗/亀裂→交換。

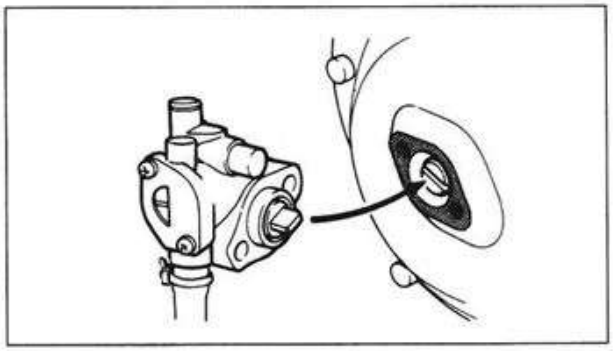
(3) 組付け

⚠注意

オイルホースの取回しとクランプを確実に行うこと。

WWW.JET-STAR.JP

オイルインジェクションシステム



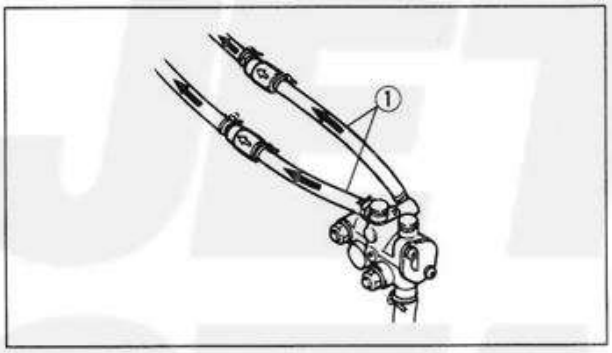
1. 組付け
・ガスケット
・オイルポンプ
・ボルト

要点

・ガスケットは新しいものを使います。
・クランクシャフトの溝にオイルポンプの突起を合わせて組付けます。

注意

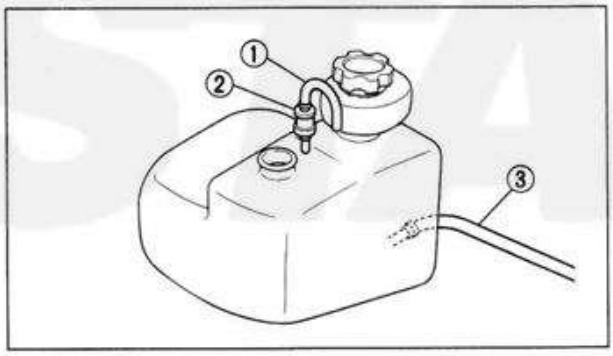
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。



2. 接続
・オイルホース①
4-12ページを参照。

注意

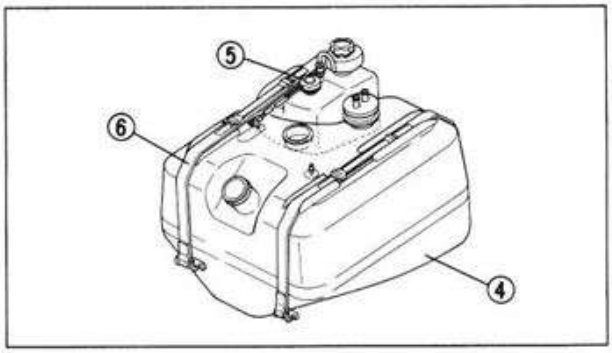
・チェックバルブの矢印をインテークマニホールド側に取付けます。
・ホースタイは新しいものを使います。



3. 接続
・ブリーザホース①
・チェックバルブ②
・オイルホース③

注意

・チェックバルブの緑色の口をオイルタンク側に取付けます。
・ブリーザホースの先端が艇の内側を向くように取付けます。
・ホースタイは新しいものを使います。



4. 組付
・オイルタンク④
・タンクバンド⑤
・オイルセンダ⑥

5. エア抜き
・オイルインジェクションシステム
3-9ページを参照。

WWW.JET-STAR.JP

第5章　パワーユニット

1. リードバルブ／シリンダヘッド／シリンダ／ピストン ……5-1
(1) 取外し前の準備 ……5-1
(2) 作業上の注意 ……5-2
(3) 取外し ……5-2
リードバルブ ……5-2
マフラ ……5-3
ピストンリング ……5-3
(4) 点検 ……5-4
リードバルブ ……5-4
シリンダヘッド ……5-4
シリンダ ……5-5
ピストン ……5-6
ピストンリング ……5-7
ピストンピンとベアリング ……5-8
(5) 組付 ……5-8
ピストン ……5-8
リードバルブ ……5-9
シリンダヘッドとシリンダ ……5-9
マフラ ……5-11
インテークマニホールド ……5-14

2. エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング ……5-15
(1) 取外し前の準備 ……5-15
(2) 作業上の注意 ……5-16
(3) 取外し ……5-16
(4) 点検 ……5-19
(5) 組付 ……5-20

3. フライホイールマグネト／クランクケース／クランクシャフト…5-27
(1) 取外し前の準備 ……5-27
(2) 作業上の注意 ……5-28
(3) 取外し ……5-28
(4) 点検 ……5-30
クランクシャフト ……5-30
クランクケース ……5-31
アイドルギヤAss'y ……5-31
フライホイールマグネト ……5-31
(5) 組付 ……5-31

WWW.JET-STAR.JP

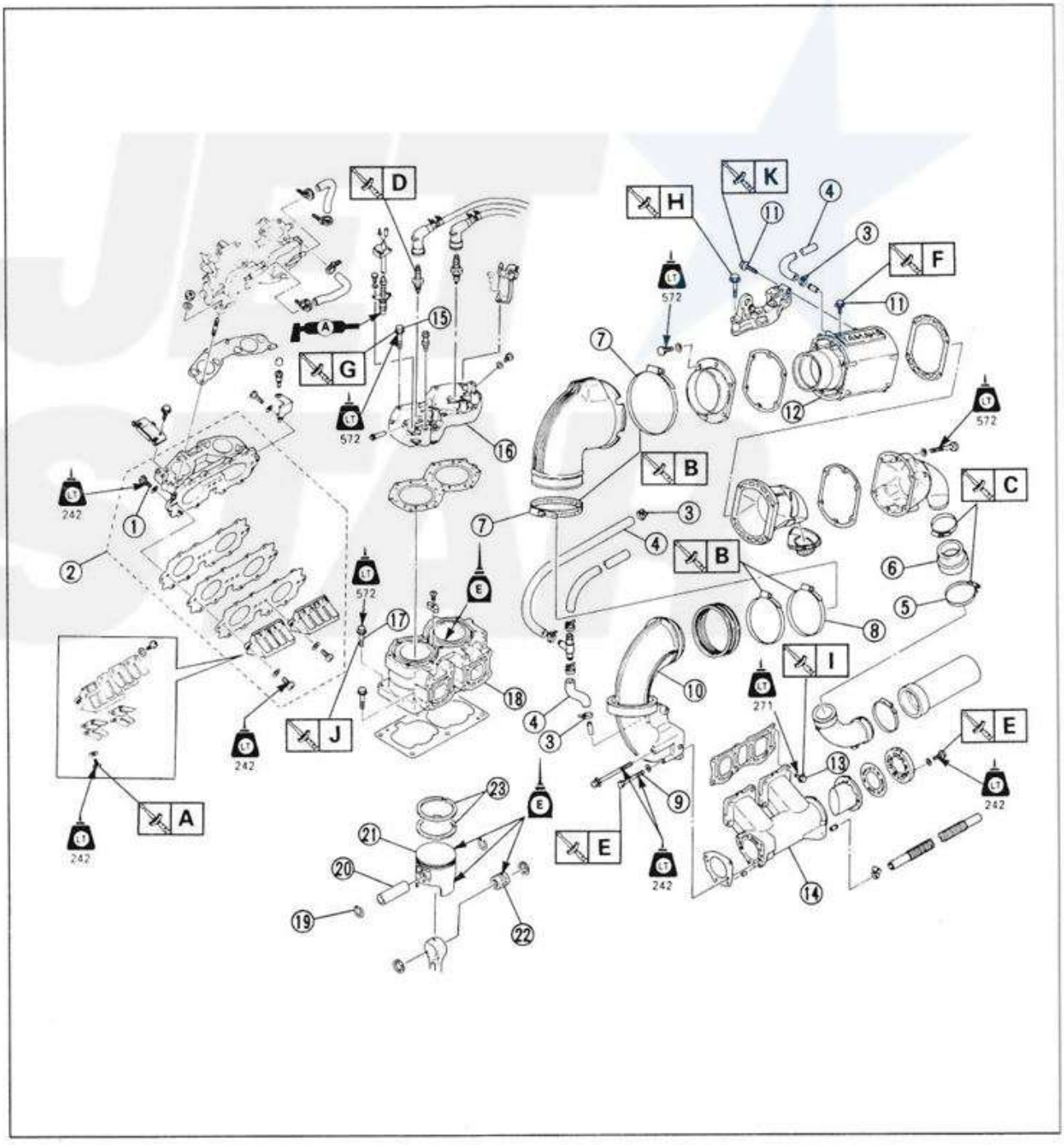
リードバルブ／シリンダヘッド／シリンダ／ピストン

1. リードバルブ／シリンダヘッド／シリンダ／ピストン

(1) 取外し前の準備

・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。
・フュエルコックを“OFF”にする。
・キャブレタを取外す。

A		0.1kgf·m (1Nm)
B		0.2kgf·m (2Nm)
C		0.4kgf·m (4Nm)
D		2.0kgf·m (20Nm)
E		3.0kgf·m (30Nm)
F		4.0kgf·m (40Nm)
G	1回目	1.5kgf·m (15Nm)
	2回目	3.6kgf·m (36Nm)
H	1回目	0.3kgf·m (3Nm)
	2回目	4.0kgf·m (40Nm)
I	1回目	2.2kgf·m (22Nm)
	2回目	4.0kgf·m (40Nm)
J	1回目	2.3kgf·m (23Nm)
	2回目	4.0kgf·m (40Nm)
K	1回目	0.3kgf·m (3Nm)
	2回目	4.7kgf·m (47Nm)



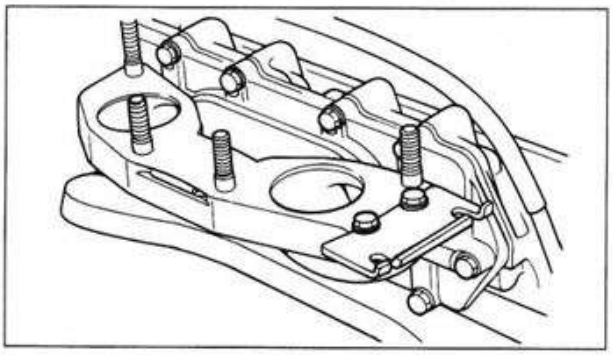
WWW.JET-STAR.JP

(2) 作業上の注意

・エンジンが取付いた状態で、次の部品を取外すことができる。
・整備する前に、各部品を清掃し、クランクケース内に異物が入らないようにする。
・接合面に付いたガスケットを、きれいに取除いておく。
・シリンダとシリンダヘッドを取外すとき、接合面を傷つけないように注意する。
・シリンダとピストンの表面を、傷つけないように注意する。
・組立てをする時のために取外した部品は、洗油を使い洗浄し、ヤマハ船外機オイルを摺動面に塗布しておく。

〈取外しの範囲〉①リードバルブの取外し②シリンダヘッドの取外し
②シリンダの取外し　④ピストンとピストンリングの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	ボルト	11	(3) 取外しを参照。
	2	リードバルブ	1	
	3	クランプ	3	
	4	ホース	3	
	5	クランプ	1	スクリュを緩める。
②	6	ジョイント	1	
	7	クランプ	2	スクリュを緩める。
	8	クランプ	1	(3) 取外しを参照。
	9	ボルト	4	
③	10	リング	1	
	11	ボルト	4	
	12	マフラ2	1	
④	13	ボルト	8	
	14	マフラ1	1	
②	15	ボルト	10	
	16	シリンダヘッド	1	
	17	ボルト	6	
	18	シリンダ	1	
	19	ピストンピンクリップ	2	(3) 取外しを参照。
	20	ピストンピン	2	
	21	ピストン	2	
	22	ベアリング（コンロッド小端部）	2	
	23	ピストンリング	4	



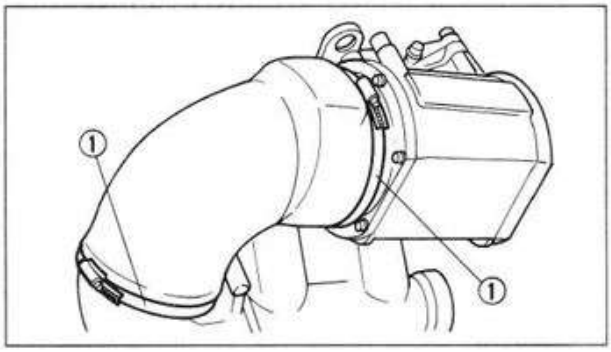
(3) 取外し

リードバルブ

1. 取外し

・ボルト
・マニホールド

WWW.JET-STAR.JP

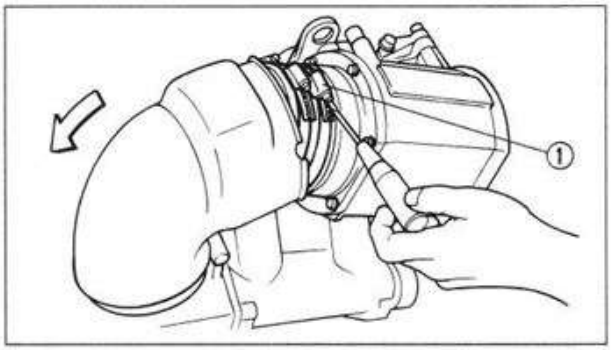


マフラ

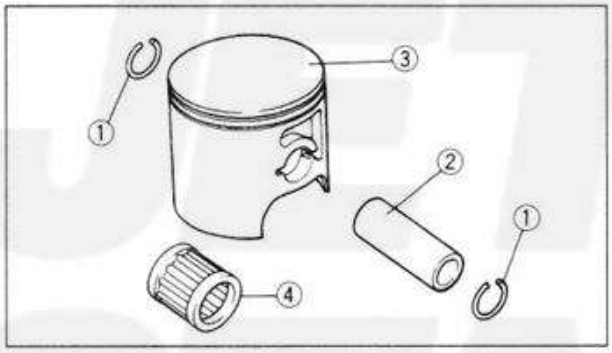
1. 取外し
・クランプ①

要点

・エキゾーストジョイントを引きながらずらして外します。
・マフラ側のホースクランプを緩めます。



2. 緩める
・クランプ①

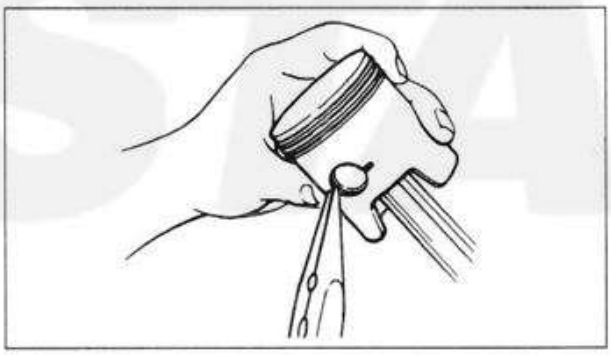


ピストンリング

1. 取外し
・ピストンピンクリップ①
・ピストンピン②
・ピストン③
・ベアリング④

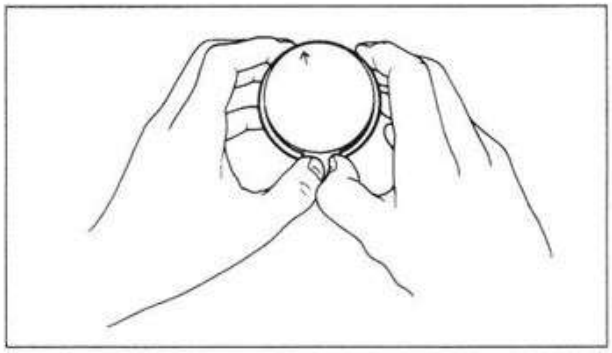
要点

ピストンピンクリップがクランクケースの中に落ちないように、クリップを取外す前にクランクケースを布などで覆います。



注意

ピストンピンを抜くとき、ハンマなどを使用してはいけません。

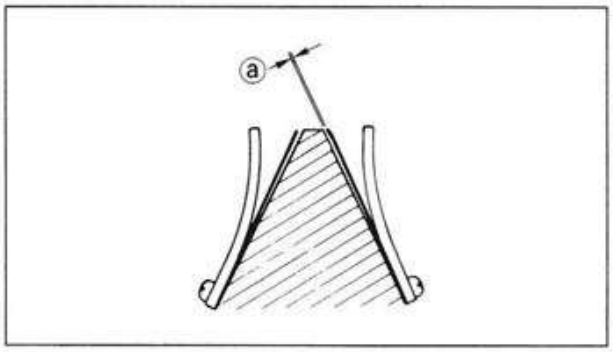


2. 取外し
・ピストンリング

要点

ピストンを引っかいたり、ピストンリングを損傷しないように注意します。

WWW.JET-STAR.JP



(4) 点検

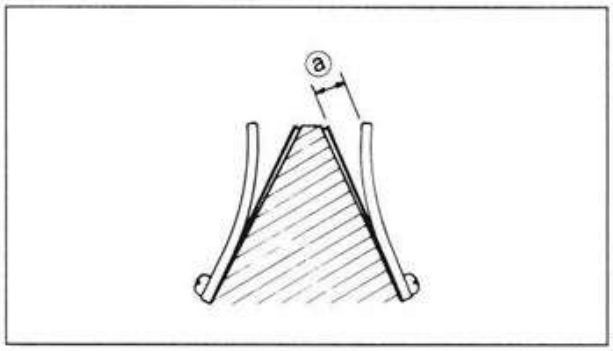
リードバルブ

1.測定

・隙間ⓐ

規定値でない場合→交換。

リードバルブ隙間限度
0.2mm

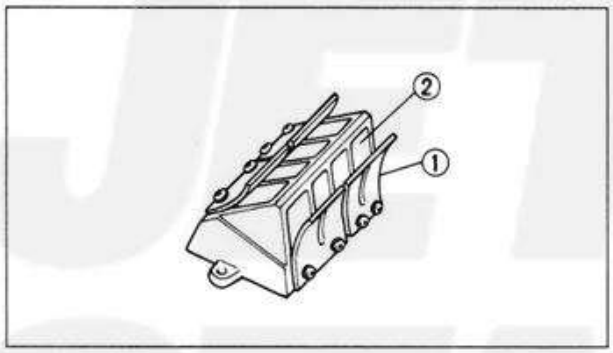


2. 測定

・バルブストッパの高さⓐ

規定値でない場合→調整又は交換。

バルブストッパの高さ
9.0±0.5mm



3. 取外し

・スクリュ

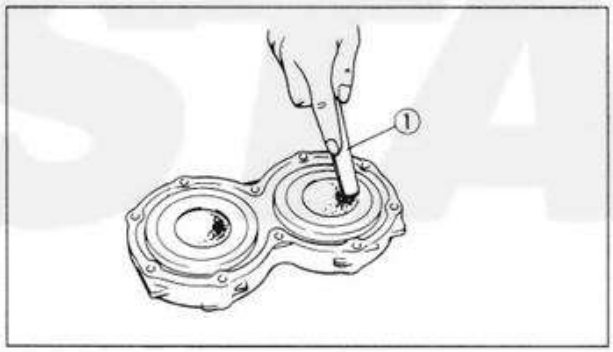
・バルブストッパ①

・リードバルブ②

4. 点検

・リードバルブ

曲がり／亀裂→交換。



シリンダヘッド

1. 除去：

・カーボン堆積物

スクレーパ①を使用。

要点

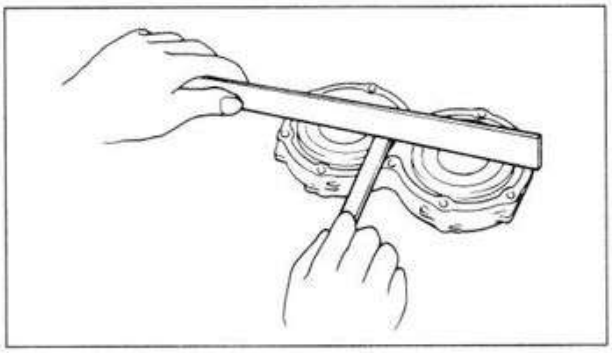
- スパークプラグのネジ部を損傷しないように注意します。
- 鋭利な道具を使用してはいけません。
- アルミ部分に引っかき傷を付けないようにします。

2. 点検

・シリンダヘッド冷却水路

塩分の堆積／腐食→清掃。

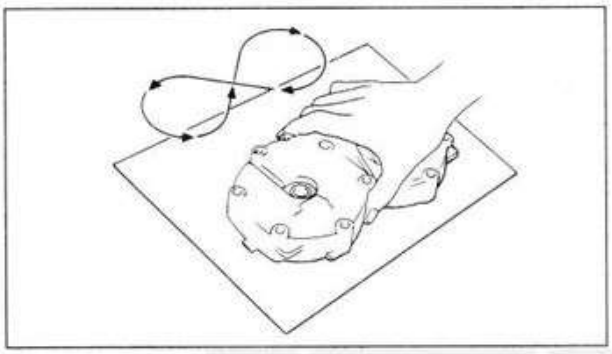
WWW.JET-STAR.JP

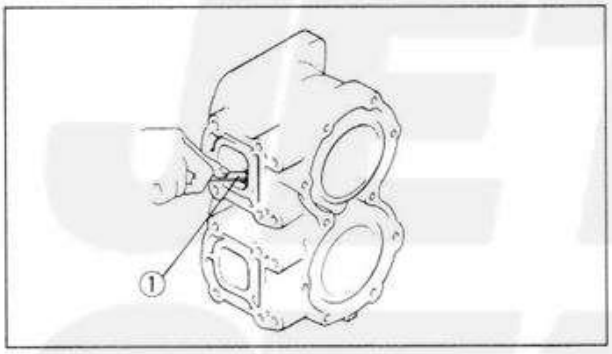


3. 測定
・シリンダヘッドの歪み
規定値でない場合→修正。

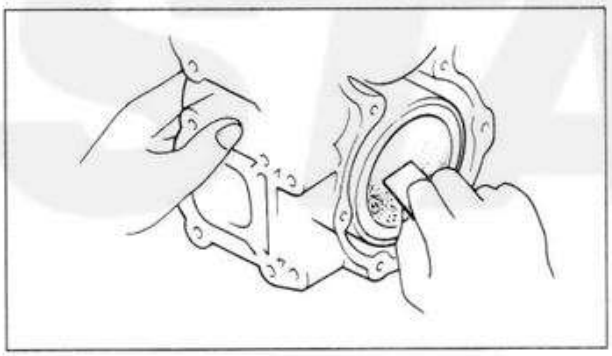
シリンダヘッド歪み限度
0.1mm

歪みの測定と修正手順
・シリンダヘッドに直定規とシックネスゲージを当てる。
・歪みを測定する。
・歪みが、規定値を外れていたら、シリンダヘッドを修正する。
・定盤に#400～600のサンドペーパを置き、シリンダヘッドを“8”の字を描くように磨き、歪みを修正する。

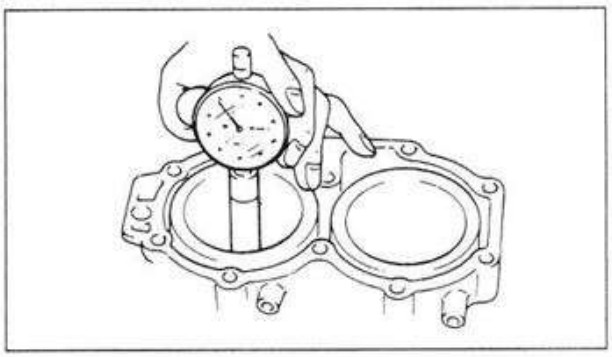




シリンダ
1. 除去
・カーボン堆積物
スクレーパ①を使用。



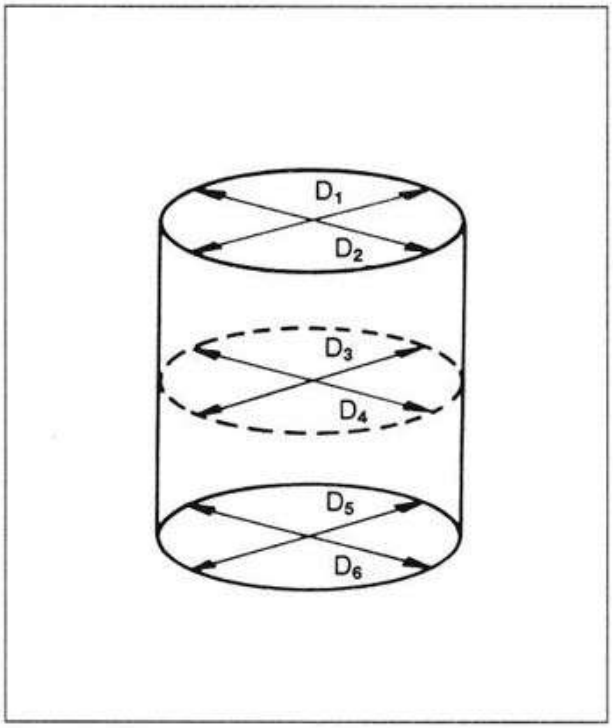
2. 点検
・シリンダ冷却水路
塩分の堆積／腐食→清掃。
・シリンダ内壁面
引っかき傷→修正または交換。
#600～800の耐水サンドペーパで磨く。



3. 点検
・シリンダ内径“D”
シリンダゲージを使用。
基準値でない場合→交換。

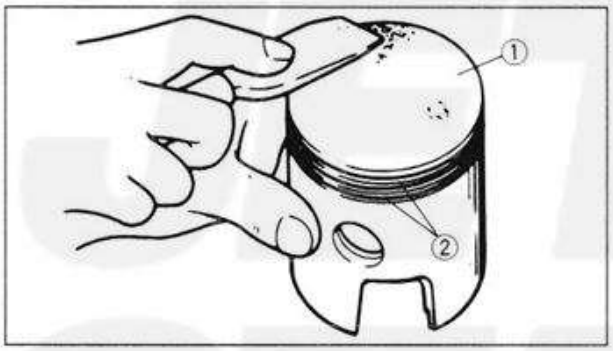
要点
クランク軸方向と、その直角方向のシリンダ内径“D”を測定し、その平均値を求めます。

WWW.JET-STAR.JP



	規定値	摩耗限度
シリンダ内径“D”	81.00～81.02mm	—
円筒度“T”	—	0.08mm
真円度“R”	—	0.05mm

D=D_1～D_6の最大値
T=（D_1かD_2の最大値）－（D_5,D_6の最大値）
R=（D_1,D_3,D_5の最大値）－（D_2,D_4,D_6の最小値）

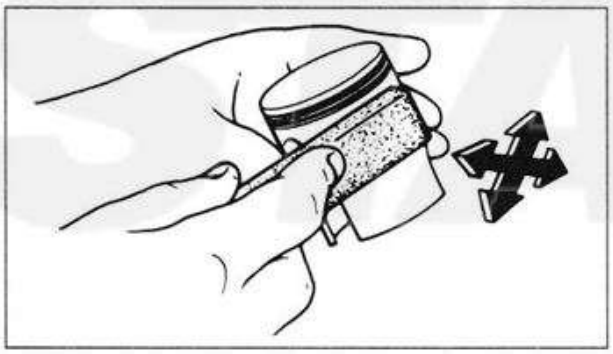


ピストン

1. 除去

・カーボン堆積物

ピストンヘッド①とピストンリング溝②から除去する。



2. 点検

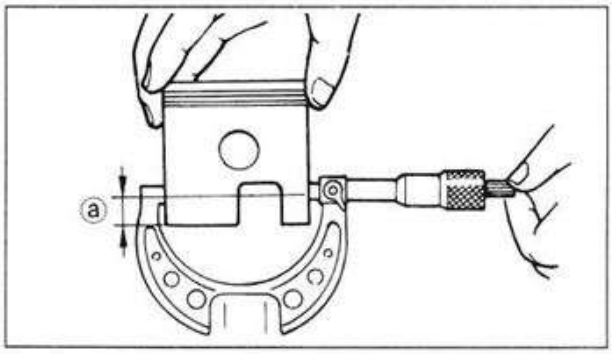
・ピストン側壁

引っかき傷→修正または交換。

#600～800のサンドペーパで磨く。

要点

・十字方向にサンドペーパを掛けます。
・サンドペーパを掛け過ぎないようにします。



3. 測定

・ピストン外径

マイクロメータを使用。

規定値でない場合→交換。

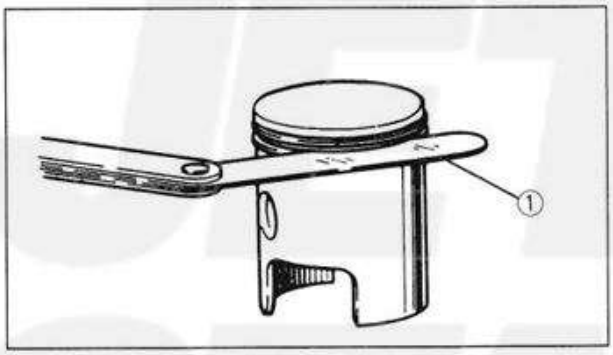
ピストン外径	測定位置ⓐ
80.925～80.950mm	ピストン下端より10mm

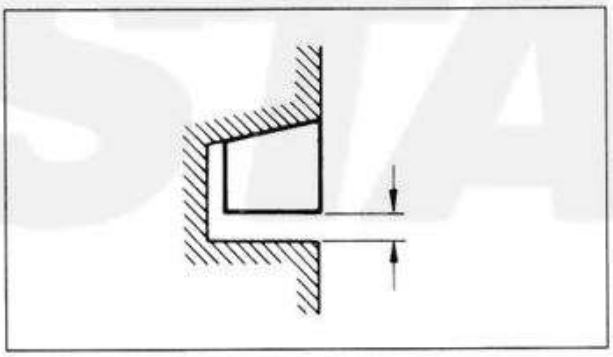
WWW.JET-STAR.JP

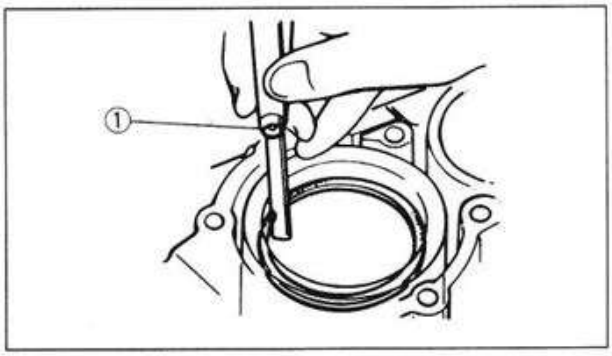
4. 計算
・ピストンクリアランス
規定値でない場合→ピストンとピス　トンリングをセットで交換。

ピストンクリアランス	=	シリンダ内径測定値	−	シリンダ外径測定値

ピストンクリアランス
0.080～0.085mm
摩耗限度
0.1mm







ピストンリング
1. 測定
・サイドクリアランス
シックネスゲージ①を使用。
規定値でない場合→ピストンとピストンリングのどちらか、または両方を交換。

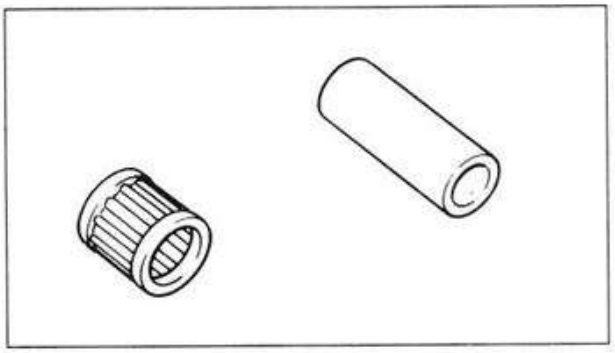
サイドクリアランス	トップ・セカンド	0.02～0.06mm

2. 組付
・ピストンリング
ピストンリングをピストンのヘッドを使い、シリンダ内へ押込む。

3. 測定
・合口隙間
シックスネスゲージ①を使用。
規定値でない場合→ピストンリングをセットで交換。

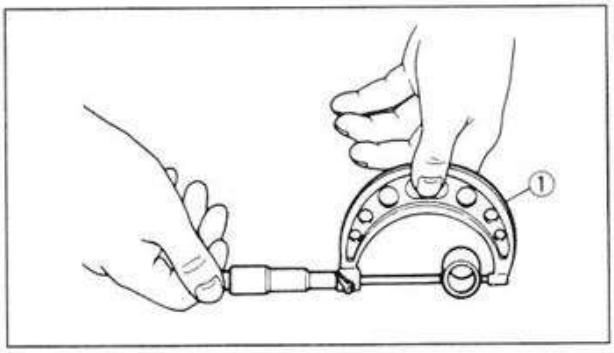
合口隙間	トップ・セカンド	0.2～0.4mm

WWW.JET-STAR.JP



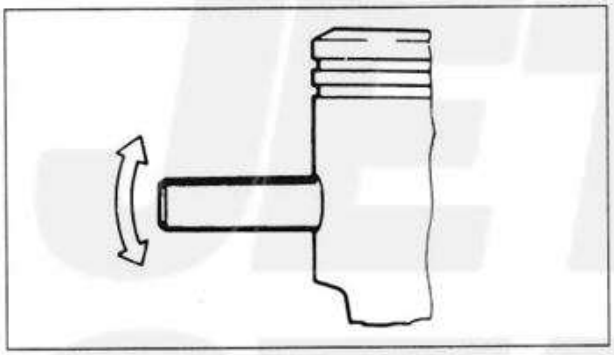
ピストンピンとベアリング

1. 点検
・ピストンピン
・ベアリング
熱による変色→交換。

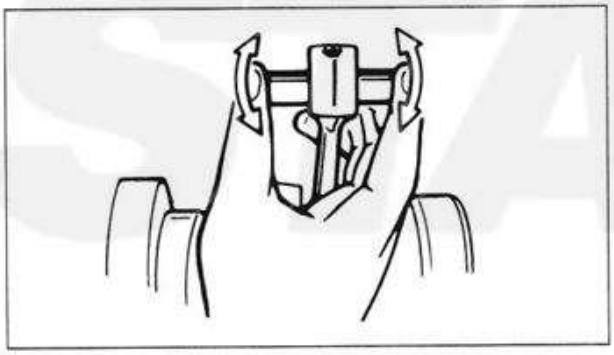


2. 測定
・ピストンピン外径
マイクロメータ①を使用。
規定値でない場合→交換。

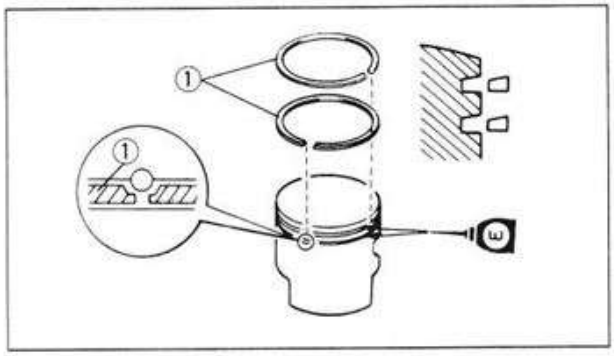
	規定値	摩耗限度
	19.995～20.000m	19.975mm



3. 点検
・ピストンボス部の遊び
著しい遊びがある場合→ピストンとピストンピンのどちらか、または両方を交換。



4.点検
・コネクティングロッド部の遊び
著しい遊びがある場合→コネクティングロッドの摩耗を点検。必要に応じてピストンピンとコネクティングロッドのどちらか、または両方を交換。



(5) 組付

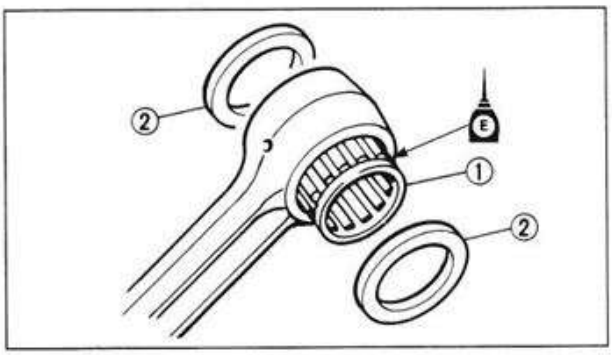
ピストン

1. 組付
・ピストンリング①

注意

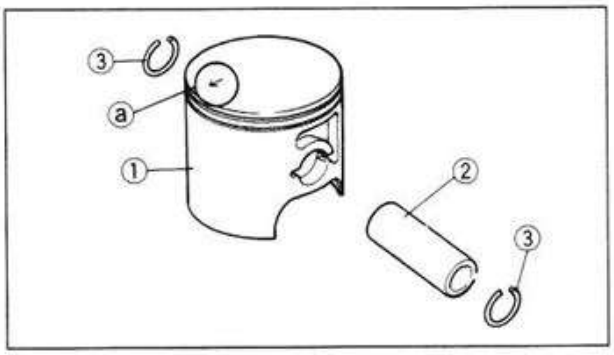
- 各ピストンリングの合口をノックピンに合わせます。
- トップとセカンドリングは同形状です。
- ピストンを引っかいたり、ピストンリングを破損しないように注意します。

WWW.JET-STAR.JP



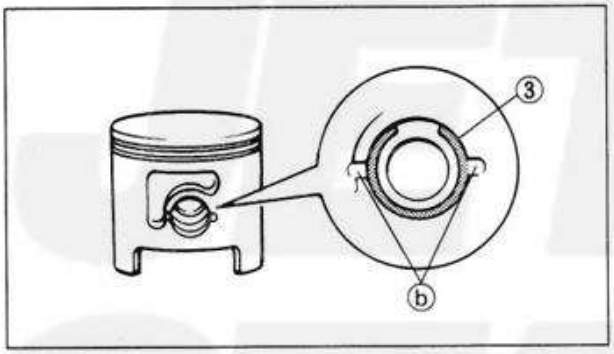
2. 組付
・ベアリング①
・ワッシャ②

要点
ベアリングにヤマハ船外機オイルを塗布します。

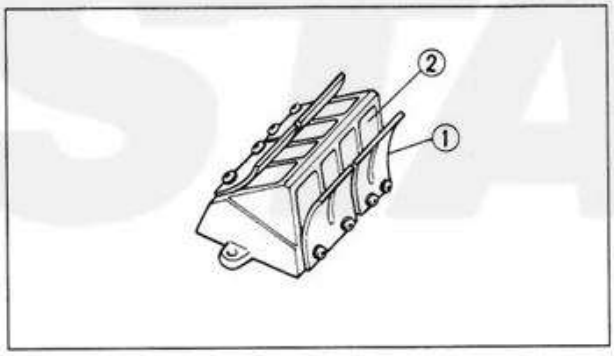


3. 組付
・ピストン①
・ピストンピン②
・ピストンピンクリップ③

要点
・矢印 ⓐ が排気側になるように組付けます。
・ピストンピンクリップがクランクケースの中に落ちないように、クリップを組み付ける前にクランクケースを布などで覆います。



注意
・クリップの開き口がピストンの切欠き部 ⓑ に合わないようにします。
・ピストンピンクリップは、新しいものを使います。



リードバルブ
1. 組付
・リードバルブ①
・バルブストッパ②
・スクリュ③

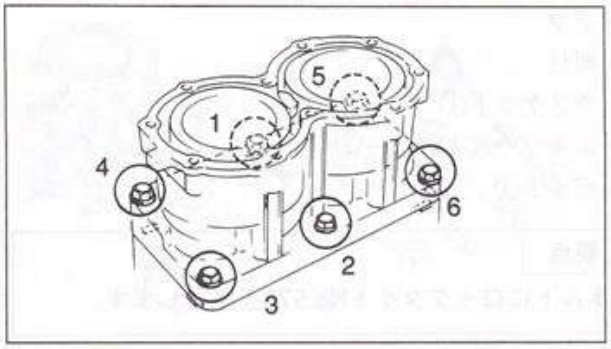
注意
スクリュにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

スクリュ
0.1kgf·m （1Nm）

シリンダヘッドとシリンダ
1. 塗布
・ヤマハ船外機オイル
ピストン、ピストンリングとシリンダの壁面に塗布。

WWW.JET-STAR.JP

リードバルブ／シリンダヘッド／シリンダ／ピストン

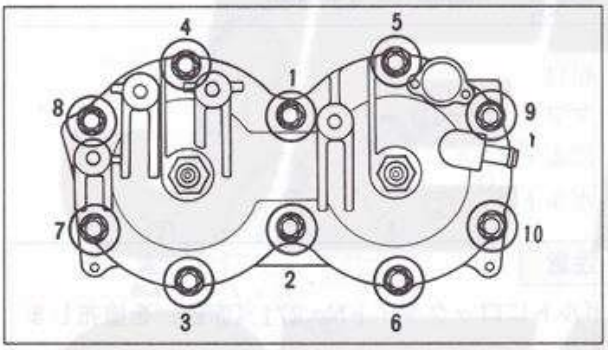


2. 組付
・ガスケット
・シリンダ

要点
・ガスケットは、新しいものを使います。
・組付け後、ピストンがスムースに動くことを確認します。
・ボルトを番号順に2回に分けて締付けます。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

ボルト
1回目：2.3kgf·m （23Nm）
2回目：4.0kgf·m （40Nm）

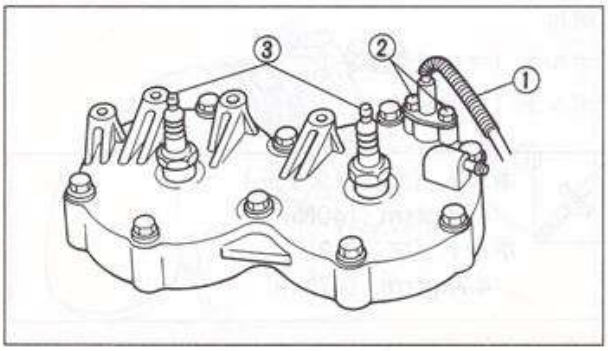


3. 組付
・ガスケット
・シリンダヘッド
・ボルト

要点
・ガスケットは、新しいものを使います。
・ボルトを番号順に2回に分けて締付けます。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

ボルト
1回目：1.5kgf·m （15Nm）
2回目：3.0kgf·m （30Nm）

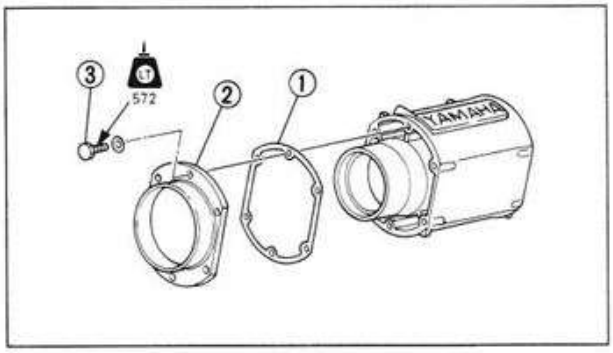


4. 組付
・サーモスイッチAss'y①
・ボルト②
・スパークプラグ③

要点
サーモセンサ孔に耐水グリースを塗布します。

スパークプラグ
2.0kgf·m （20Nm）

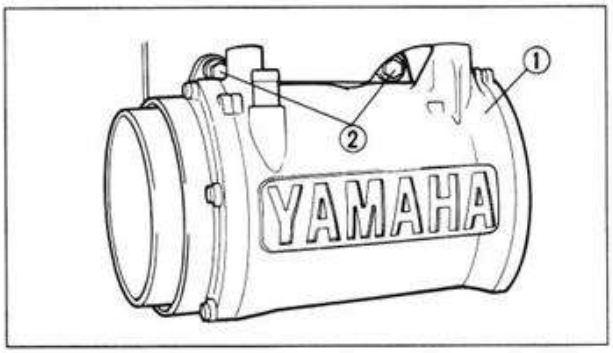
WWW.JET-STAR.JP



マフラ

1. 組付
・ガスケット①
・エキゾーストカバー②
・ボルト③

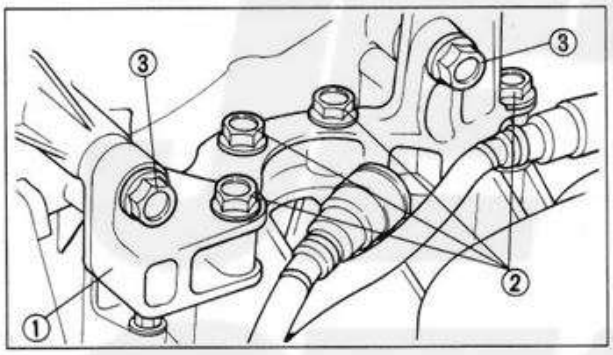
要点
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。



2. 組付
・マフラ2①
・ボルト②

要点
ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

ボルト
4.0kgf·m （40Nm）



3. 組付
・マフラステー①
・ボルト②
・ボルト③

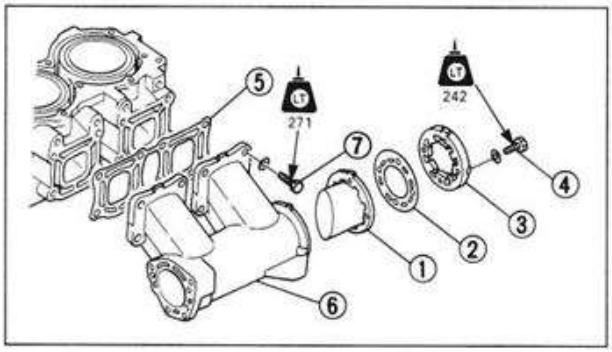
注意
ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

ボルト（マフラステー）
0.3kgf·m （3Nm）
ボルト（マフラ2）
0.3kgf·m （3Nm）

4. 締付
・ボルト（マフラステー）
・ボルト（マフラ2）

ボルト（マフラステー）
4.0kgf·m （40Nm）
ボルト（マフラ2）
4.7kgf·m （47Nm）

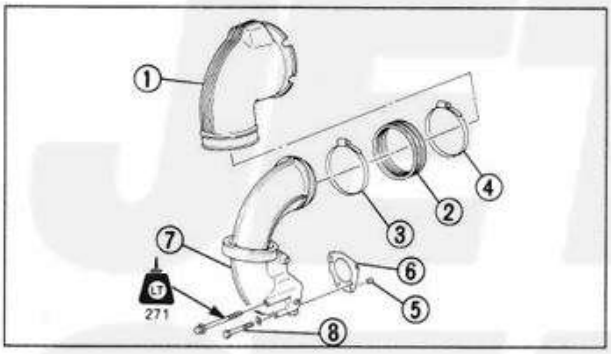
WWW.JET-STAR.JP



5. 組付
・ガスケット①
・インナカバー②
・プロテクタ③
・ボルト④
・ガスケット⑤
・マフラ1⑥
・ボルト⑦

要点
ガスケットは、新しいものを使います。

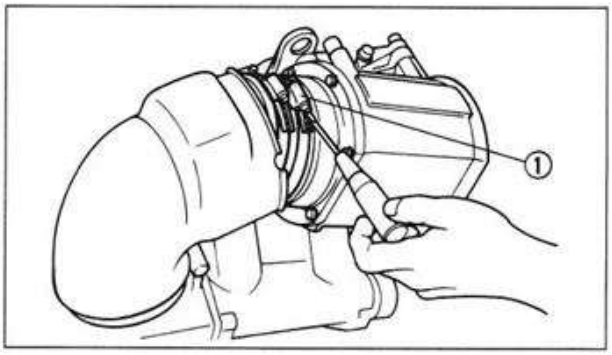
ボルト（プロテクタ）
3.0kgf·m （30Nm）
ボルト（マフラ1）
1回目：2.2kgf·m （22Nm）
2回目：4.0kgf·m （40Nm）



6. 組付
・ジョイント1①
・ジョイント2②
・クランプ③
・クランプ④
・ノックピン⑤
・ガスケット⑥
・リング⑦
・ボルト⑧

要点
・リングをマフラへ組付ける前に、クランプ③を締付けます。
・ガスケットは、新しいものを使います。

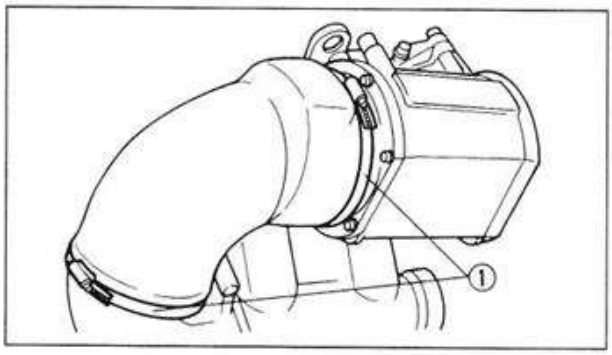
クランプ（リング）
0.2kgf·m （2Nm）
ボルト（リング）
3kgf·m （30Nm）



7. 締付
・クランプ①

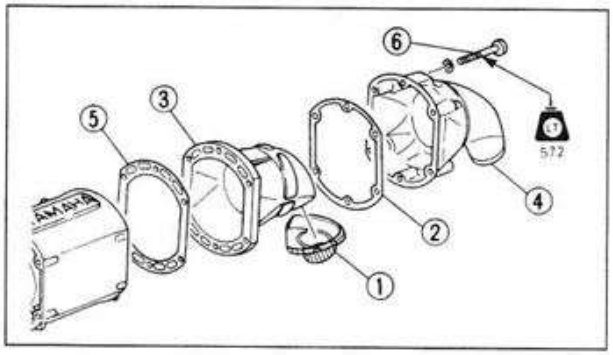
クランプ
0.2kgf·m （2Nm）

WWW.JET-STAR.JP



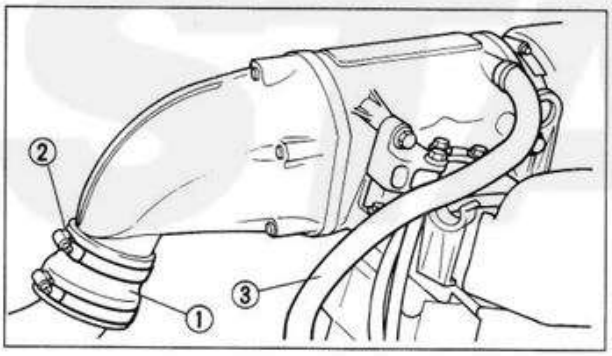
8. 組付
・クランプ①

	クランプ 0.2kgf·m （2Nm）



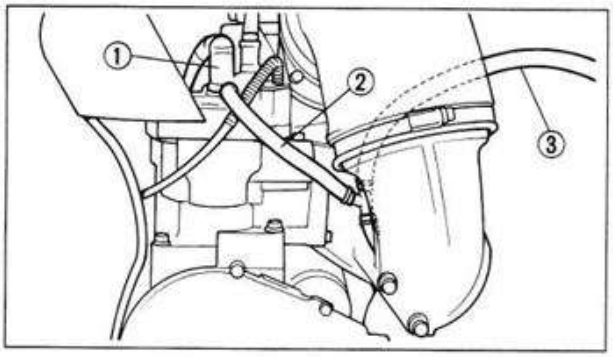
9. 組付
・シール①
・ガスケット②
・エキゾーストカバー③
・エキゾーストカバー④
・ガスケット⑤
・ボルト⑥

要点
・ガスケットは、新しいものを使います。



10. 組付
・エキゾーストジョイント①
・クランプ②
・ホース③

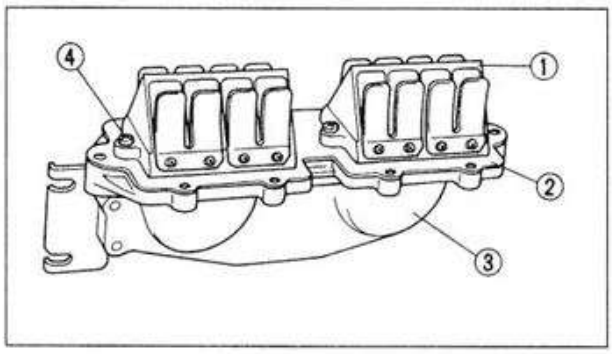
	クランプ 0.4kgf·m （4Nm）



11. 接続
・スパークプラグキャップ①
・ホース（シリンダヘッド）②
・ホース（パイロットウォータ）③

要点
ホースタイは、新しいものを使います。

WWW.JET-STAR.JP

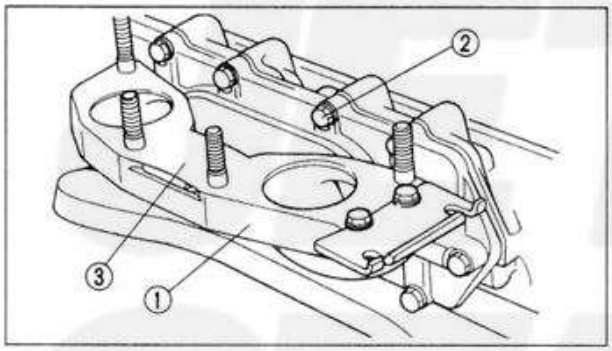


インテークマニホールド

1. 組付
・リードバルブAss'y①
・ガスケット②
・マニホールド③
・スクリュ④

要点
ガスケットは、新しいものを使います。

注意
スクリュにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。



2. 組付
・マニホール①
・ボルト②
・ガスケット③

要点
ガスケットは、新しいものを使います。

注意
スクリュにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

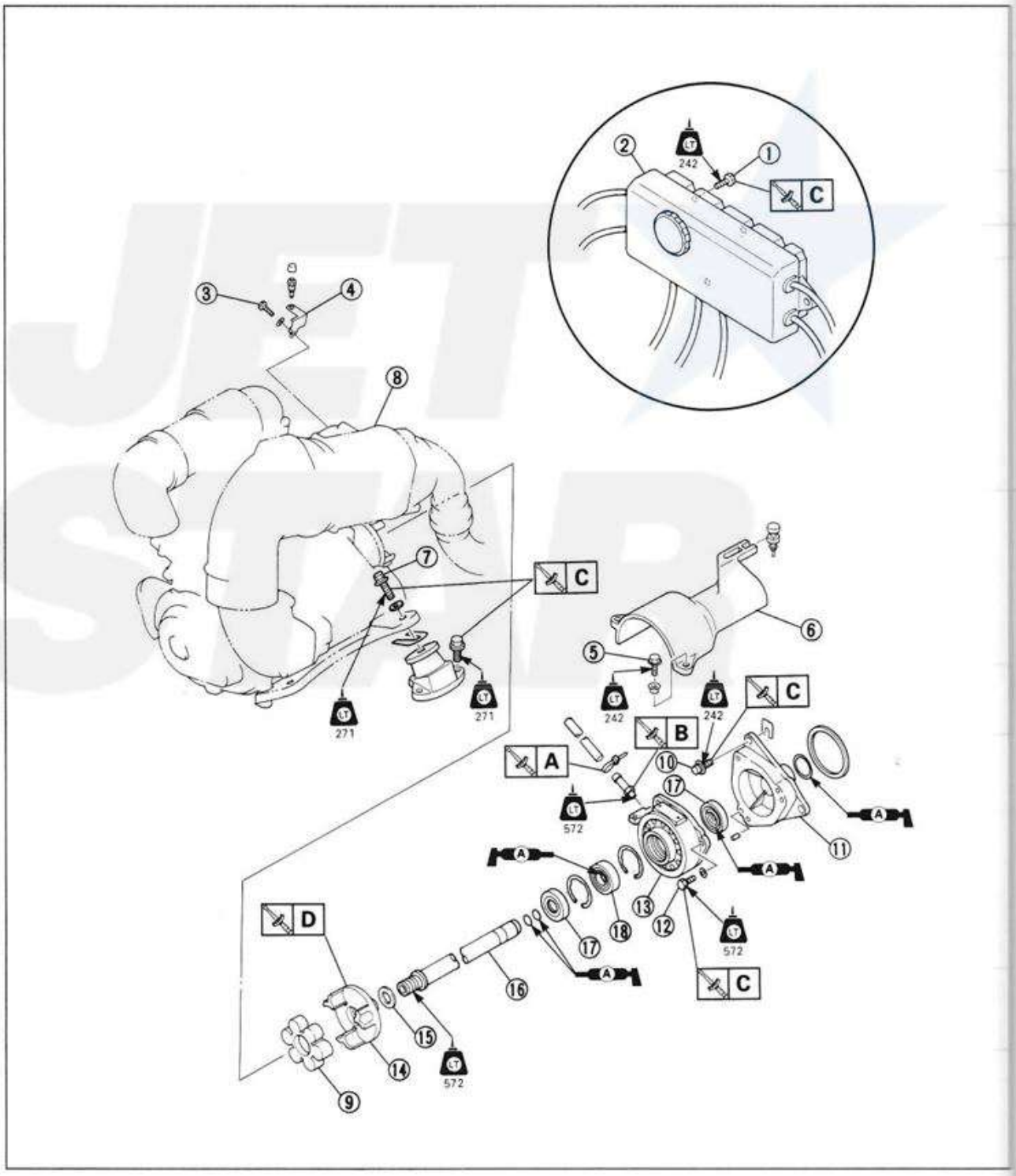
WWW.JET-STAR.JP

2. エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング

(1) 取外し前の準備

・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。
・フュエルコックを“OFF”にする。

A	0.2kgf·m (2Nm)
B	0.6kgf·m (6Nm)
C	1.6kgf·m (16Nm)
D	3.7kgf·m (37Nm)



WWW.JET-STAR.JP

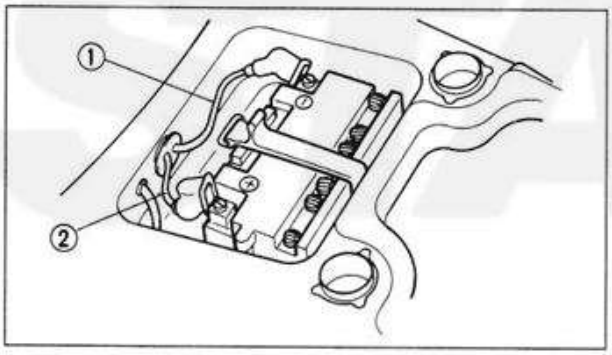
エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング

(2) 作業上の注意

・整備する前に、各部品を清掃し、クランクケース内に異物が入らないようにする。

〈取外しの範囲〉①エンジンの取外し　②中間シャフトとベアリングの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
①	1	ボルト	3	(3) 取外しを参照。
	2	電装ボックス	1	
	3	ボルト	2	
	4	プレート	1	
	5	ボルト	2	
	6	カップリングカバー	1	
	7	ボルト	4	
	8	エンジンユニット	1	
	9	カップリングラバー	1	
	10	ボルト	3	
②	11	ハウジング	1	
	12	ボルト	3	
	13	ベアリングハウジング	1	
	14	カップリング	1	
	15	ワッシャ	1	
	16	シャフト	1	
	17	オイルシール	3	
	18	ベアリング	1	

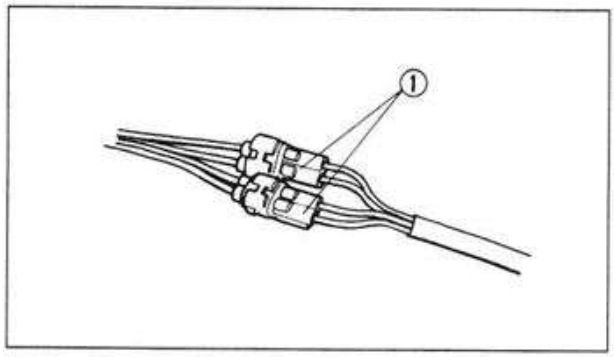


(3) 取外し

1. 取外し

・㊀リード線①

・㊉リード線②

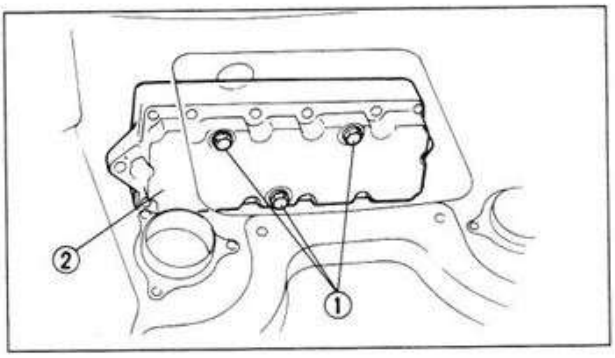


2. 取外し

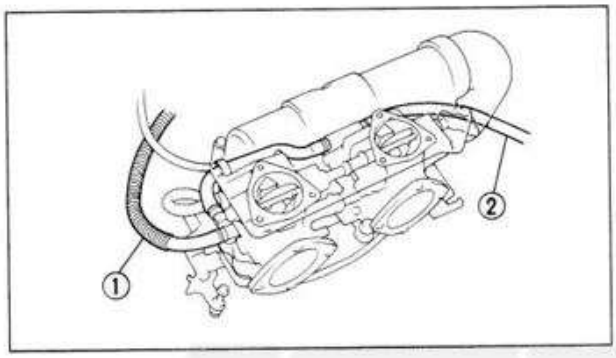
・ワイヤクランプ

・カプラ①

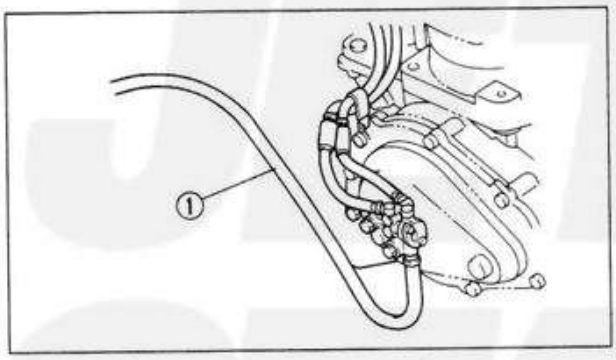
WWW.JET-STAR.JP



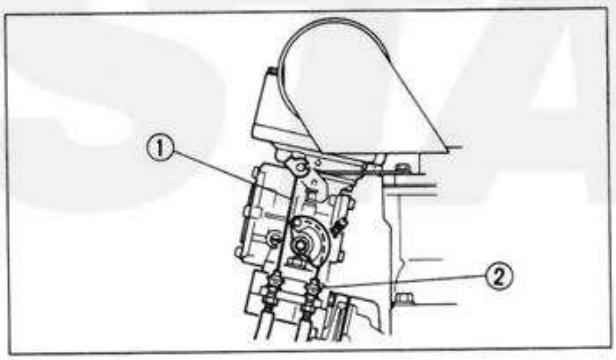
3. 取外し
・ボルト①
・電装ボックス②



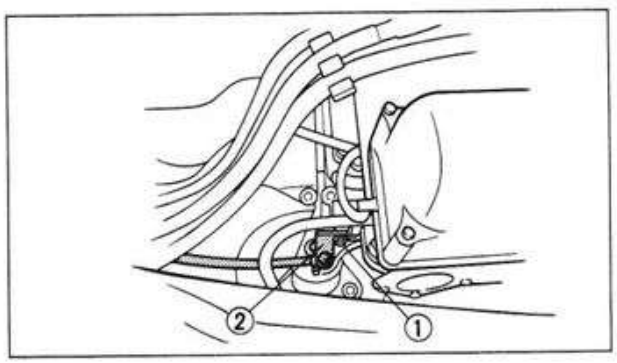
4. 取外し（抜く）
・フュエルホース①
・フュエルホース（リターン）②



5. 取外し
・オイルホース①

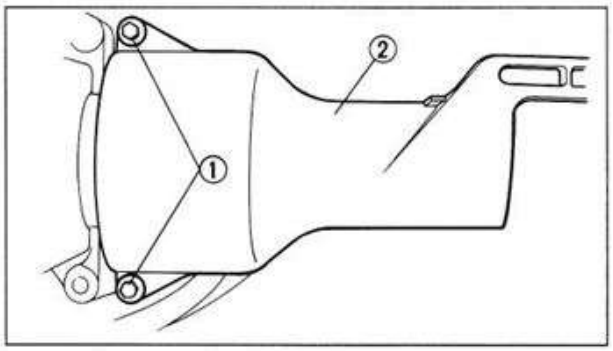


6. 取外し
・チョークケーブル①
・スロットルケーブル②

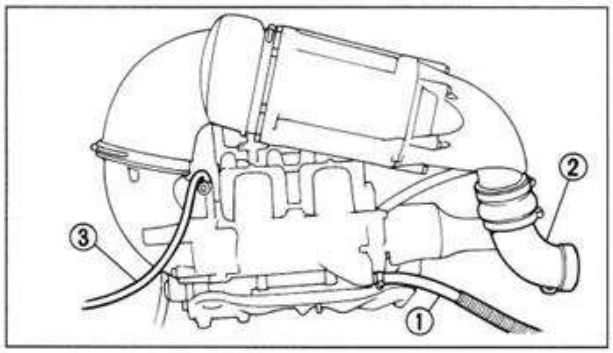


7. 取外し
・ボルト①
・プレート②

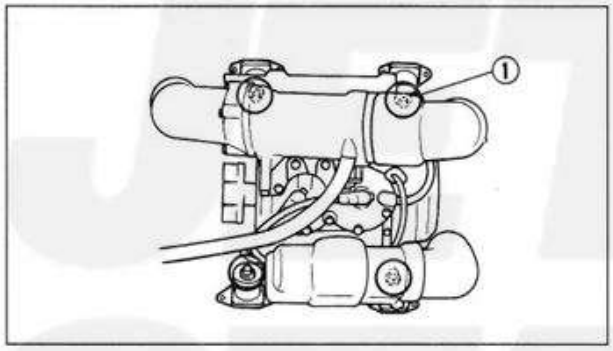
WWW.JET-STAR.JP



8. 取外し
・ボルト①
・カップリングカバー②



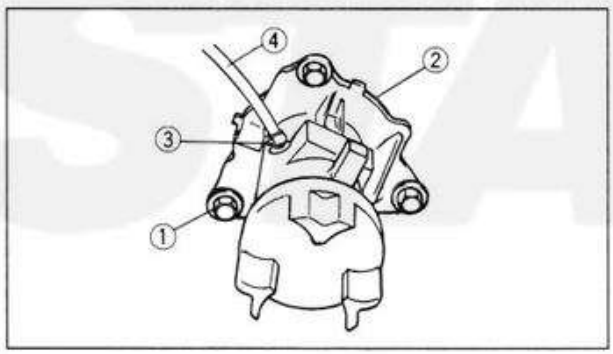
9. 取外し（抜く）
・冷却水ホース①
・エキゾーストホース②
・パイロットウォータホース③



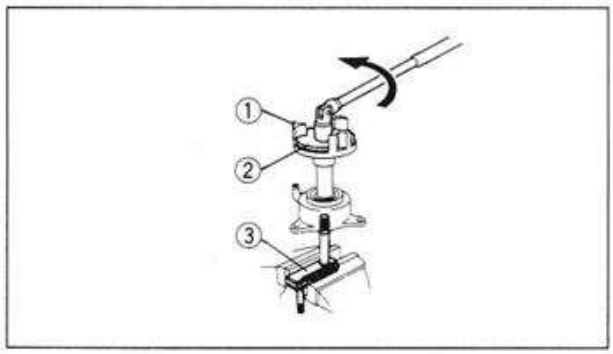
10. 取外し
・エンジン取付けボルト①
・エンジンユニット

要点

エンジンの再組立やカップリング調整を容易にする為に、エンジン取付けボルトを取外す前にエンジン取付けシムに印を付けておきます。



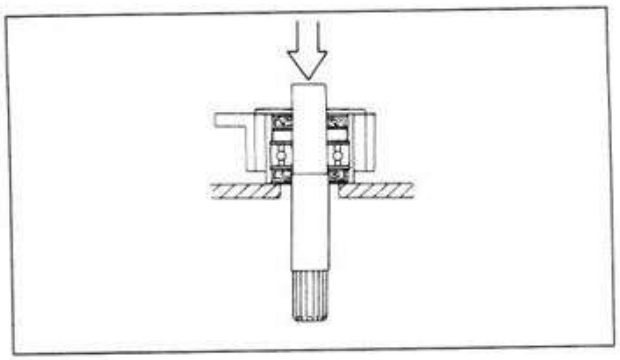
11. 取外し
・カップリングラバー
・ボルト①
・ハウジング②
・クランプ③
・ホース④



12. 取外し
・カップリング①
・ワッシャ

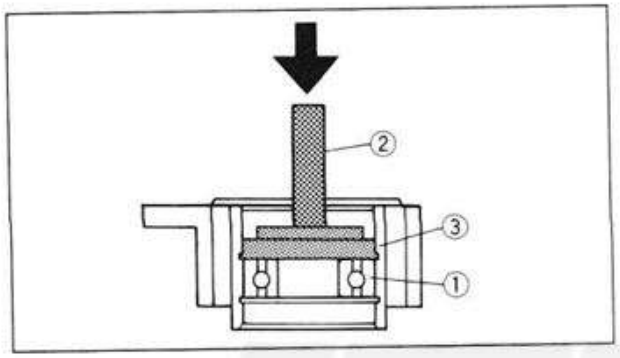
カプラレンチ②
90890-06425
シャフトホルダ③
90890-06069

WWW.JET-STAR.JP



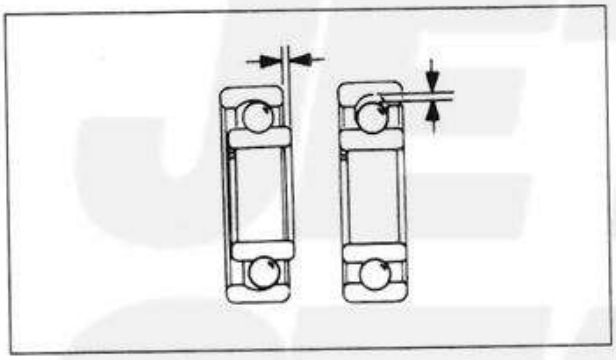
13. 取外し
・シャフト
・オイルシール
・クリップ

要点
取外しにはプレスを使います。



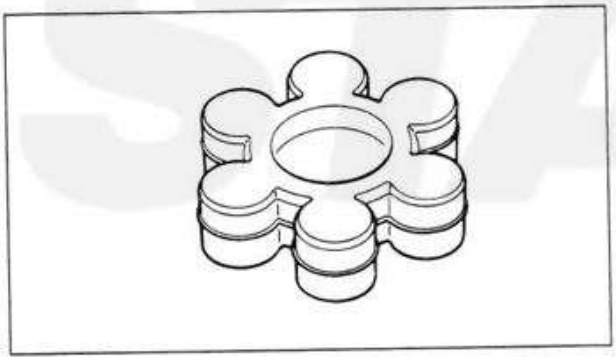
14. 取外し
・ベアリング①

ドライバロッド②
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント③
90890-06626



(4) 点検

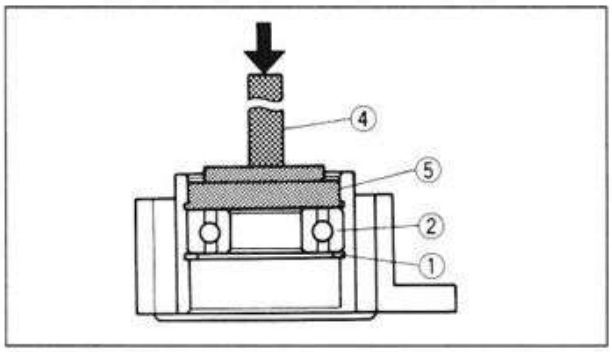
1. 点検
・ベアリング
インナレースを指で回転させる。
ガタ／焼付き→交換。
・シャフト
くぼみ／損傷→交換。
・ホース
摩耗／亀裂→交換。

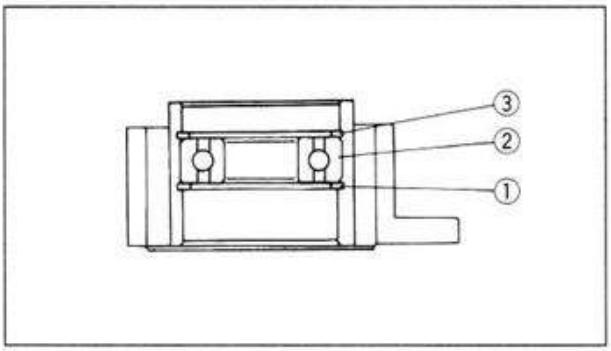


2.点検
・カップリングフランジ
・カップリングラバー
摩耗／損傷→交換。

3. 点検
・マウントブラケット
3-21ページを参照。

WWW.JET-STAR.JP



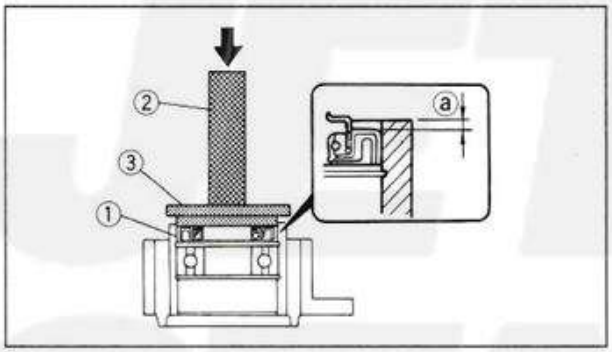


(5) 組付

1. 組付
・クリップ①
・ベアリング②
・クリップ③

ドライバロッド④
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント⑤
90890-06626

要点
ベアリングに耐水グリースを塗布します。

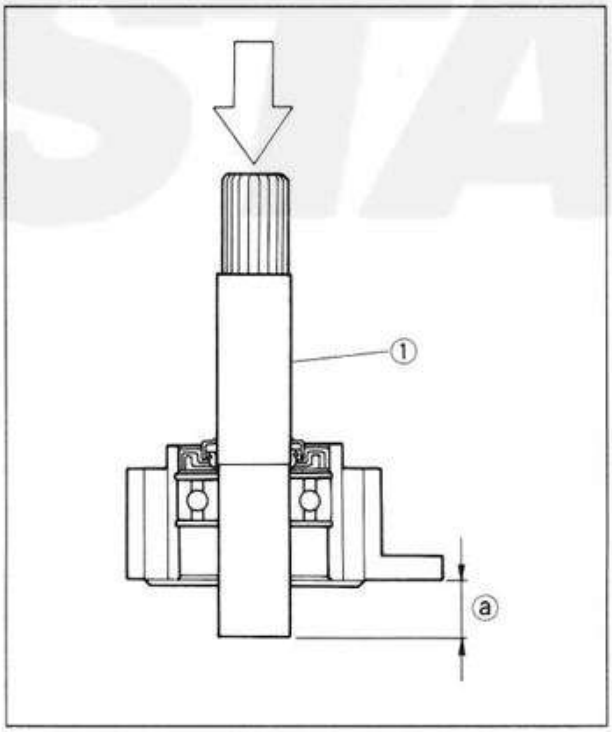


2. 組付
・オイルシール（T＝10mm）①

寸法ⓐ
6.8～7.2mm

ドライバロッド②
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント③
90890-06626

要点
・オイルシールを組付ける前に、クリップの内径部に耐水グリースを塗布します。
・オイルシールは、新しいものを使います。
・オイルシールは、製品番号が外側になるように組付けます。



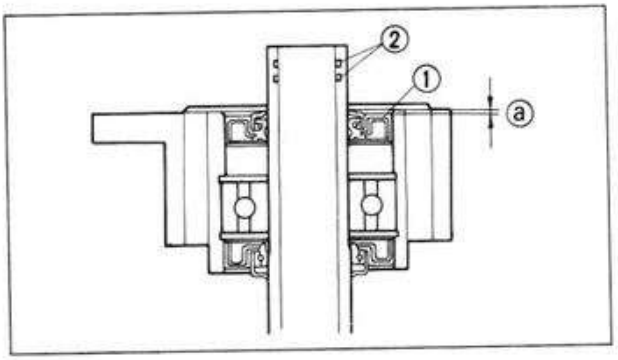
3. 組付
・シャフト①

要点
シャフトを組付けるときは、オイルシールのリップ部に耐水グリースを塗布します。

寸法ⓐ
14.5～15.5mm

WWW.JET-STAR.JP

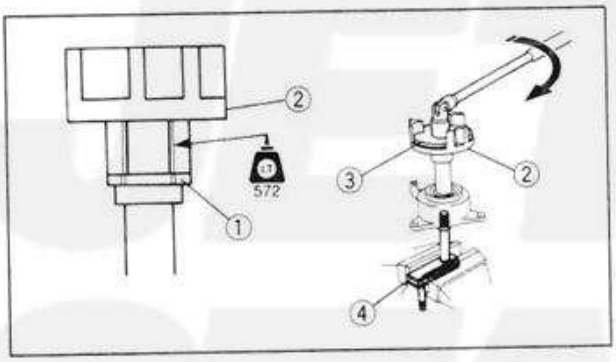
エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング



4. 組付
・オイルシール（T＝8mm）①
・Oリング②

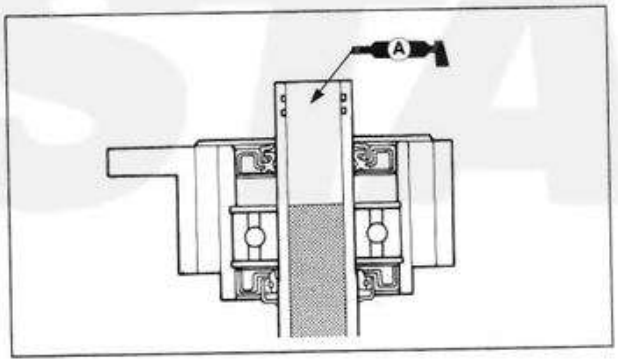
寸法ⓐ
1.6～2.0mm

要点
- オイルシール①を組み付ける前に、クリップの内径部耐水グリースを塗布します。
- 組付けにはプレスを使います。
- オイルシールとOリングは、新しいものを使います。
- 組付けるときは、オイルシールのリップ部とOリングに耐水グリースを塗布します。
- オイルシールは製品番号が外側になるように組付けます。



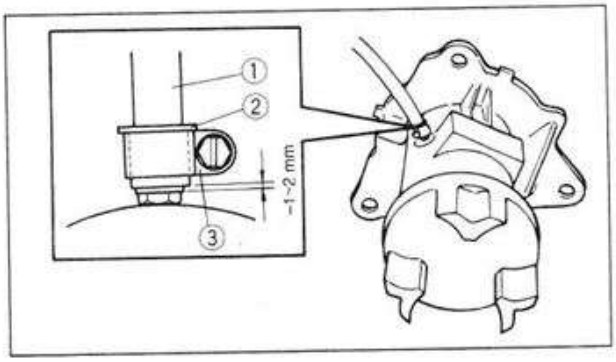
5. 組付
・ワッシャ①
・カップリング②

カプラレンチ③
90890-06425
シャフトホルダ④
90890-06069
カップリング
3.7kgf·m （37Nm）



6. 充填
・耐水グリース（ヤマハマリングリースA）

グリース充填量
30～40cm³

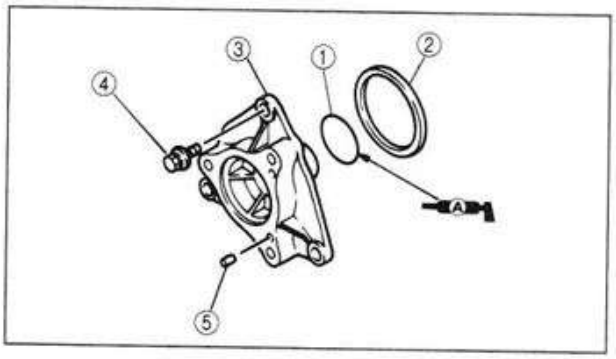


7. 組付
・ホース①
・ブッシング②
・クランプ③

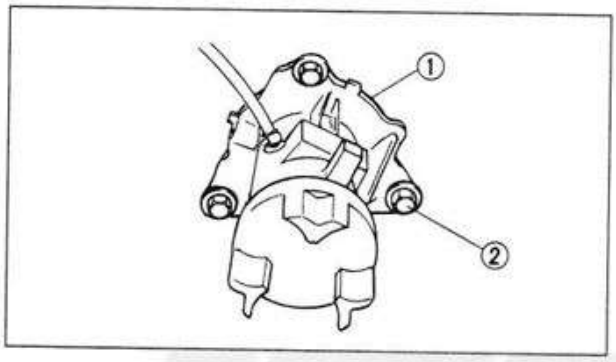
クランプ
0.2kgf·m （2Nm）

WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング



8. 組付
- Oリング①
- ラバーシール②
- ハウジング③
- ボルト④
- ノックピン⑤

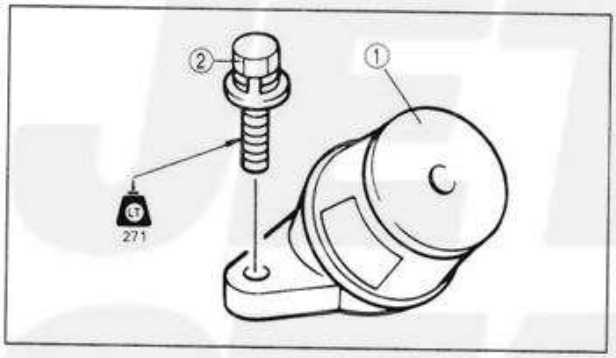


9. 組付
- ベアリングハウジング①
- ボルト②

注意

ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

ボルト
1.6kgf·m （16Nm）

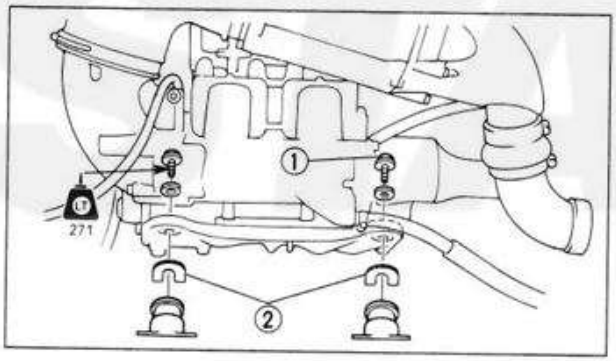


10. 組付
- マウントブラケット①
- ボルト②

注意

ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

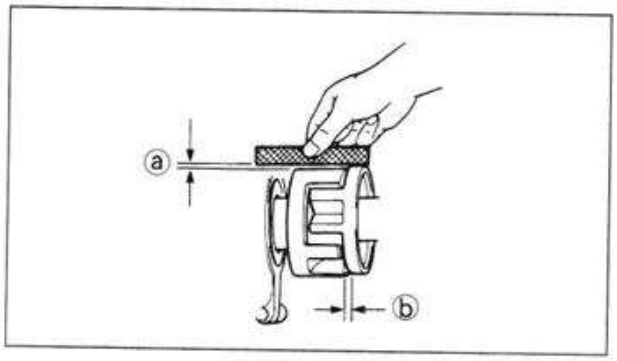
ボルト
1.6kgf·m （16Nm）



11. 組付
- エンジンユニット
- エンジン取付けボルト①
- シム②

要点

- ボルトは仮締めします。
- 取外しのときに印をしたシムを、元の位置に取付けます。



12. 測定
- 隙間ⓐ
- 隙間ⓑ

規定値でない場合→シムで調整。

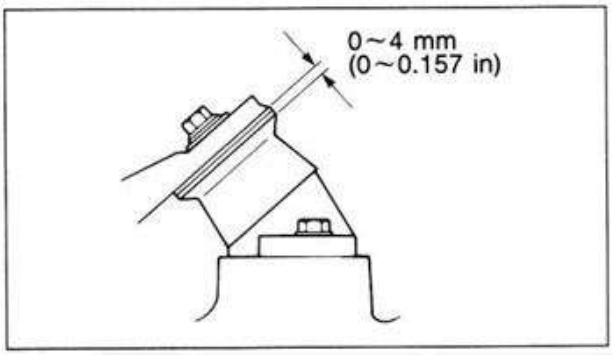
WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット／中間シャフト／ハウジング

要点

直定規とシクネスゲージを使用します。

隙間ⓐ
0～0.5mm
隙間ⓑ
2～4mm

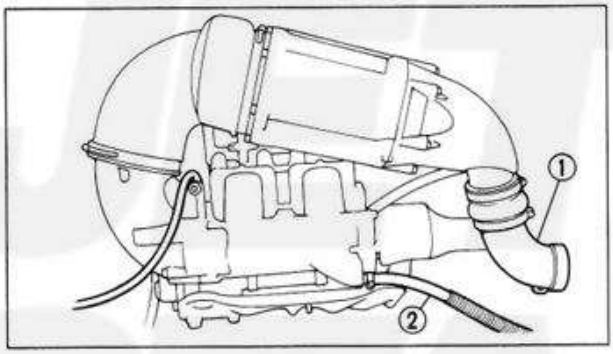


13. 締付
・エンジン取付けボルト

エンジン取付けボルト
1.6kgf·m （16Nm）

注意

・ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。
・0～4mm厚のシムを使います。

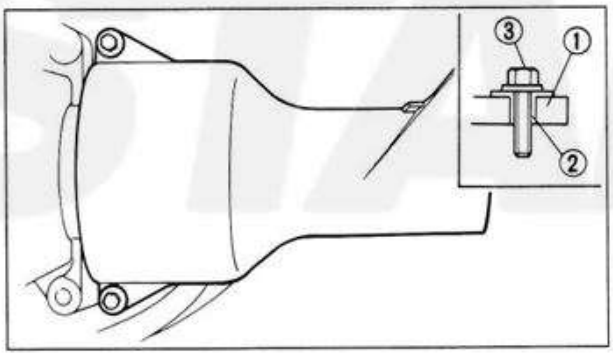


14. 接続
・エキゾーストホース①
・冷却水ホース②

クランプ
0.4kgf·m （4Nm）

要点

冷却水ホースをカップリングシャフトの下に通し、ジョイントに接続します。

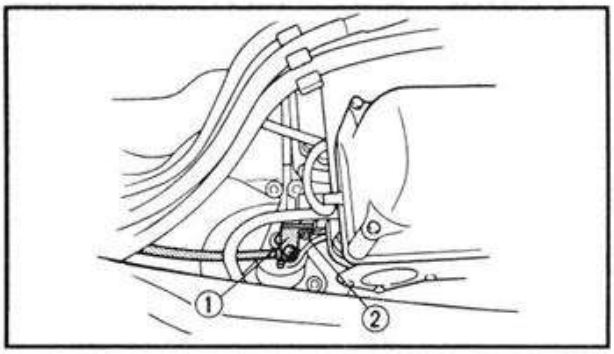


15. 組付
・カップリングカバー①
・カラー②
・ボルト③

注意

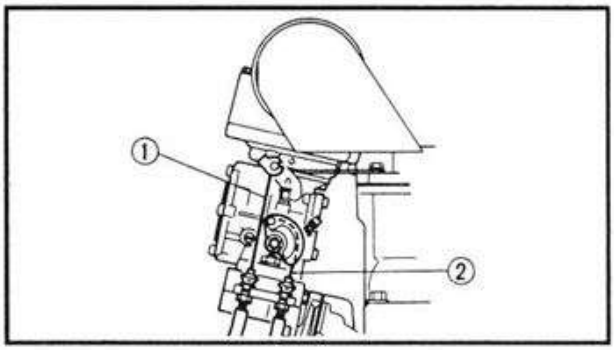
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

WWW.JET-STAR.JP



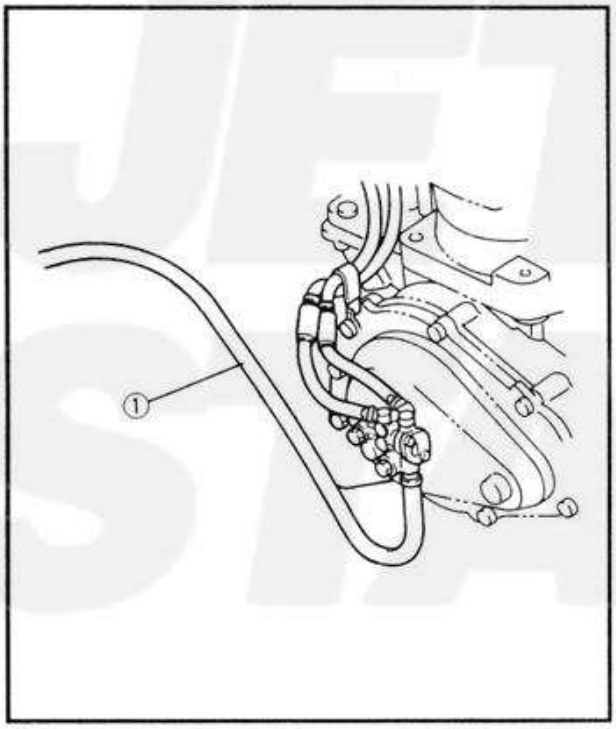
16. 組付
・プレート①
・ボルト②

注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。



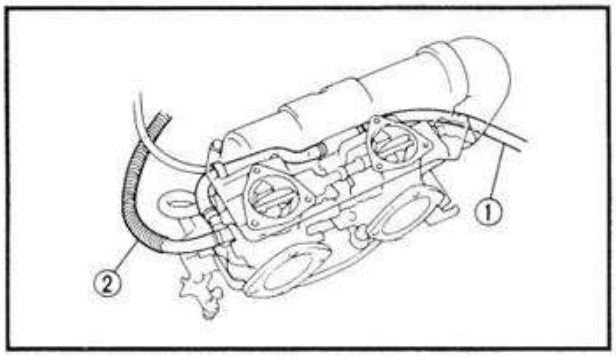
17. 接続
・チョークケーブル①
・スロットケーブル②
4-13ページを参照。

18. 調整
・チョークケーブル①
・スロットルケーブル②
3-10ページを参照。



19. 接続
・オイルホース①

要点
ホースタイは、新しいものを使います。

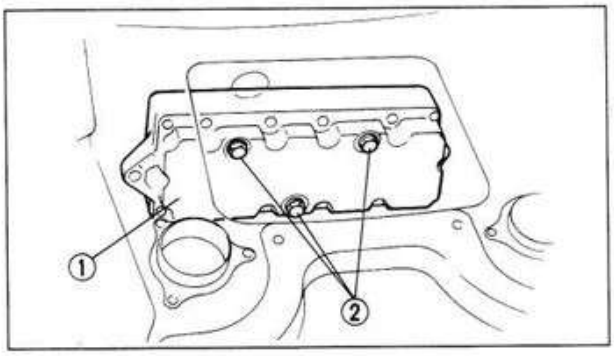


20. 接続
・フュエルホース（リターン）①
・フュエルホース②

21. 締付
・ホースタイ

注意
ホースタイは、新しいものを使います。

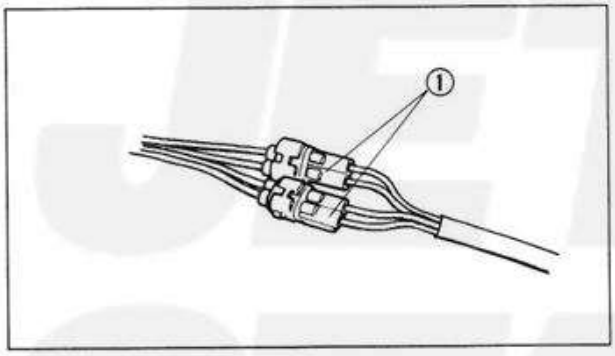
WWW.JET-STAR.JP



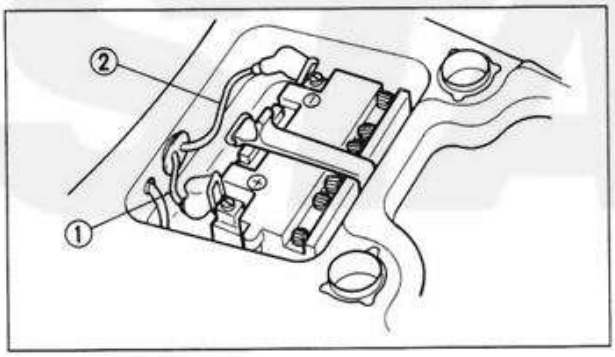
22. 組付
・電装ボックス①
・ボルト②

注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ボルト
1.6kgf·m （16Nm）



23. 接続
・ワイヤクランプ
・カプラ①



24.接続
・⊕リード線①
・⊖リード線②

WWW.JET-STAR.JP

WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネト／クランクケース／クランクシャフト

3. フライホイールマグネト／クランクケース／クランクシャフト

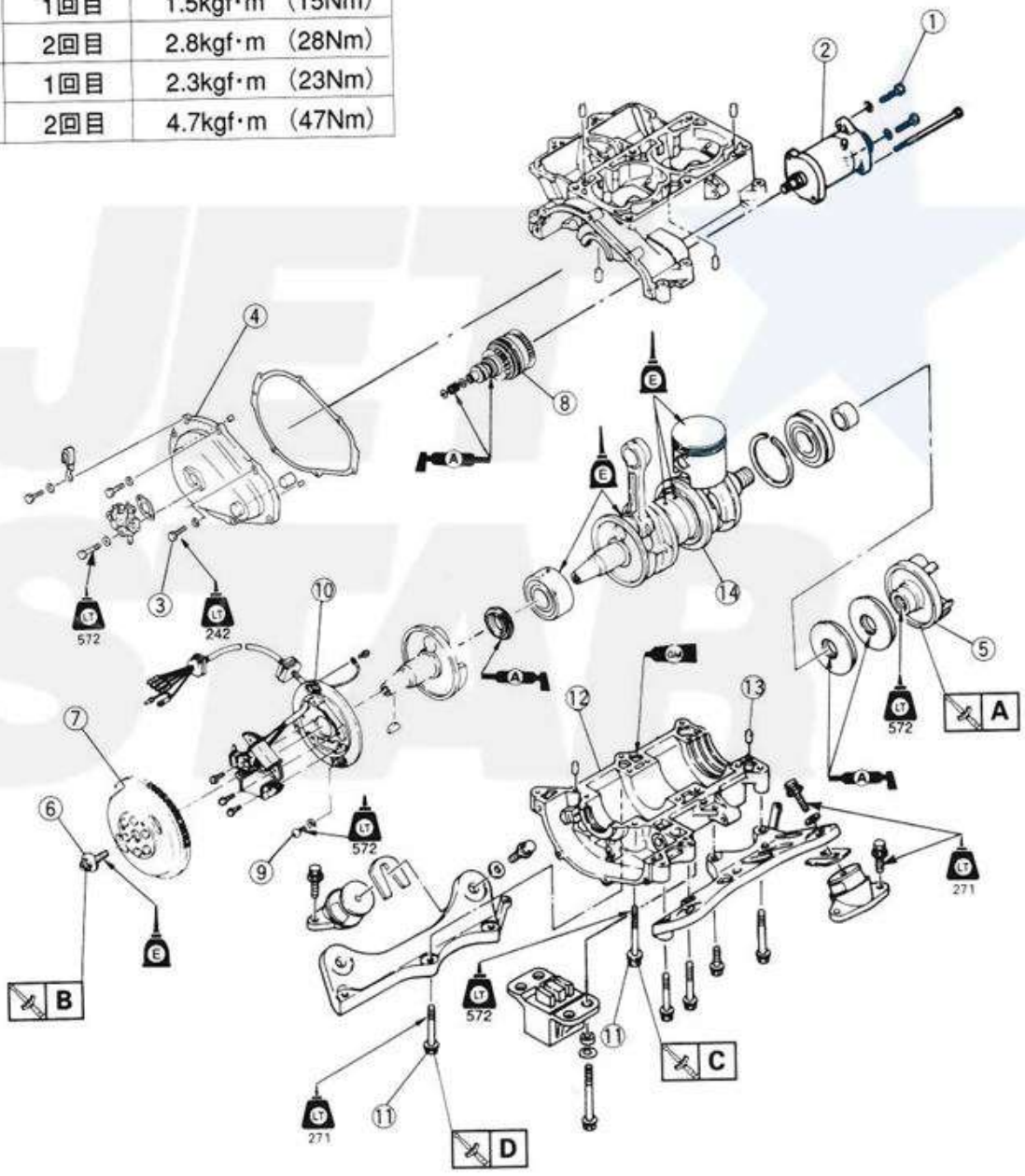
(1) 取外し前の準備

・エンジンユニットを取外す。

・次の部品を取外す。

- ・マフラ1,2
- ・マフラステー
- ・シリンダヘッド
- ・シリンダ
- ・ピストン
- ・キャブレタ
- ・インテークマニホールド

A		3.7kgf·m (37Nm)
B		7.0kgf·m (70Nm)
C	1回目	1.5kgf·m (15Nm)
	2回目	2.8kgf·m (28Nm)
D	1回目	2.3kgf·m (23Nm)
	2回目	4.7kgf·m (47Nm)



WWW.JET-STAR.JP

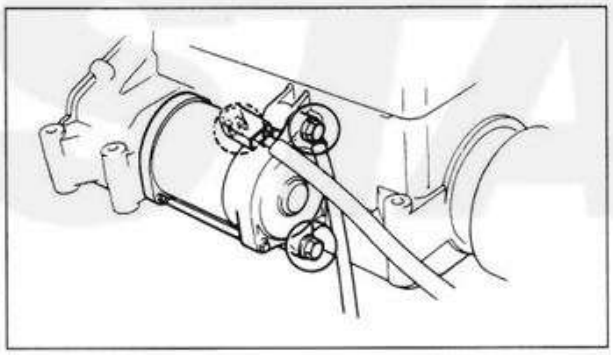
フライホイールマグネット／クランクケース／クランクシャフト

(2) 作業上の注意

・整備する前に、エンジンを清掃する。

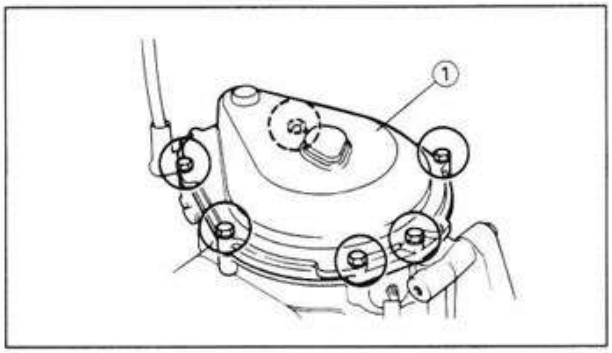
〈取外しの範囲〉①スタータモータの取外し　②ベースAss'yの取外し
③クランクケースの分解　④クランクシャフトの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
①	1	ボルト	2	(3) 取外しを参照。
	2	スタータモータ	1	
	3	ボルト	7	
	4	フライホイールカバー	1	
	5	カップリングフランジ	1	
②	6	ボルト	1	
③	7	フライホイールマグネット	1	
③	8	アイドルギヤAss'y	1	
	9	スクリュ	2	
	10	ベースAss'y	1	
	11	ボルト	15	
	12	クランクケースAss'y	1	
	13	ノックピン	4	
	14	クランクシャフト	1	



(3) 取外し

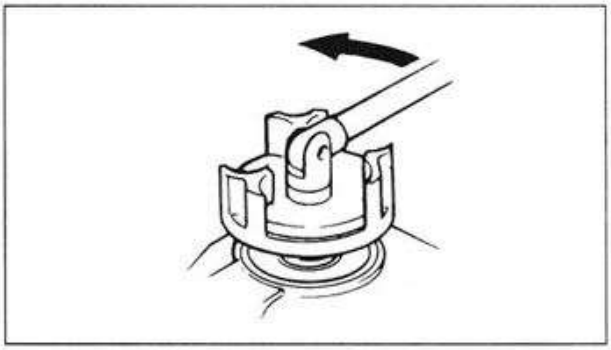
1. 取外し
・バッテリリード線
・ボルト
・スタータモータ



2. 取外し
・オイルポンプ
・フライホイールカバー①

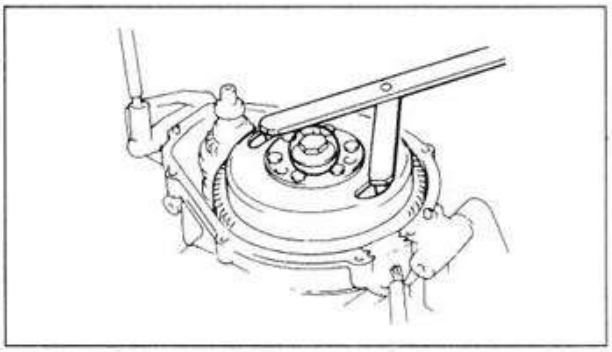
WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネト／クランクケース／クランクシャフト



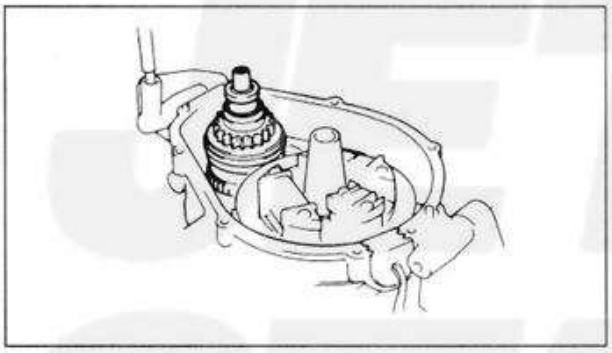
3. 取外し
・リングナット
・カップリングフランジ

	カプラレンチ 90890-06425 フライホイールホルダ 90890-06522

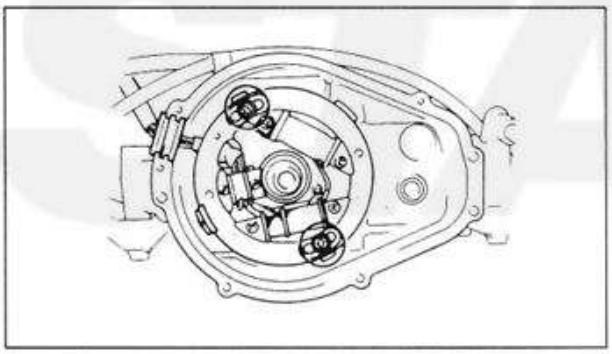


4. 取外し
・ボルト
・フライホイールマグネト

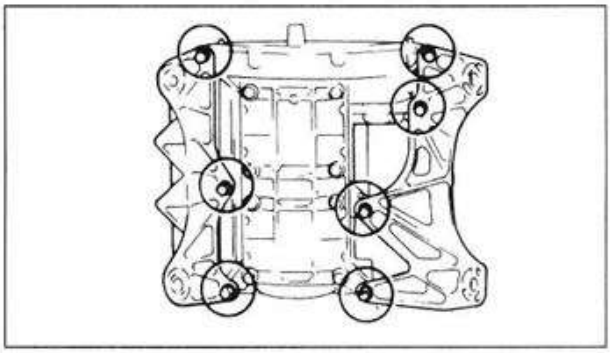
	フライホイールホルダ 90890-06522 フライホイールプーラ 90890-06521



5. 取外し
・アイドルギヤAss'y

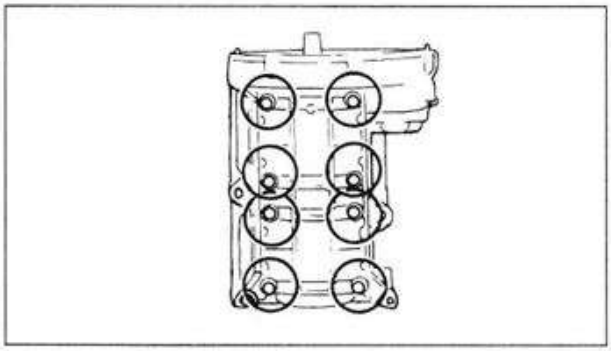


6. 取外し
・スクリュ
・ベースAss'y

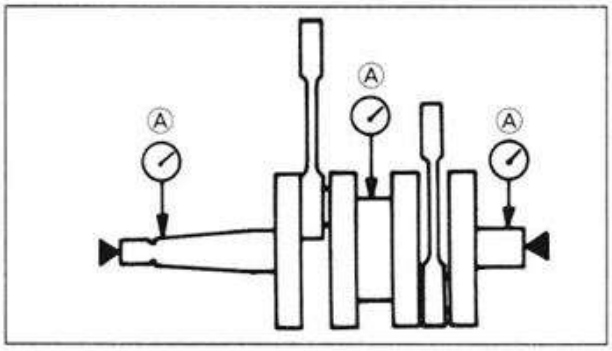


7. 取外し
・ボルト
・エンジン取付けブラケット

WWW.JET-STAR.JP

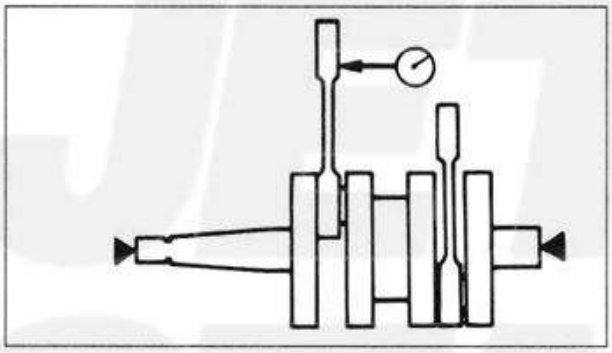


8. 取外し
・ボルト
・クランクケース
・クランクシャフトAss'y



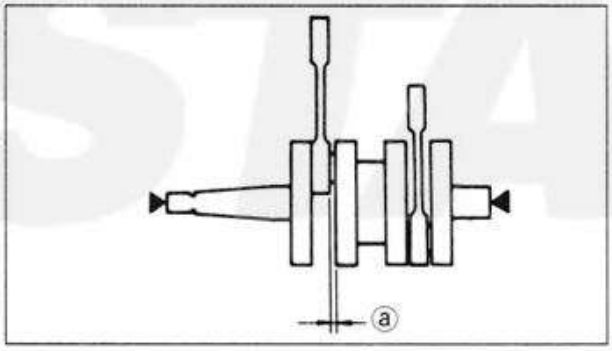
(4) 点検
クランクシャフト
1. 測定
・振れⒶ
Vブロックとダイヤルゲージを使用。
規定値でない場合→交換。

振れ限度
0.03mm



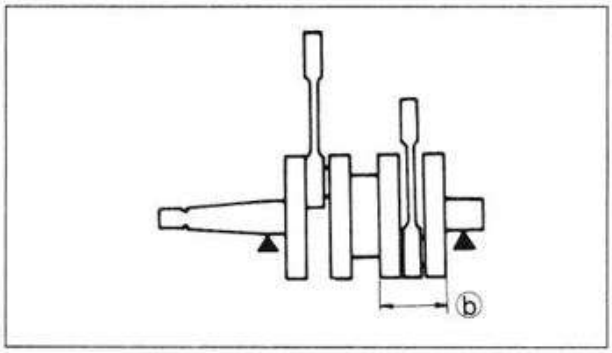
2. 測定
・小端部の振れ
ダイヤルゲージを使用。
規定値でない場合→交換。

小端部の振れ限度
2.0mm



3. 測定
・コンロッド大端部隙間ⓐ
シクネスゲージを使用。
規定値でない場合→交換。

コンロッド大端部隙間
0.3～0.7mm



4. 測定
・クランク幅ⓑ
規定値でない場合→交換。

クランク幅
61.95～62.00mm

WWW.JET-STAR.JP

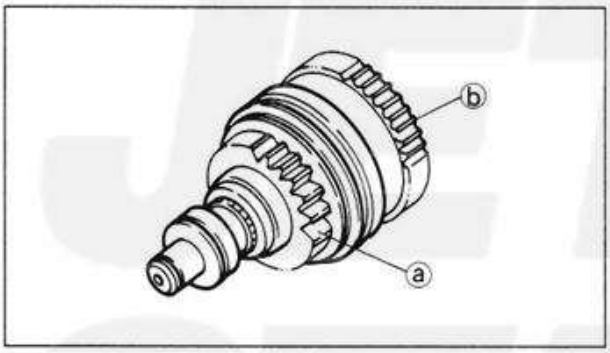
5. 点検
・クランクシャフトベアリング
くぼみ／損傷→交換。

要点

ベアリングを点検したら、錆が出ないように潤滑油を塗布します。

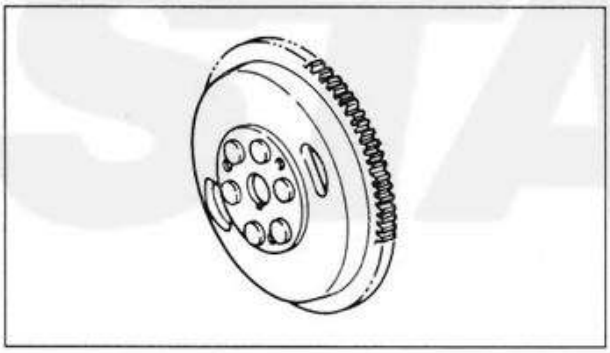
6. 点検
・クランクシャフトオイルシール
摩耗／損傷→交換。

クランクケース
1. 点検
・接合面
かき傷→交換。
・クランクケース
亀裂／損傷→交換。

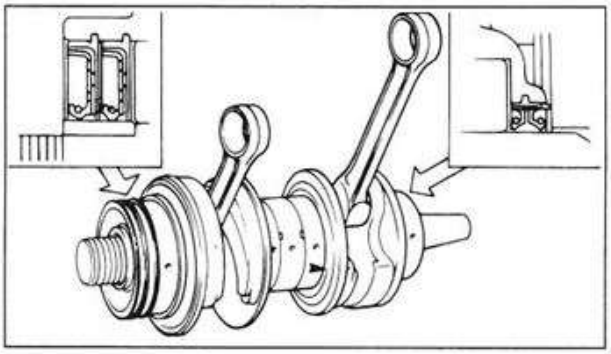


アイドルギヤAss'y
1. 点検
・ピニオンギヤⓐ
・インナギヤⓑ
摩耗／損傷→交換。

2. 確認
・クラッチの作動
スムースに動かない→交換。



フライホイールマグネト
1. 点検
・フライホイールギヤ
摩耗／損傷→交換。



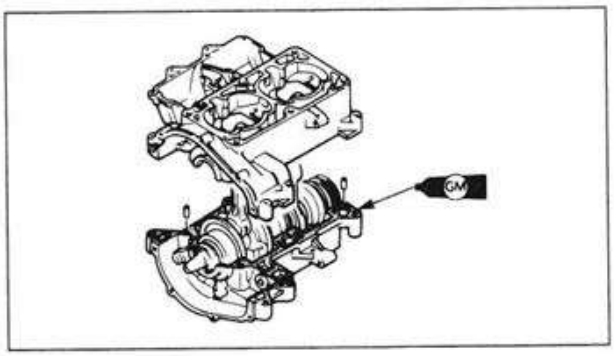
(5) 組付
1. 組付
・クランクシャフトAss'y
・オイルシール

注意

- クランクシャフトとコネクティングロッドのベアリングに、ヤマハ船外機オイルを塗布します。
- オイルシールのリップ部に耐水グリースを塗布します。

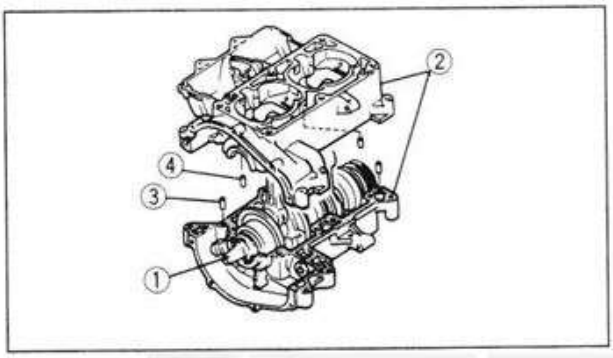
WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネット／クランクケース／クランクシャフト



2. 塗布
・ガスケットメーカ
クランクケースの接合面に塗布。

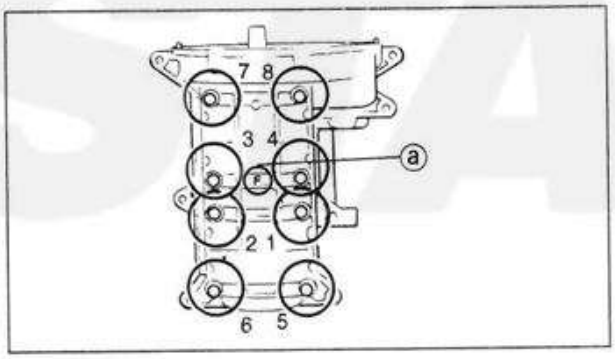
要点
ガスケットメーカを塗布する前に、クランクケースの接合面を清掃します。



3. 組付
・クランクシャフトAss'y①
・クランクケース②
・ノックピン③
・ピン④

要点
組付け後、クランクシャフトがスムースに動くことを確認します。

注意
・クランクケース本体の溝に、ベアリングの位置決めピンが合うようにします。
・ベアリングクリップの開き部分がクランクケースの接合面に合わないようにします。



4. 組付
・マウントラバー
・ボルト

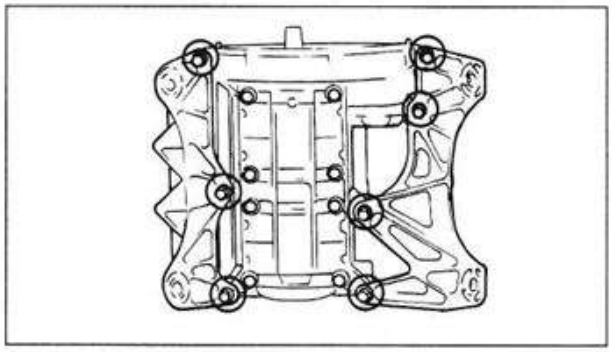
要点
・“F”マークⓐをフライホイール側にして組付けます。
・ボルトを番号順に2回に分けて締付けます。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

ボルト
1回目：1.5kgf·m （15Nm）
2回目：2.8kgf·m （28Nm）

WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネト／クランクケース／クランクシャフト

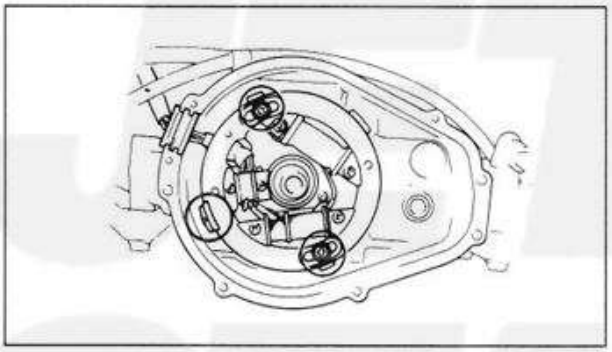


5. 組付
・エンジン取付けブラケット
・ボルト

要点
ボルトは2回に分けて締付けます。

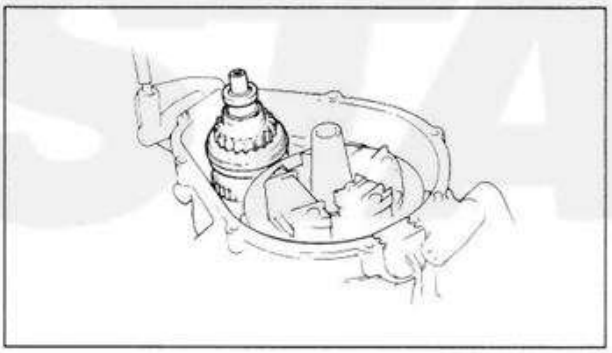
注意
ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

ボルト
1回目：2.3kgf·m （23Nm）
2回目：5.3kgf·m （53Nm）



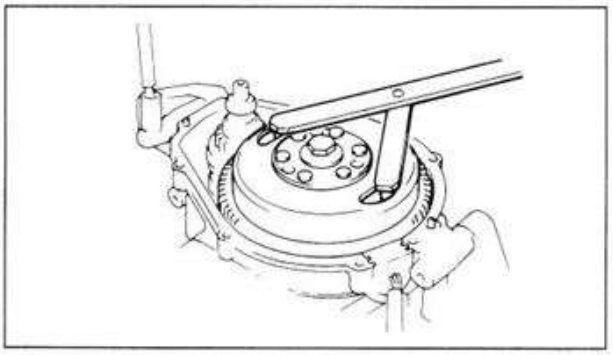
6. 組付
・ベースAss'y
・スクリュ

注意
・クランクケースのポンチマークと、ベースAss'yのポンチマークを合わせます。
・スクリュにロックタイトNo.572を塗布します。



7. 組付
・アイドルギヤAss'y

要点
ギヤに耐水グリースを塗布します。



8. 組付
・半月キー
・フライホイールマグネト
・ボルト

フライホイールホルダ
90890-06522

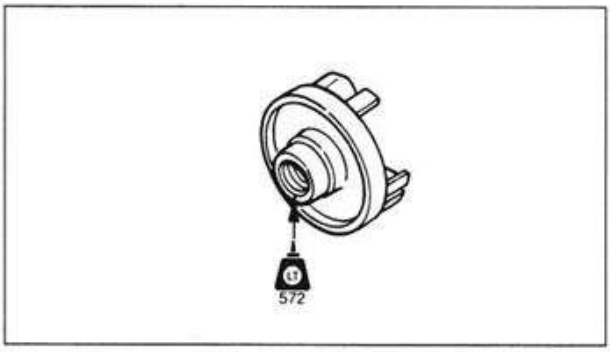
WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネット／クランクケース／クランクシャフト

要点

- フライホイールマグネットを取付けるとき、半月キーがクランクシャフトのキー溝に正しく取付いていることを確認します。
- ボルトのネジ部と座面に、ヤマハ船外機オイルを塗布します。

ボルト
7.0kgf·m （70Nm）



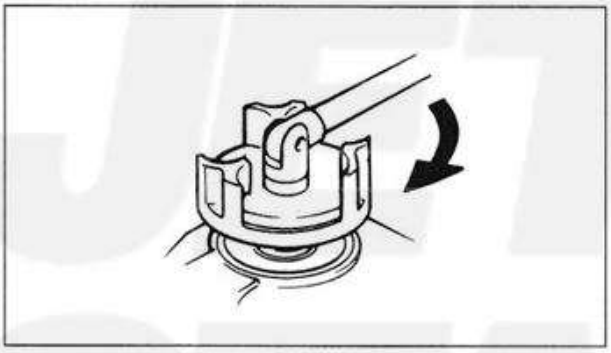
9. 組付
・カップリングフランジ

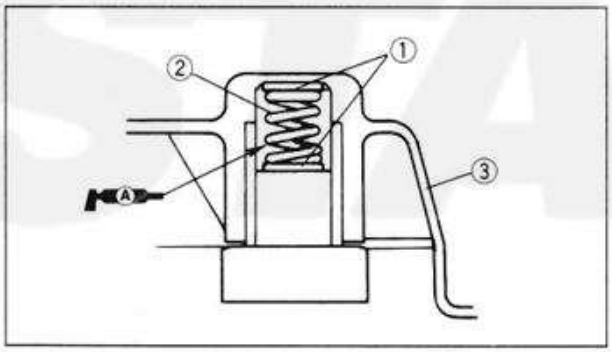
カプラレンチ
90890-06425
フライホイールホルダ
90890-06522

注意

カップリングフランジにロックタイトNo.572を塗布します。

カップリングフランジ
3.7kgf·m （37Nm）

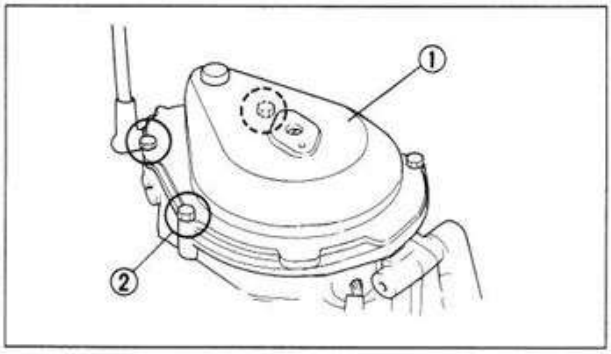




10. 組付
・ワッシャ①
・スプリング②
・フライホイールカバー③

要点

フライホイールカバーの溝に耐水グリースを充填します。



11. 組付
・ガスケット
・フライホイールカバー①
・ボルト②

要点

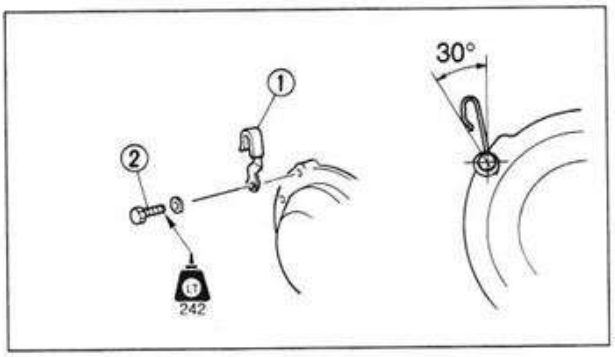
ガスケットは、新しいものを使います。

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

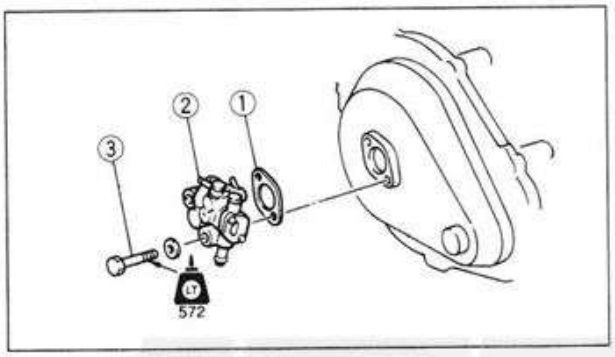
WWW.JET-STAR.JP

フライホイールマグネット／クランクケース／クランクシャフト



12. 組付
・クランプ①
・ボルト②

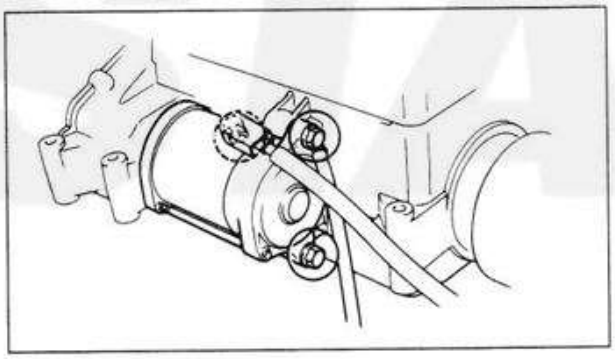
注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。



13. 組付
・ガスケット①
・オイルポンプ②
・ボルト③

要点
ガスケットは、新しいものを使います。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。



14. 組付
・スタータモータ
・ボルト
・⊕リード線

要点
オイルシールに耐水グリースを塗布します。

	⊕リード線ナット 0.5kgf·m （5Nm）

WWW.JET-STAR.JP

第6章　ジェットポンプユニット

1. ジェットポンプ ……6-1
(1) 取外し前の準備 ……6-1
(2) 取外し ……6-2
ジェットポンプユニット ……6-2
インペラ ……6-3
ドライブシャフト ……6-3
ベアリング ……6-3
ブッシュ ……6-4
(3) 点検 ……6-4
(4) 組付 ……6-5

2. ビルジシステム ……6-11
(1) 取外し前の準備 ……6-11
(2) 点検 ……6-12
(3) 組付 ……6-12

JET STAR

ジェットポンプ

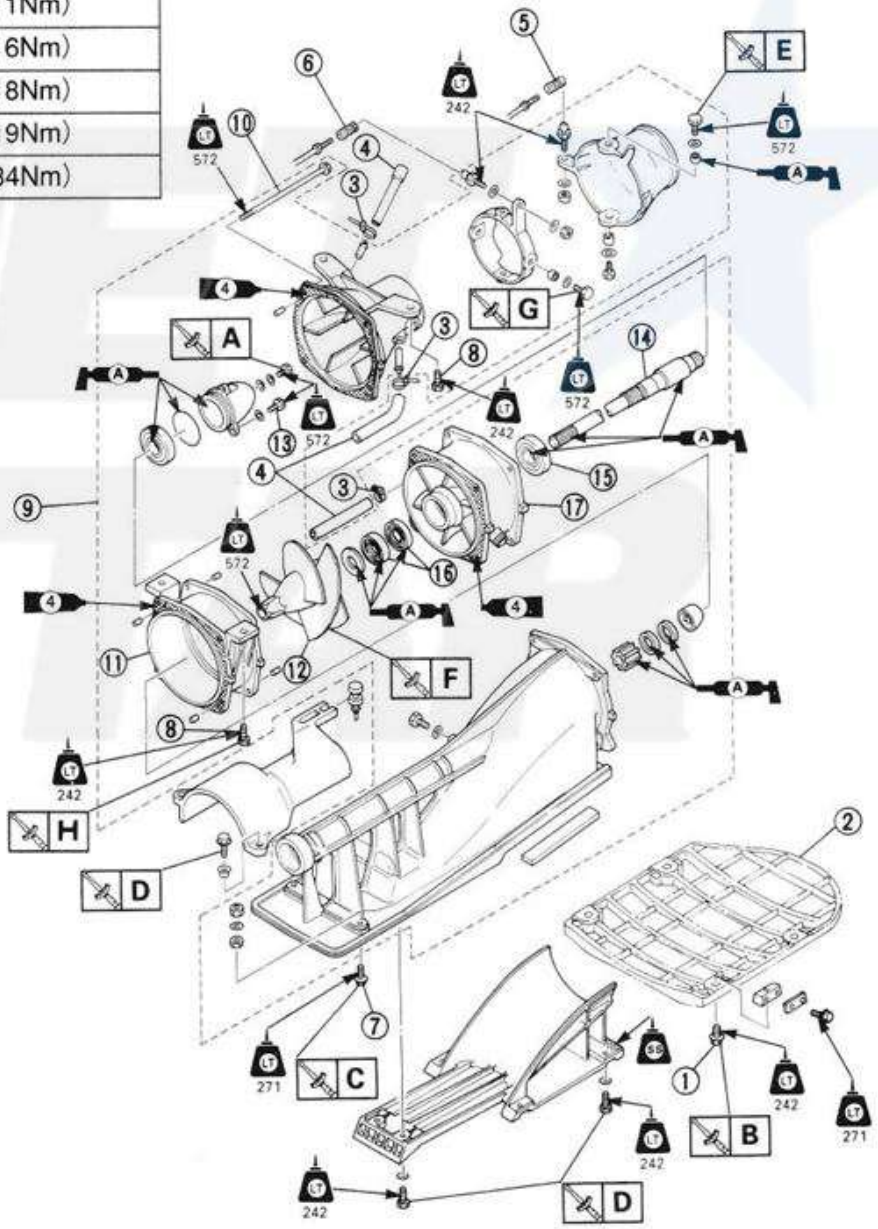
1. ジェットポンプ

(1) 取外し前の準備

・ガソリンを抜く。

・バッテリを取外す。

A	0.2kgf·m (2Nm)
B	0.4kgf·m (4Nm)
C	0.7kgf·m (7Nm)
D	0.9kgf·m (9Nm)
E	1.1kgf·m (11Nm)
F	1.6kgf·m (16Nm)
G	1.8kgf·m (18Nm)
H	1.9kgf·m (19Nm)
I	3.4kgf·m (34Nm)

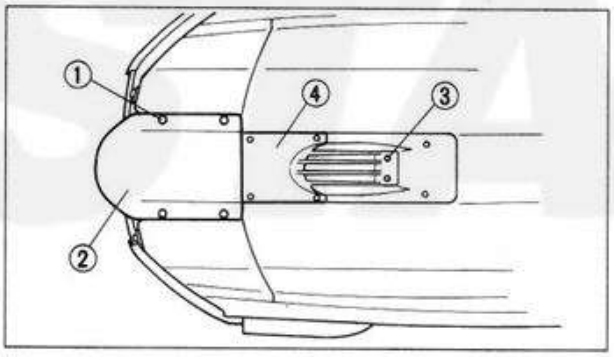


WWW.JET-STAR.JP

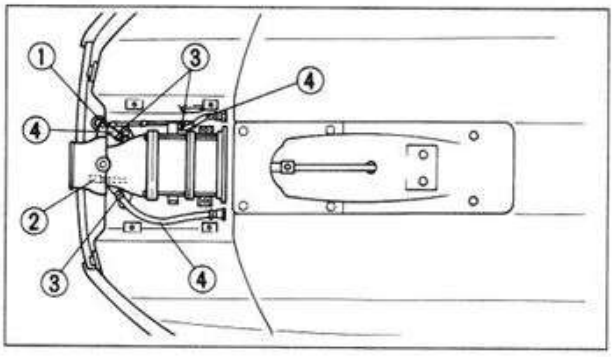
ジェットポンプ

〈取外しの範囲〉 ①ジェットポンプの取外し ②インペラの取外し
③ドライブシャフトベアリングの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
① ② ③	1	ボルト	4	
	2	ライドプレート	1	
	3	クランプ	1	
	4	ホース	1	
	5	ステアリングケーブルジョイント	1	ケーブルジョイントを取外す。
	6	トリムケーブルジョイント	1	ケーブルジョイントを取外す。
	7	ボルト	6	
	8	ボルト	4	
	9	ノズルデフレクタ	1	
	10	ダクトインテーク	1	
	11	ハウジング	1	
	12	インペラ	1	(2) 取外しを参照。
	13	ボルト	3	
	14	ドライブシャフト	1	
	15	ベアリング	2	(2) 取外しを参照。
	16	オイルシール	2	
	17	ダクト	1	



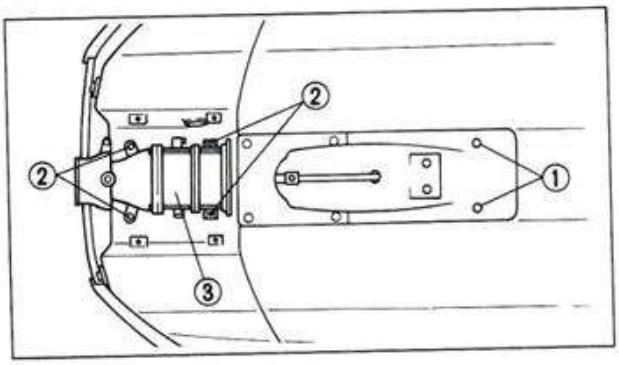
(2) 取外し
ジェットポンプユニット
1. 取外し
・ボルト（M8）①
・ライドプレート②
・ボルト（M6）③
・インテークスクリーン④



2. 取外し
・ステアリングケーブルジョイント①
・トリムコントロールケーブルジョイント②
・ホースタイ③
・ホース④

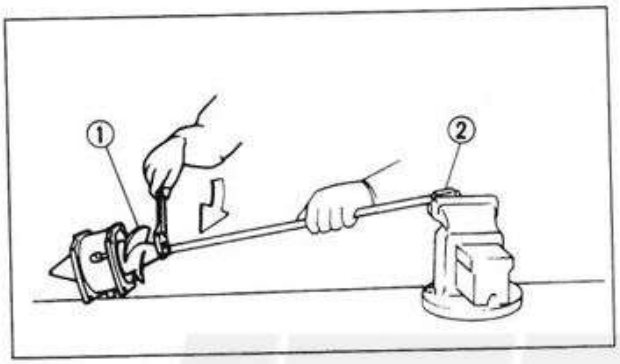
WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプ



3. 取外し
・ボルト（M6）①
・ボルト（M10）②
・ジェットポンプユニット③

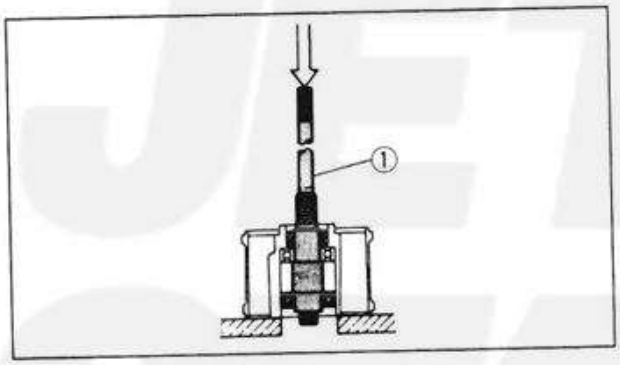
要点
ジェットポンプユニットを後方にまっすぐ引出します。



インペラ
1. 取外し
・インペラ①

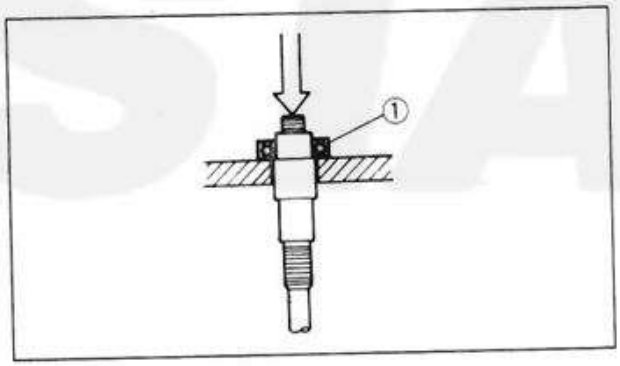
ドライブシャフトホルダ②
90890−06518

要点
インペラは逆ネジです。インペラを時計方向に回し、緩めます。



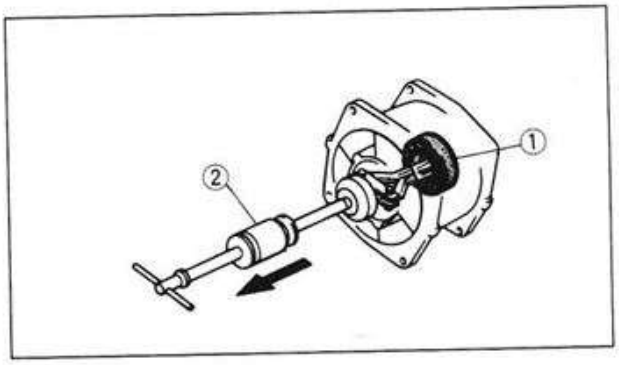
ドライブシャフト
1. 取外し
・ドライブシャフトとベアリング（リヤ）①

要点
取外しにはプレスを使います。



ベアリング
1. 取外し
・ベアリング（リヤ）①

要点
取外しにはプレスを使います。

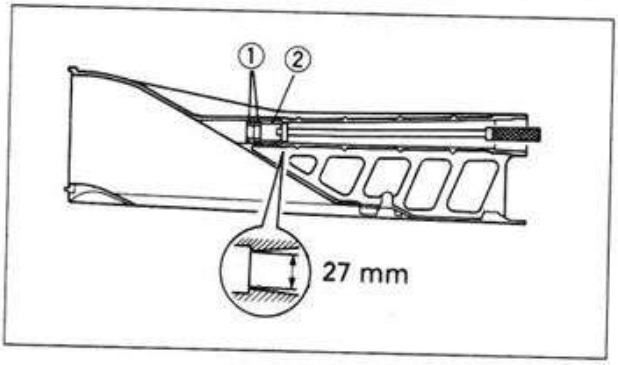


2. 取外し
・ベアリング（フロント）①

スライドハンマセット②
90890-06523
90890-06531

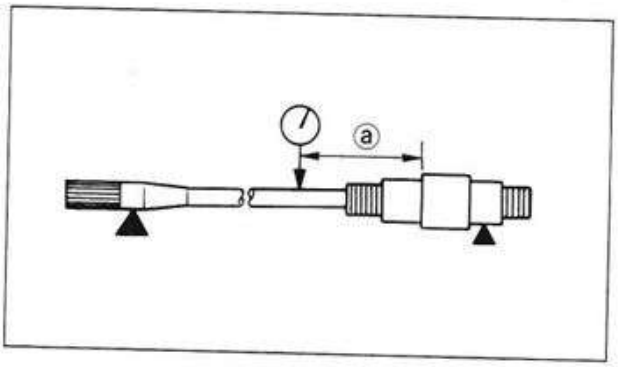
WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプ



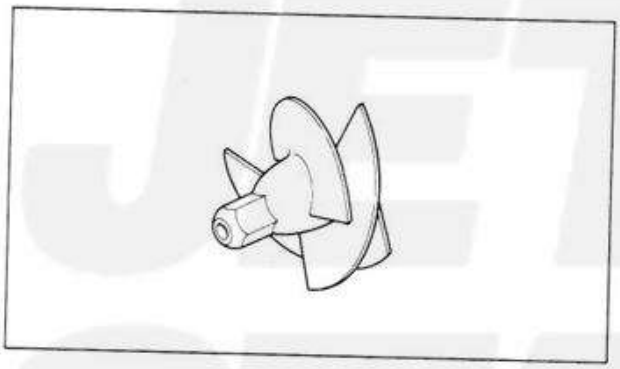
ブッシュ
1. 取外し
・オイルシール①
・ブッシュ②

ドライバロッド
90890-06605
ボールベアリングアタッチメント
90890-06638

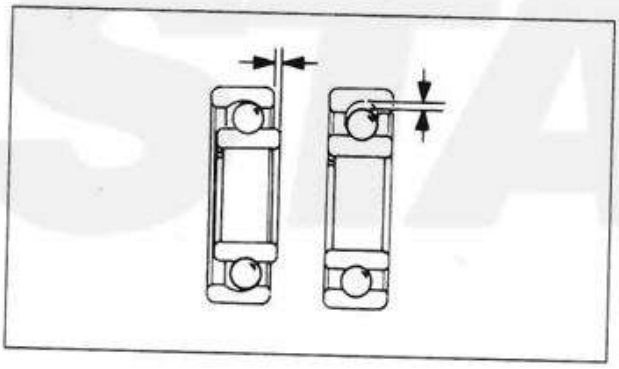


(3) 点検
1. 測定
・ドライブシャフトの振れ
Vブロックとダイヤルゲージを使用。
規定値でない場合→交換。

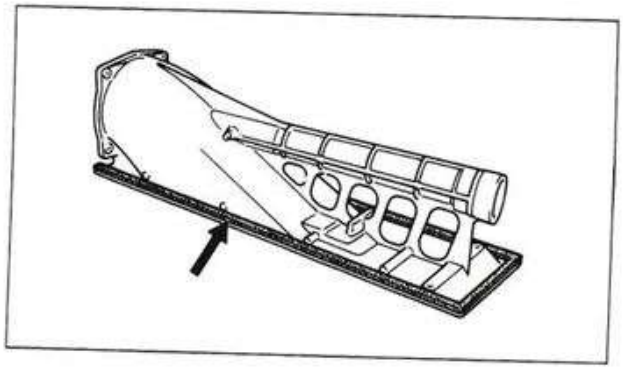
測定位置ⓐ
350mm
揺れ限度
0.3mm



2. 点検
・インペラ
3-15ページを参照。

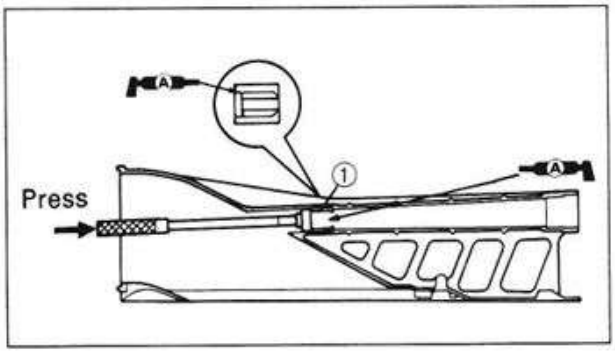


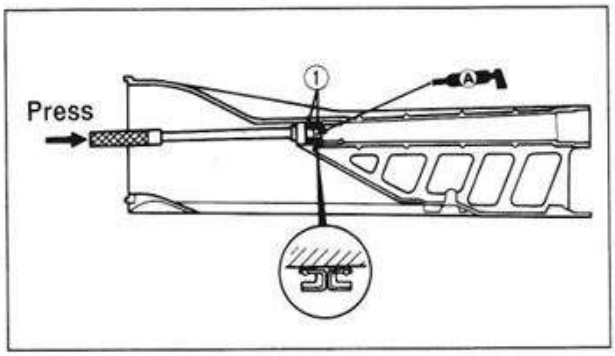
3. 点検
・ベアリング（フロント,リヤ）
インナレースを指で回転させる。
ガタ／焼付き→交換。

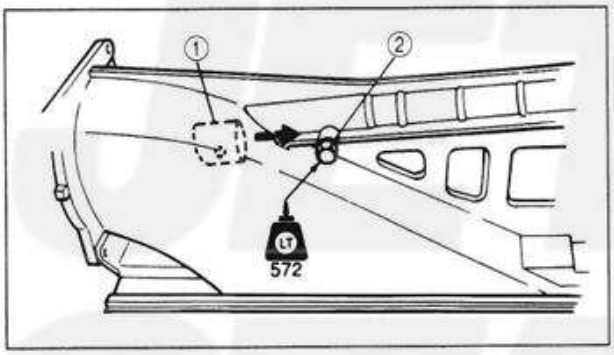


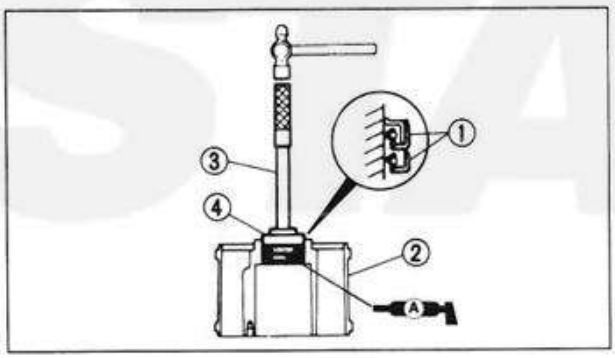
4. 点検
・シールラバー
亀裂／摩耗→交換。

WWW.JET-STAR.JP









(4) 組付

1. 組付
・ブッシュ①

ドライバロッド
90890-06605
ニードルベアリングアタッチメント
90890-06613

2. 組付
・オイルシール①

ドライバロッド
90890-06605
ニードルベアリングアタッチメント
90890-06613

要点
・オイルシールは、新しいものを使います。
・オイルシールのリップ部に耐水グリースを塗布します。

3. 組付
・スペーサ①
・ボルト②

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

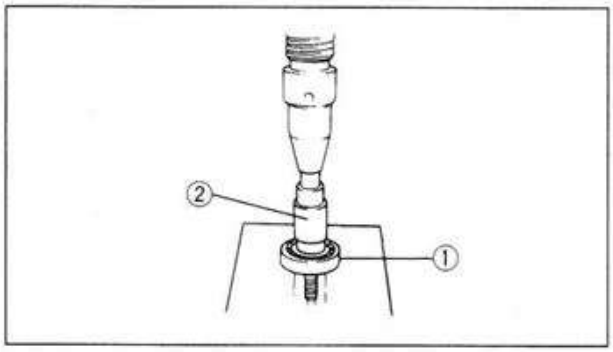
4. 組付
・オイルシール①
・ダクト②へ組付。

ドライバロッド
90890-06606
ボールベアリングアタッチメント
90890-06634

要点
・オイルシールは、新しいものを使います。
・オイルシールのリップ溝に、耐水グリースを塗布します。
・オイルシールは製品番号が外側になるように組付けます。

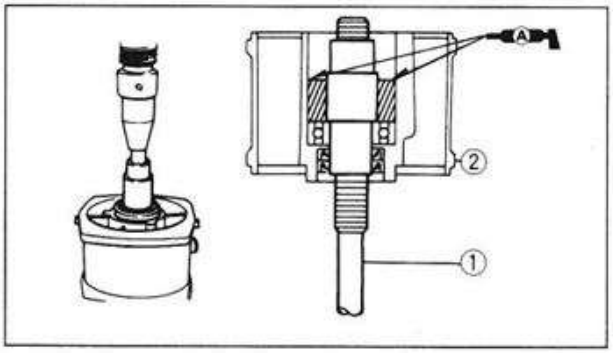
WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプ



5. 組付
・ベアリング（フロント）①
・ドライブシャフト②へ組付。

要点
・組付けにはプレスを使います。
・ベアリングは製品番号が外側になるように組付けます。

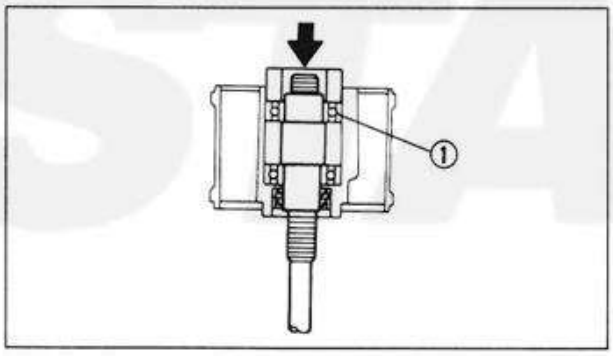


6. 組付
・ドライブシャフト①
・ダクト②へ組付。

要点
・組付けるときは、ベアリングとオイルシールのリップ部に耐水グリースを塗布します。
・組付けにはプレスを使います。

7. 充填
・耐水グリース（ヤマハマリングリース　A）
ドライブシャフトとダクトの間に充填する。

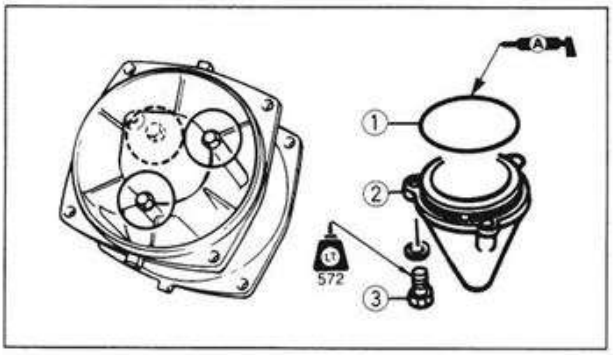
24cm³



8. 組付
・ベアリング（リヤ）①

ベアリングインナレースアタッチメント
90890-06662

要点
・組付けにはプレスを使います。
・ベアリングは製品番号が外側になるように組付けます。



9. 組付
・Oリング①
・キャップ②
・ボルト③

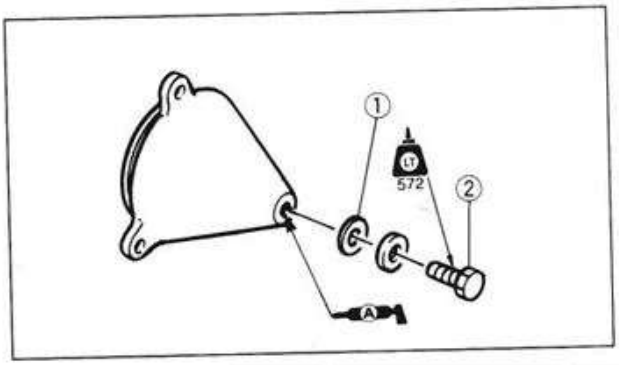
要点
・Oリングは、新しいものを使います。
・Oリングに耐水グリースを塗布します。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

10. 充填
・耐水グリース（ヤマハマリングリースA）
キャップ内に充填する。

	21cm³

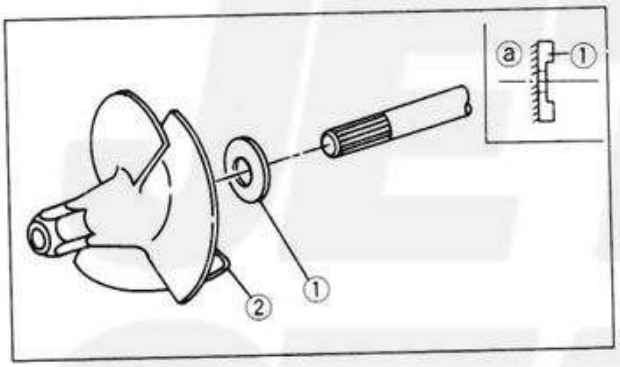


11. 組付
・ガスケット①
・ボルト②

要点
ガスケットは、新しいものを使います。

注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

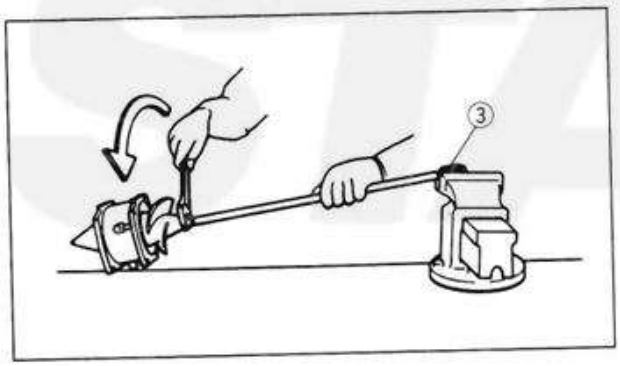
	ボルト 0.4kgf・m（4Nm）



12. 組付
・ワッシャ①
・インペラ②

	ドライブシャフトホルダ③ 90890-06518

要点
・ワッシャの平らな面ⓐをインペラ側に組付けます。
・オイルシールに耐水グリースを塗布します。
・インペラは逆ネジです。インペラを反時計方向に回し、締付けます。

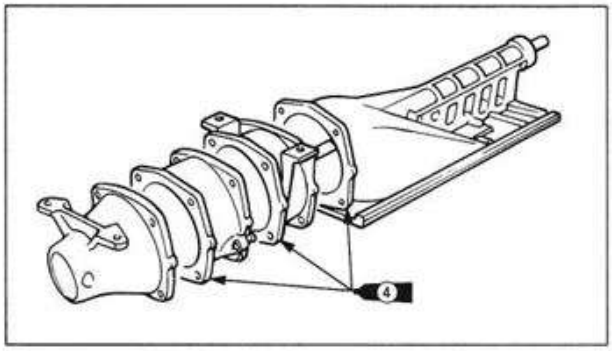


注意
ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

	インペラ 1.8kgf・m（18Nm）

WWW.JET-STAR.JP

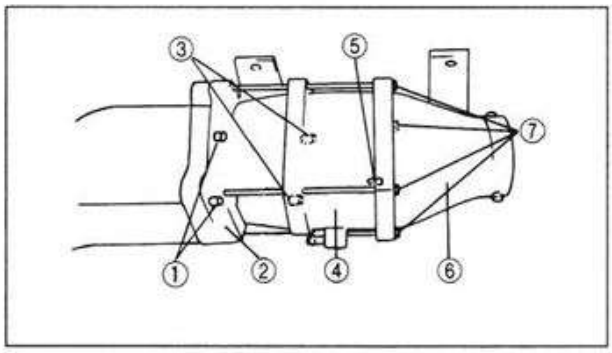
ジェットポンプ



13. 塗布
・ヤマハボンドNo.4
ハウジング、ダクト、ノズルの接続面に塗布。

要点

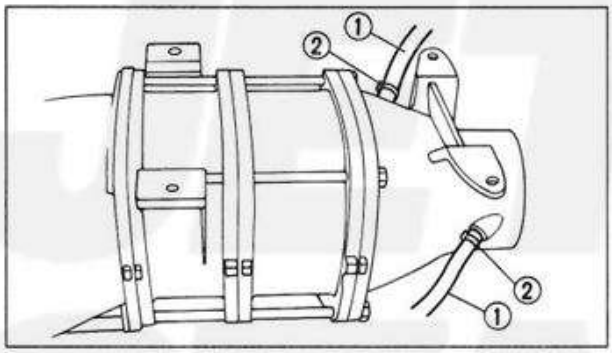
ボンドを塗布する前にハウジング、ダクト、ノズルの接続面を清掃します。



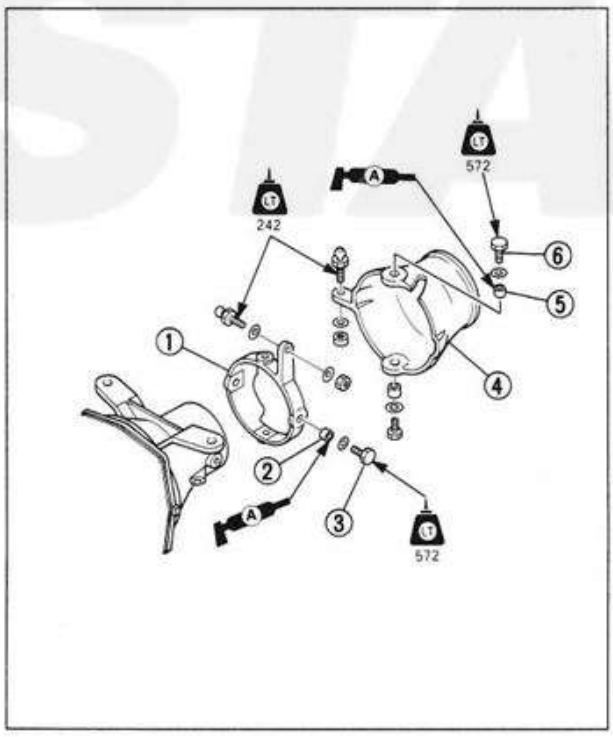
14. 組付
・ピン①
・ハウジング②
・ピン③
・ダクト④
・ピン⑤
・ノズル⑥
・ボルト⑦

注意

ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。



15. 組付
・ホース①
・クランプ②



16. 組付
・トリムリング①
・カラー②
・ボルト（ℓ＝18mm）③
・ノズルディフレクタ④
・カラー⑤
・ボルト（ℓ＝20mm）⑥

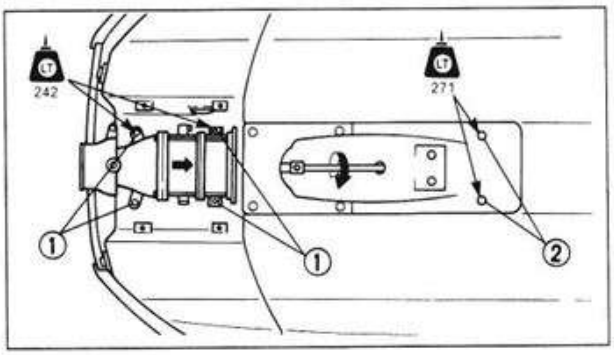
ボルト（ℓ＝18mm）
1.9kgf·m（19Nm）
ボルト（ℓ＝20mm）
1.6kgf·m（16Nm）

注意

・ボルト（ボールジョイント）にロックタイトNo.242（青色）を塗布します。
・ボルト（トリムリングとノズルディフレクタ）にロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプ



17. 組付
・ジェットポンプユニット
・ボルト（M10）①
・ボルト（M6）②

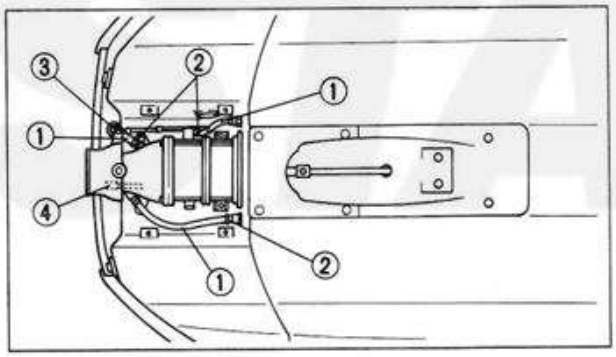
要点

・ドライブシャフトのスプラインに耐水グリースを塗布します。
・ドライブシャフトのスプラインと中間シャフトのスプラインをかみ合わせます。

ボルト（M6）
0.9kgf·m（9Nm）
ボルト（M10）
3.4kgf·m（34Nm）

注意

・ボルト（M10）にロックタイトNo.242（青色）を塗布します。
・ボルト（M6）にロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

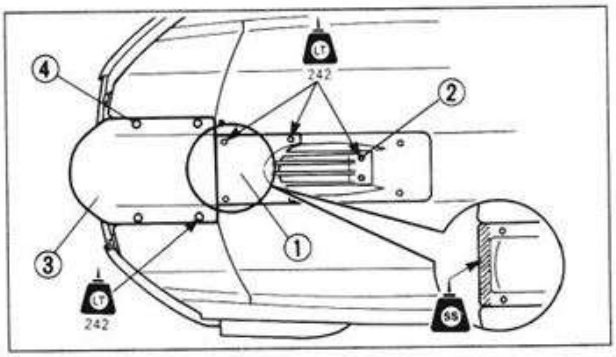


18. 接続
・ホース①
・ホース②
・ホースタイ③
・ステアリングケーブルジョイント④
・トリムコントロールケーブルジョイント⑤

19. 点検
・ノズルディフレクタの動作
スムーズに動かない→調整。

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプ



20. 組付
- インテークスクリーン①
- ボルト②
- ライドプレート③
- ボルト④

	ボルト 0.7kgf·m （7Nm）

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

要点

図のように、斜線部へシリコンシーラントを塗布します。

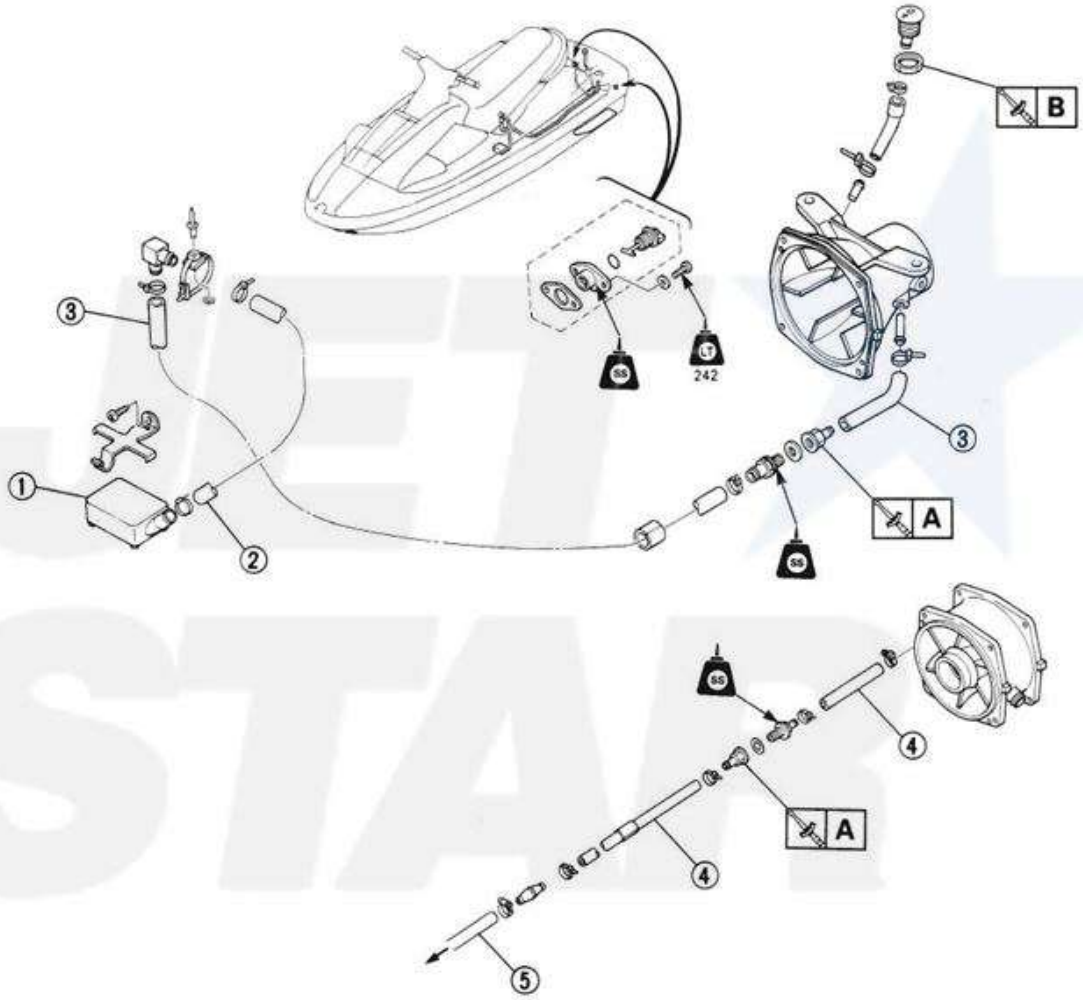
WWW.JET-STAR.JP

2. ビルジシステム

(1) 取外し前の準備

・ガソリンを抜く。
・バッテリを取外す。
・ライドプレートを取外す。

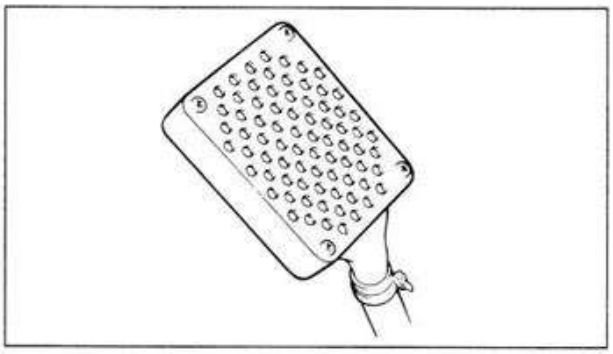
A	0.5kgf·m (5Nm)
B	0.6kgf·m (6Nm)



〈取外しの範囲〉①ビルジストレーナの取外し　②冷却水ホースの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
①	1	ビルジストレーナ	1	
	2	ホース	1	ホースタイを取外す。
	3	クランプ	1	ホースタイを取外す。
②	4	ホース	2	ホースタイを取外す。
	5	ホース	1	スクリュを緩める。

WWW.JET-STAR.JP



(2) 点検

1. 点検
・ビルジストレーナ
3-21ページを参照。

2. 点検
・ボディバルブ
・ホース
・コネクタ
摩耗／亀裂→交換。

(3) 組付
「分解図」を参照。

要点
ホースタイは新しいものを使います。

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

第7章　電　　装

1. 電装系統 ……7-1
(1) 配線図 ……7-2
(2) 低い抵抗値の測定 ……7-3
(3) 電気配線 ……7-3
(4) スタータスイッチ／エンジンストップスイッチ ……7-3
(5) バッテリ ……7-3
(6) スパークプラグ ……7-3
(7) サーモスイッチ ……7-3
(8) ヒューズ ……7-4
(9) 電装ボックス ……7-5
(10) スタータリレー ……7-5
(11) レクチファイヤレギュレータ ……7-6
(12) イグニッションコイル ……7-6
(13) CDIユニット ……7-7
(14) ベースAss'y ……7-8
(15) マルチファンクションメータ ……7-9
(16) フュエルセンダ ……7-11
(17) オイルレベルセンサ ……7-12

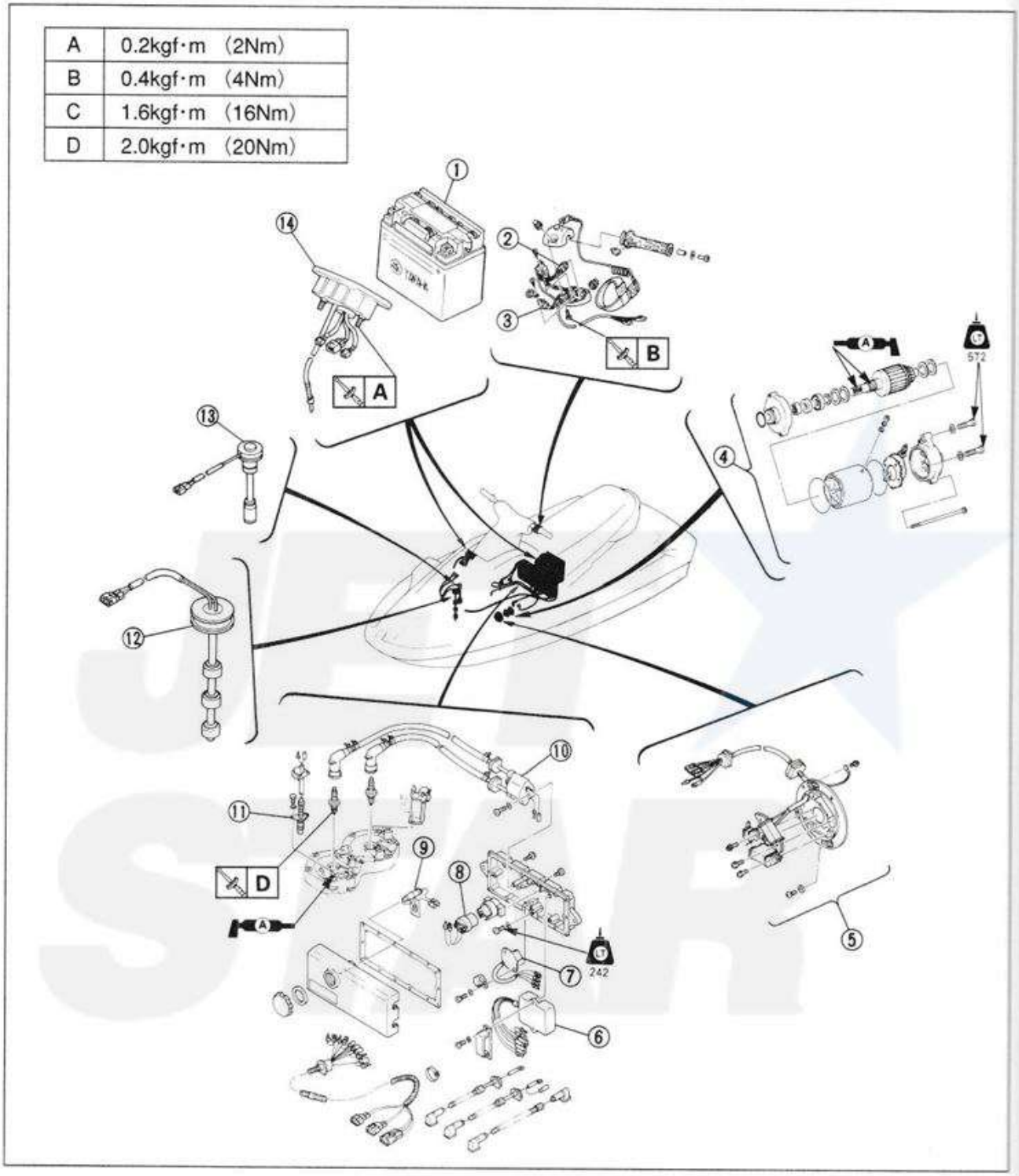
2. スタータモータ ……7-13
(1) 取外し ……7-13
(2) 分解 ……7-13
(3) 点検 ……7-14
(4) 組立 ……7-16
(5) 組付 ……7-16

WWW.JET-STAR.JP

電装系統

1. 電装系統

A	0.2kgf·m （2Nm）
B	0.4kgf·m （4Nm）
C	1.6kgf·m （16Nm）
D	2.0kgf·m （20Nm）

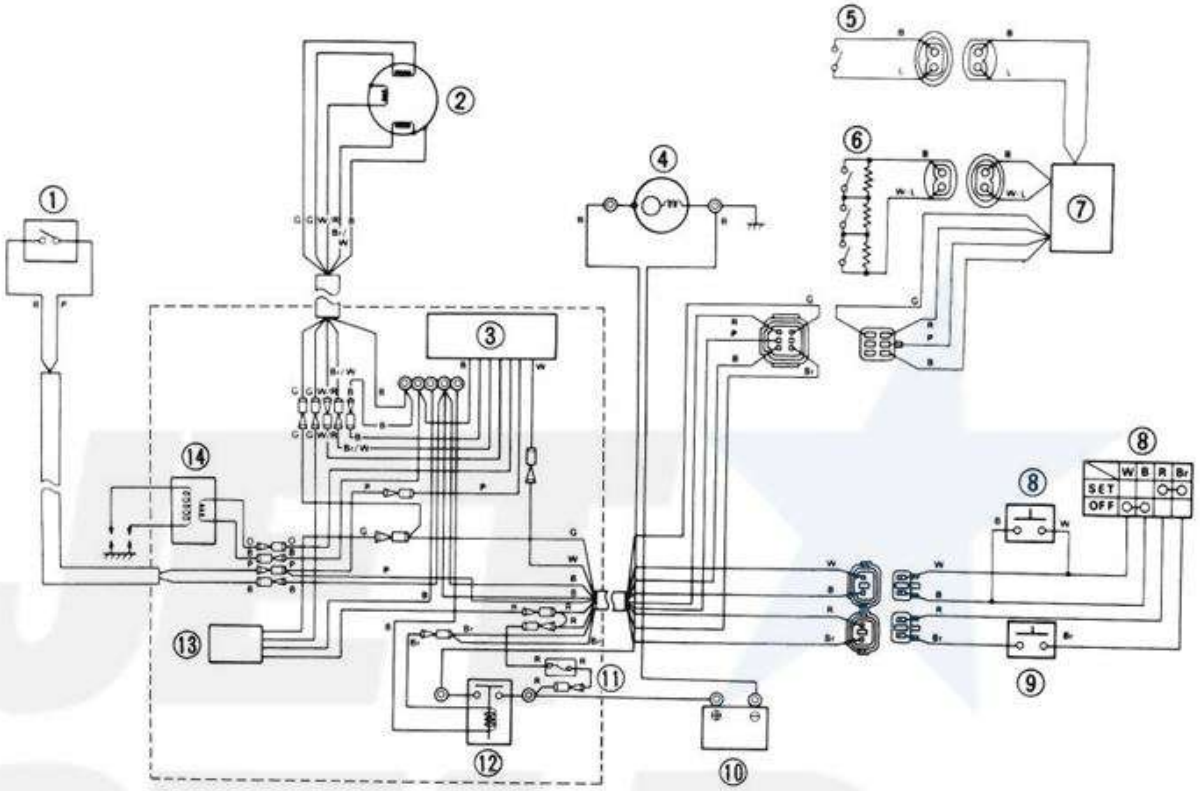


①バッテリ
②エンジンストップスイッチ
③スタータスイッチ
④スタータモータ
⑤マグネトベースAss'y
⑥サーモスイッチ
⑦レクチファイヤレギュレータ
⑧CDIユニット
⑨スタータリレー
⑩イグニッションコイル
⑪ヒューズ
⑫フュエルセンダ
⑬オイルレベルセンサ
⑭マルチファンクションメータ

WWW.JET-STAR.JP

電装系統

(1) 配線図



B	：黒
Br	：茶
Br/W	：茶／白
G	：緑
L	：青
O	：橙
P	：ピンク
R	：赤
W	：白
W/L	：白／青
W/R	：白／赤
Y	：黄

①サーモスイッチ
②CDIマグネト
③CDIユニット
④スタータモータ
⑤フュエルセンダ
⑥オイルレベルセンダ
⑦マルチファンクションメータ
⑧エンジンストップスイッチ
⑨スタータスイッチ
⑩バッテリ
⑪ヒューズ
⑫スタータリレー
⑬レクチファイヤ
⑭レギュレータ
⑮イグニッションコイル

WWW.JET-STAR.JP

(2) 低い抵抗値の測定

デジタルテスタを使用して、10オーム以下の抵抗値を測定する場合は、表示された値からテスタの内部抵抗を引いた値が正しい抵抗値になります。

正規の抵抗値＝
表示された抵抗値－内部抵抗値

要点

テスタの内部抵抗は、⊕端子と⊖端子をつないで測定します。

(3) 電気配線

・3-16ページを参照。

(4) スタータスイッチ／エンジンストップスイッチ

・3-16ページを参照。

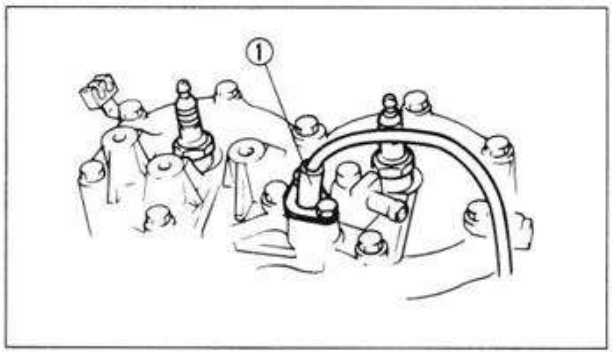
(5) バッテリ

・3-17～19ページを参照。

(6) スパークプラグ

・3-19ページを参照。

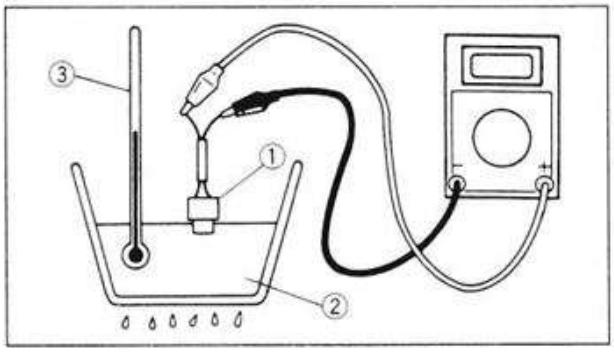
(7) サーモスイッチ

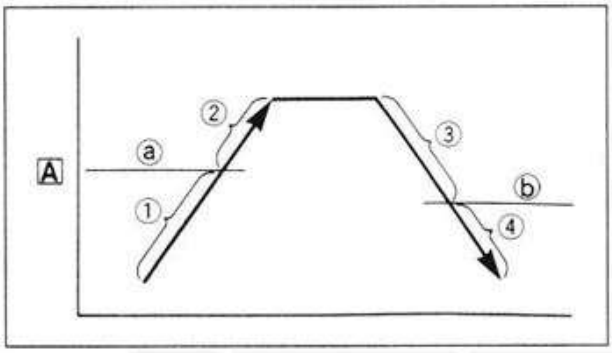


1. 点検

・サーモスイッチ①
欠陥→交換。

WWW.JET-STAR.JP



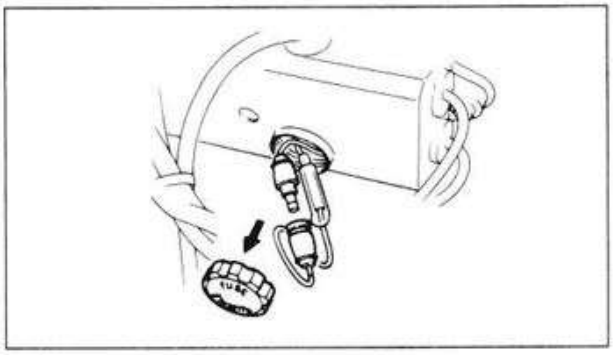


点検手順
・サーモスイッチを取外す。
・ポケットテスタ（Ω×1）をサーモスイッチのリード線に接続する。
・サーモスイッチ①を、冷却水②に浸す。
・サーモスイッチの導通を確認する。冷却水を加熱し、温度計③で温度を記録する。

テストステップ	冷却水温度［A］	導通
1	70℃±4℃以下	×
2	70℃±4℃以上	○
3	70℃±4℃ ～70℃±7℃	○
4	50℃±7℃以下	×

テスト1,2：加熱テスト
テスト3,4：冷却テスト
○：導通　　×：導通なし

⚠注意
サーモスイッチの取扱いには充分注意します。強いショックを与えたり、落としたりしたら交換します。



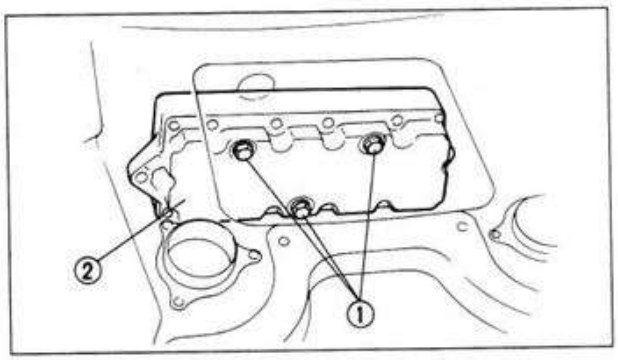
(8) ヒューズ

1. 点検

・ヒューズ
ヒューズ切れ→交換。

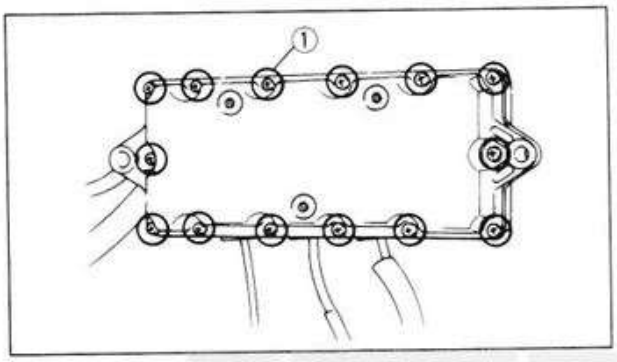
ヒューズ容量
10A

WWW.JET-STAR.JP



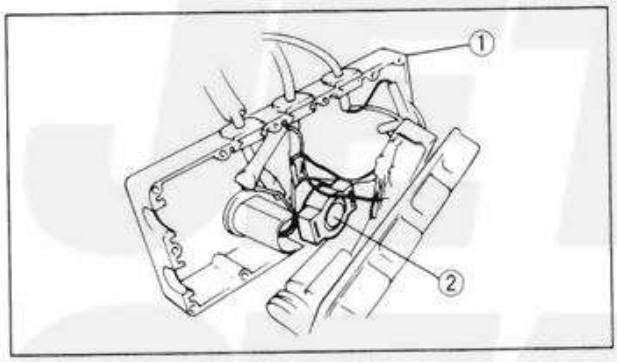
(9) 電装ボックス

1. 取外し
・ボルト①
・電装ボックス②



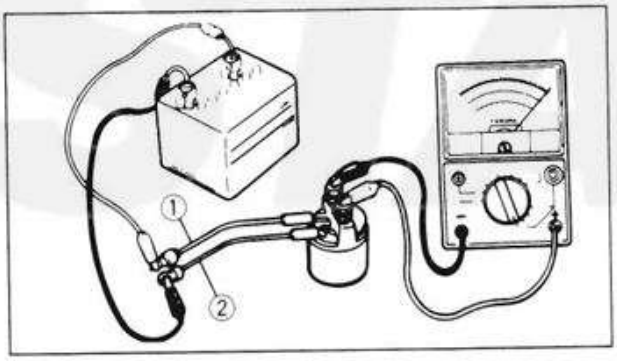
2. 取外し
・スクリュ①

3. 点検
・電装ボックス
亀裂／損傷→交換。



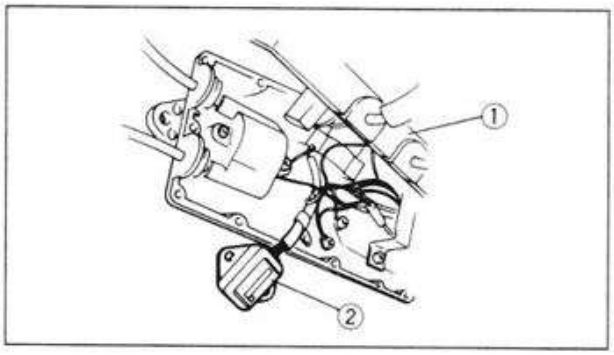
(10) スタータリレー

1. 取外し
・電装ボックス①
・スタータリレー②



2. 点検
・スタータリレー

点検手順 ・リレーの端子にテスタを接続する。 ・リレーを12Vのバッテリに接続する。
①茶リード線→バッテリ⊕端子 ②黒リード線→バッテリ⊖端子
リレーは作動するがテスタの針が動かない場合／リレーは作動せずテスタの針も動かない場合→交換。



（11）レクチファイヤレギュレータ

1. 取外し

・電装ボックス①

・レクチファイヤレギュレータ②

2. 測定

・レクチファイヤレギュレータ端子間　の抵抗値
規定値でない場合→交換。
下表を参照。

テスタレンジ
Ω×1k

単位：kΩ

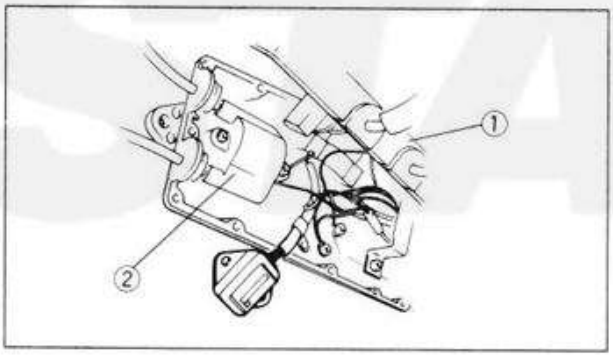
⊖ ＼ ⊕	赤	黒	緑1	緑2
赤		∞	∞	∞
黒	2～20		1～10	1～10
緑1	1～10	2～15		3～30
緑2	1～10	2～15	3～30	

∞：導通なし

R：赤
B：黒
G1：緑
G2：緑

要点

この点検でデジタルテスタは使えません。アナログテスタを使います。

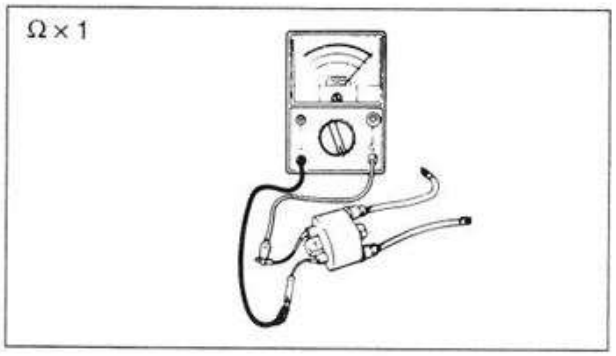


（12）イグニッションコイル

1. 取外し

・電装ボックス①

・イグニッションコイル②

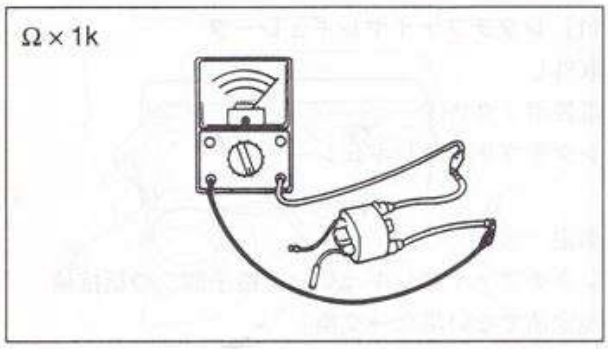


2. 測定

・一次コイル抵抗値
規定値でない場合→交換。

一次コイル抵抗値
（橙ー黒間）
0.078～0.106Ω（温度20℃）

WWW.JET-STAR.JP



要点

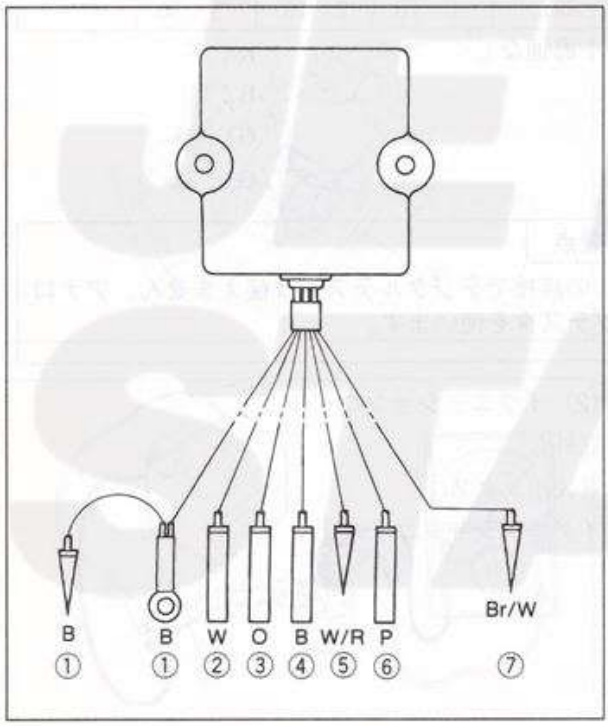
デジタルテスタを使用して、10オーム以下の抵抗値を測定する場合は、正しい測定結果が得られません。
“低い抵抗値の測定”を参照。

3. 測定
・二次コイル抵抗値
規定値でない場合→交換。

二次コイル抵抗値
（ハイテンションコード）
13.8～29.0kΩ（温度20℃）

（13）CDIユニット

1. 取外し
・電装ボックス
・CDIユニット



2. 測定
・CDIユニット端子間の抵抗値
規定値でない場合→交換。
下表を参照。

テスタレンジ
Ω×1k

要点

・この点検でデジタルテスタは使えません。アナログテスタを使います。
・テスタによって、＋リード線と－リード線が逆になる物があります。

B　：黒
W　：白
O　：橙
W/R　：白／赤
P　：桃
Br/W　：茶／白

∞　：導通なし
●　：針は一度振れ、元の位置に戻る。

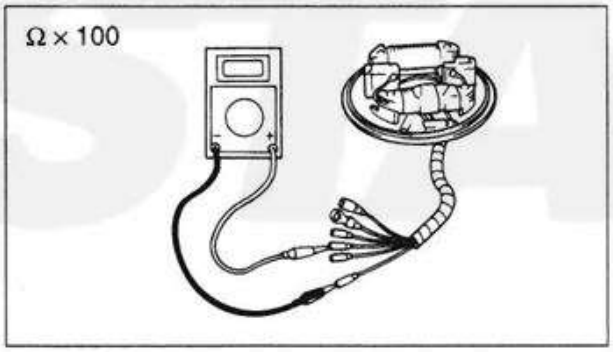
WWW.JET-STAR.JP

単位：kΩ

テスタ⊖ \ テスタ⊕		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	W	O	B	W/R	P	Br/W
①	B		20^{+20}_{-10}	・	0	300^{+300}_{-150}	7±4	4±2
②	W	∞		∞	∞	∞	∞	∞
③	O	・	・		・	・	・	・
④	B	0	20^{+20}_{-10}			300^{+300}_{-150}	7±4	4±2
⑤	W/R	18^{+18}_{-9}	100^{+100}_{-50}		20^{+20}_{-10}			35^{+35}_{-18}
⑥	P	∞	∞	∞	∞	∞		∞
⑦	Br/W	40^{+40}_{-20}	30^{+30}_{-15}	・	20^{+20}_{-10}	500^{+500}_{-250}	100^{+100}_{-50}	

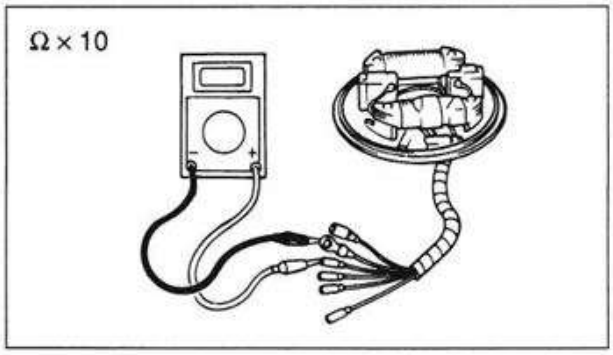
(14) ベースAss'y

1. 取外し
・電装ボックス
・フライホイールマグネト



2. 測定
・チャージコイル抵抗値
規定値でない場合→交換。

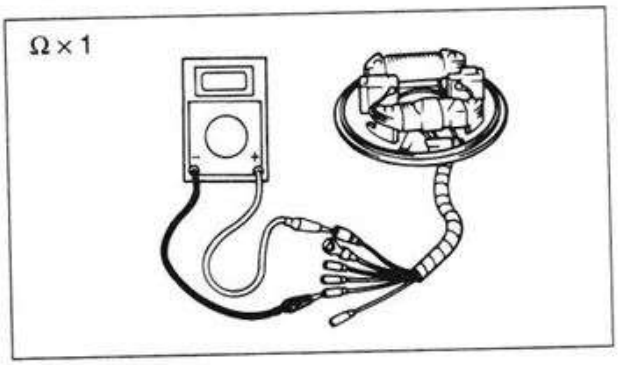
チャージコイル抵抗値
（茶ー黒間）
497.7～608.3Ω（温度20℃）



3. 測定
・パルサコイル抵抗値
規定値でない場合→交換。

パルサコイル抵抗値
（白／赤ー黒間）
12.6～15.4Ω（温度20℃）

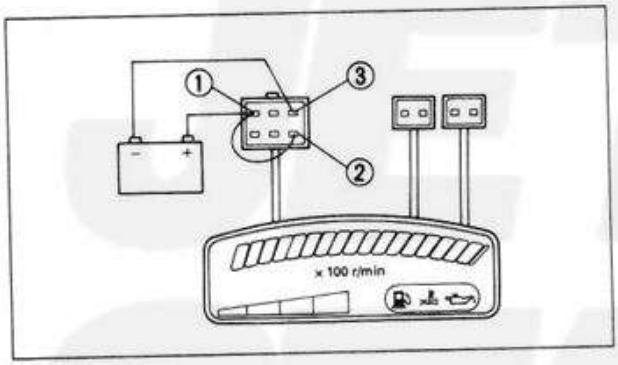
WWW.JET-STAR.JP

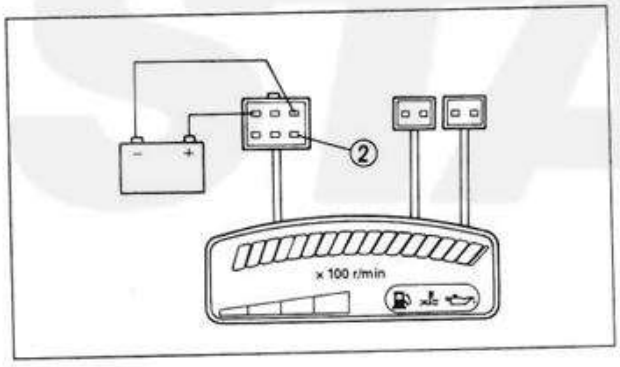


4. 測定
・ライティングコイル抵抗値
規定値でない場合→交換。

ライティングコイル抵抗値
（緑ー緑間）
1.14～1.40Ω（温度20℃）

要点
デジタルテスタを使用して、10オーム以下の抵抗値を測定する場合は、正しい測定結果が得られません。
"低い抵抗値の測定"を参照。





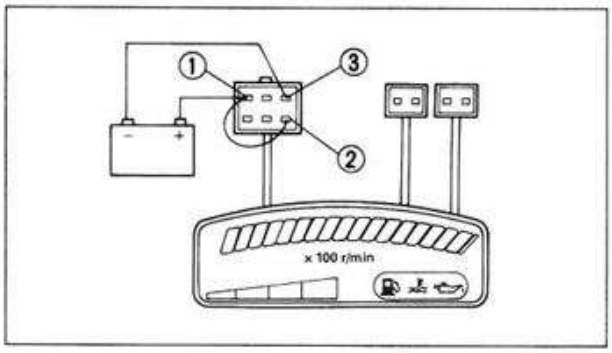
（15）マルチファンクションメータ
1. 点検
・ディスプレイの機能
機能しない→交換。

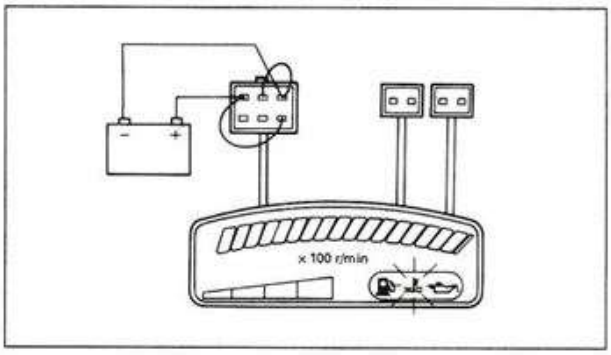
点検手順
・バッテリを接続する。

電圧範囲
10～16V

①赤リード線→バッテリ⊕端子
②茶リード線→バッテリ⊕端子
③黒リード線→バッテリ⊖端子

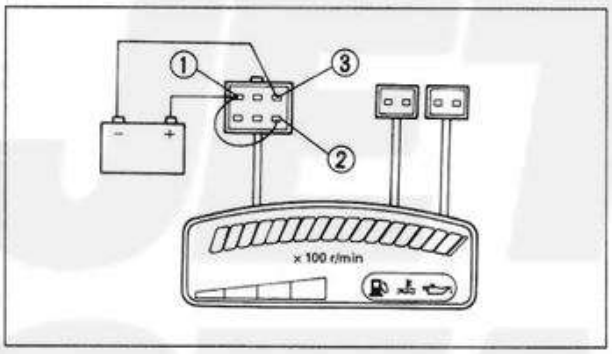
・バッテリを接続した後に、全てが2秒間　点灯する。
・茶リード線を外す。
・茶リード線を外した後に、フュエルメータのみそのまま30秒間点灯し、その後に消灯する。

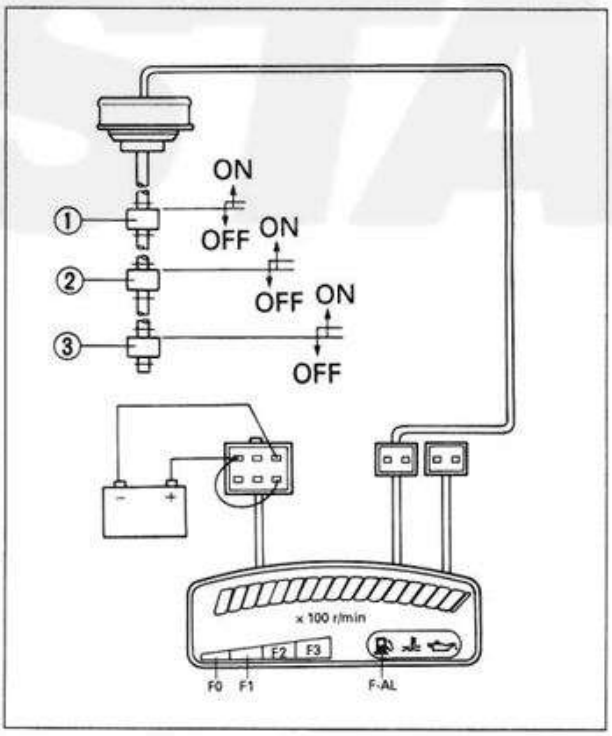




2. 点検
・水温警告灯
機能しない→交換。

点検手順
・バッテリを接続する。
①赤リード線→バッテリ⊕端子 ②茶リード線→バッテリ⊕端子 ③黒リード線→バッテリ⊖端子
・ピンクと黒の端子を接続して、水温警告灯が点滅する事を確認する。





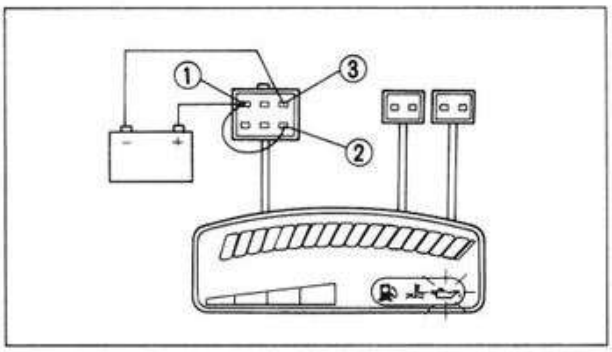
3. 点検
・フュエルメータ
機能しない→交換。

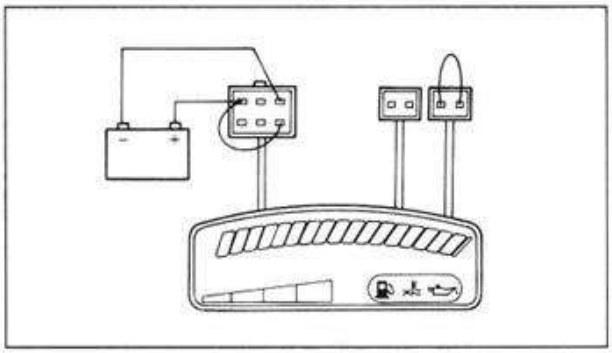
点検手順
・バッテリを接続する。
①赤リード線→バッテリ⊕端子 ②茶リード線→バッテリ⊕端子 ③黒リード線→バッテリ⊖端子
・フュエルセンダを接続する。
要点 フュエルメータを点検する前に、フュエルセンダの点検を行います。
・フュエルセンダのフロートを動かす。 ・フュエルセンと警告灯を点検する。

フロートの位置	表示
①、②、③:ON	F0、F1、F2、F3 :点灯
① :OFF	
②、③ :ON	F0、F1、F2 :点灯
①、② :OFF	
③ :ON	F0、F1 :点灯
①、②、③:OFF	F0、警告灯 :点滅

要点
フロートを動かしてから20秒間は、フュエルメータの表示に変化はありません。

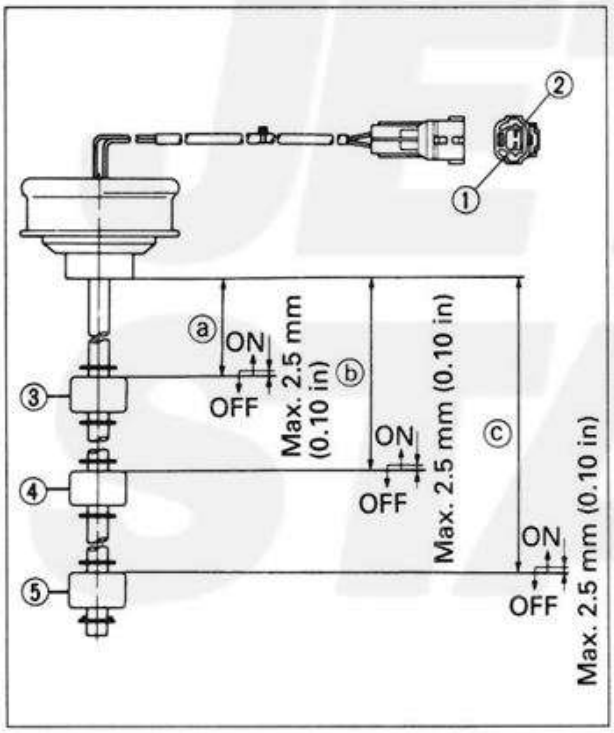
WWW.JET-STAR.JP





4. 点検
・オイル警告灯
機能しない→交換。

点検手順
・バッテリを接続する。
①赤リード線→バッテリ⊕端子 ②茶リード線→バッテリ⊕端子 ③黒リード線→バッテリ⊖端子
・オイル警告灯が点滅している事を確認する。 ・青と黒の端子を接続して、オイル警告灯の点滅がとまる事を確認する。



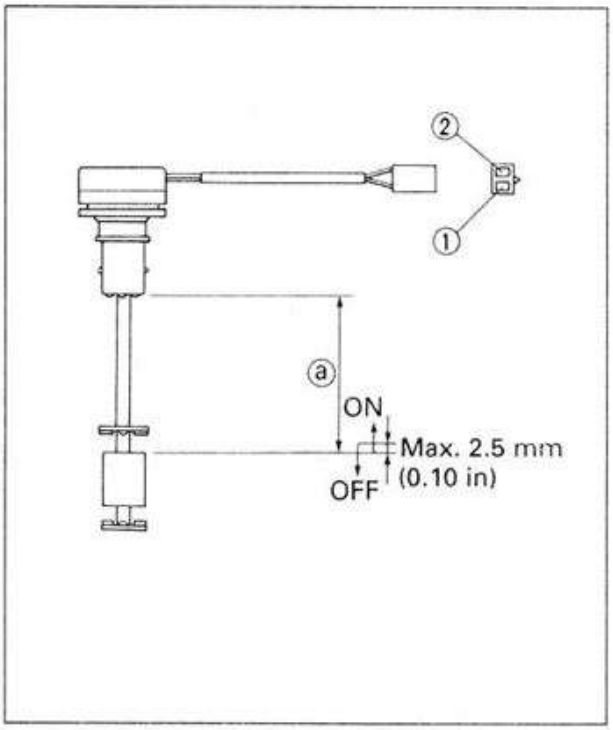
(16) フュエルセンダ
1. 測定
・フュエルセンダの抵抗
規定値でない場合→交換。

①白／青リード線→テスタ＋端子
②黒リード線→テスター端子

フロートの位置	抵抗値（Ω）
③、④、⑤：ON	0～2
③ ：OFF	
④、⑤ ：ON	98～102
③、④ ：OFF	
⑤ ：ON	292～308
③、④、⑤：OFF	667～713

フロートの距離
ⓐ：74～79mm
ⓑ：134～139mm
ⓒ：195～198mm

WWW.JET-STAR.JP



（17）オイルレベルセンサ

1. 点検

・オイルレベルセンサの導通
規定値でない場合→交換。

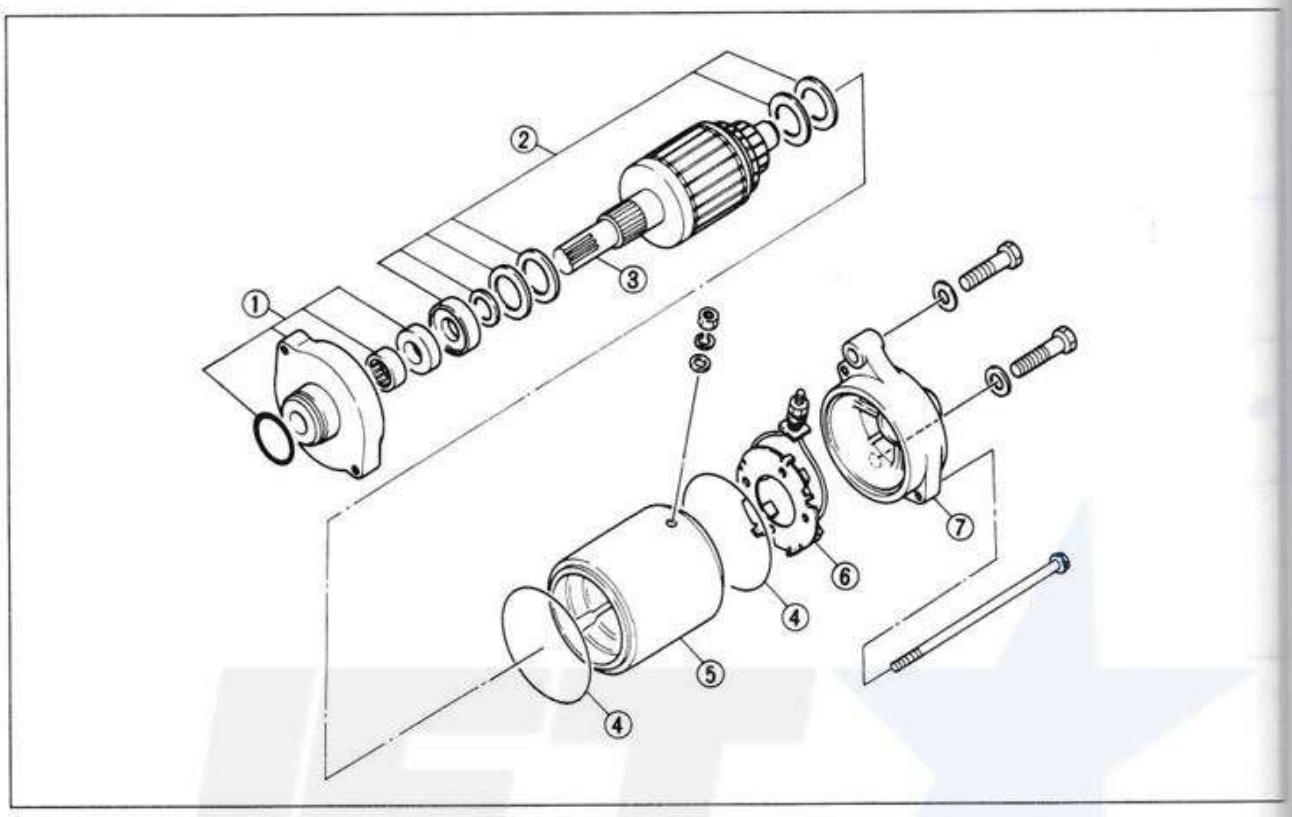
①青リード線→テスタ＋端子
②黒リード線→テスター端子

フロートの位置	導通
ON	有り
OFF	無し

フロートの距離ⓐ
56.5～59.5mm

WWW.JET-STAR.JP

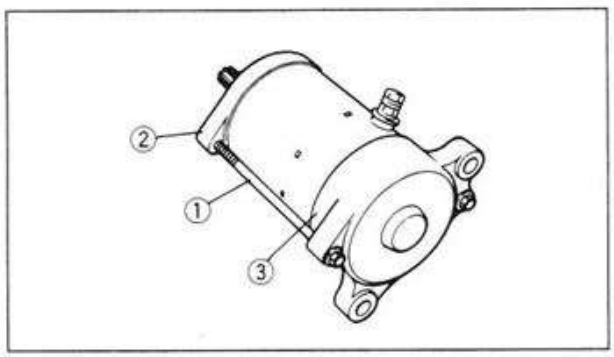
2. スタータモータ



①フロントブラケットAss'y
②ワッシャキット
③アーマチュアAss'y
④ガスケット
⑤ヨークAss'y
⑥ブラシホルダAss'y
⑦リヤブラケットAss'y

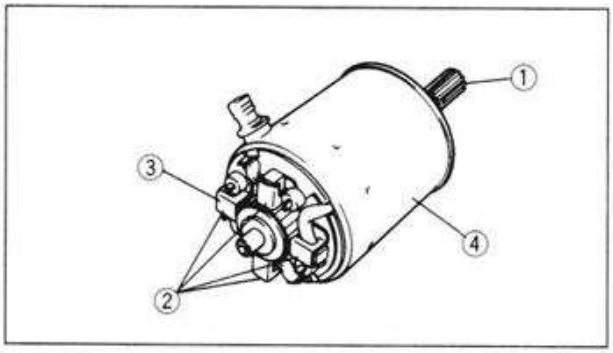
(1) 取外し

1. 取外し
・スタータモータ
5-28ページを参照。



(2) 分解

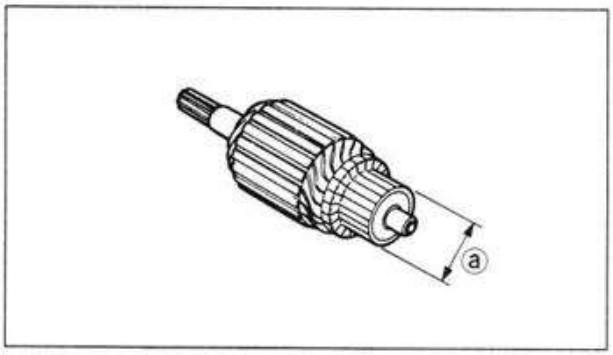
1. 取外し
・通しボルト①
・フロントブラケット②
・リヤブラケット③



2. 取外し
・アーマチュア①
・ブラシ②
・ブラシホルダ③
・ヨークAss'y④

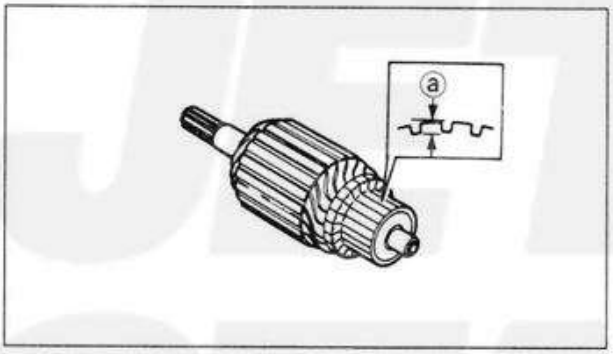
(3) 点検

1. 点検
・コンミュテータ
汚れ→#600のサンドペーパーで磨く。



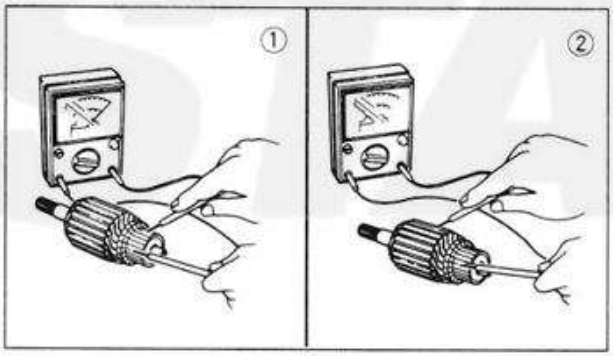
2. 測定
・コンミュテータの直径ⓐ
規定値でない場合→交換。

直径摩耗限度
27mm



3. 測定
・コンミュテータのアンダーカットの深さⓐ
規定値でない場合→アンダーカットの深さが規定値になるまで切込む。

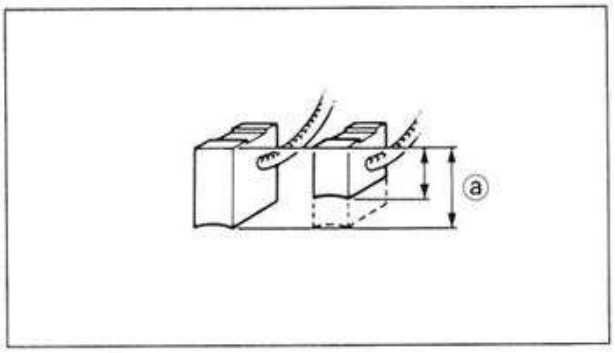
アンダーカット深さ
0.2～0.7mm



4. 点検
・アーマチュアコイル
欠陥→交換。

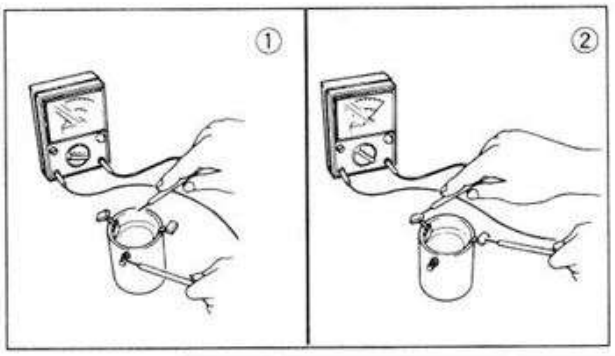
点検手順
・テスタのテスタ棒を、コンミュテータの各セグメント（図①）に接続する。
導通なし→交換。
・テスタの一方のテスタ棒をコアに、もう一方をコンミュテータのセグメント（図②）に接続する。
導通→交換。

WWW.JET-STAR.JP



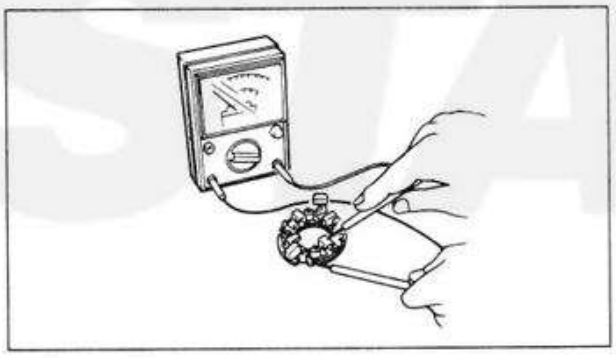
5. 測定
・ブラシの長さⓐ
規定値でない場合→交換。

	ブラシ摩耗限度 5mm



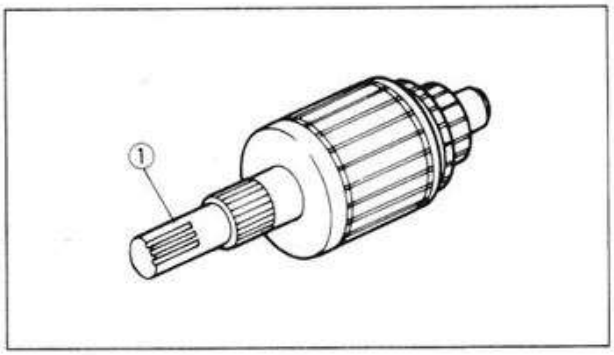
6. 点検
・フィールドコイル
欠陥→交換。

点検手順
・テスタの一方のテスタ棒を十端子に、もう一方をスタータボディ（図①）に接続する。
導通→交換。
・ポケットテスタのテスタ棒を、コンミュテータの各セグメント（図②）に接続する。
導通なし→交換。



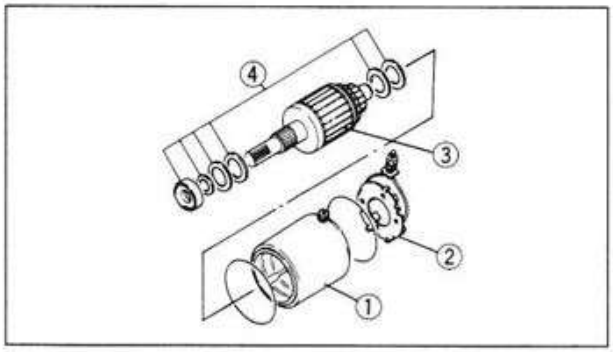
7. 点検
・ブラシホルダ
欠陥→交換。

点検手順
・テスタの一方のテスタ棒をブラシホルダベースに、もう一方をアースに接続する。
導通→交換。



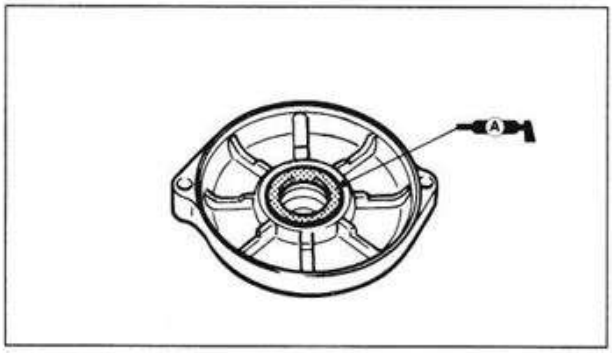
8. 点検
・ピニオン①
摩耗／損傷→交換。
・オイルシール
欠陥→交換。

WWW.JET-STAR.JP

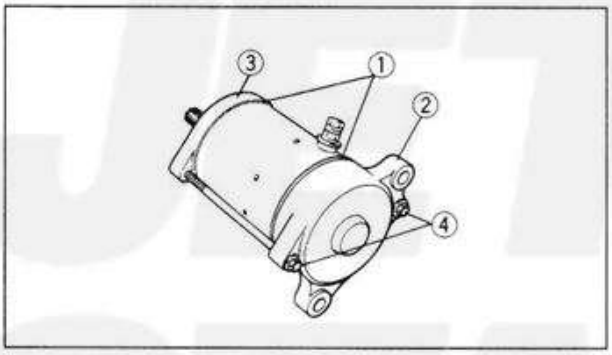


(4) 組立

1. 組付
・ヨークAss'y①
・ブラシホルダ②
・アーマチュア③
・ワッシャキット④

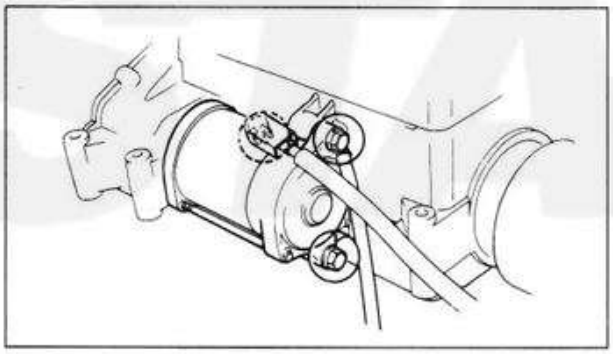


2. 塗布
・耐水グリース（ヤマハマリングリースA）
フロントブラケットのオイルシールリップ部へ塗布。



3. 組付
・ガスケット①
・リヤブラケット②
・フロントブラケット③
・通しボルト④

要点
フロントブラケットの合いマークとヨークAss'yの合いマークを合わせます。



(5) 組付

1. 組付
・スタータモータAss'y
・ボルト
・⊕リード線

要点
オイルシールに耐水グリースを塗布します。

	⊕端子ナット 0.5kgf·m （5Nm）

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

第8章　艤装品

1. エキゾーストシステム ……8-1
(1) 取外し前の準備 ……8-1
(2) 点検 ……8-2
(3) 組付 ……8-2

2. ステアリングシステム ……8-3
(1) 点検 ……8-4
(2) 組付 ……8-5

3. ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル …8-9
(1) 取外し前の準備 ……8-9
(2) 取外し ……8-10
ステアリングケーブル ……8-10
スロットルケーブル ……8-11
(3) 点検 ……8-11
(4) 組付 ……8-11
ステアリングケーブル ……8-11
スロットルケーブル ……8-13
チョークケーブル ……8-13

4. トリムコントロールケーブル ……8-14
(1) 取外し前の準備 ……8-14
(2) 取外し ……8-15
プルケーブル1.2 ……8-15
トリムコントロールケーブル ……8-16
(3) 点検 ……8-16
(4) 組付 ……8-17
プルケーブル1.2 ……8-17
トリムコントロールケーブル ……8-19

5. ガンネル／マット ……8-20
(1) 点検 ……8-21
(2) 組付 ……8-21

6. エンジンハッチ ……8-23
(1) 取外し前の準備 ……8-23
(2) 点検 ……8-24
(3) 組付 ……8-25

7. デッキ ……8-28
(1) 取外し前の準備 ……8-28
(2) 点検 ……8-29
(3) 組付 ……8-30

WWW.JET-STAR.JP

8. ベンチレーションシステム ……8-32
(1) 取外し前の準備 ……8-32
(2) 点検 ……8-33
(3) 組付 ……8-33

JET STAR

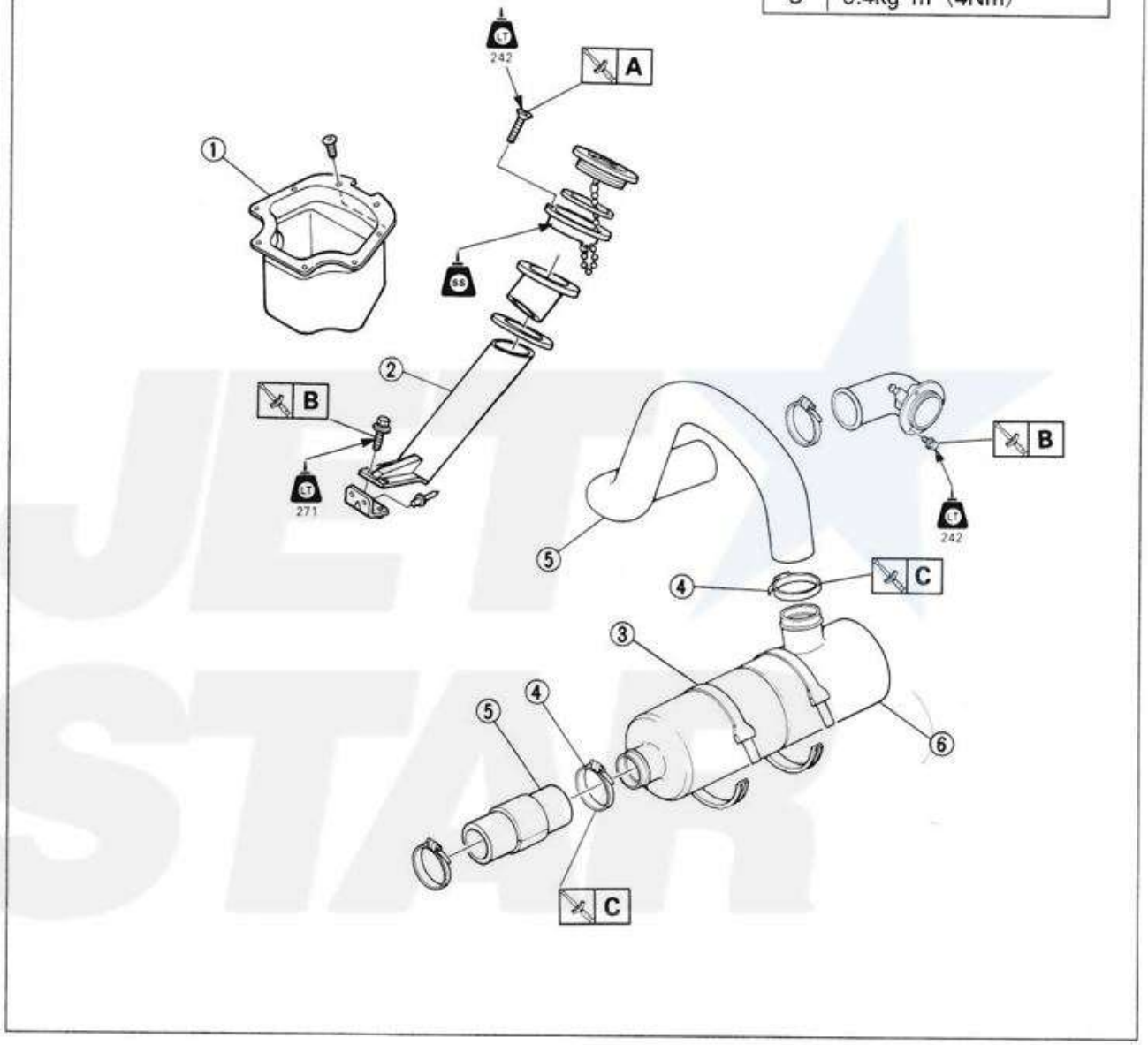
エキゾーストシステム

1. エキゾーストシステム

(1) 取外し前の準備

・シートを取外す。

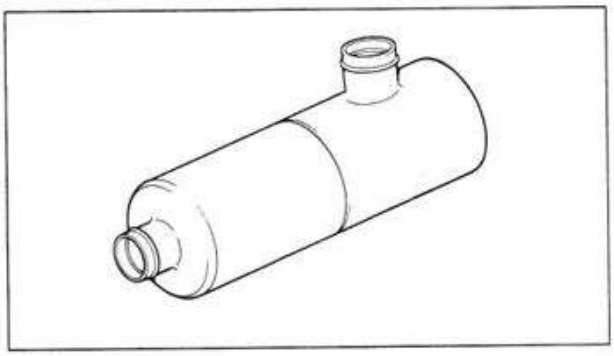
A	0.1kg·m (1Nm)
B	0.3kg·m (3Nm)
C	0.4kg·m (4Nm)



〈取外しの範囲〉①ウォータロックの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	ストレージボックス	1	
	2	消火器ボックス	1	
	3	バンド	2	
	4	クランプ	2	スクリュを緩める。
	5	ホース	2	ウォータロック側で取外す。
	6	ウォータロック	1	

WWW.JET-STAR.JP



(2) 点検

2. 点検

・ウォータロック

亀裂／漏れ→交換。

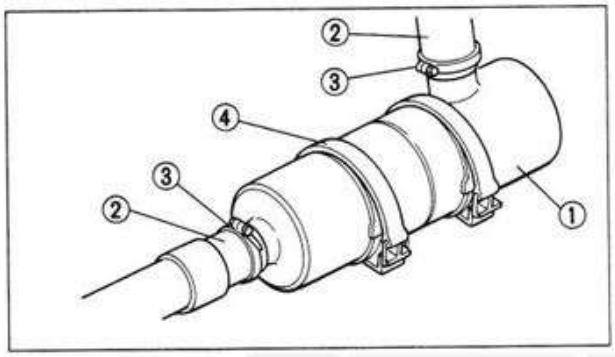
水溜まり→水抜き。

・ホース

亀裂／摩耗／焼け→交換。

・バンド

亀裂→交換。



(3) 組付

1. 組付

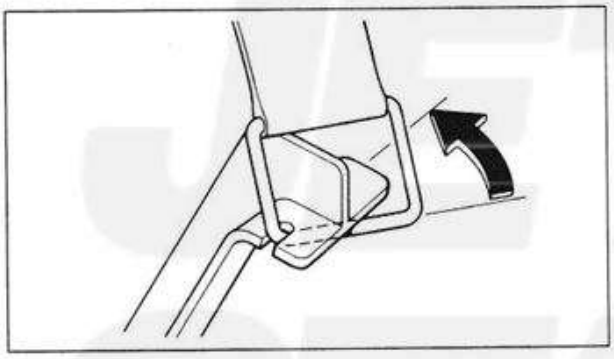
・ウォータロック①

・ホース②

・クランプ③

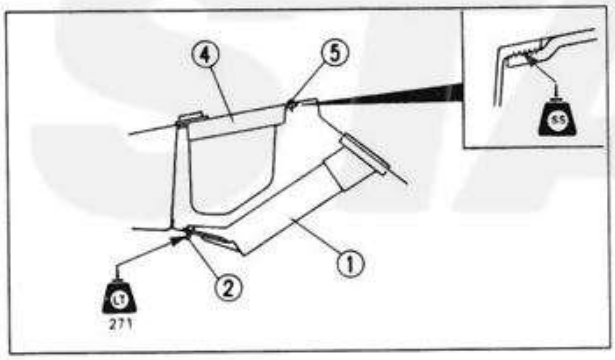
・バンド④

クランプ
0.4kgf·m（4Nm）



要点

バンド金具の角部を、フック凹部にはめた後、金具をひねりフックに取り付けます。



2. 組付

消火器ボックス①

ボルト②

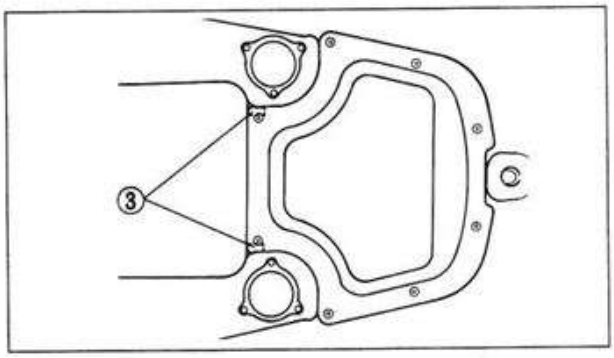
パッキン③

ストレージボックス④

スクリュウ⑤

要点

斜線部にシリコンシーラントを塗布します。



注意

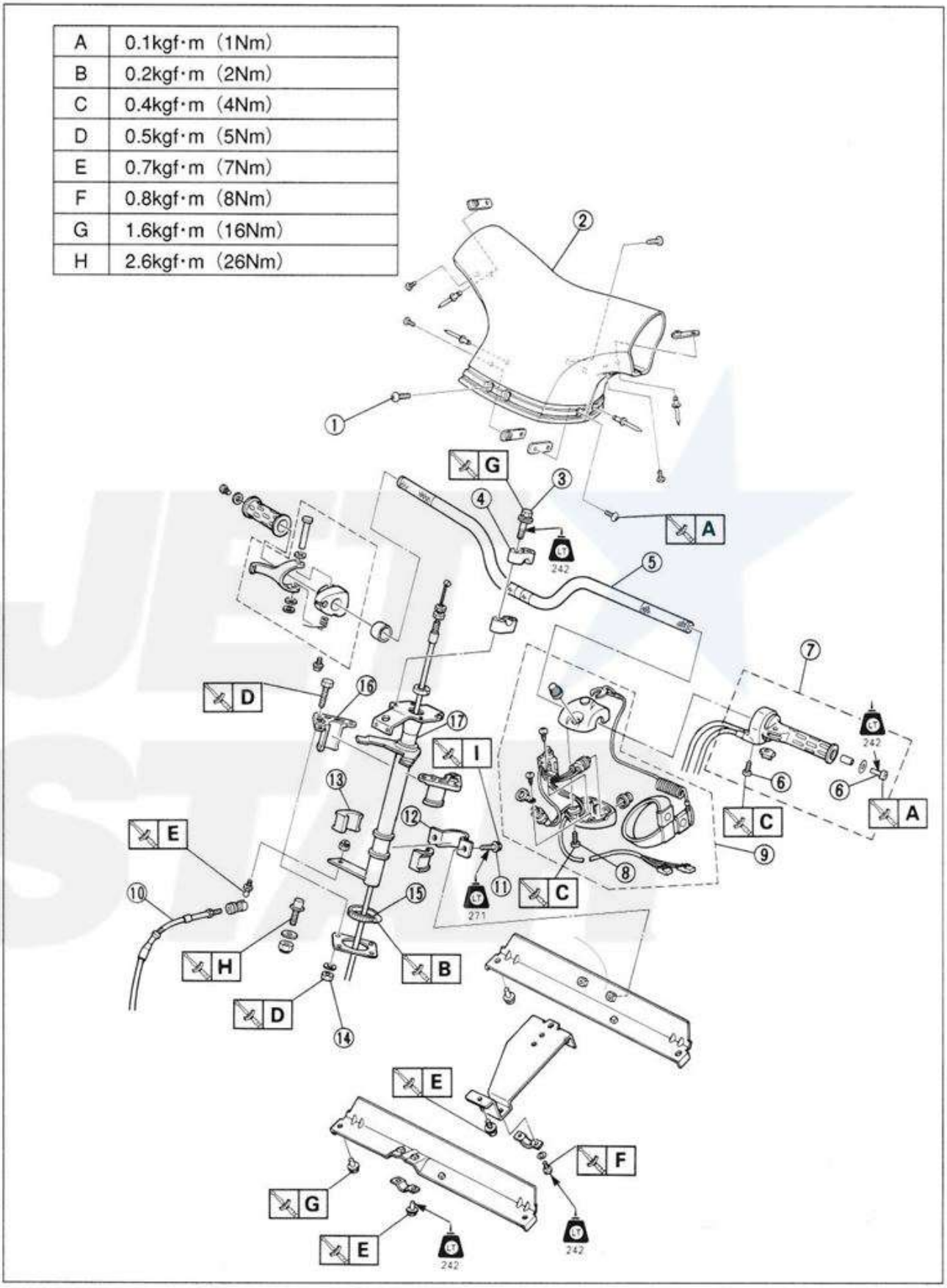
ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

ボルト
0.3kgf·m（3Nm）

WWW.JET-STAR.JP

2. ステアリングシステム

A	0.1kgf·m（1Nm）
B	0.2kgf·m（2Nm）
C	0.4kgf·m（4Nm）
D	0.5kgf·m（5Nm）
E	0.7kgf·m（7Nm）
F	0.8kgf·m（8Nm）
G	1.6kgf·m（16Nm）
H	2.6kgf·m（26Nm）

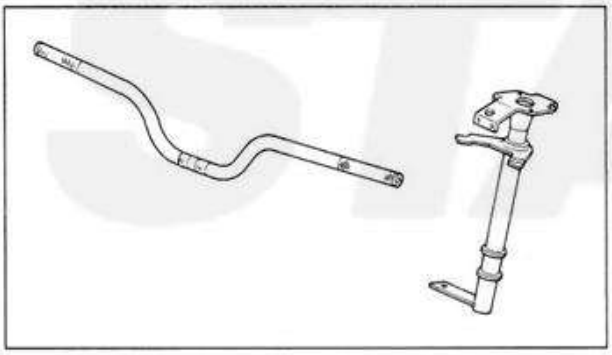


WWW.JET-STAR.JP

ステアリングシステム

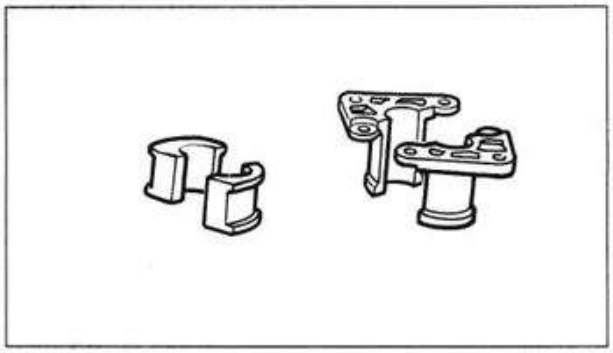
〈取外しの範囲〉①ハンドルバーの取外し　②ハンドルコラムの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	ボルト	8	
	2	ステアリングパッド	1	
	3	ボルト	4	
	4	ハンドルバーホルダー	2	
	5	ハンドルバー	1	
②	6	スクリュ	2	
	7	トリムコントロールグリップAss'y	1	ホイール側で取外す。
	8	スクリュ	2	
	9	ハンドルスイッチAss'y	1	ハンドルスイッチのカプラを外す。
	10	ステアリングケーブル	1	ケーブルを取外す。
	11	ボルト	2	
	12	ベアリングジョイント	1	
	13	ベアリング	2	
	14	ナット	4	
	15	クランプ	1	スクリュを緩める。
	16	コラムベアリング	2	
	17	ハンドルコラム	1	



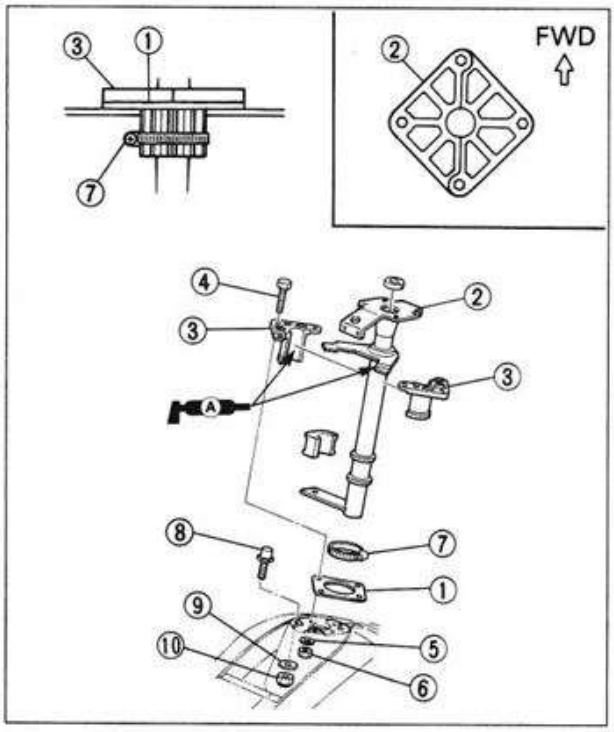
(1) 点検

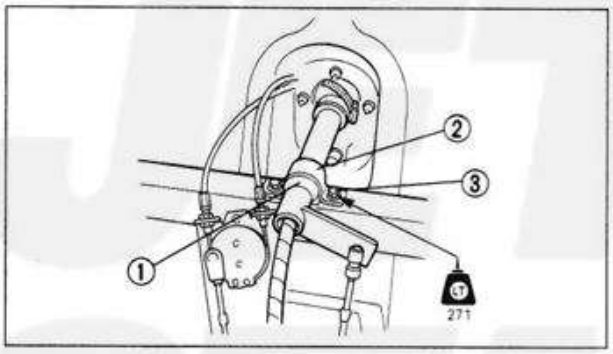
1. 点検
・ハンドルバー
・ハンドルコラム
曲がり／亀裂／損傷→交換。



2. 点検
・ベアリング
摩耗／損傷→交換。

WWW.JET-STAR.JP





(2) 組付

1. 組付

・シールラバー①
・ハンドルコラム②
・コラムベアリング③
・ボルト④
・ワッシャ⑤
・ナット⑥
・クランプ⑦
・ストッパピン⑧
・ワッシャ⑨
・ナット⑩

要点

ベアリングコラムとステアリングシャフトに耐水グリースを塗布します。

ナット
0.5kgf·m（5Nm）
クランプ
0.2kgf·m（2Nm）

2. 組付

・ベアリング①
・ベアリングジョイント②
・ボルト③

要点

ベアリングとステアリングシャフトに耐水グリースを塗布します。

⚠注意

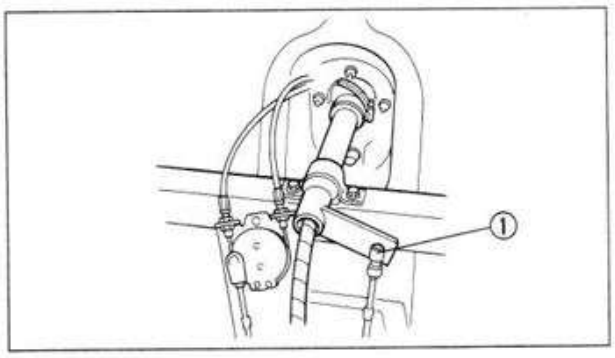
ベアリングジョイントをボルトで締付けたときに、ハンドルコラムがスムースに動くことを確認します。

注意

ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

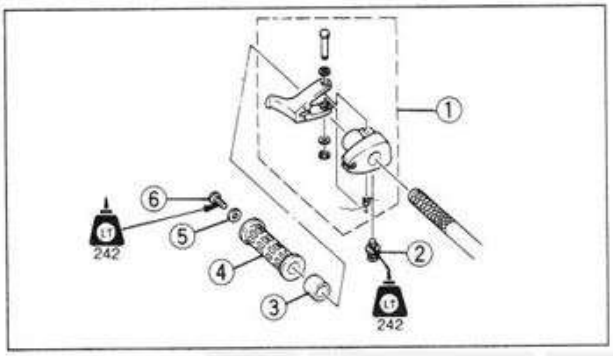
ボルト（ベアリングジョイント）
1.6kgf·m（16Nm）

WWW.JET-STAR.JP



3. 接続
・ステアリングケーブル①

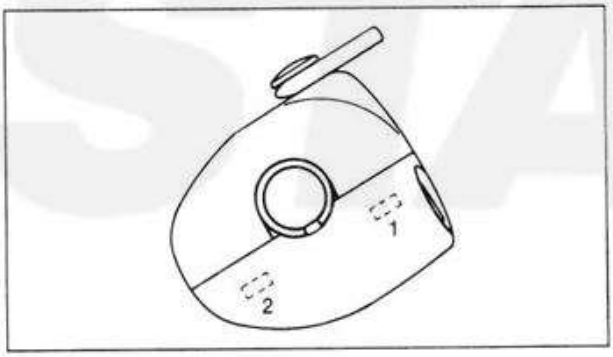
要点
ケーブルジョイントとステアリングケーブルに耐水グリースを塗布します。



4. 組付
・スロットルレバーAss'y①
・スクリュ②
・カラー③
・ハンドルグリップ（右）④
・ワッシャ⑤
・スクリュ⑥

注意
ハンドルバーとハンドルグリップの合面に接着剤を塗布します。

スクリュ（スロットルレバーAss'y）
0.2kgf·m（2Nm）
スクリュ（ハンドルグリップ）
0.1kgf·m（1Nm）

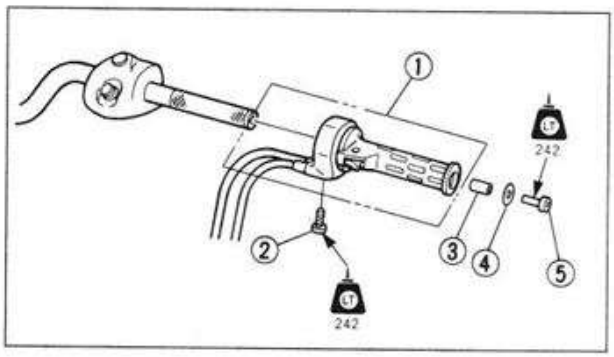


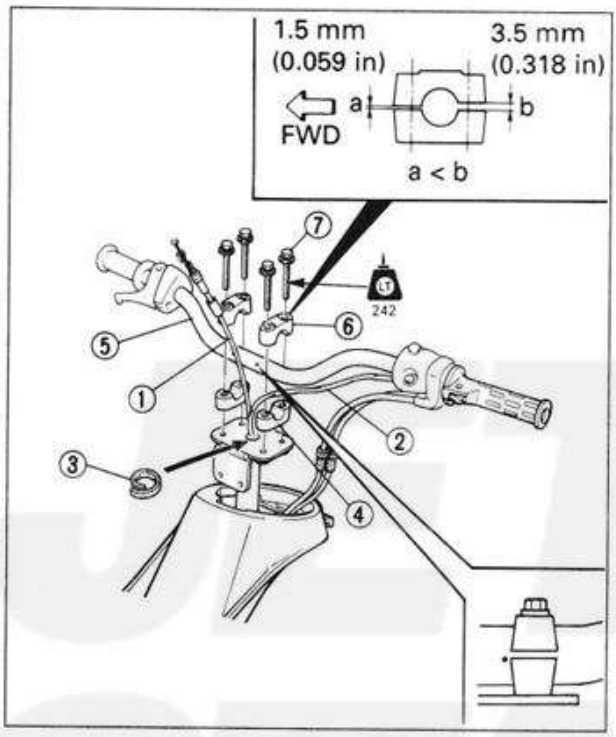
5. 組付
・ハンドルスイッチAss'y
・スクリュ

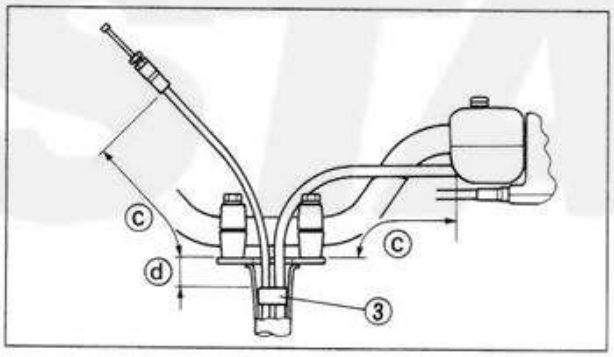
要点
最初にハンドルスイッチAss'yのエンジンストップスイッチ側のスクリュを締付け、次にスタータスイッチ側のスクリュを締付けます。

スクリュ
0.4kgf·m（4Nm）

WWW.JET-STAR.JP







6. 組付
- トリムコントロールグリップAss'y①
- スクリュ②
- カラー③
- ワッシャ④
- スクリュ⑤

スクリュ
（トリムコントロールグリップAss'y）
0.4kgf·m（4Nm）
スクリュ（グリップ）
0.1kgf·m（1Nm）

7. 組付
- スロットルケーブル①
- ハンドルスイッチリード線②
- パッキン③
- ハンドルホルダ④
- ハンドルバー⑤
- ハンドルホルダ⑥
- ボルト⑦

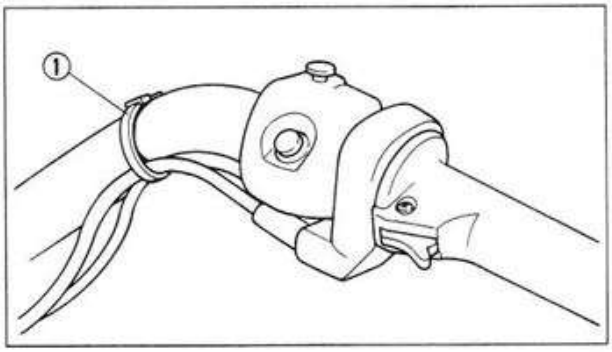
要点
- リード線とケーブルをハンドルコラムのパイプに通します。
- パッキンがシャフトからはみ出さないようにします。
- ハンドルホルダ（上側）のポンチマークを、バウ側に向けて組付けます。
- ハンドルバーのポンチマークが、ハンドルホルダ（下側）の上面と合うようにします。

注意
ハンドルホルダの隙間（ⓐ とⓑ）は、ⓐ が ⓑ より狭くなるように調整して、規定トルクでボルトを締付けます。

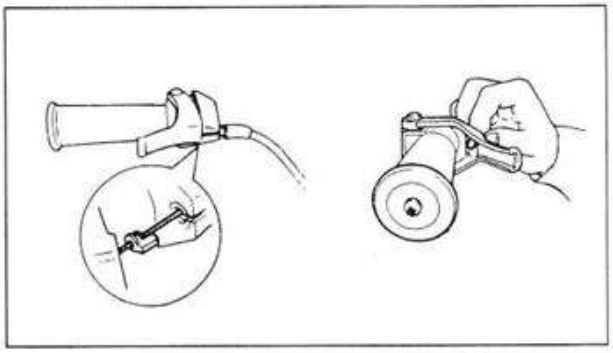
ボルト
1.6kgf·m（16Nm）

セット長さⓒ
200mm
セット長さⓓ
20mm

WWW.JET-STAR.JP

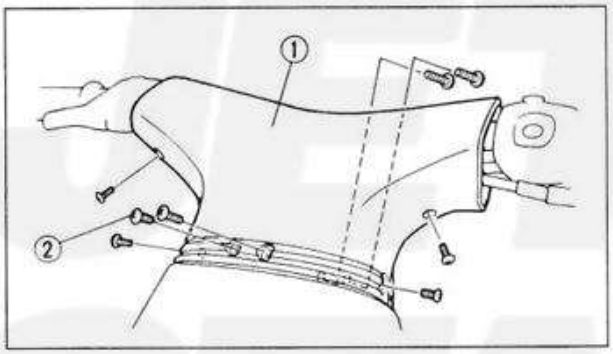


8. 組付
・クランプ①



9. 接続
・スロットルケーブル

10. 調整
・スロットルケーブルの遊び
3-9ページを参照。



11. 組付
・ステアリングパッド①
・スクリュ②

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

スクリュ
0.1kgf·m（1Nm）

WWW.JET-STAR.JP

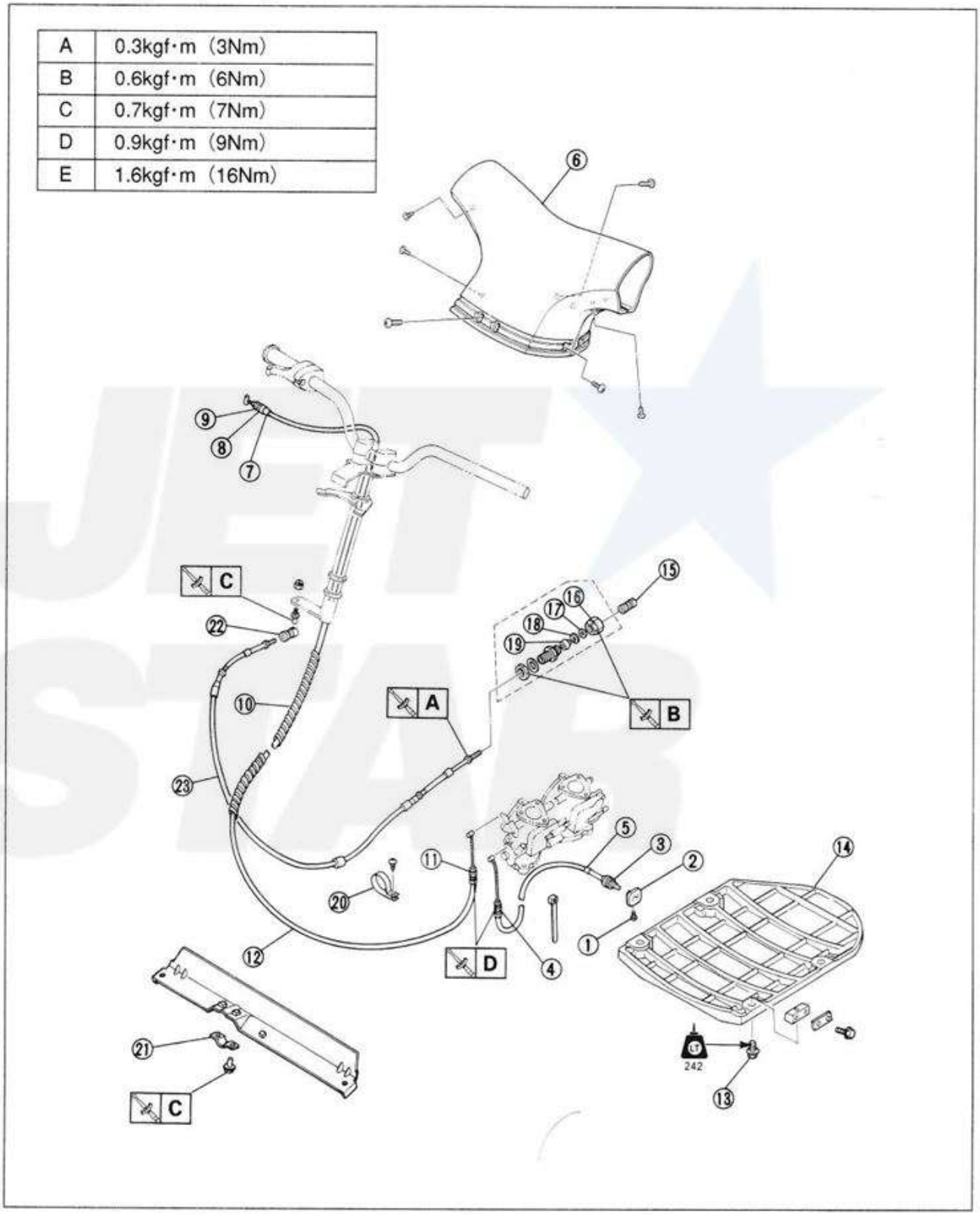
ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル

3. ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル

(1) 取り外し前の準備

・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。
・ガソリンを抜く。
・バッテリのリード線を外す。

A	0.3kgf·m (3Nm)
B	0.6kgf·m (6Nm)
C	0.7kgf·m (7Nm)
D	0.9kgf·m (9Nm)
E	1.6kgf·m (16Nm)

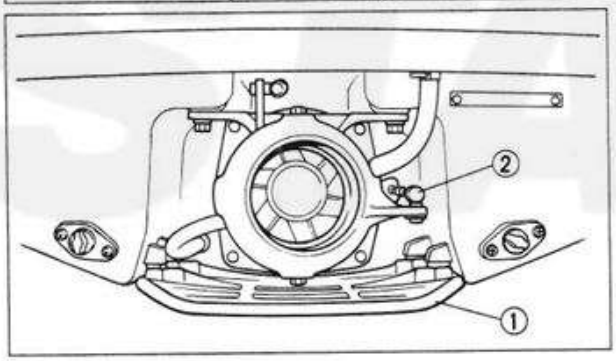


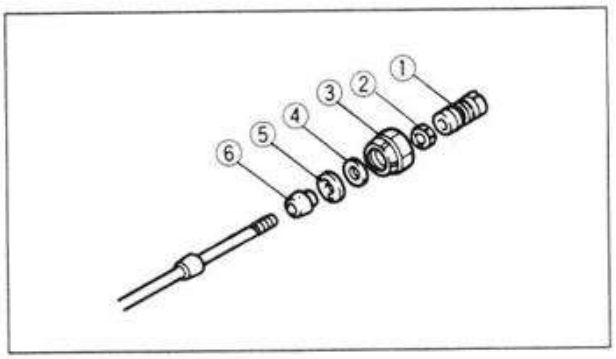
WWW.JET-STAR.JP

艤装品 ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル

〈取外しの範囲〉①チョークケーブルの取外し ②スロットルケーブルの取外し
③ステアリングケーブルの取外し

区分	No.	部品名	個数	備考
①	1	スクリュ	1	
	2	チョークノブ	1	
	3	アジャストナット	1	
	4	ロックナット	1	
	5	チョークケーブル	1	
②	6	ステアリングパッド	1	
	7	シール	1	(2) 取外しを参照。
	8	ロックナット	1	
	9	アジャスタ	1	
	10	スパイラルチューブ	1	
②	11	ロックナット	1	
	12	スロットルケーブル	1	
	13	ボルト	4	
	14	ライドプレート	1	
	15	ケーブルジョイント	1	(2) 取外しを参照。
	16	キャップ	1	
	17	ワッシャ	1	
	18	ストッパ	1	
	19	シール	1	
	20	クランプ	1	
③	21	ケーブルストッパ	1	
	22	ケーブルジョイント	1	ケーブルジョイントを外す。
	23	ステアリングケーブル	1	





(2) 取外し
ステアリングケーブル
1. 取外し
・ライドプレート①
6-2ページを参照。

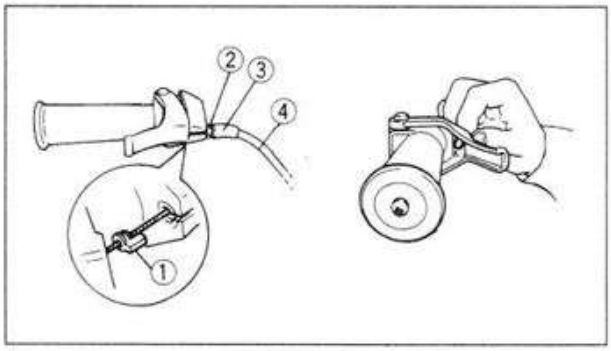
2. 取外し
・ケーブルジョイント②

要点
アウタースリーブをスライドさせ、ケーブルジョイントを取外します。

3. 取外し
・ケーブルジョイント①
・ロックナット②
・キャップ③
・ワッシャ④
・ストッパ⑤
・シール⑥

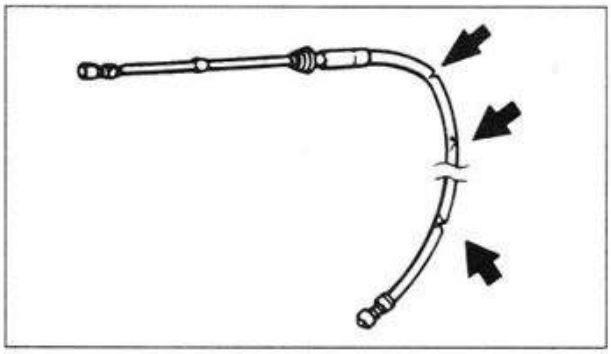
WWW.JET-STAR.JP

ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル



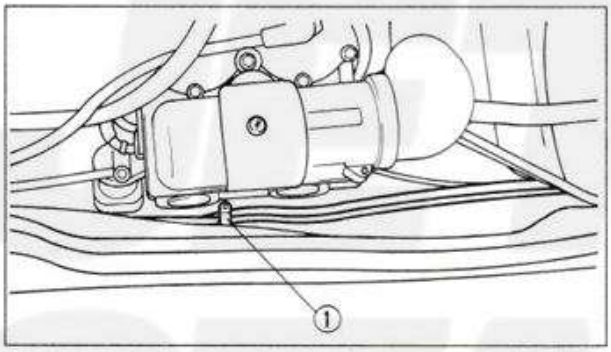
スロットルケーブル

1. 取外し
・シール①
・ロックナット②
・アジャスター③
・スロットルケーブル④



(3) 点検

1. 点検
・ステアリングケーブル
・スロットルケーブル
・チョークケーブル
よじれ／こすれ／固着→交換。

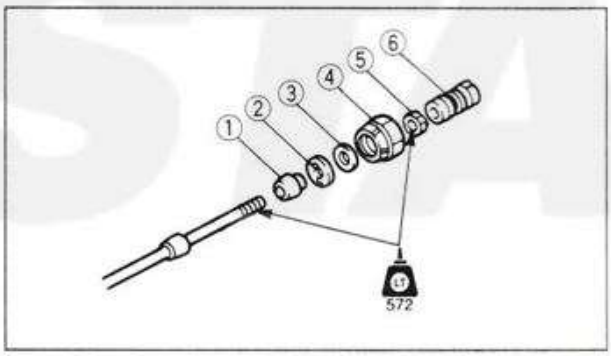


(4) 組付

ステアリングケーブル

1. 組付
・クランプ①
2-7ページを参照。

2. 組付　（ノズル側）
・シール①
・ストッパ②
・ワッシャ③
・キャップ④
・ロックナット⑤
・ケーブルジョイント⑥

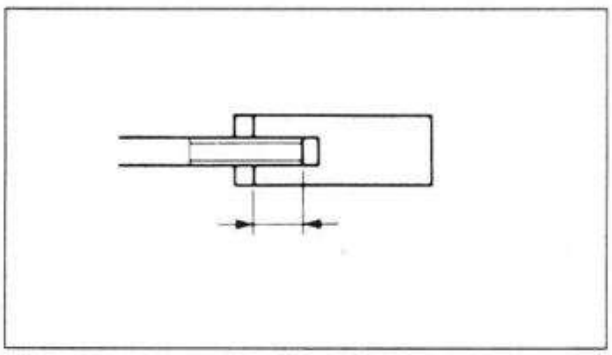


⚠注意

ケーブルジョイントは8mm以上締込みます。

注意

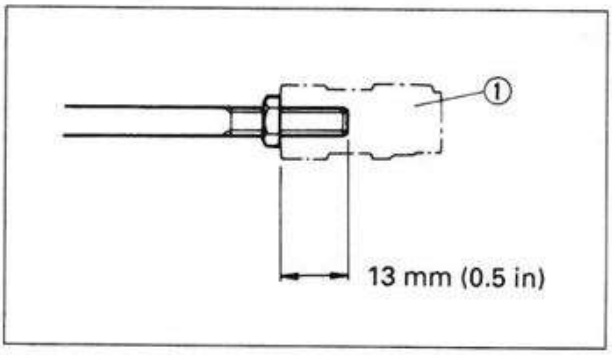
ロックナットとケーブルジョイントにロックタイトNo.572を塗布します。



キャップ
0.6kgf·m（6Nm）
ロックナット
0.3kgf·m（3Nm）

WWW.JET-STAR.JP

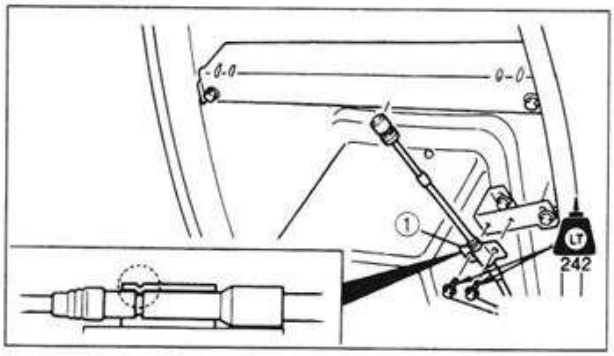
ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル



3. 組付
・ケーブルジョイント①
（ハンドル側）

要点

ケーブルジョイントを、ステアリングケーブルの端から13mm程度締込み、ロックナットで仮締めする。



4. 組付
・ケーブルストッパ①
・ボルト②

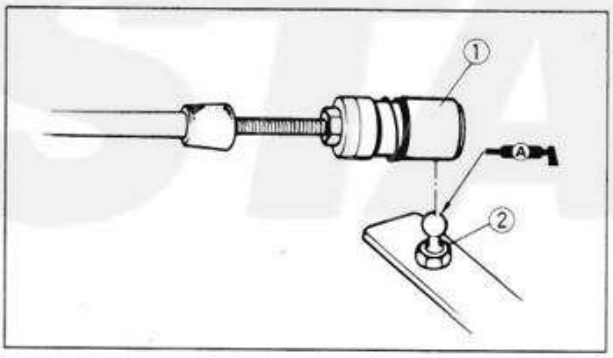
⚠注意

ケーブルストッパの突起部をアウターケーブルのくぼみに合わせます。

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ボルト
0.7kgf·m（7Nm）



5. 接続
・ケーブルジョイント①

要点

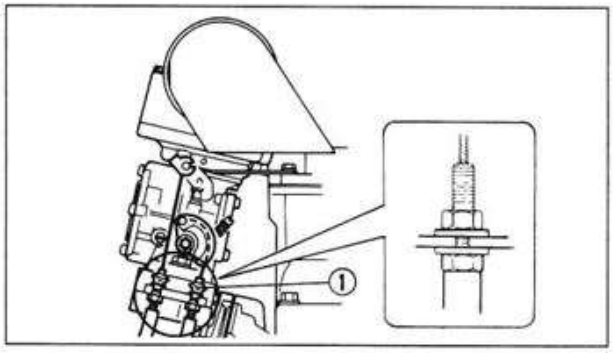
ケーブルジョイントとステアリングケーブルに耐水グリースを塗布します。

6. 調整
・ステアリングケーブル
3-12ページを参照。

7. 組付
・ライドプレート
6-10ページを参照。

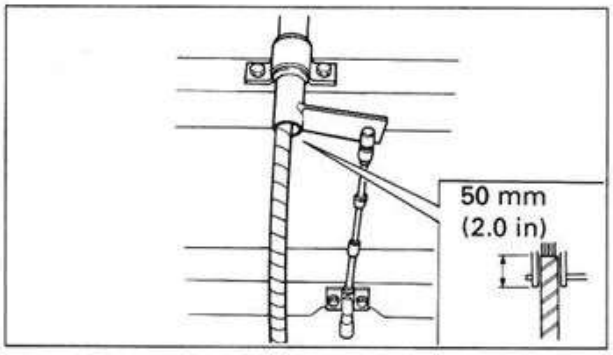
WWW.JET-STAR.JP

艤装品 ステアリングケーブル／スロットルケーブル／チョークケーブル



スロットルケーブル

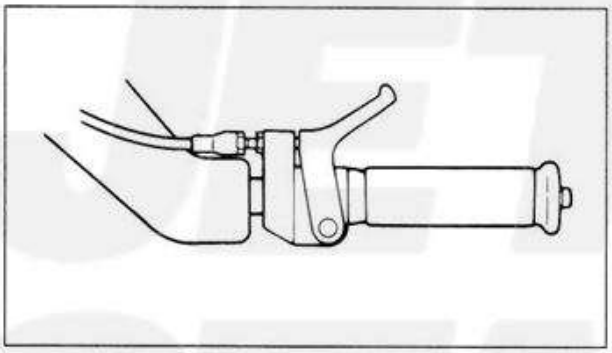
1. 組付
・スロットルケーブル①
4-13ページを参照。



2. 組付
・スパイラルチューブ
2-8、2-9ページを参照。

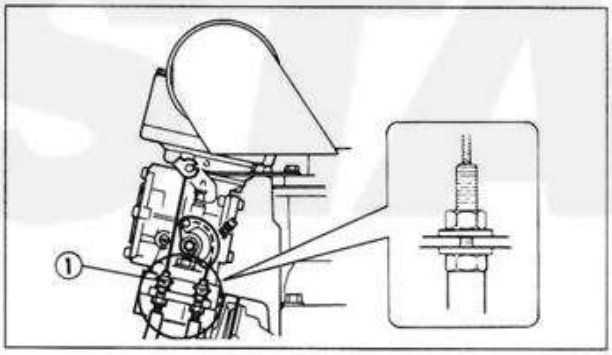
要点

・スパイラルチューブの端を、50mm以上ステアリングシャフトに挿入します。



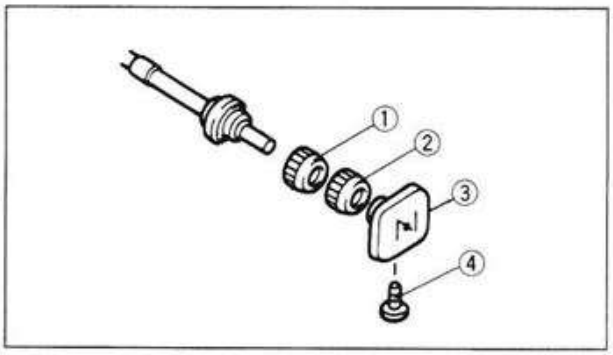
3. 組付
・スロットルケーブル
・パッキン
・ステアリングパッド
・スクリュ
8-7～8-8ページを参照。

4. 調整
・スロットルケーブルの遊び
3-9ページを参照。



チョークケーブル

1. 組付
・チョークケーブル①
4-13ページを参照。



2. 組付
・ロックナット①
・アジャスタ②
・チョークノブ③
・スクリュ④

3. 調整
・チョークノブの遊び
・アジャストナット
3-10ページを参照。

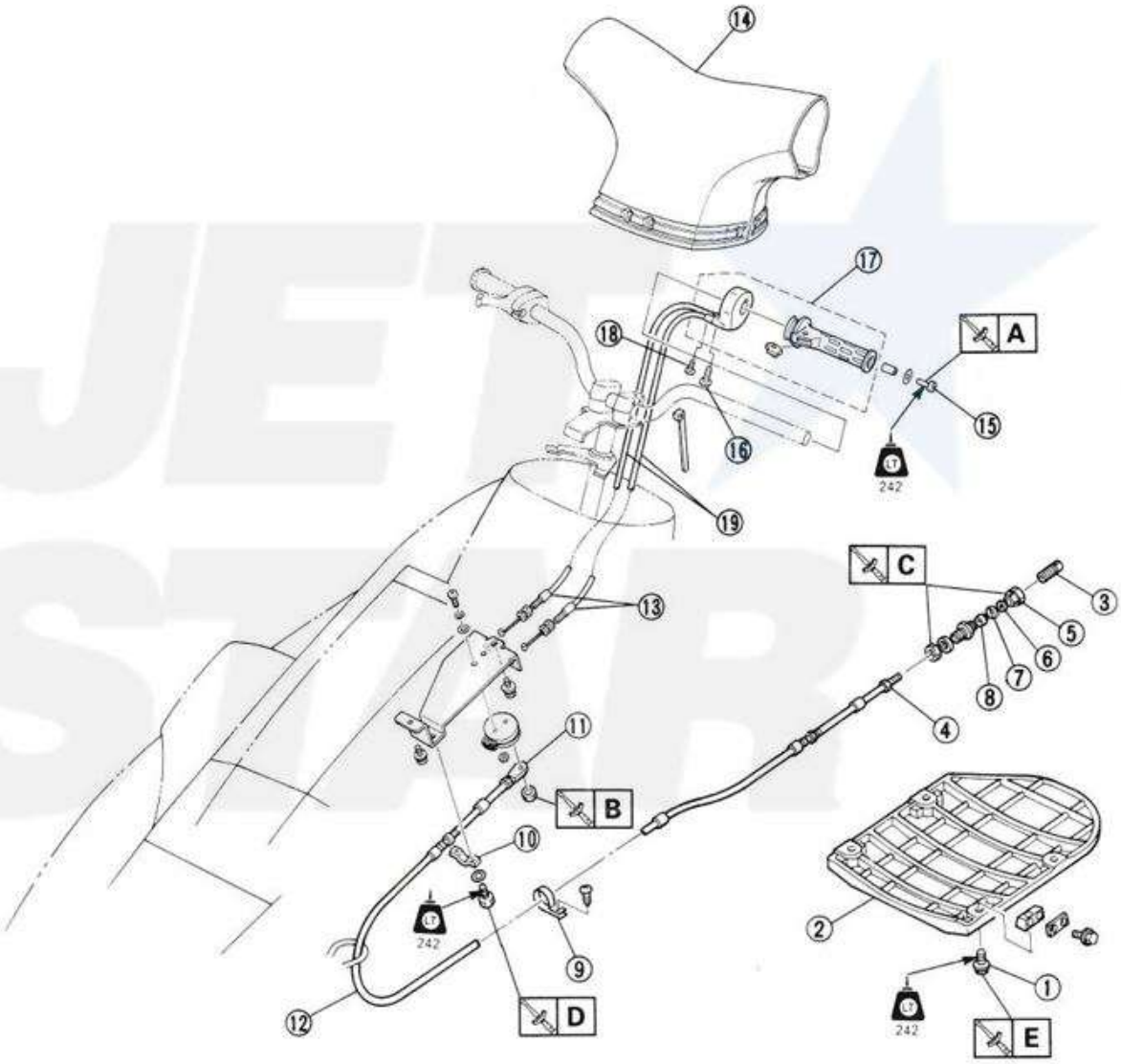
WWW.JET-STAR.JP

4. トリムコントロールケーブル

(1) 取り外し前の準備

・ジェットポンプユニットを取外す。

A	0.1kgf·m (1Nm)
B	0.4kgf·m (4Nm)
C	0.6kgf·m (6Nm)
D	0.7kgf·m (7Nm)
E	1.6kgf·m (16Nm)

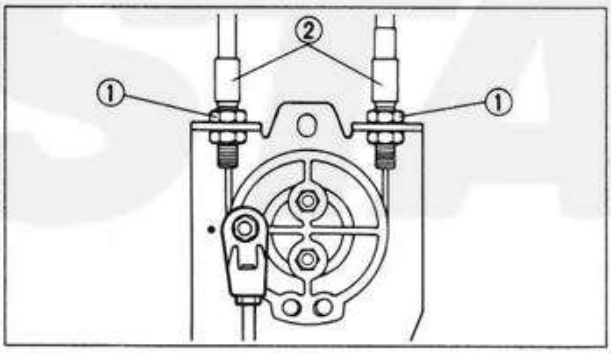


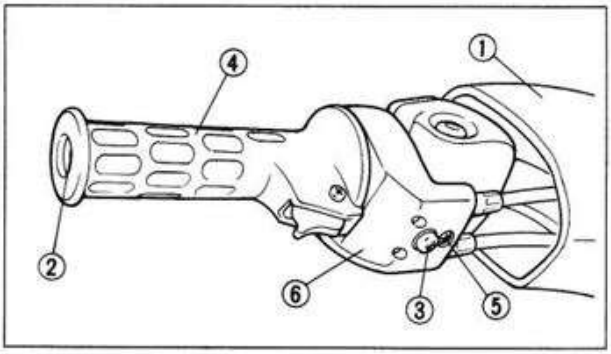
WWW.JET-STAR.JP

トリムコントロールケーブル

〈取外しの範囲〉①ハンドルバーの取外し　②ハンドルコラムの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　　考
①	1	ボルト	4	
	2	ライドプレート	1	
	3	ケーブルジョイント	1	
	4	ロックナット	1	
	5	キャップ	1	(2) 取外しを参照。
	6	ワッシャ	1	
	7	ストッパ	1	
	8	シール	1	
	9	クランプ	1	
	10	ケーブルストッパ	1	
	11	ケーブルジョイント	1	
	12	トリムコントロールケーブル	1	
	13	ロックナット	2	ホイール側で外す。
	14	ステアリングパッド	1	
②	15	スクリュ	1	(2) 取外しを参照。
	16	スクリュ	1	
	17	トリムコントロールグリップAss'y	1	
	18	スクリュ	1	
	19	プルケーブル	2	





(2) 取外し
プルケーブル1、2

1. 取外し
・ロックナット①
・プルケーブル②

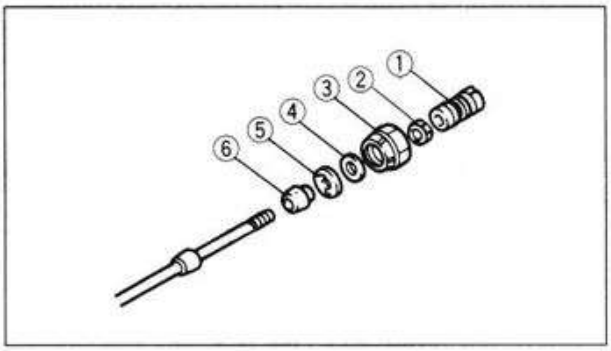
2. 取外し
・ステアリングパッド①
・スクリュ②
・スクリュ③
・トリムコントロールグリップAss'y④
・スクリュ⑤
・カバー⑥

要点

トリムコントロールグリップAss'yと、プルケーブル1、2を同時に取外します。

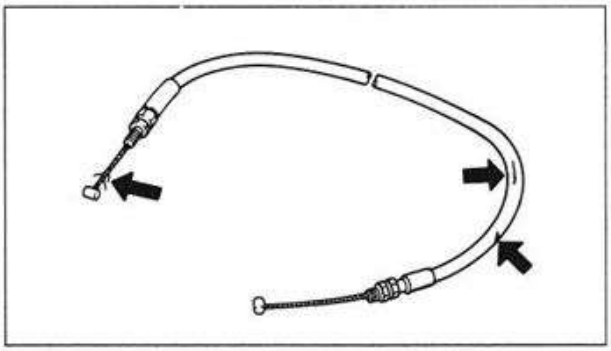
WWW.JET-STAR.JP

トリムコントロールケーブル



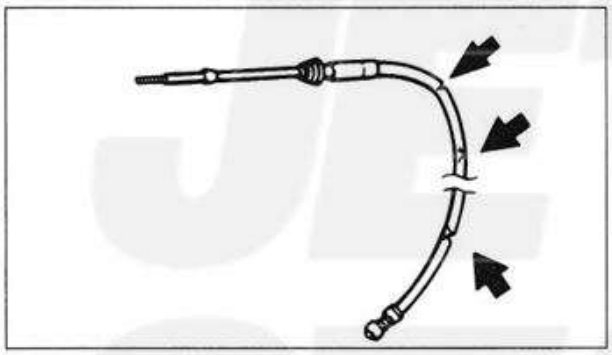
トリムコントロールケーブル

1. 取外し
・ケーブルジョイント（ノズル側）①
・ロックナット②
・キャップ③
・ワッシャ④
・ストッパ⑤
・シール⑥

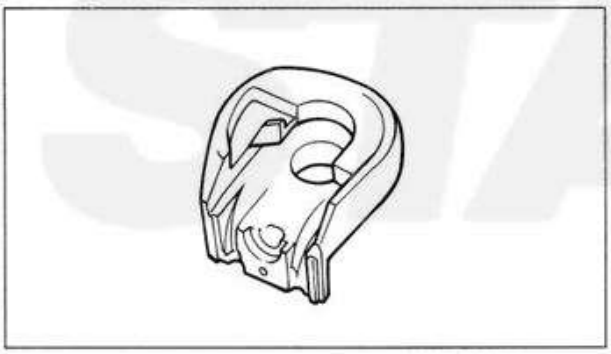


(3) 点検

1. 点検
・プルケーブル1、2
よじれ／こすれ／固着→交換。

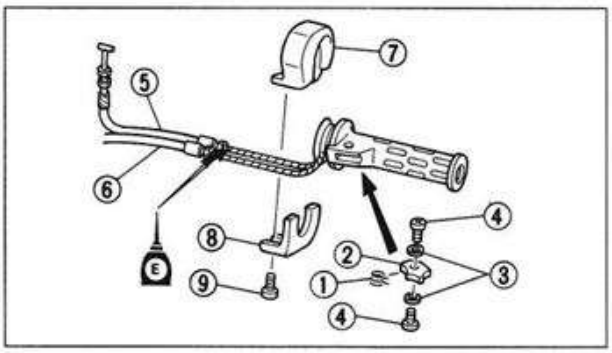


2. 点検
・トリムコントロールケーブル
よじれ／こすれ／固着→交換。



3. 点検
・ハウジング
摩耗／損傷→交換。

WWW.JET-STAR.JP

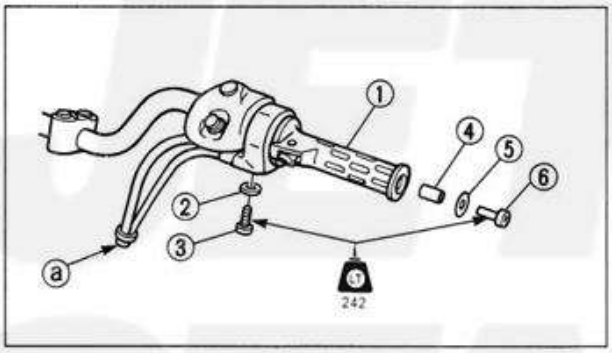


(4) 組付

プルケーブル1、2

1. 組付

・スプリング①
・リリースボタン②
・ワッシャ③
・スクリュ④
・プルケーブル⑤
・ハウジング⑥
・カバー⑦
・スクリュ⑧

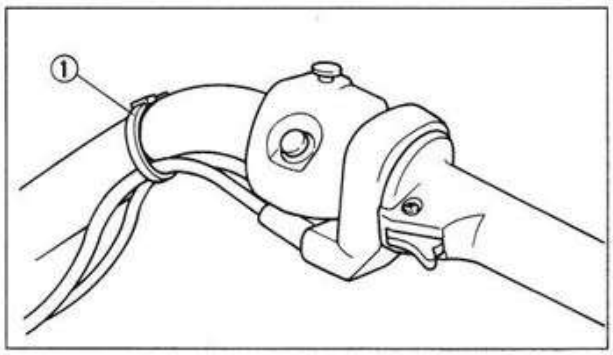


2. 組付

・ハンドルAss'y①
・ワッシャ②
・スクリュ③
・カラー④
・ワッシャ⑤
・スクリュ⑥

要点

トリムコントロールケーブルをエンジンハッチに通してから、パッキン ⓐ で完全に穴をふさぎます。

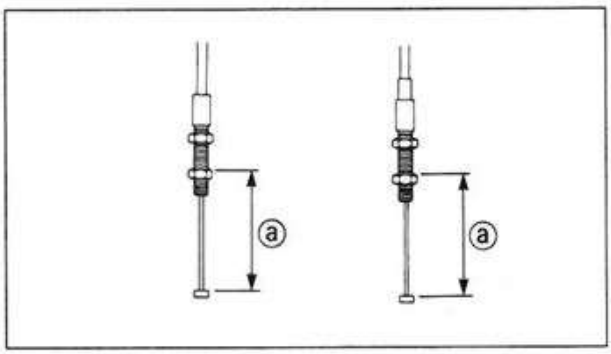


3. 組付

・クランプ①

WWW.JET-STAR.JP

トリムコントロールケーブル

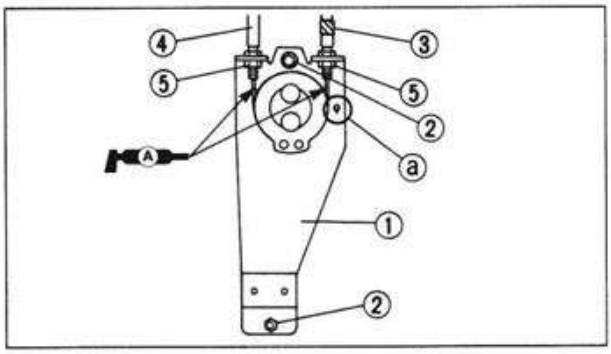


4. 調整

・プルケーブル1、2の取付け長さⓐ

プルケーブルの取付け長さⓐ：

プルケーブルアジャストナット上端からインナケーブル下端の長さ
77.0±0.5mm



5. 組付

・ベースAss'y ①
・ボルト②
・プルケーブル1③
・プルケーブル2④
・ロックナット⑤

要点

プルケーブル1（白テープ）を、ベースの“D”マーク側に組付けます。

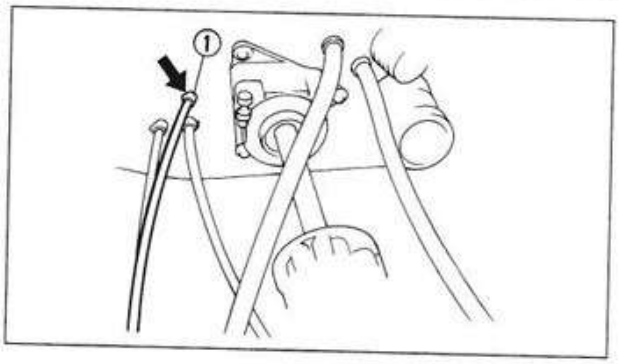
注意

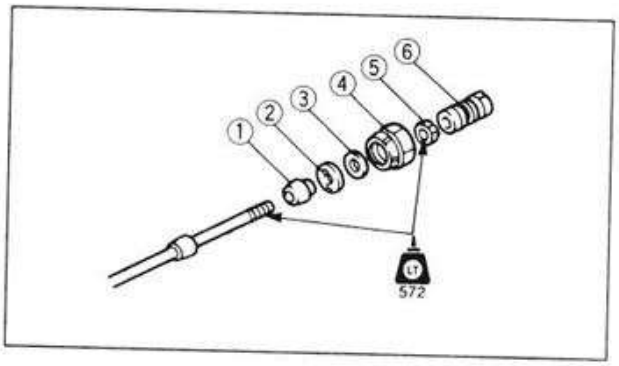
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

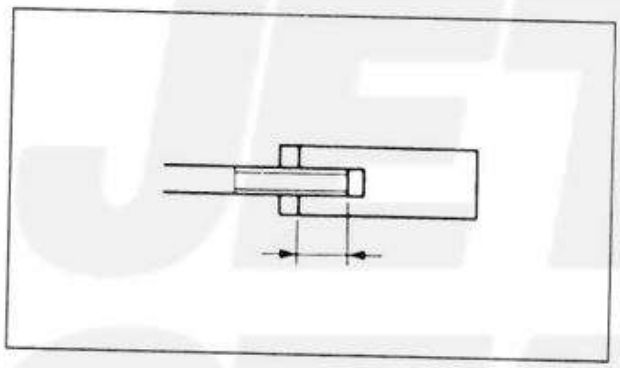
ボルト
0.7kgf·m（7Nm）

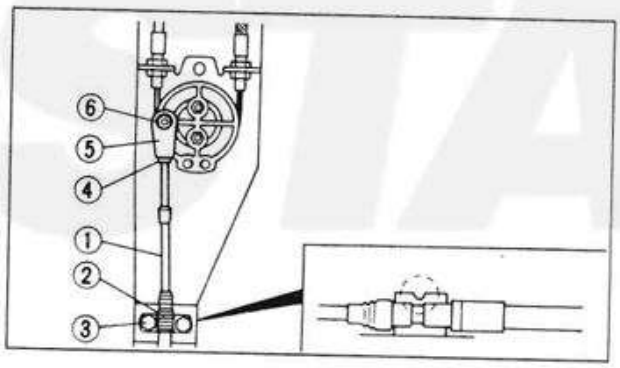
WWW.JET-STAR.JP

トリムコントロールケーブル









トリムコントロールケーブル

1. 組付
・パッキン①

2. 組付
・シール①
・ストッパ②
・ワッシャ③
・キャップ④
・ロックナット⑤
・ケーブルジョイント⑥

⚠注意
ケーブルジョイントは8mm以上締込みます。

注意
ロックナットとケーブルジョイントにロックタイトNo.572を塗布します。

キャップ
0.6kgf·m（6Nm）

3. 組付
・トリムコントロールケーブル①
・ケーブルストッパ②
・ボルト③
・ロックナット④
・ケーブルジョイント⑤
・ナット⑥

ボルト
0.8kgf·m（8Nm）
ナット
0.4kgf·m（4Nm）

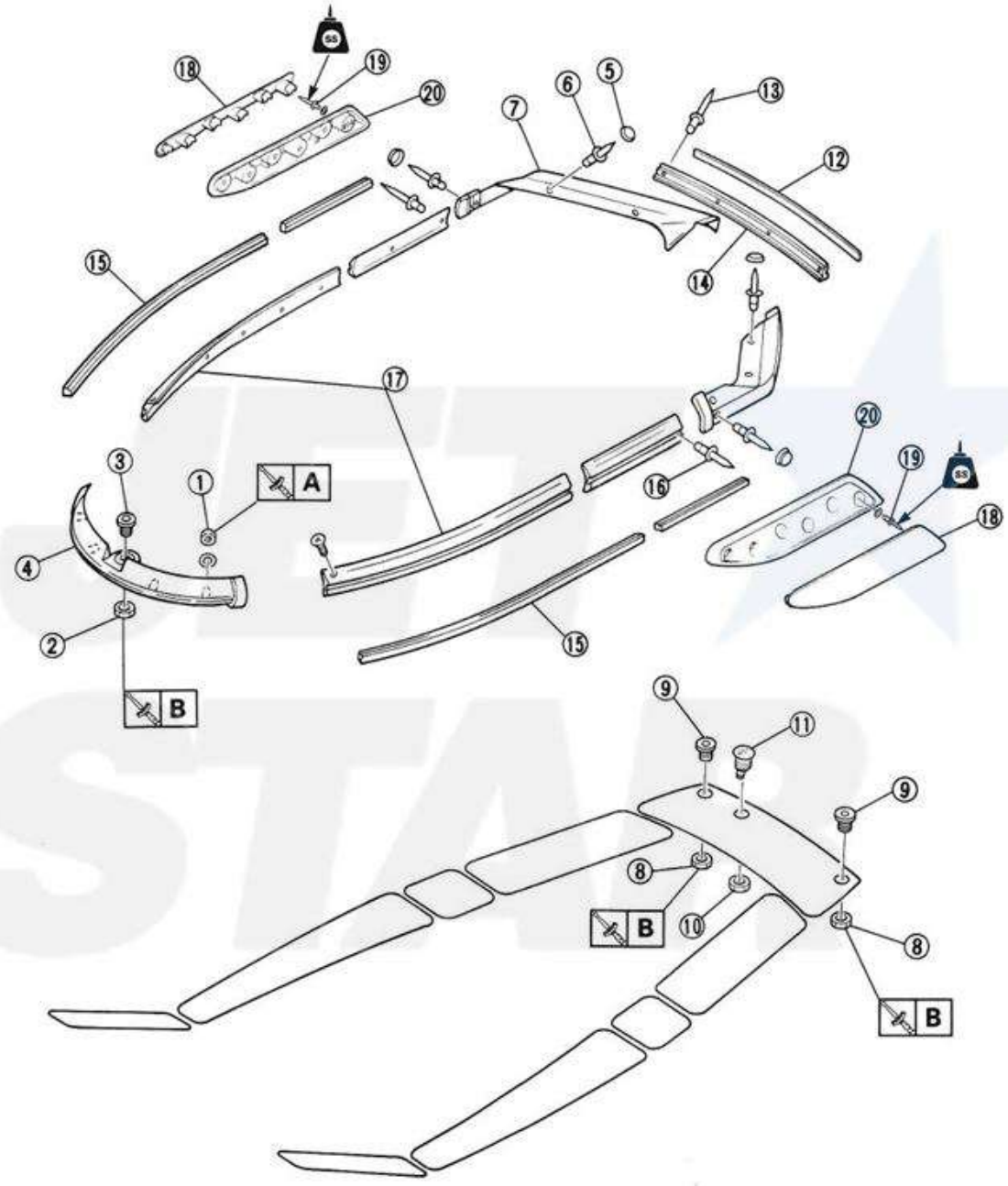
⚠注意
ケーブルストッパの突起部をアウターケーブルのくぼみに合わせます。

注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

5. ガンネル／マット

A	0.2kgf·m（2Nm）
B	0.6kgf·m（6Nm）

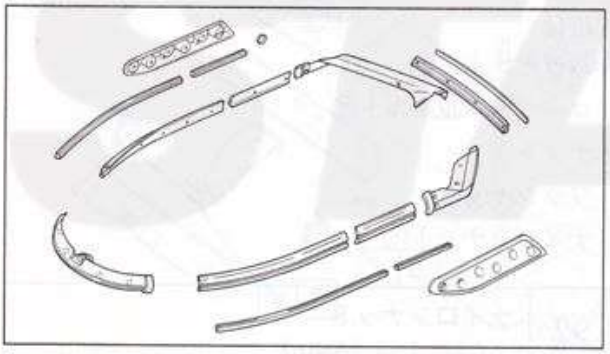


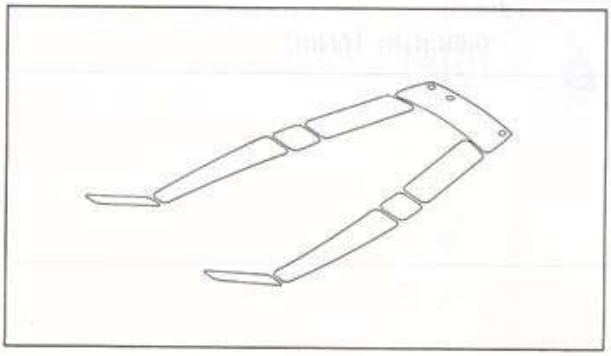
WWW.JET-STAR.JP

ガンネル／マット

〈取外しの範囲〉①バウガンネルの取外し　②カバーガンネルの取外し
③サイドガンネルの取外し　④スタビライザの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
① ③	1	ナイロンナット	4	
	2	ナット	1	
	3	ロープホールボルト	1	
	4	バウガンネル	1	
	5	キャップ	12	
②	6	リベット	12	
	7	スタンガンネル	2	
	8	ナット	2	
	9	ロープホールボルト	2	
	10	ナット	1	
	11	スパウト	1	
	12	インナーガンネル	1	
	13	リベット	4	
	14	カバーガンネル	1	
	15	インナーガンネル	2	
③	16	リベット	34	
	17	サイドガンネル	2	
④	18	キャップ	2	
	19	リベット	12	
	20	スタビライザ	2	





(1) 点検

1. 点検
・バウガンネル
・スタンガンネル
・サイドガンネル
・カバーガンネル
・スタビライザ
・アッパーマット
・ステップマット
摩耗／損傷→交換。

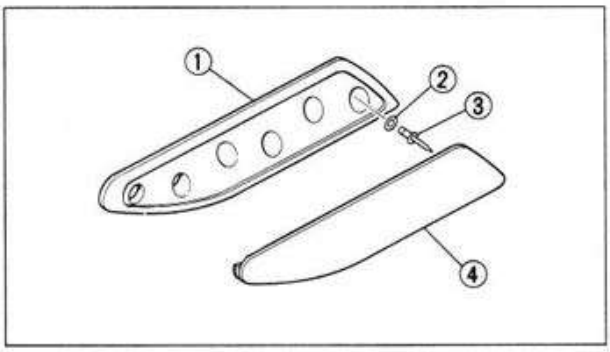
(2) 組付

1. 組付
・ステップマット
・アッパーマット

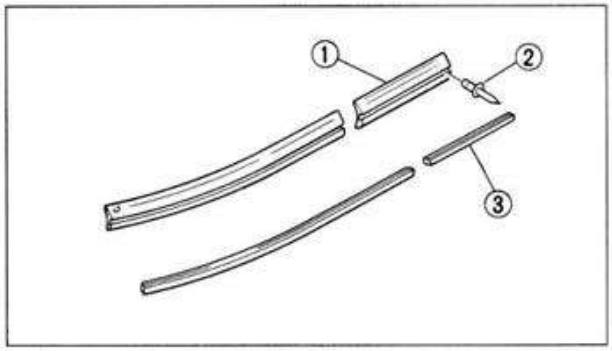
要点

・マットを取付ける前に、取付面を清掃します。
・マットに瞬間接着剤を塗布します。

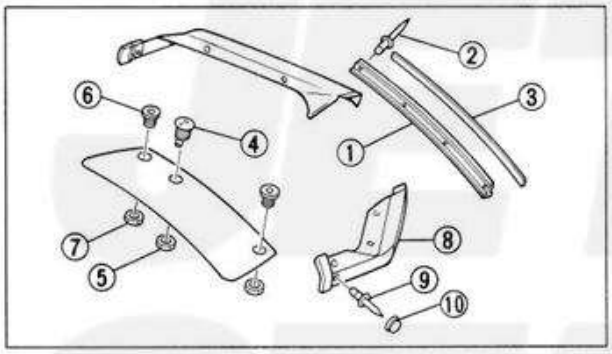
WWW.JET-STAR.JP



2. 組付
・スタビライザ①
・ワッシャ②
・リベット③
・キャップ④

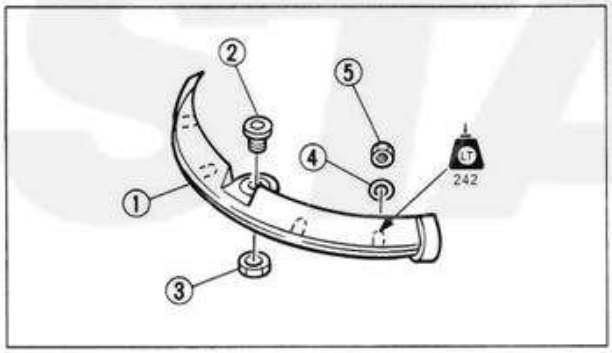


3. 組付
・サイドガンネル①
・リベット②
・スクリュ③
・インナーガンネル④



4. 組付
・カバーガンネル①
・リベット②
・インナーガンネル③
・スパウト④
・ナット⑤
・ロープホールボルト⑥
・ナット⑦
・スタンガンネル⑧
・リベット⑨
・キャップ⑩

	ナット 0.5kgf·m（5Nm）



5. 組付
・バウガンネル①
・ロープホールボルト②
・ナット③
・ワッシャ④
・ナイロンナット⑤

	ナイロンナット 0.5kgf·m（5Nm） ナット 0.6kgf·m（6Nm）

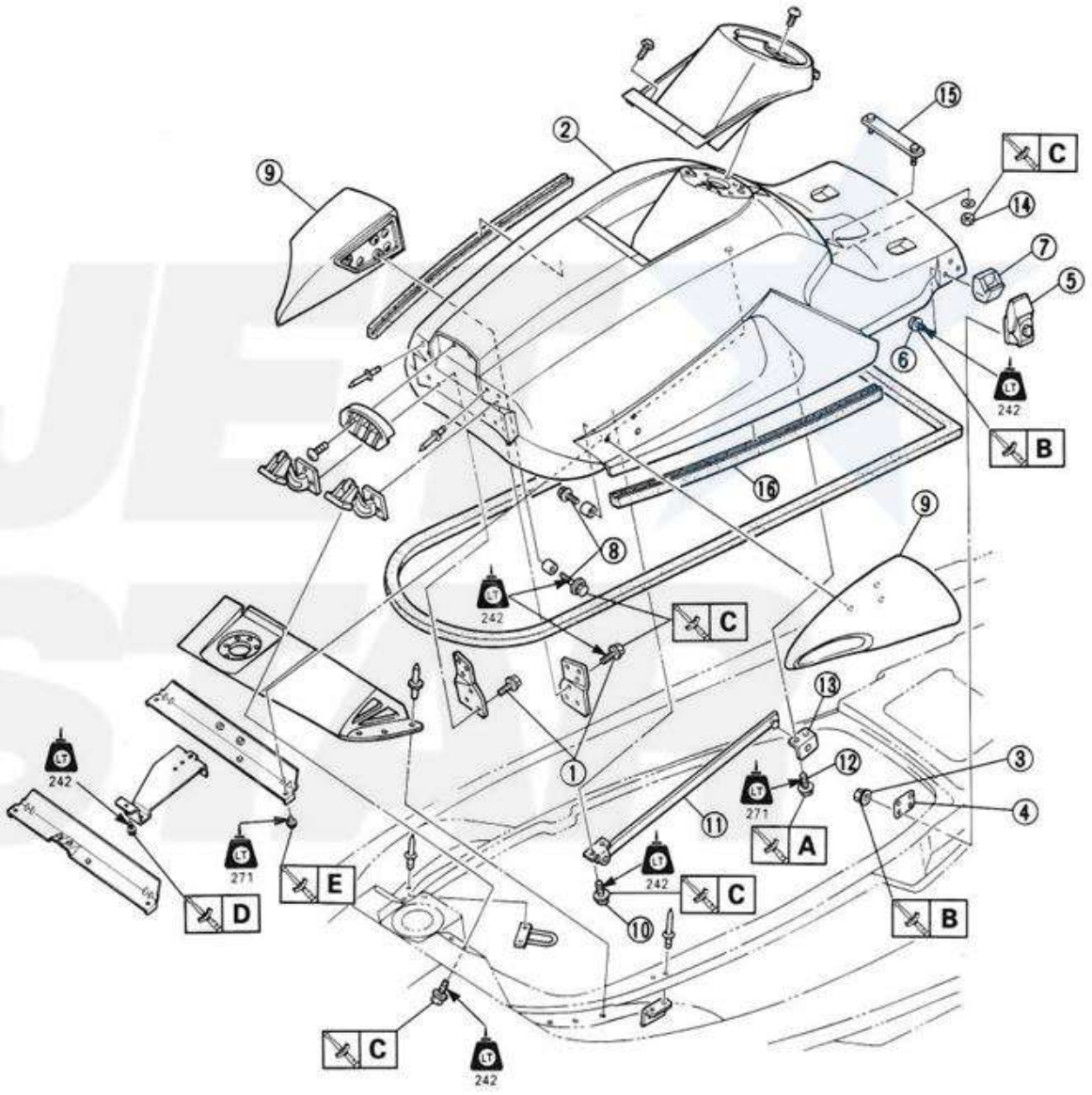
WWW.JET-STAR.JP

6. エンジンハッチ

(1) 取外し前の準備

・ステアリングシステムを取外す。

A	0.1kgf·m (1Nm)
B	0.3kgf·m (3Nm)
C	0.5kgf·m (5Nm)
D	0.7kgf·m (7Nm)
E	1.6kgf·m (16Nm)

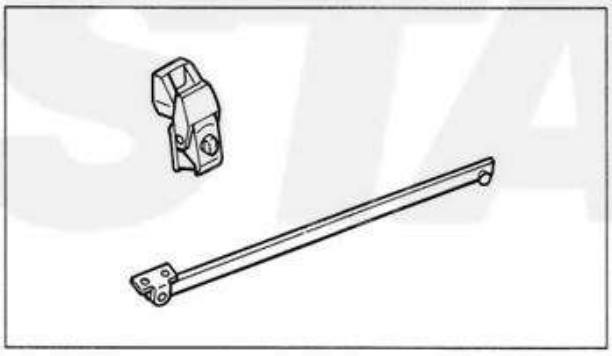


WWW.JET-STAR.JP

エンジンハッチ

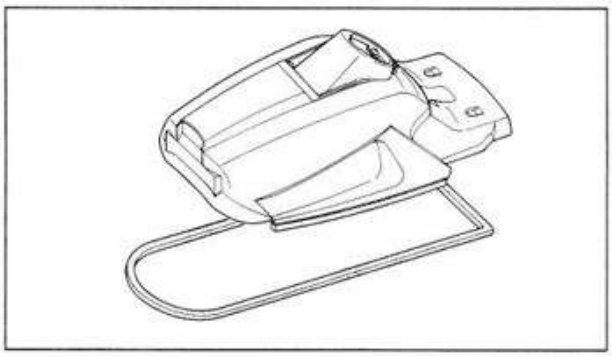
〈取外しの範囲〉①エンジンハッチの取外し　②ロックの取外し
③エンジンハッチの分解

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
①	1	ボルト	6	
	2	エンジンハッチAss'y	1	
	3	ナイロンナット	3	
	4	プレート	2	
②	5	フック	8	
	6	ボルト	2	
	7	ロック	2	
	8	ボルト	6	
	9	バックミラーAss'y	2	
	10	スクリュ	2	
③	11	ハッチサポート	1	
	12	スクリュ	2	
	13	フックプレート	1	
	14	ナイロンナット	2	
	15	シートフック	1	
	16	トリム	2	



(2) 点検

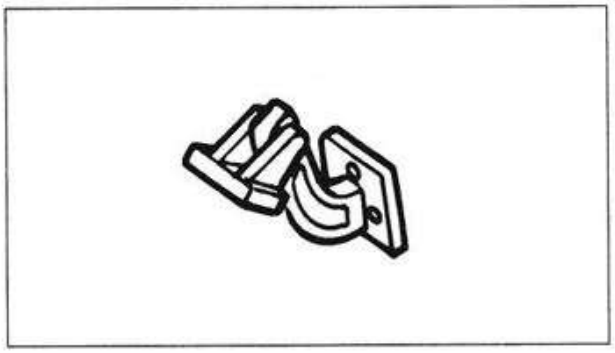
1. 点検
・ハッチサポート
・フック
曲がり／損傷→交換。



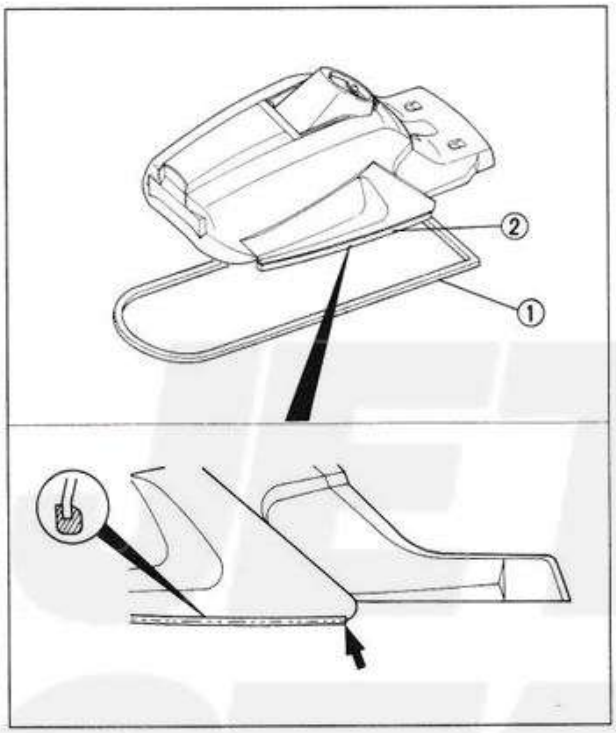
2. 点検
・シールラバー
摩耗／亀裂→交換。

3. 点検
・エンジンハッチ
亀裂／損傷→交換。

WWW.JET-STAR.JP



4. 点検
・フック
摩耗／損傷→交換。



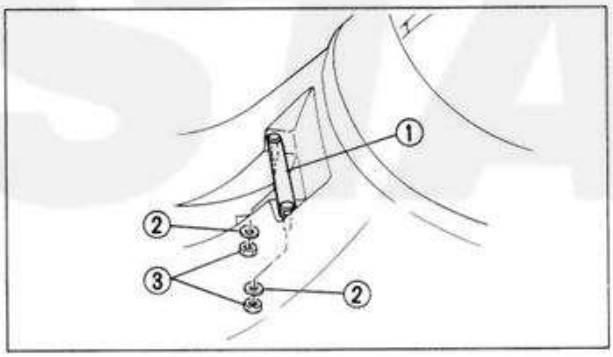
(3) 組付

1. 組付
・シールラバー①

要点
・デッキのシールラバー組付部を清掃します。 ・シールラバーに瞬間接着剤を塗布します。

2. 組付
・トリム②

要点
・エンジンハッチのトリム貼付面を清掃します。 ・トリムに瞬間接着剤を塗布します。 ・図の様に、トリムの端がハッチのR尻に合う様に接着します。

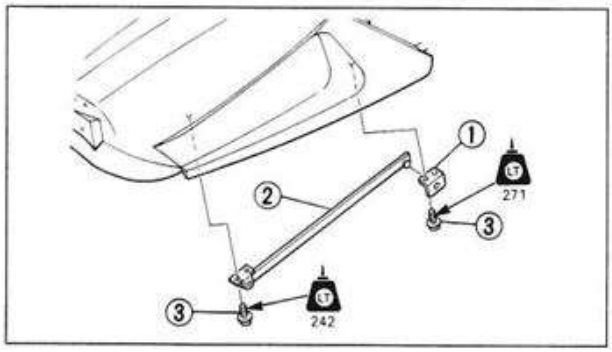


3. 組付
・シートフック①
・ワッシャ②
・ナイロンナット③

	ナット 1.6kgf·m (16Nm)

WWW.JET-STAR.JP

エンジンハッチ

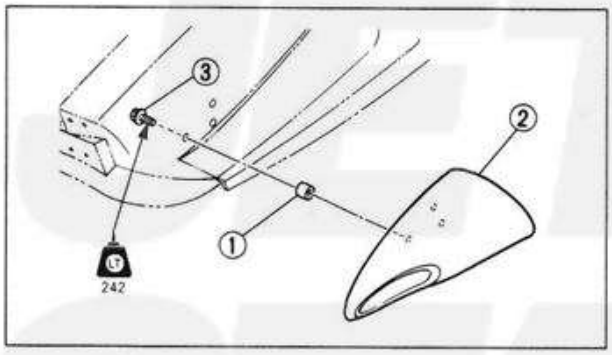


4. 組付
・フックプレート①
・ハッチサポート②
・スクリュ③

注意

・スクリュ（フックプレート）にロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。
・スクリュ（ハッチサポート）にロック　タイトNo.242（青色）を塗布します。

スクリュ（フックプレート）
0.1kgf·m（1Nm）
スクリュ（ハッチサポート）
0.5kgf·m（5Nm）

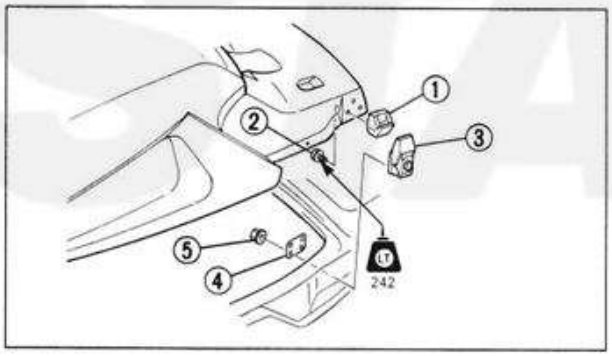


5. 組付
・カラー①
・バックミラーAss'y②
・ボルト③

注意

ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ボルト
0.7kgf·m（7Nm）



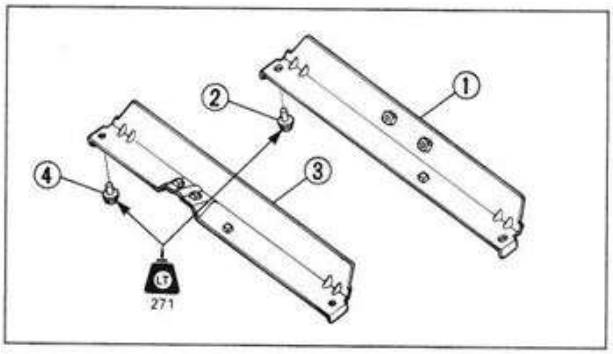
6. 組付
・ロック①
・プレート②
・ナット③
・フック④
・ボルト⑤

注意

ボルトとネジ部にロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ナット
0.3kgf·m（3Nm）
ボルト
0.3kgf·m（3Nm）

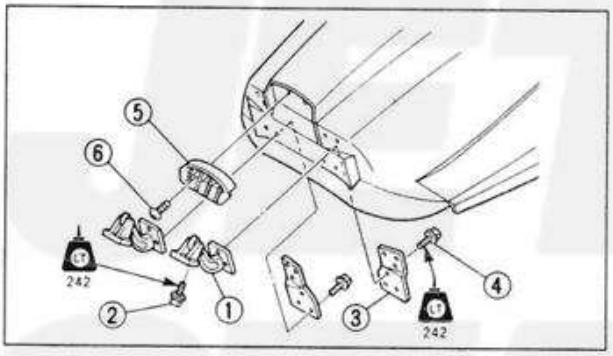
WWW.JET-STAR.JP



7. 組付
・ベアリングブラケット①
・ボルト②
・ストッパーケーブルブラケット③
・ボルト④

注意
ボルトにロックタイトNo.271（赤色）を塗布します。

ボルト（ベアリングブラケット）
1.6kgf·m（16Nm）
ボルト（ストッパーケーブルブラケット）
1.6kgf·m（16Nm）



8. 組付
・ヒンジ①
・ボルト②
・ボルト③
・エアインテークカバー④
・スクリュ⑤

注意
ボルトにロックタイトNo.242（青色）を塗布します。

ボルト
0.5kgf·m（5Nm）

WWW.JET-STAR.JP

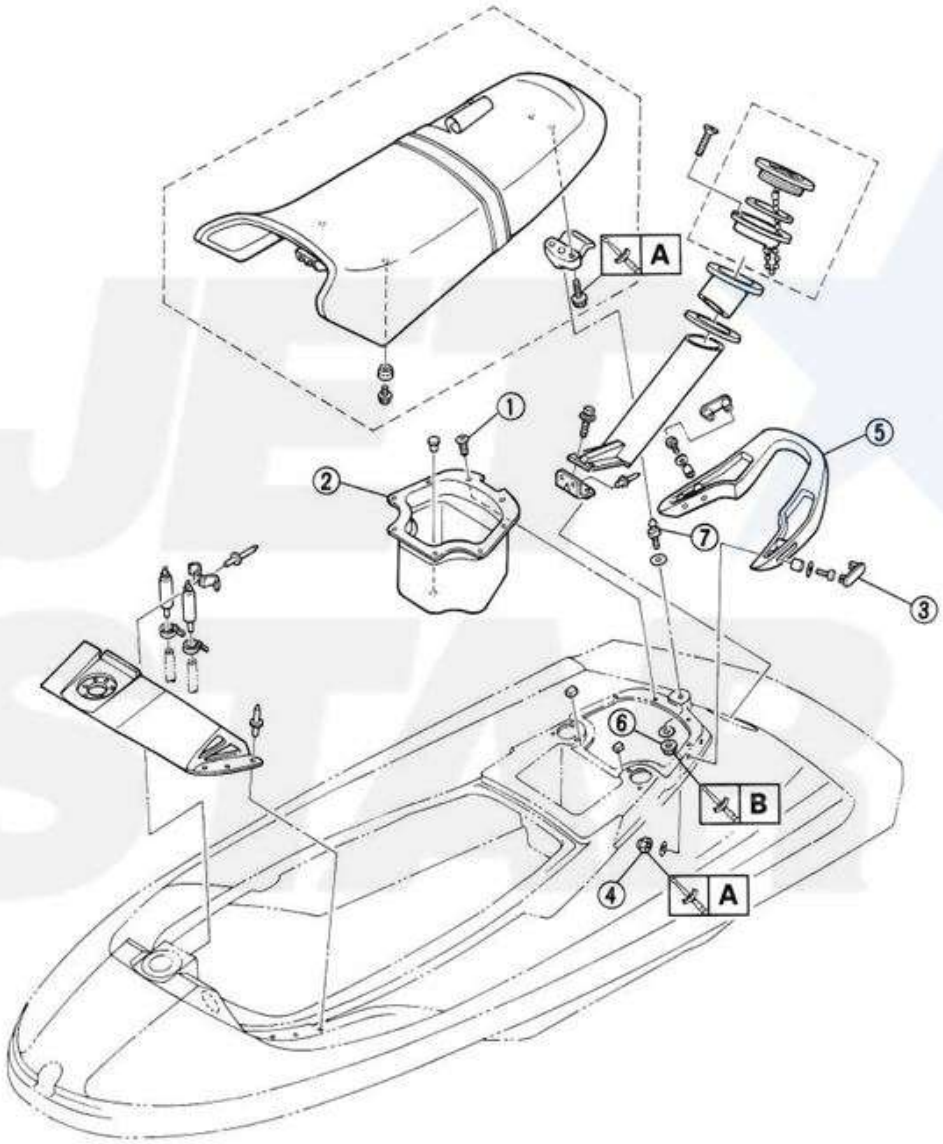
7. デッキ

(1) 取外し前の準備

・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。

・バッテリを取外す。

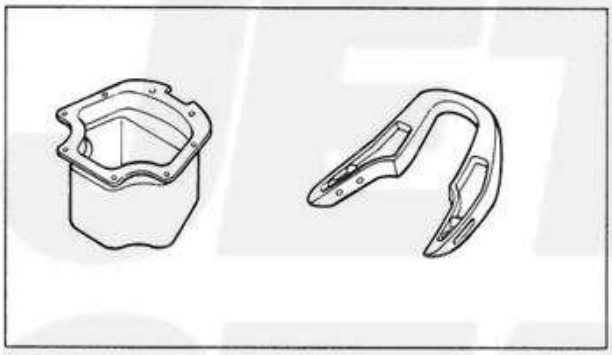
A	0.5kgf·m (5Nm)
B	2.6kgf·m (26Nm)



WWW.JET-STAR.JP

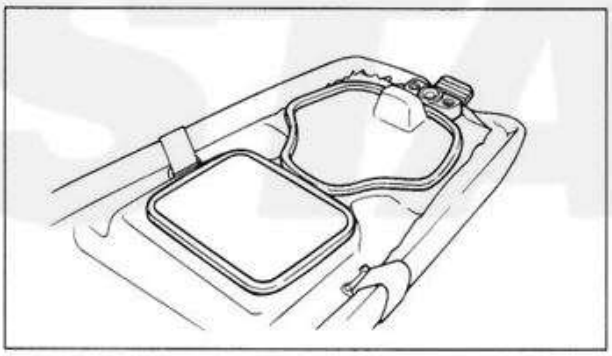
〈取外しの範囲〉①ストレージボックスの取外し　②グリップの取外し
③ピンの取外し

区　分	No.	部　品　名	個数	備　考
①③②③	1	タッピングスクリュ	8	
	2	ストレージボックス	1	
	3	キャップ	2	
	4	ナット	4	
	5	グリップ	1	
	6	ナット	1	
	7	ピン	1	

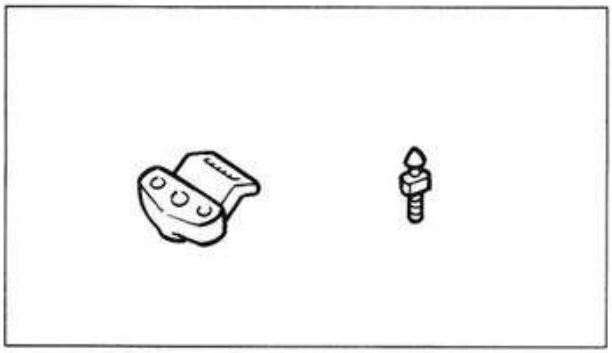


(2) 点検

1. 点検
・保管ボックス
・グリップ
亀裂／損傷→交換。

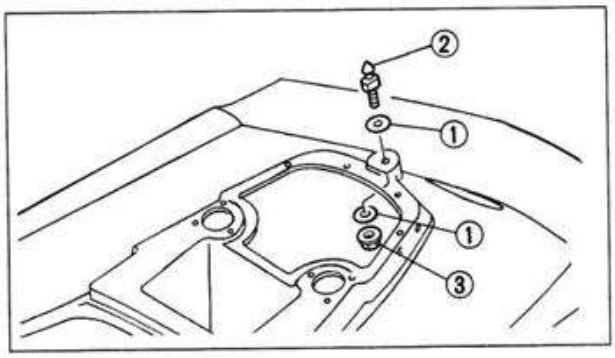


2. 点検
・パッキン
つぶれ／損傷→交換。



3. 点検
・シートロック
・ピン
摩耗／損傷→交換。

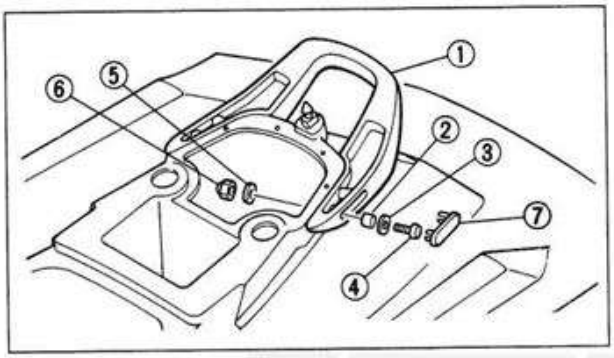
WWW.JET-STAR.JP



(3) 組付

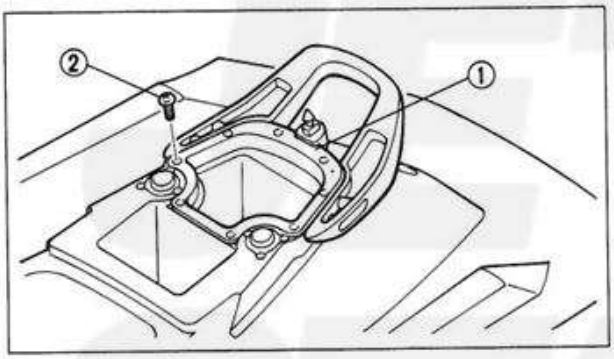
1. 組付
・ワッシャ①
・ピン②
・ナイロンナット③

	ナイロンナット 2.6kgf·m（26Nm）

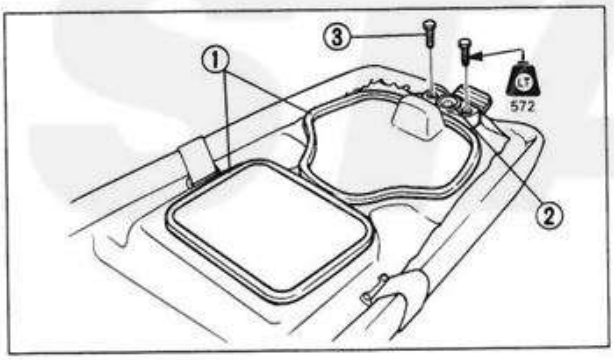


2. 組付
・グリップ①
・カラー②
・ワッシャ③
・スクリュ④
・ワッシャ⑤
・ナイロンナット⑥
・キャップ⑦

	ナイロンナット 0.5kgf·m（5Nm）



3. 組付
・保管ボックス①
・スクリュ②
8-2ページを参照。



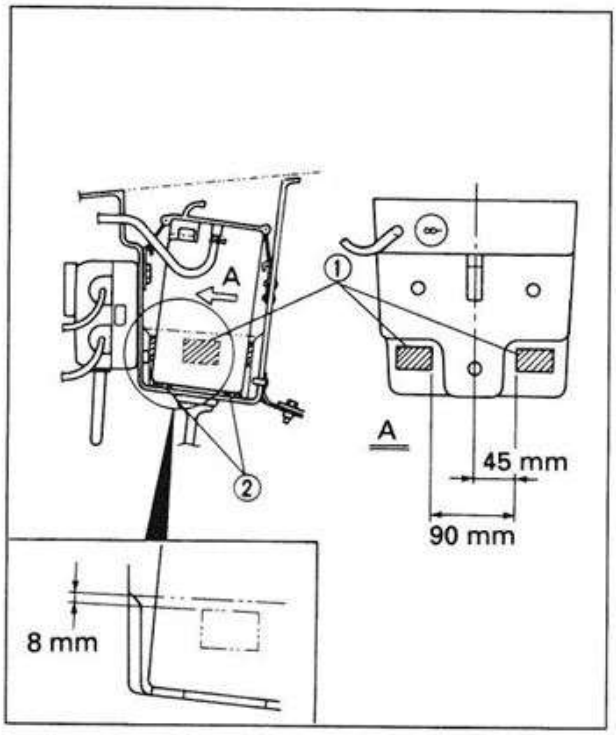
4. 組付
・パッキン①
・シートロック②
・ボルト③

要点
パッキンの貼付面を清掃します。

注意
・ボルトにロックタイトNo.572を塗布します。

	ボルト 0.5kgf·m（5Nm）

WWW.JET-STAR.JP



6. 組付
・パッド①
・パッド②

要点
パッドの貼付面を清掃します。

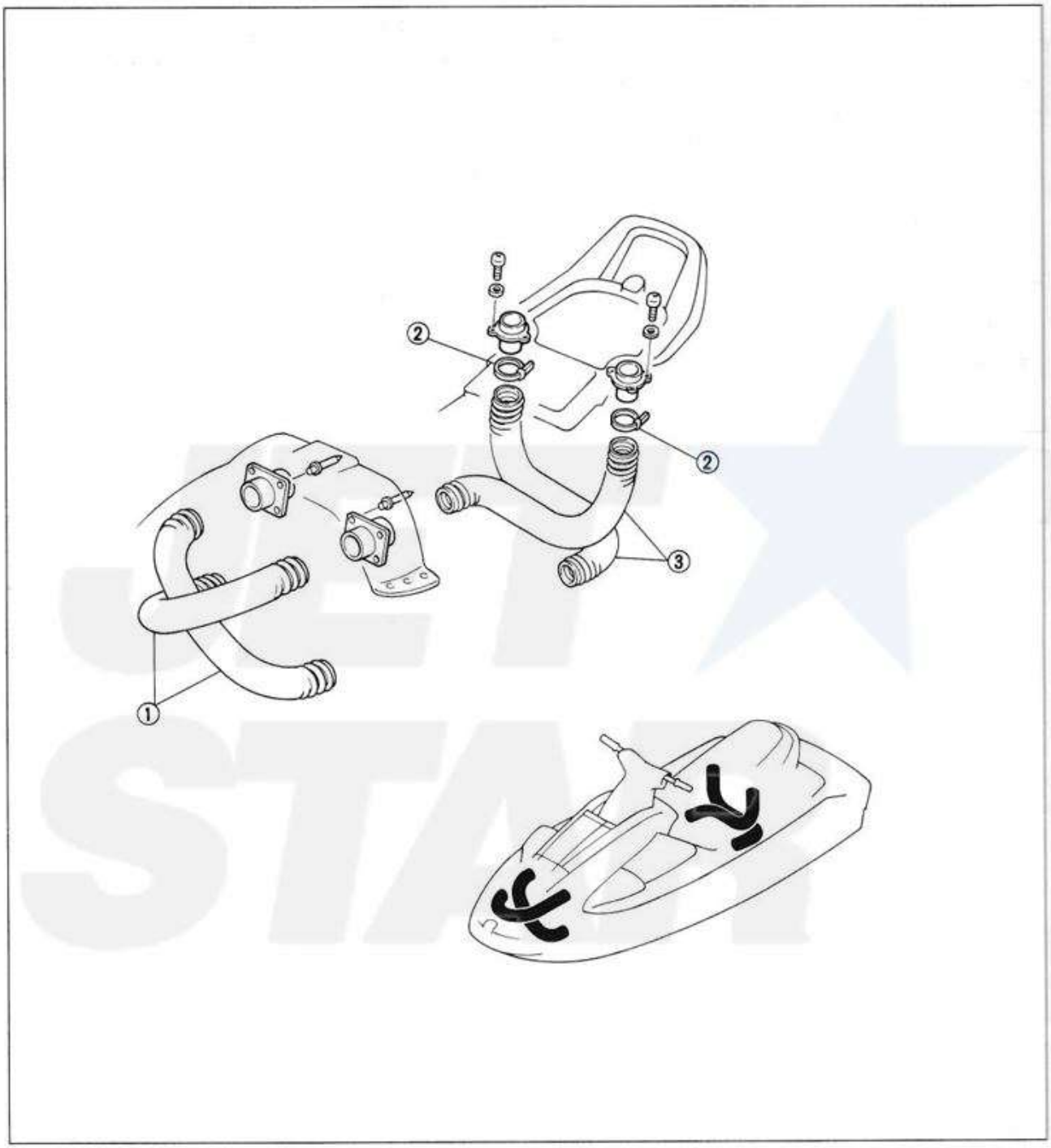
WWW.JET-STAR.JP

8. ベンチレーションシステム

(1) 取外し前の準備

・シートを取外す。

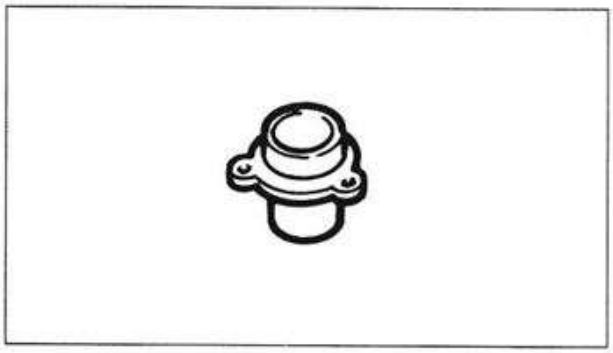
・エンジンハッチを開き、ハッチサポートで支える。



〈取外しの範囲〉①ベンチレーションホース1の取外し
②ベンチレーションホース2の取外し

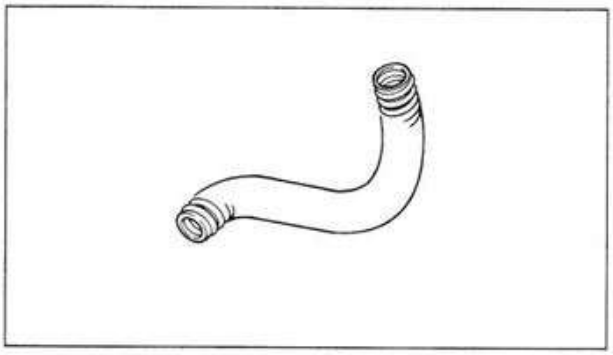
区　分	No.	部 品 名	個数	備　考
①↕	1	ベンチレーションホース1	2	
②↕	2	クランプ	2	
	3	ベンチレーションホース2	2	

WWW.JET-STAR.JP

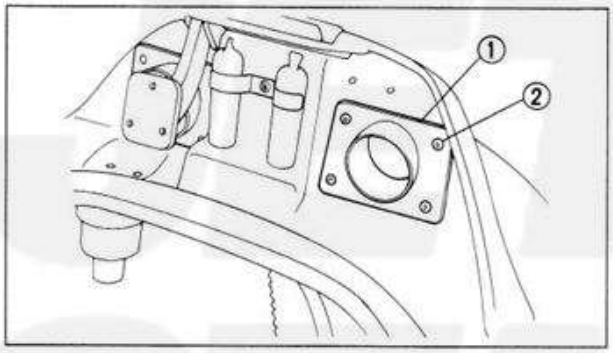


(2) 点検

1. 点検
・ベンチレータホースジョイント
亀裂→交換。

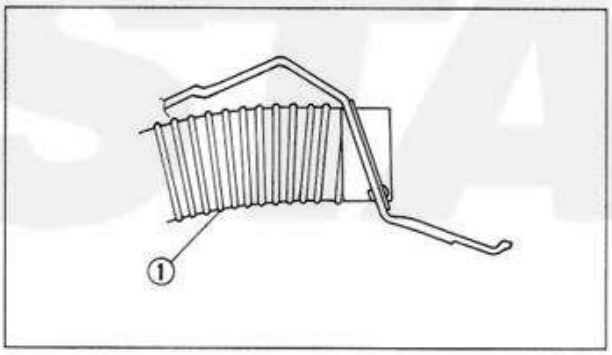


2. 点検
・ベンチレータホース
摩耗／亀裂→交換。

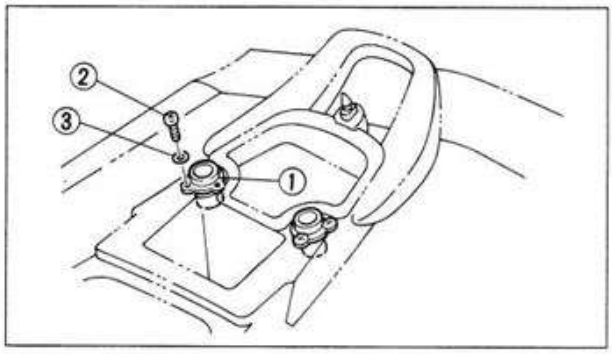


(3) 組付

1. 組付
・ベンチレータホースジョイント①
・リベット②

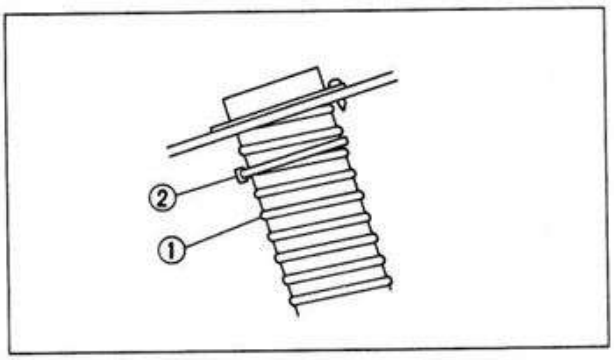


2. 接続
・ベンチレータホース1①
・クランプ②



3. 組付
・ベンチレータホースジョイント①
・ワッシャ②
・スクリュ③

WWW.JET-STAR.JP



4. 組付
・ベンチレータホース2①
・クランプ②

WWW.JET-STAR.JP

第9章　トラブルシューティング

1. エンジンが始動しない ……9-1
(1) スタータモータが回転しない……9-1
(2) スタータモータは回転する……9-1
(3) 点火しない……9-2
(4) 火花が弱い……9-2

2. エンジンの回転が不規則である、また失速する……9-3

3. エンジンが止まらない ……9-5

JET STAR

トラブル シューティング ?

エンジンが始動しない

1. エンジンが始動しない

(1) スタータモータが回転しない

電気系統

ヒューズ	溶　断	交　換
バッテリ	放　電	充電／充電回路の点検
ワイヤハーネス	接続不良	接　続
スタータスイッチ	故　障	交　換
スタータリレー	故　障	交　換
スタータモータ	故　障	交　換

(2) スタータモータは回転する

燃料系統

燃料タンク	燃料がない／少ない	給　油
	水が混入している	水抜きをする
燃料回路	燃料が来ていない	燃料供給
キャブレタ	ダイヤフラムの不良	交　換
	目詰まり	清　掃

WWW.JET-STAR.JP

エンジンが始動しない

(3) 点火しない

イグニッション		
ストップスイッチ	故　障	交　換
スパークプラグ	故　障	交　換
配　線	接続不良	接　続
アース	腐食／接続不良	清掃／締付け
チャージコイル	故　障	交　換
パルサコイル	故　障	交　換
イグニッションコイル	故　障	交　換
CDIユニット	接続不良	接　続

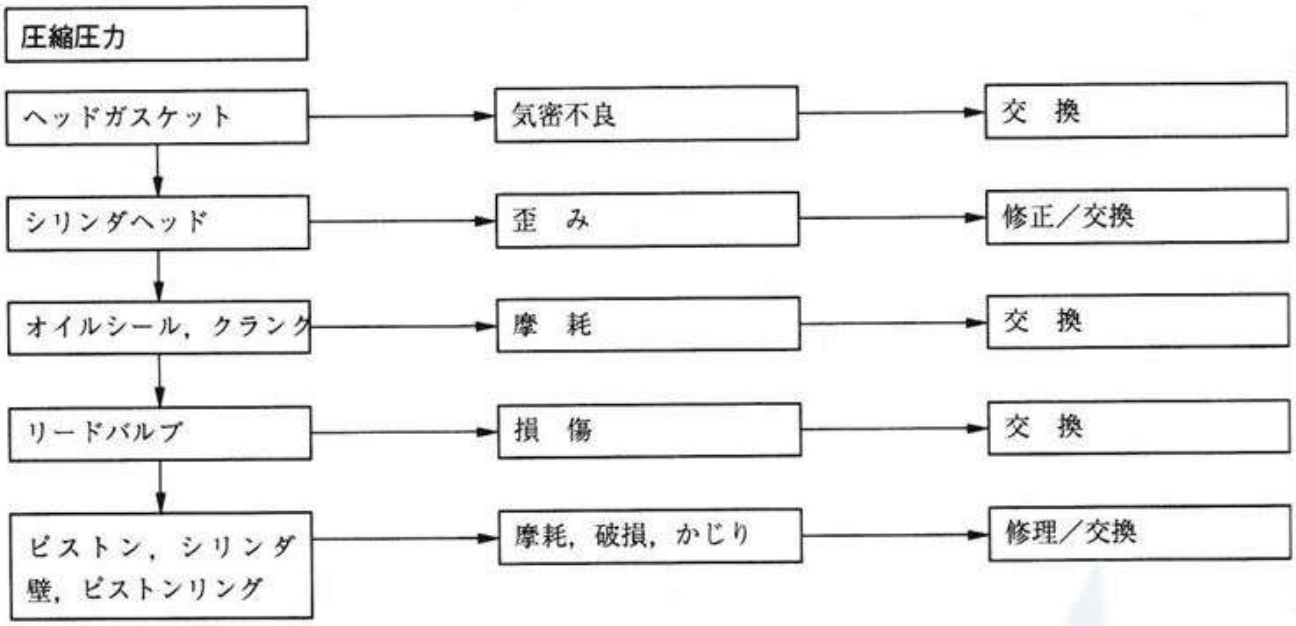
(4) 火花が弱い

スパークプラグ	汚損／欠損	交　換
プラグキャップ	故　障	交　換
イグニッションコイル	故　障	交　換
チャージコイル	故　障	交　換
CDIユニット	不　良	交　換

WWW.JET-STAR.JP

トラブルシューティング ?

エンジンが始動しない
エンジンの回転が不規則である、また失速する



2. エンジンの回転が不規則である、また失速する

WWW.JET-STAR.JP

トラブルシューティング ?

エンジンの回転が不規則である、また失速する

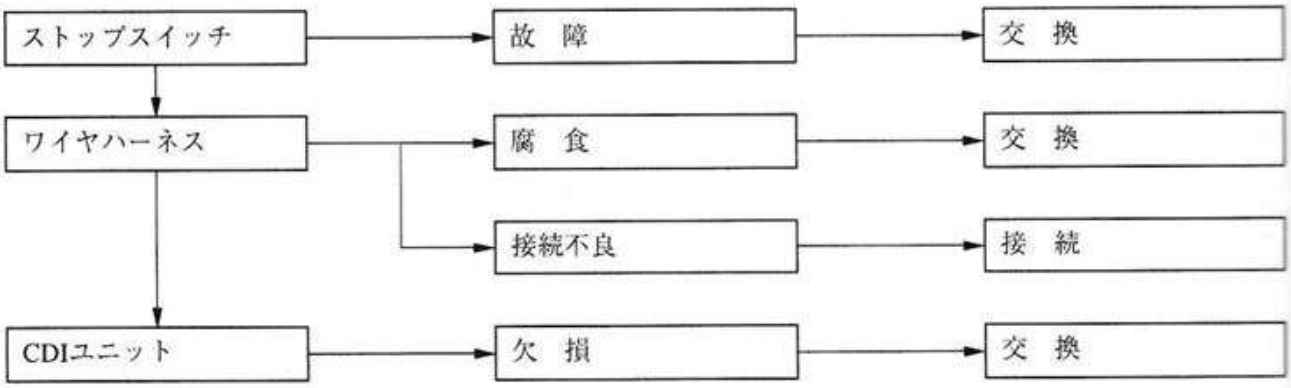
点火系統		
スパークプラグ	欠　損	交　換
ハイテンションコード	損　傷	イグニッションコイルの交換
プラグキャップ	緩　み	締付け
ワイヤハーネス	緩　み	締付け
CDIユニット	不　良	交　換

圧縮圧力		
シリンダヘッド	歪　み	修正／交換
ヘッドガスケット	気密不良	交　換
オイルシール	摩　耗	交　換
リードバルブ，ピストン シリンダ壁	破損，摩耗	交　換
ピストンリング	摩耗，破損	交　換
半月キー	欠　損	交　換
エンジンルーム	浸　水	排　水

WWW.JET-STAR.JP

エンジンが止まらない

3. エンジンが止まらない



WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社

Printed in Japan
Mar. 1994 0.8×1E

不許複製

WWW.JET-STAR.JP